

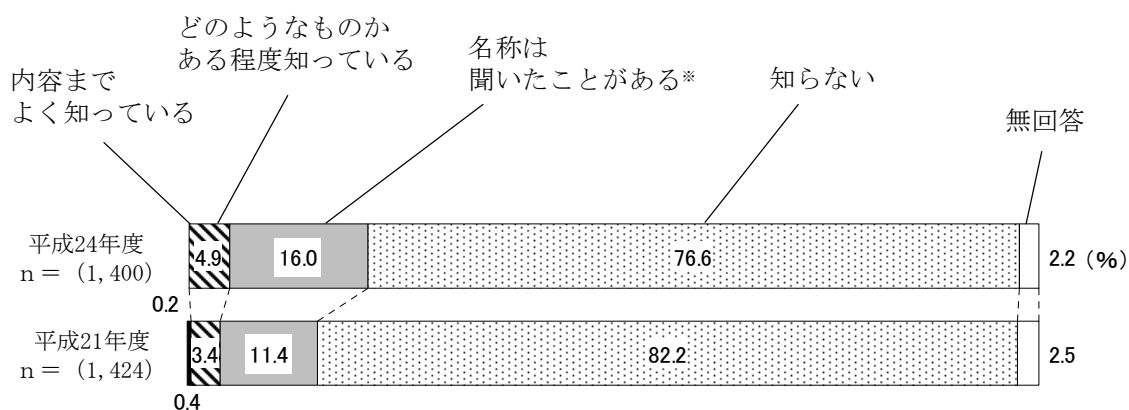
5 川崎市自治基本条例について

5-1 川崎市自治基本条例の認知度

◎認知度は3年前(平成21年度)より5.6ポイント増加

問10 「川崎市自治基本条例」を知っていますか。(○は1つだけ)

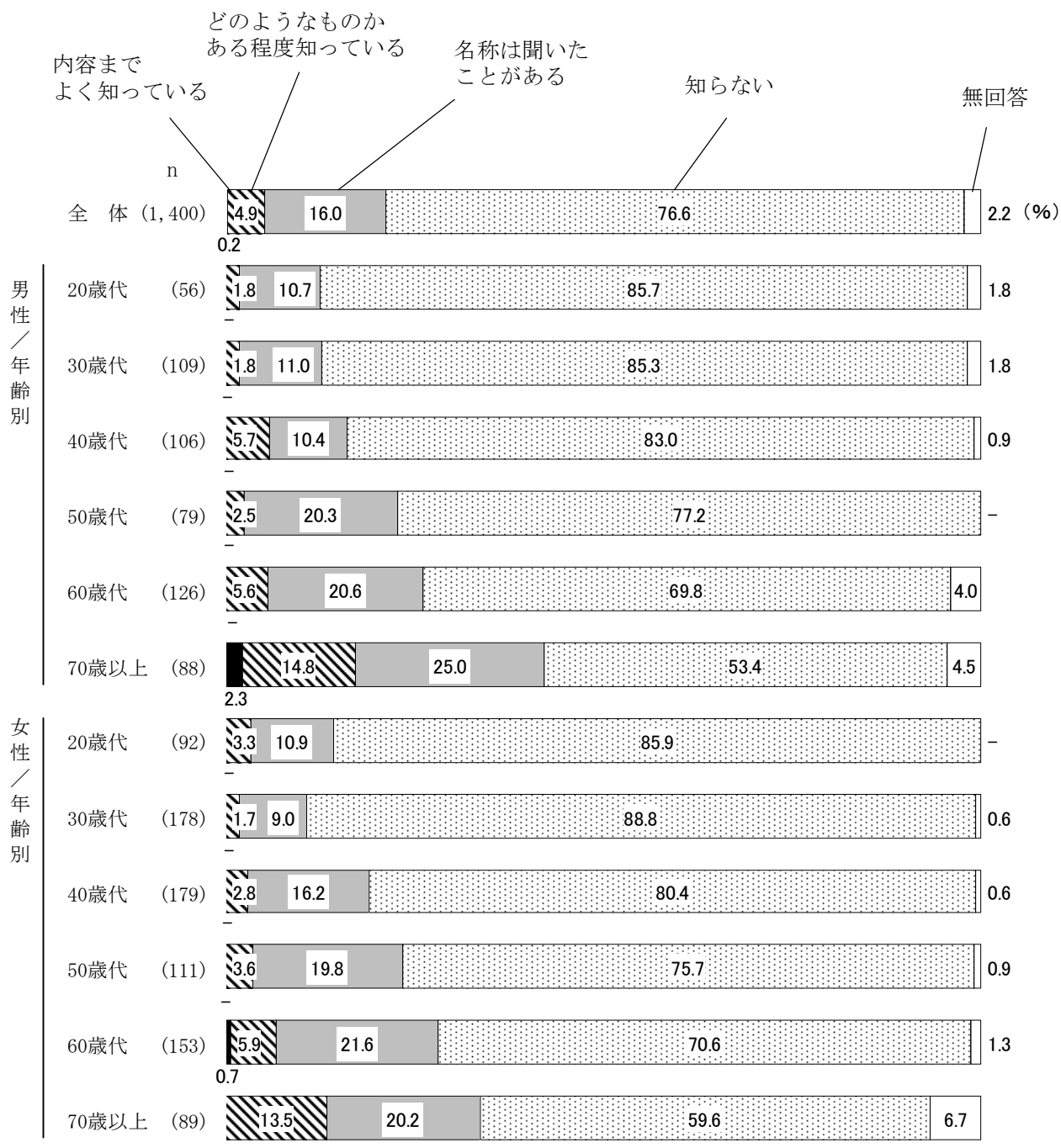
図表5-1 川崎市自治基本条例の認知度



※平成21年度調査では、「名称は知っている」という選択肢表記であった。

川崎市自治基本条例の認知状況については、「知らない」(76.6%)が7割を超えているものの、3年前(平成21年度)と比較してみると5.6ポイント減少しており、認知度は増加している。なお、「名称は聞いたことがある」は16.0%、「どのようなものかある程度知っている」は4.9%、「内容までよく知っている」は0.2%となっている。(図表5-1)

図表5-2 川崎市自治基本条例の認知度(性/年齢別)



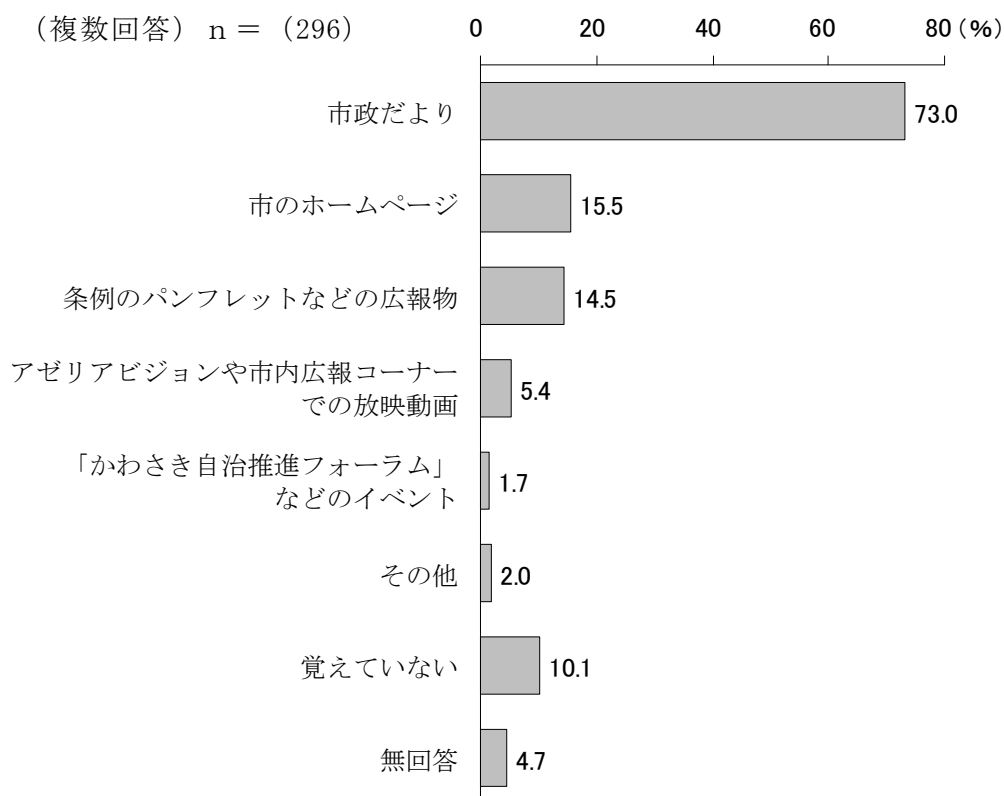
性/年齢別では、「知らない」は20~40歳代で8割を超えている。なお、認知度はおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「名称は聞いたことがある」は、男性では50歳代~70歳以上、女性では60歳代・70歳以上で2割を超えている。「どのようなものかある程度知っている」は、男女ともに70歳以上が最も多くなっている。(図表5-2)

5-2 川崎市自治基本条例の認知媒体

◎「市政だより」が73.0%

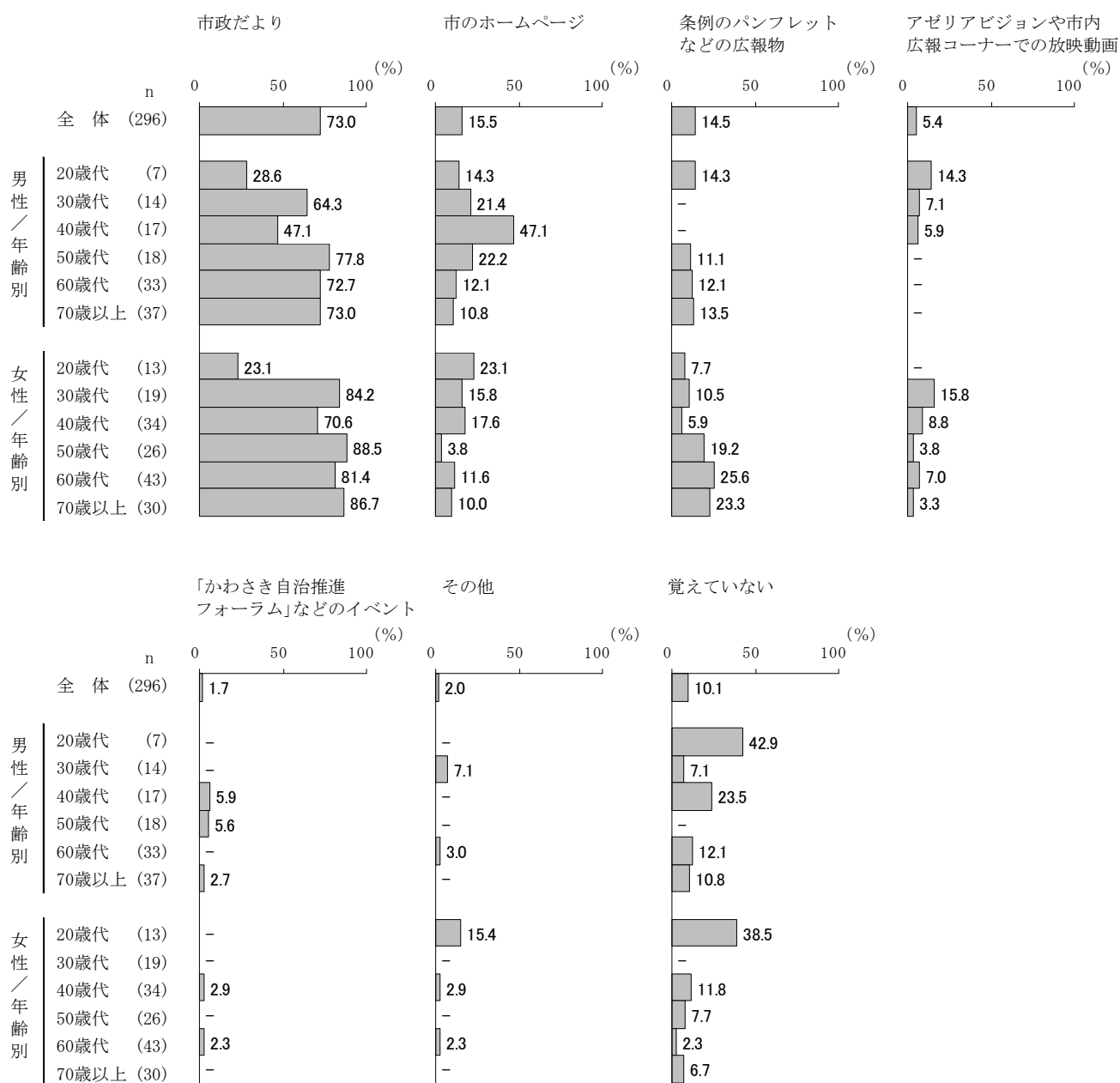
問10-1 (問10で「1 内容までよく知っている」「2 どのようなものかある程度知っている」「3 名称は聞いたことがある」と回答した方にうかがいます。)
「川崎市自治基本条例」をどのように知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

図表5-3 川崎市自治基本条例の認知媒体



川崎市自治基本条例の認知媒体は、「市政だより」(73.0%)が7割を超え最も多くなっている。「市のホームページ」(15.5%)、「条例のパンフレットなどの広報物」(14.5%)は、1割台半ばとなっている。(図表5-3)

図表5-4 川崎市自治基本条例の認知媒体(性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表5-4)

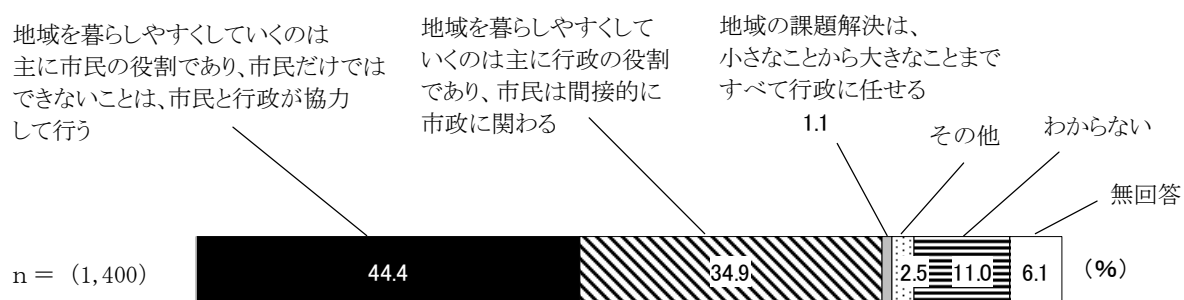
5-3 地域の課題解決のために望ましい公共的な役割の在り方

◎「主に市民の役割であり、市民だけではできないことは、市民と行政が協力して行う」が44.4%

問11 自治基本条例では、暮らしやすい地域社会をつくるため、市民と市が情報共有・参加・協働*という3つの基本原則に基づき、自治を運営していくことを定めています。地域の課題を解決していくにあたり、今後の公共的な役割の在り方としてどのような形が望ましいと思いますか。(○は1つだけ)

※協働：市民及び市が、共通の目的を実現するために、それぞれの役割と責任の下で、相互の立場を尊重し、対等な関係に立って協力すること

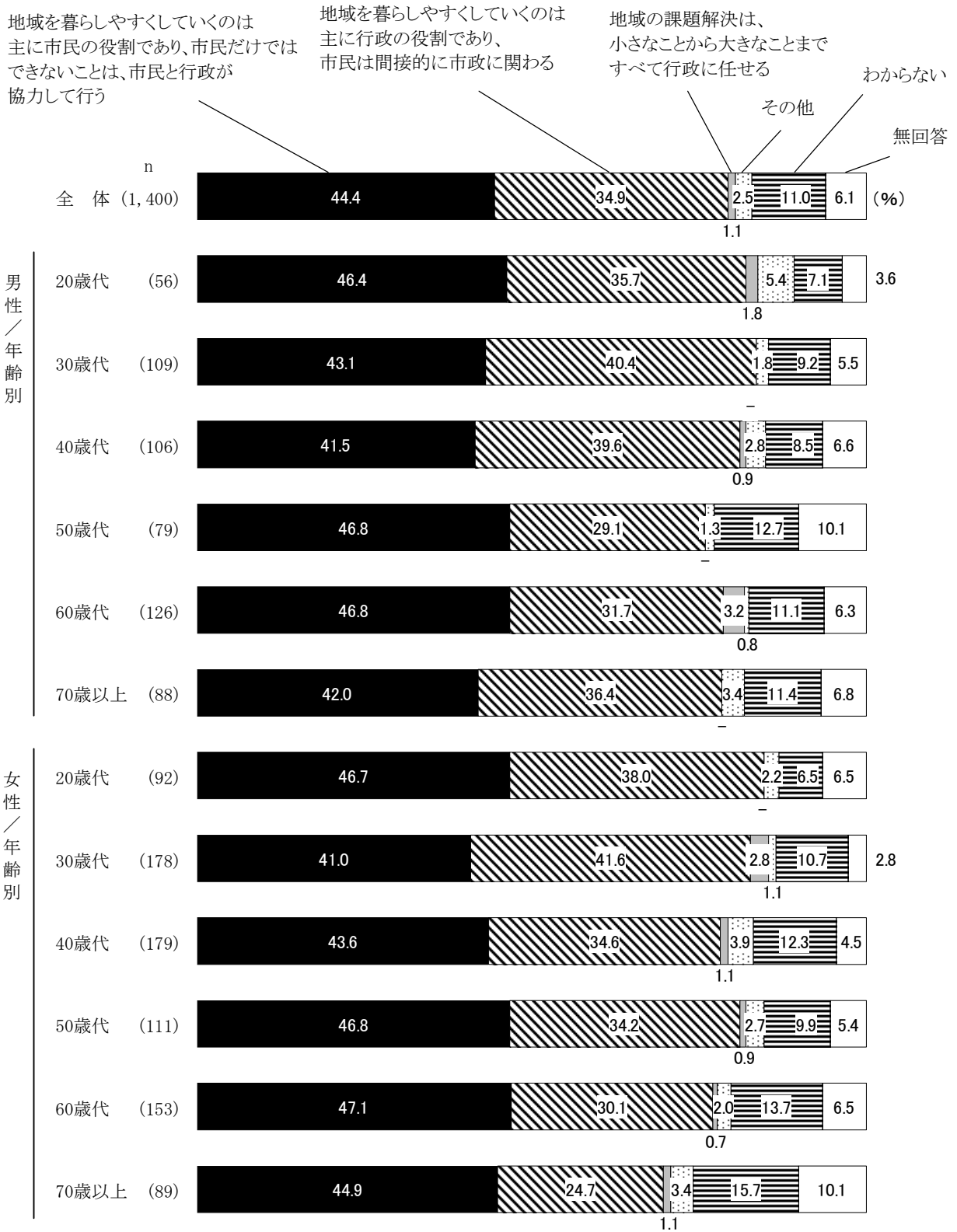
図表5-5 地域の課題解決のために望ましい公共的な役割の在り方



地域の課題を解決していくにあたり、今後の公共的な役割の在り方としてどのような形が望ましいと思うか聞いたところ、「地域を暮らしやすくしていくのは主に市民の役割であり、市民だけではできないことは、市民と行政が協力して行う」(44.4%)が4割台半ばで最も多くなっている。「地域を暮らしやすくしていくのは主に行政の役割であり、市民は間接的に市政に関わる」(34.9%)は、3割台半ばとなっている。「地域の課題解決は、小さなことから大きなことまですべて行政に任せる」(1.1%)はわずかとなっている。(図表5-5)

(第2回アンケート)

図表5-6 地域の課題解決のために望ましい公共的な役割の在り方(性/年齢別)



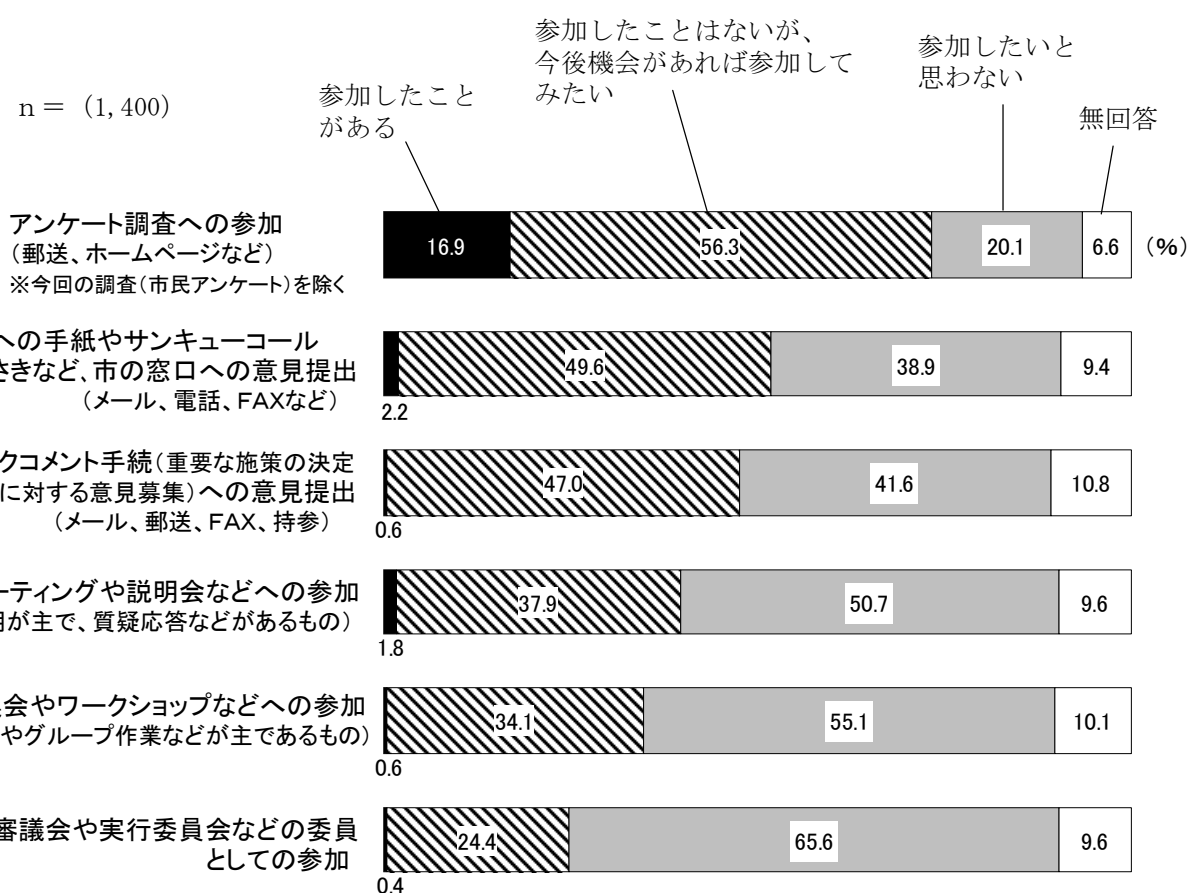
性/年齢別では、女性30歳代を除くすべての属性で、「地域を暮らしやすくしていくのは主に市民の役割であり、市民だけではできないことは、市民と行政が協力して行う」が「地域を暮らしやすくしていくのは主に行政の役割であり、市民は間接的に市政に関わる」を上回っている。(図表5-6)

5-4 市政参加の方法

◎「参加したことがある」は<アンケート調査への参加>が16.9%で最も多い

問12 市では、計画や条例、制度、施設をつくるなどときに市民の意見を聴く機会や行政の考えを説明する機会を設けているほか、市政一般に対する問い合わせや意見、提案を受け付ける仕組みを設けています。あなたは、どのような方法で参加したことがありますか。また、今後参加してみたいと思いますか。①～⑥のそれぞれについて、1～3のあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

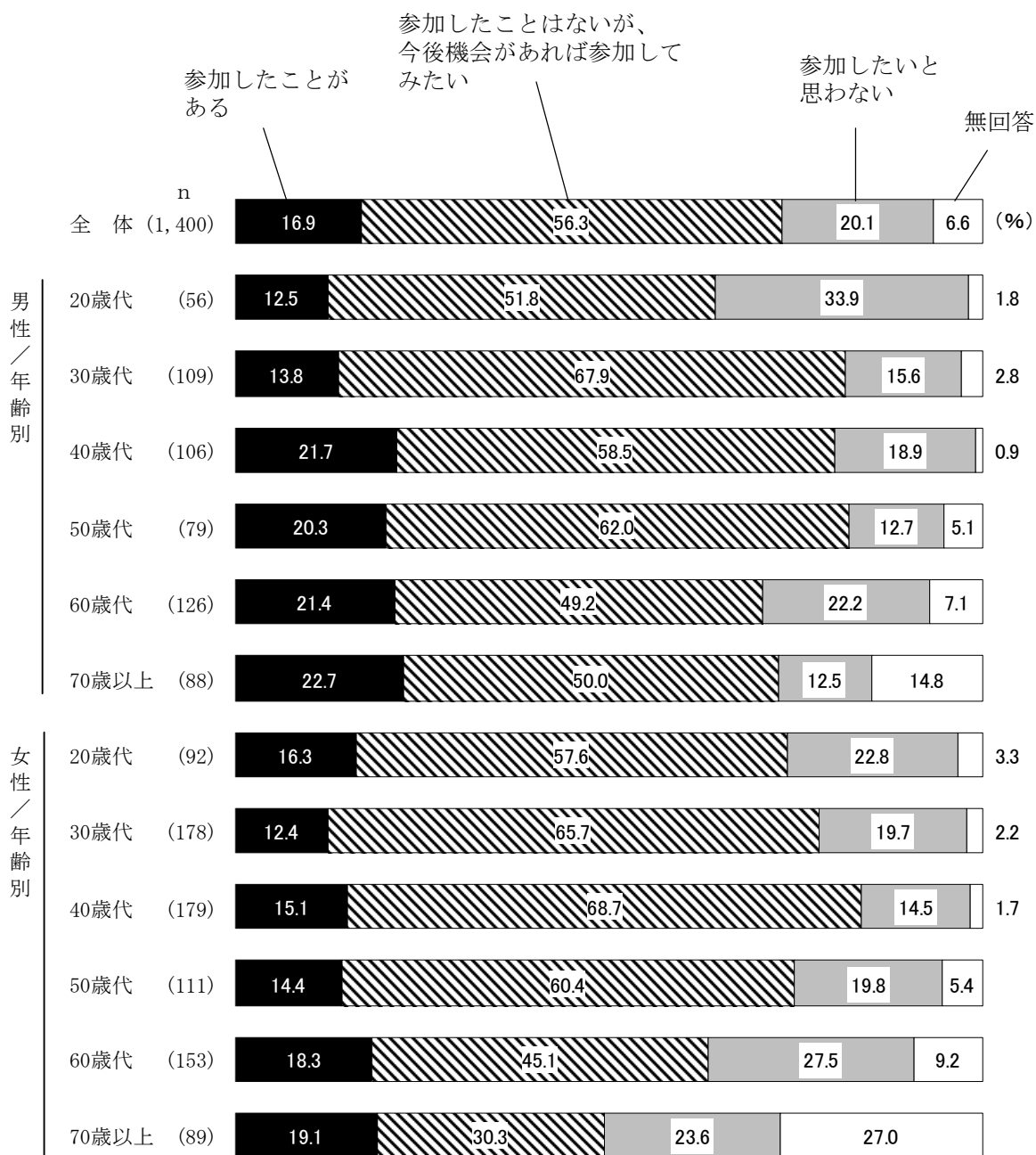
図表5-7 市政参加の方法



市政参加の方法については、「参加したことがある」は、<アンケート調査への参加> (16.9%) 以外の項目はいずれもわずかとなっている。「参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい」は、<アンケート調査への参加> (56.3%) が5割台半ばで最も多く、次いで<市長への手紙やサンキューコールかわさきなど、市の窓口への意見提出> (49.6%)、<パブリックコメント手続への意見提出> (47.0%) の順となっている。(図表5-7)

図表5-8 市政参加の方法(性/年齢別)

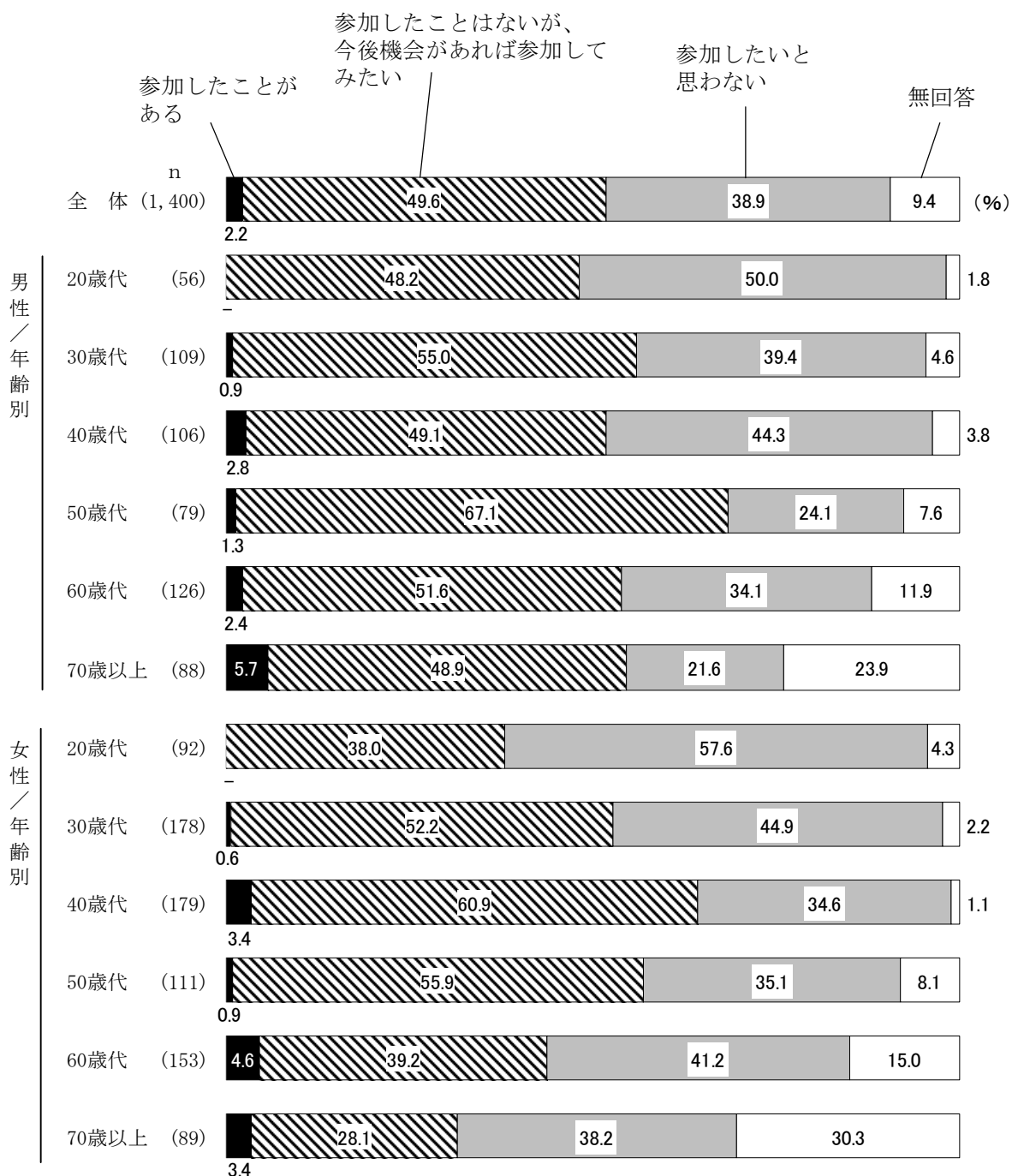
【アンケート調査への参加(郵送、ホームページなど)】※今回の調査(市民アンケート)を除く



＜アンケート調査への参加＞について、性/年齢別では、「参加したことがある」は男性の40歳代～70歳以上が2割を超えている。「参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい」は、女性40歳代(68.7%)が最も多くなっており、次いで男性30歳代(67.9%)となっている。「参加したいと思わない」は、男性20歳代(33.9%)が唯一3割を超えている。(図表5-8)

図表5-9 市政参加の方法(性/年齢別)

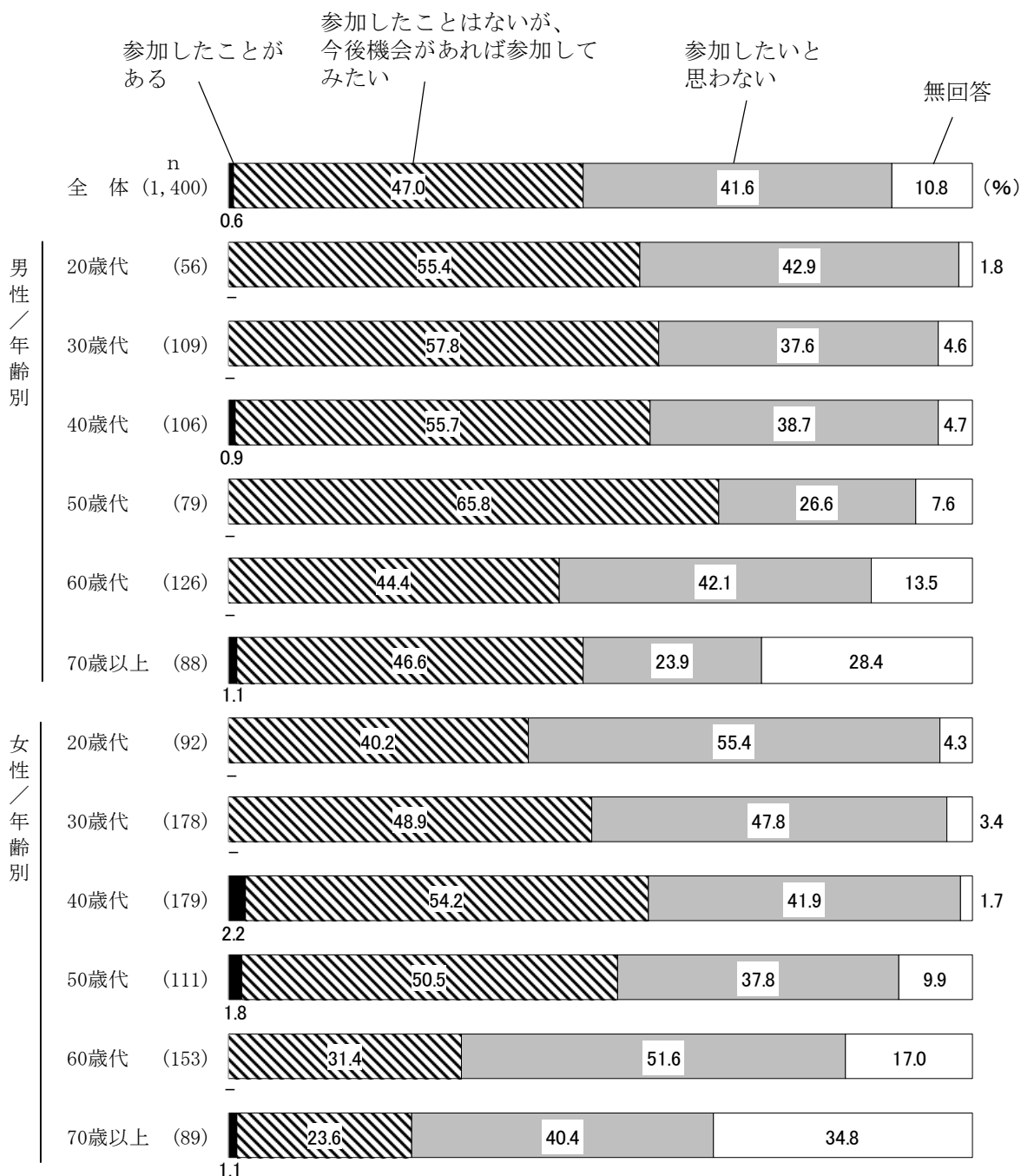
【市長への手紙やサンキューコールかわさきなど、市の窓口への意見提出(メール、電話、FAXなど)】



〈市長への手紙やサンキューコールかわさきなど、市の窓口への意見提出〉について、性/年齢別では、「参加したことがある」は男性70歳以上(5.7%)が最も多くなっている。「参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい」は、男性50歳代(67.1%)が最も多くなっている。「参加したいとは思わない」は、男女ともに20歳代が5割台で最も多くなっている。(図表5-9)

図表5-10 市政参加の方法(性/年齢別)

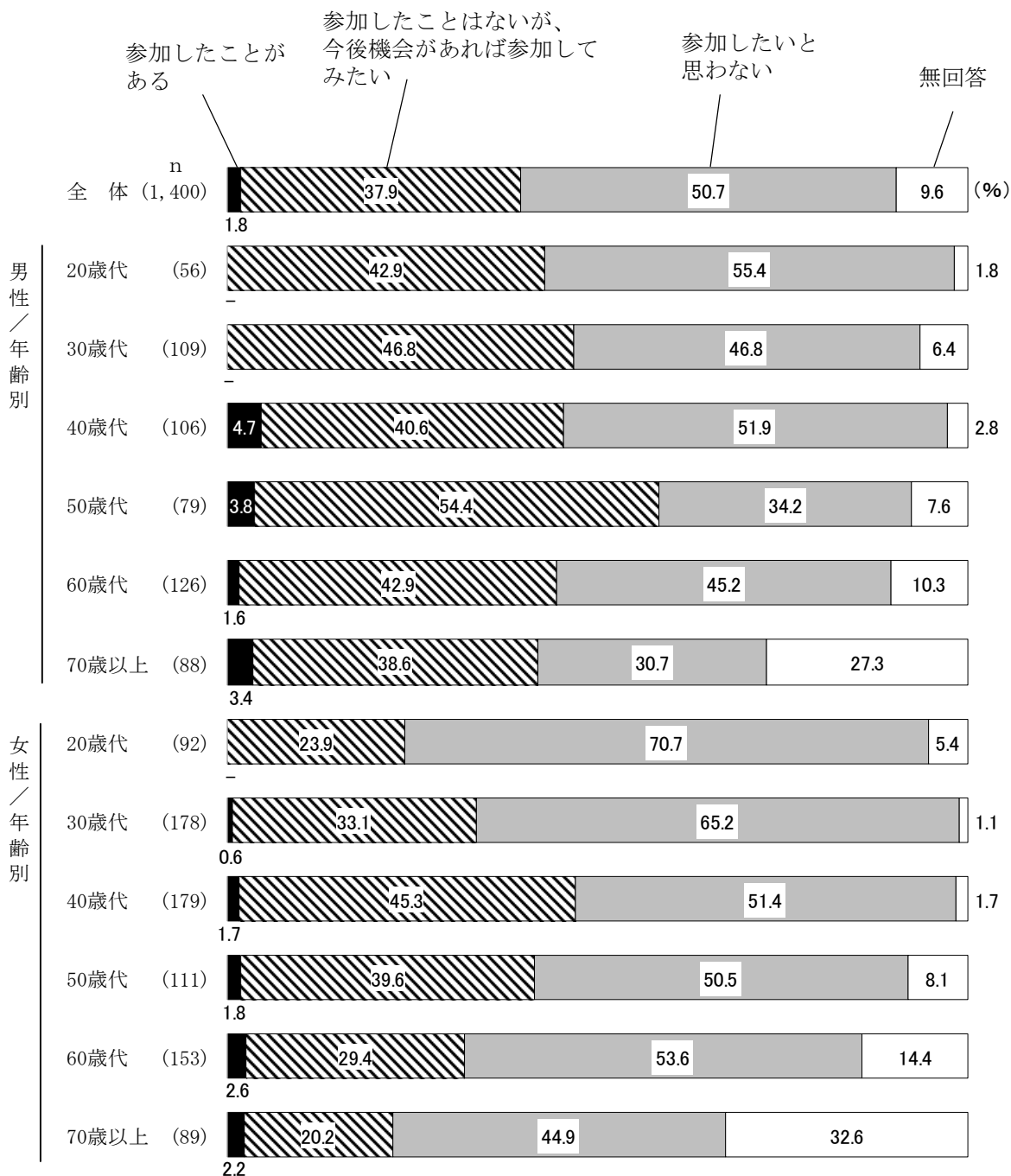
【パブリックコメント手続(重要な施策の決定などに対する意見募集)への意見提出(メール、郵送、FAX、持参)】



＜パブリックコメント手続(重要な施策の決定などに対する意見募集)への意見提出＞について、性/年齢別では、「参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい」はすべての年代で男性が女性より多くなっている。一方、「参加したいと思わない」は女性の方が多くなっている。(図表5-10)

図表5-11 市政参加の方法（性／年齢別）

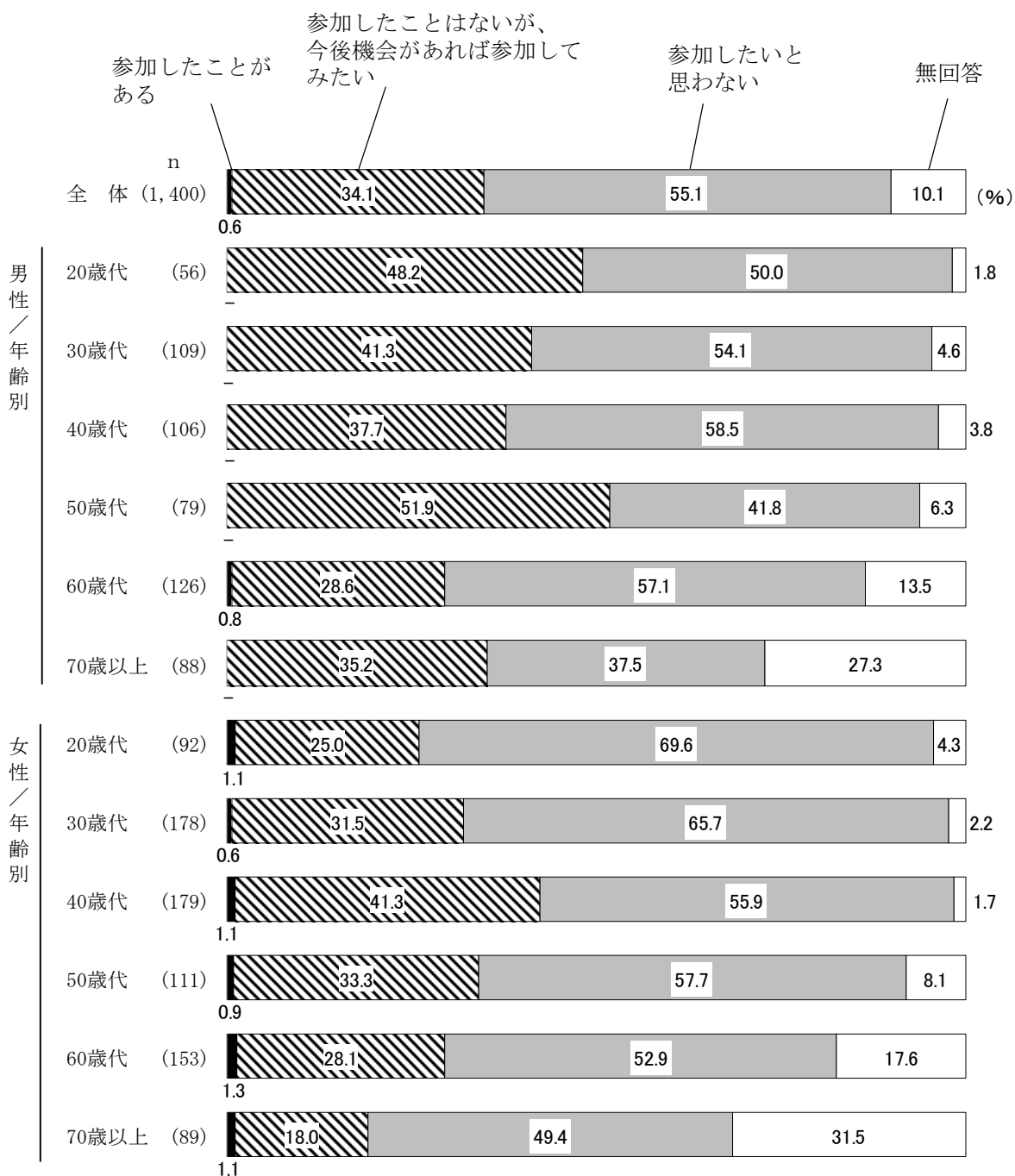
【タウンミーティングや説明会などへの参加(説明が主で、質疑応答などがあるもの)】



＜タウンミーティングや説明会などへの参加＞について、性／年齢別では、「参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい」は男性50歳代（54.4%）が最も多くなっている。「参加したいと思わない」は、女性20歳代（70.7%）が唯一7割を超え最も多くなっている。（図表5-11）

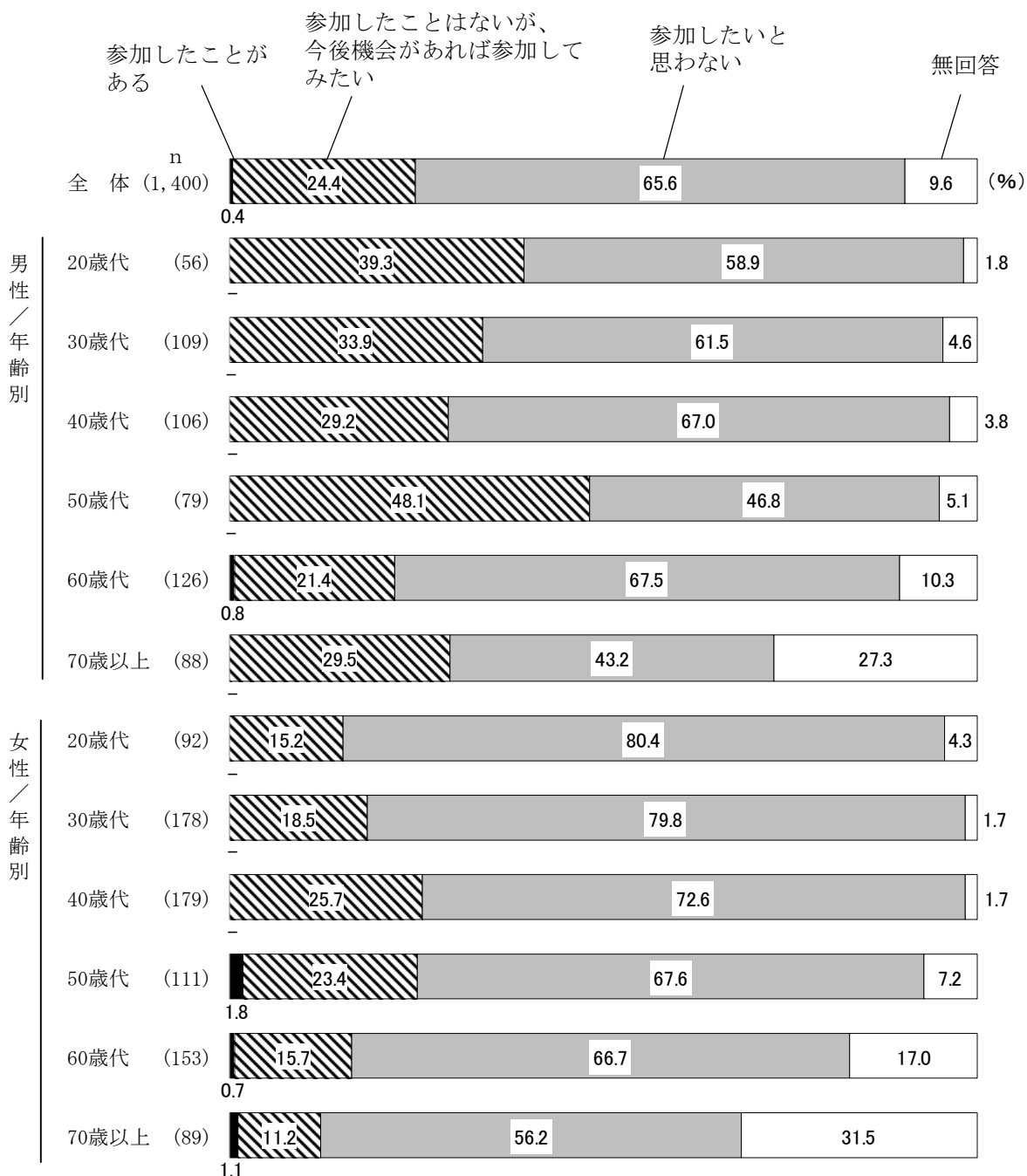
図表5-12 市政参加の方法(性/年齢別)

【意見交換会やワークショップなどへの参加(意見交換やグループ作業などが主であるもの)】



<意見交換会やワークショップなどへの参加>について、性/年齢別では、「参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい」は男性50歳代(51.9%)が唯一5割を超えている。「参加したいと思わない」は、女性20~30歳代が6割を超えている。(図表5-12)

図表5-13 市政参加の方法（性／年齢別）
【市の審議会や実行委員会などの委員としての参加】



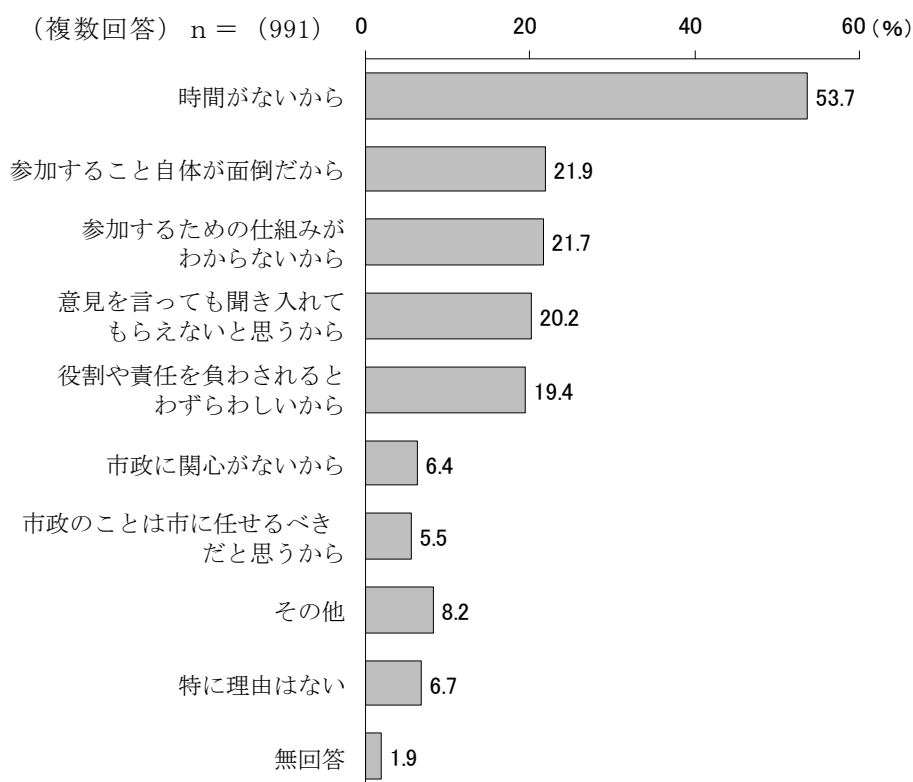
＜市の審議会や実行委員会などの委員としての参加＞について、性／年齢別では、「参加したことはないが、今後機会があれば参加してみたい」はすべての年代で男性が女性より多くなっている。「参加したいと思わない」は、女性20歳代（80.4%）が最も多くなっている。（図表5-13）

5-5 市政に参加したくない理由

◎「時間がないから」が53.7%

問12-1 (問12で、いずれか1つでも「3 参加したいと思わない」と回答した方にうかがいます。) 参加したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

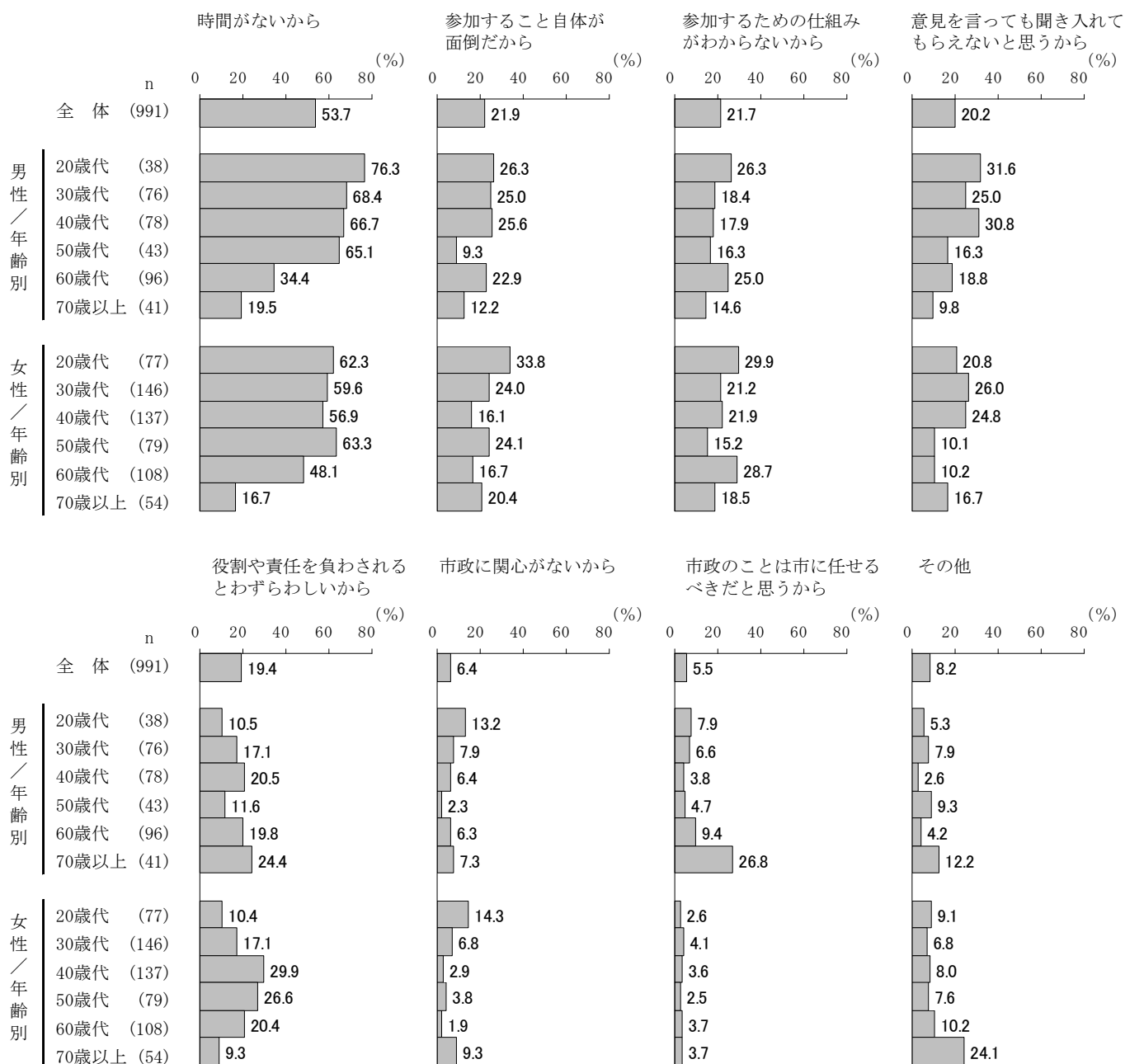
図表5-14 市政に参加したくない理由



市政に参加したくない理由については、「時間がないから」(53.7%)が唯一5割を超えて最も多くなっている。次いで、「参加すること自体が面倒だから」(21.9%)、「参加するための仕組みがわからないから」(21.7%)、「意見を言っても聞き入れてもらえないと思うから」(20.2%)、「役割や責任を負わされるとわずらわしいから」(19.4%)の順となっている。(図表5-14)

図表5-15 市政に参加したくない理由(性/年齢別)

※「特に理由はない」を除く8項目



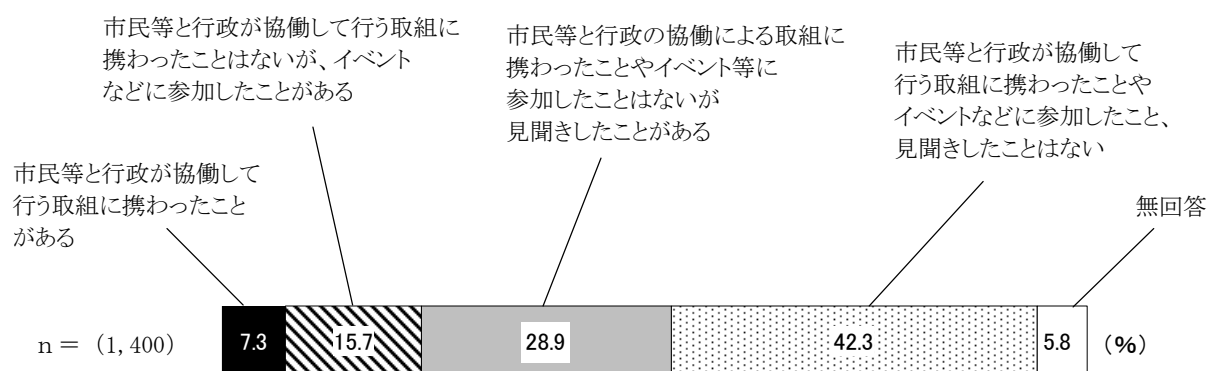
性/年齢別では、「時間がないから」は、男性では20歳代(76.3%)が最も多く、女性では50歳代(63.3%)が最も多くなっている。「参加すること自体が面倒だから」および「参加するための仕組みがわからないから」は、女性20歳代が最も多くなっている。「市政のことは市に任せるべきだと思うから」は、男性70歳以上(26.8%)が唯一2割を超えて、最も多くなっている。(図表5-15)

5-6 市民等と行政が協働して行う取組・イベントへの参加状況

◎「携わったことや参加したこと、見聞きしたことはない」が42.3%

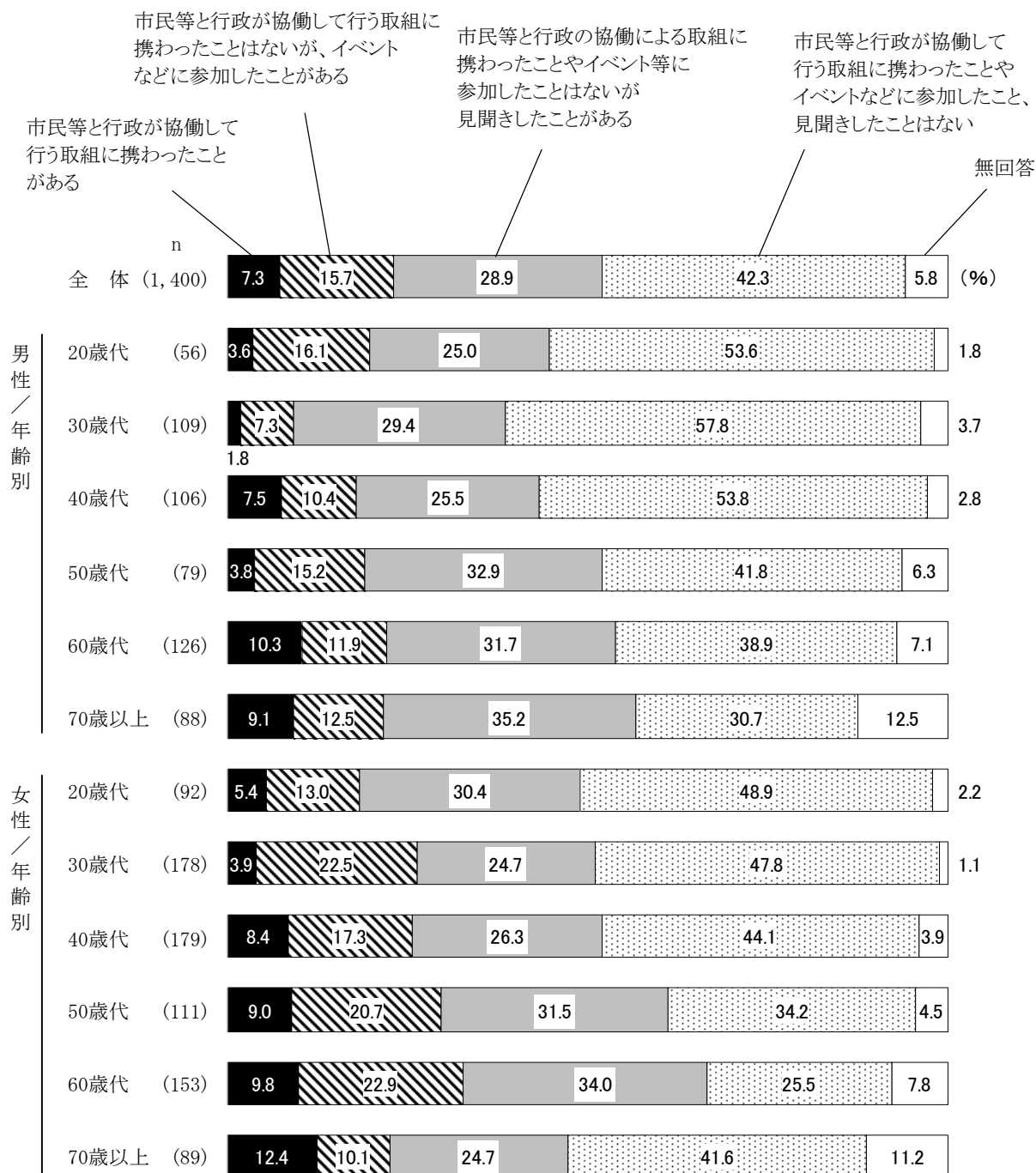
問13 川崎市内では、子育て支援、環境保全、文化など様々なまちづくりの分野で、町内会・自治会やボランティア団体などの市民活動団体、事業者、大学などと行政が協働して行う取組が行われています。あなたは、このような取組に携わったことや、イベントなどに参加したことがありますか。または、見聞きしたことがありますか。(○は1つだけ)

図表5-16 市民等と行政が協働して行う取組・イベントへの参加状況



市民等と行政が協働して行う取組・イベントへの参加状況については、「市民等と行政が協働して行う取組に携わったことやイベントなどに参加したこと、見聞きしたことはない」(42.3%)が最も多くなっている。次いで、「市民等と行政の協働による取組に携わったことやイベント等に参加したことはないが見聞きしたことがある」(28.9%)、「市民等と行政が協働して行う取組に携わったことはないが、イベントなどに参加したことがある」(15.7%)、「市民等と行政が協働して行う取組に携わったことがある」(7.3%)の順となっている。(図表5-16)

図表5-17 市民等と行政が協働して行う取組・イベントへの参加状況（性／年齢別）



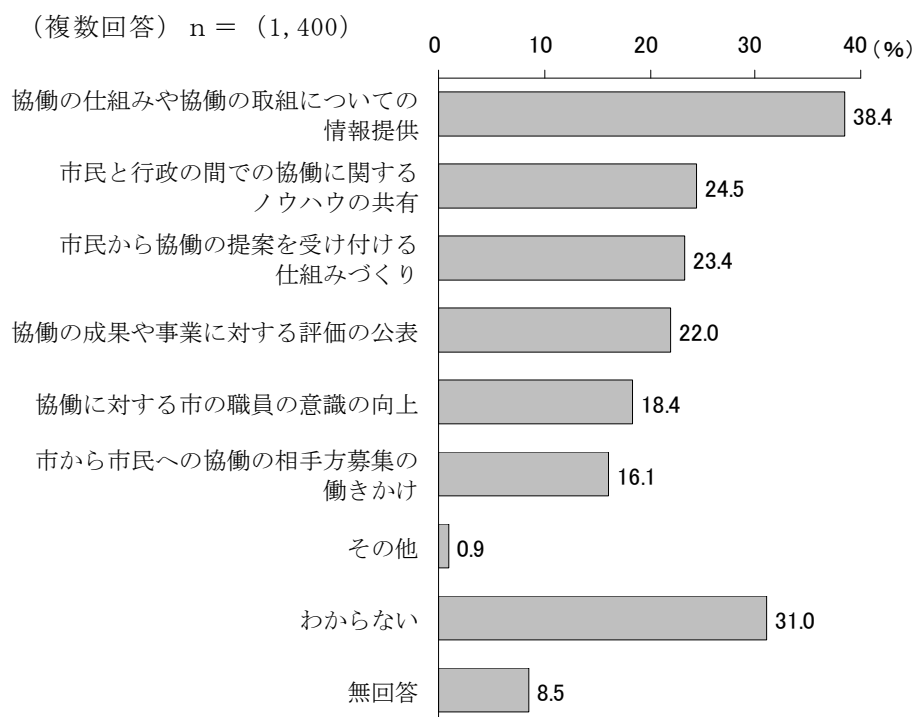
性・年齢別では、「市民等と行政が協働して行う取組に携わったことがある」は、男性では60歳代(10.3%)、女性では70歳以上(12.4%)が1割を超え最も多くなっている。「市民等と行政が協働して行う取組に携わったことはないが、イベントなどに参加したことがある」は、女性の30歳代(22.5%)・50歳代(20.7%)・60歳代(22.9%)が最も多くなっている。「市民等と行政の協働による取組に携わったことやイベント等に参加したことはないが見聞きしたことがある」は、男性では70歳以上(35.2%)、女性では60歳代(34.0%)が3割台半ばで最も多くなっている。「市民等と行政が協働して行う取組に携わったことやイベントなどに参加したこと、見聞きしたことはない」は、男性の20～40歳代が5割を超え多くなっている。(図表5-17)

5-7 市民と行政の協働推進のために進めていくとよいと思うこと

◎「協働の仕組みや協働の取組についての情報提供」が38.4%

問14 市では、市民と行政が協働して行う取組を推進するため、市民活動団体と事業を行うにあたって尊重すべき6つの原則を定めた「協働型事業のルール」や、協働型事業の事例を集めた事例集の作成、協働に関する相談窓口(協働推進窓口)の開設などを行っています。今後さらに協働を推進していくためには、どのようなことを進めていくとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

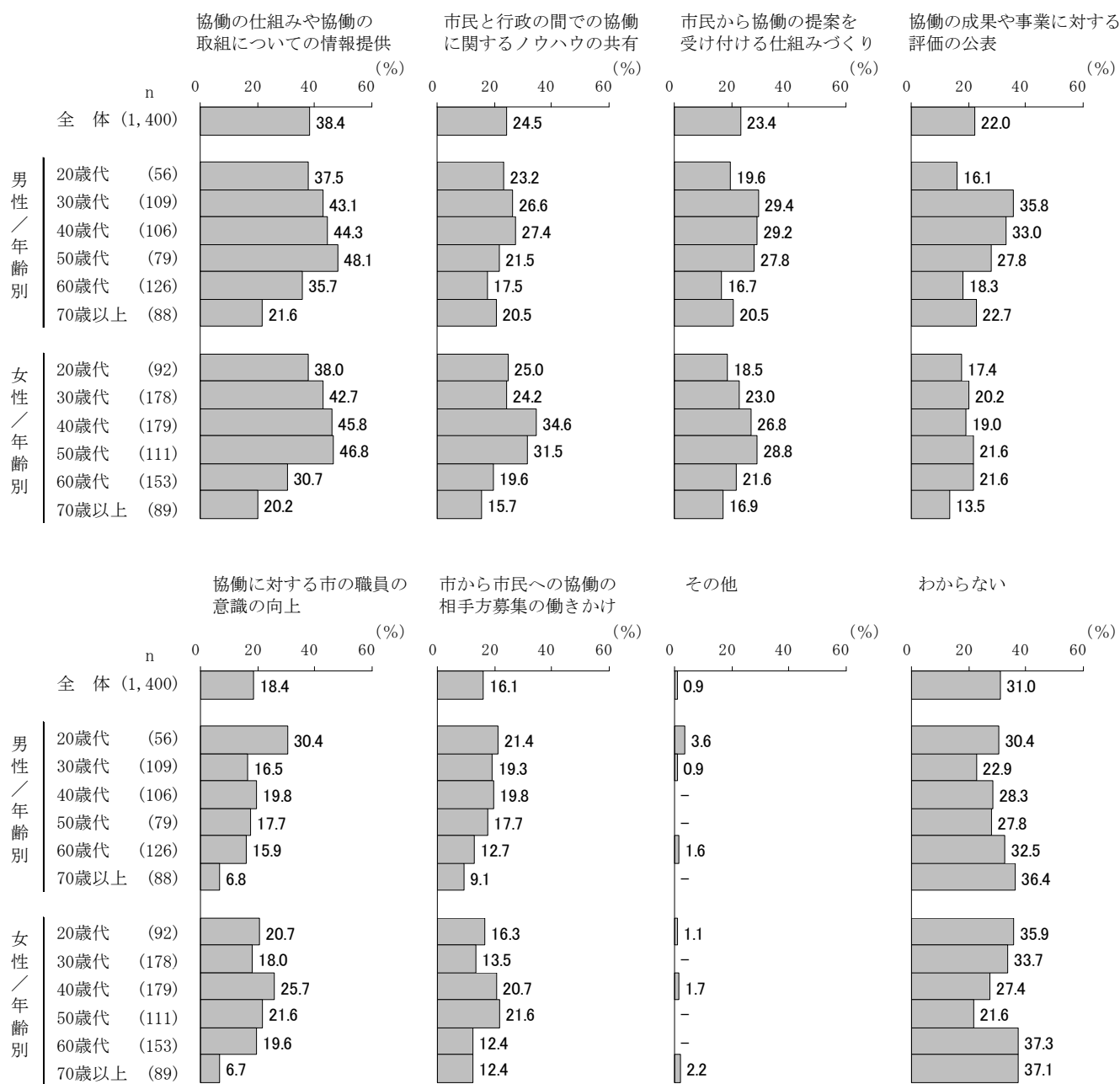
図表5-18 市民と行政の協働推進のために進めていくとよいと思うこと



市民と行政の協働を推進するために進めていくとよいと思うことについては、「協働の仕組みや協働の取組についての情報提供」(38.4%)が3割を超え最も多くなっている。次いで、「市民と行政の間での協働に関するノウハウの共有」(24.5%)、「市民から協働の提案を受け付ける仕組みづくり」(23.4%)、「協働の成果や事業に対する評価の公表」(22.0%)が2割台で続いている。

(図表5-18)

図表5-19 市民と行政の協働推進のために進めていくとよいと思うこと（性／年齢別）



性／年齢別では、「協働の仕組みや協働の取組についての情報提供」は、男女ともに20歳代から50歳代にかけて多くなり、50歳代をピークに60歳代、70歳以上と少なくなっている。「市民と行政の間での協働に関するノウハウの共有」は、女性の30歳代(34.6%)・40歳代(31.5%)が3割を超え多くなっている。「市民から協働の提案を受け付ける仕組みづくり」および「協働の成果や事業に対する評価の公表」は、男性30歳代が最も多くなっている。(図表5-19)

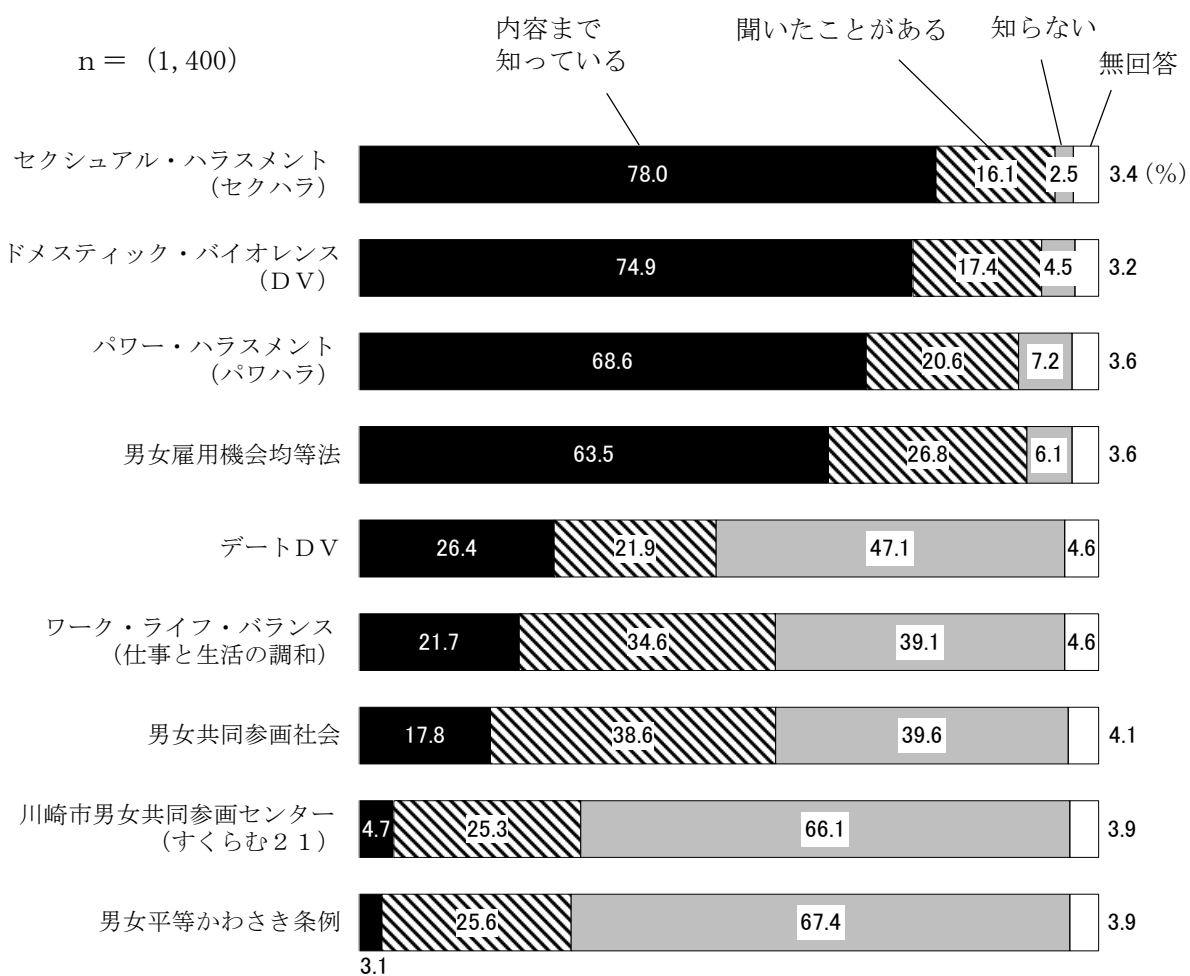
6 男女共同参画社会の形成について

6-1 男女共同参画社会等の認知度

◎『内容まで知っている』は「セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」が78.0%で最も多い

問15 あなたは、次の①～⑨の言葉について知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

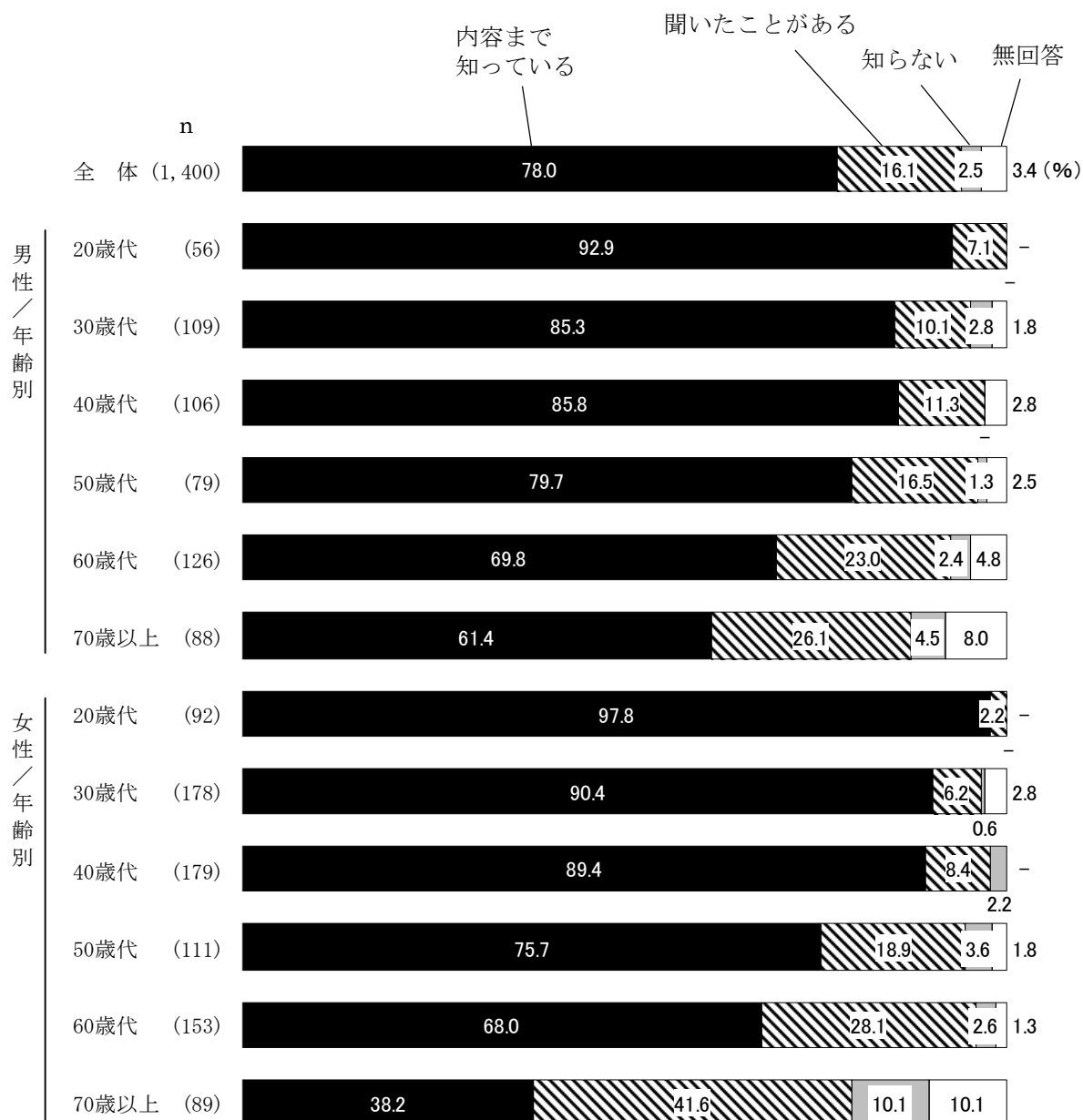
図表6-1 男女共同参画社会等の認知度



男女共同参画社会等の認知度について、『内容まで知っている』は、「セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)」(78.0%)、「ドメスティック・バイオレンス (DV)」(74.9%) が7割台と多く、次いで「パワー・ハラスメント (パワハラ)」(68.6%)、「男女雇用機会均等法」(63.5%) が6割台となっている。一方、『知らない』は、「男女平等かわさき条例」(67.4%)、「川崎市男女共同参画センター (すくらむ21)」(66.1%) が6割台後半と多くなっている。

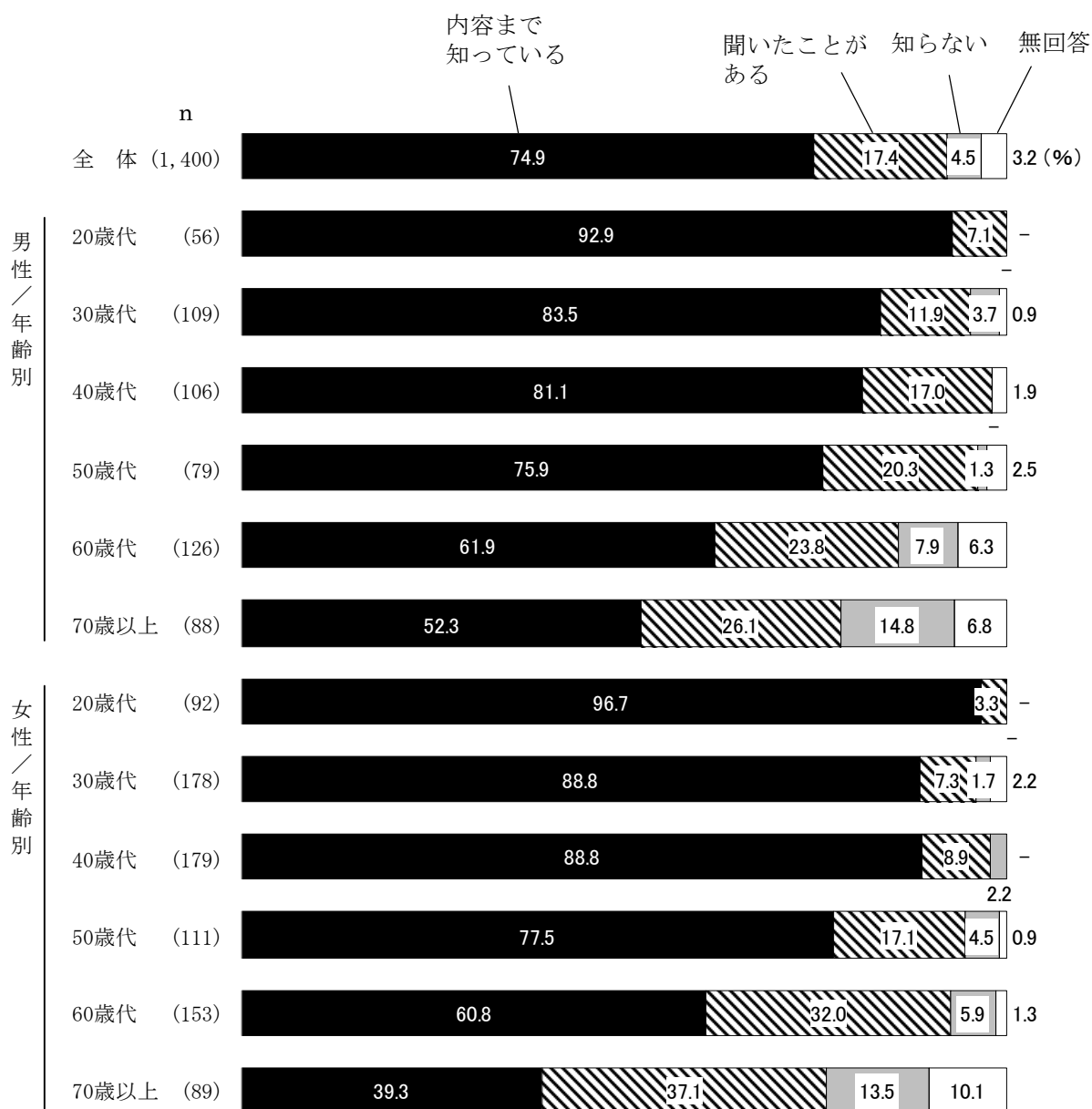
なお、「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」は、『聞いたことがある』が3割台であるのに対し、『内容まで知っている』は2割前後となっている。(図表6-1)

図表6-2 「セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)」の認知度 (性/年齢別)



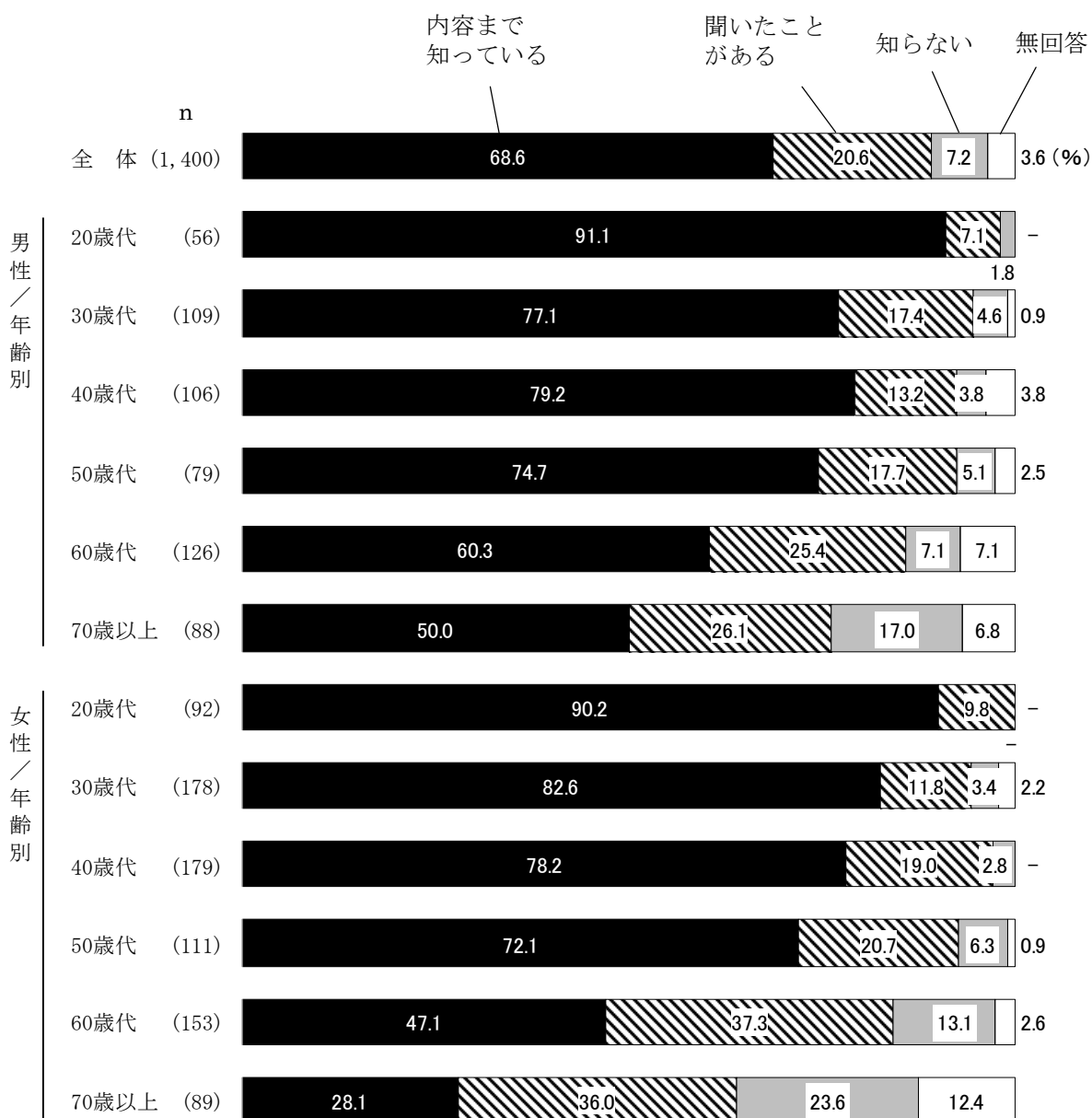
「セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)」の認知度について、性/年齢別では、『内容まで知っている』は男女ともに20歳代が9割を超え最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。女性70歳以上(38.2%)は3割台と最も少なくなっている。(図表6-2)

図表6-3 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」の認知度(性/年齢別)



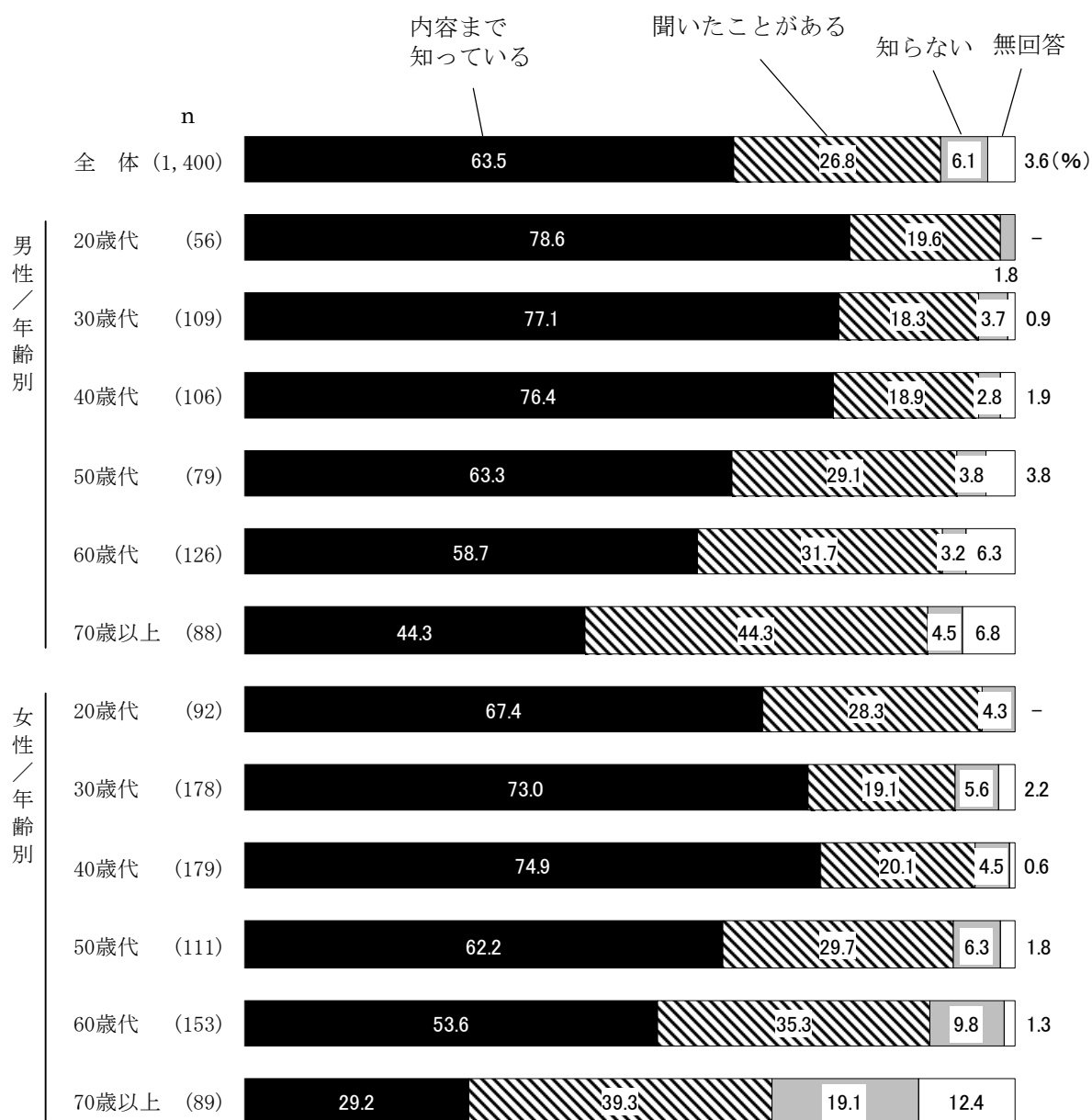
「ドメスティック・バイオレンス(DV)」の認知度について、性/年齢別では、『内容まで知っている』は男女ともに20歳代が9割を超え最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。女性70歳以上(39.3%)は3割台と最も少なくなっている。(図表6-3)

図表6-4 「パワー・ハラスメント(パワハラ)」の認知度(性/年齢別)



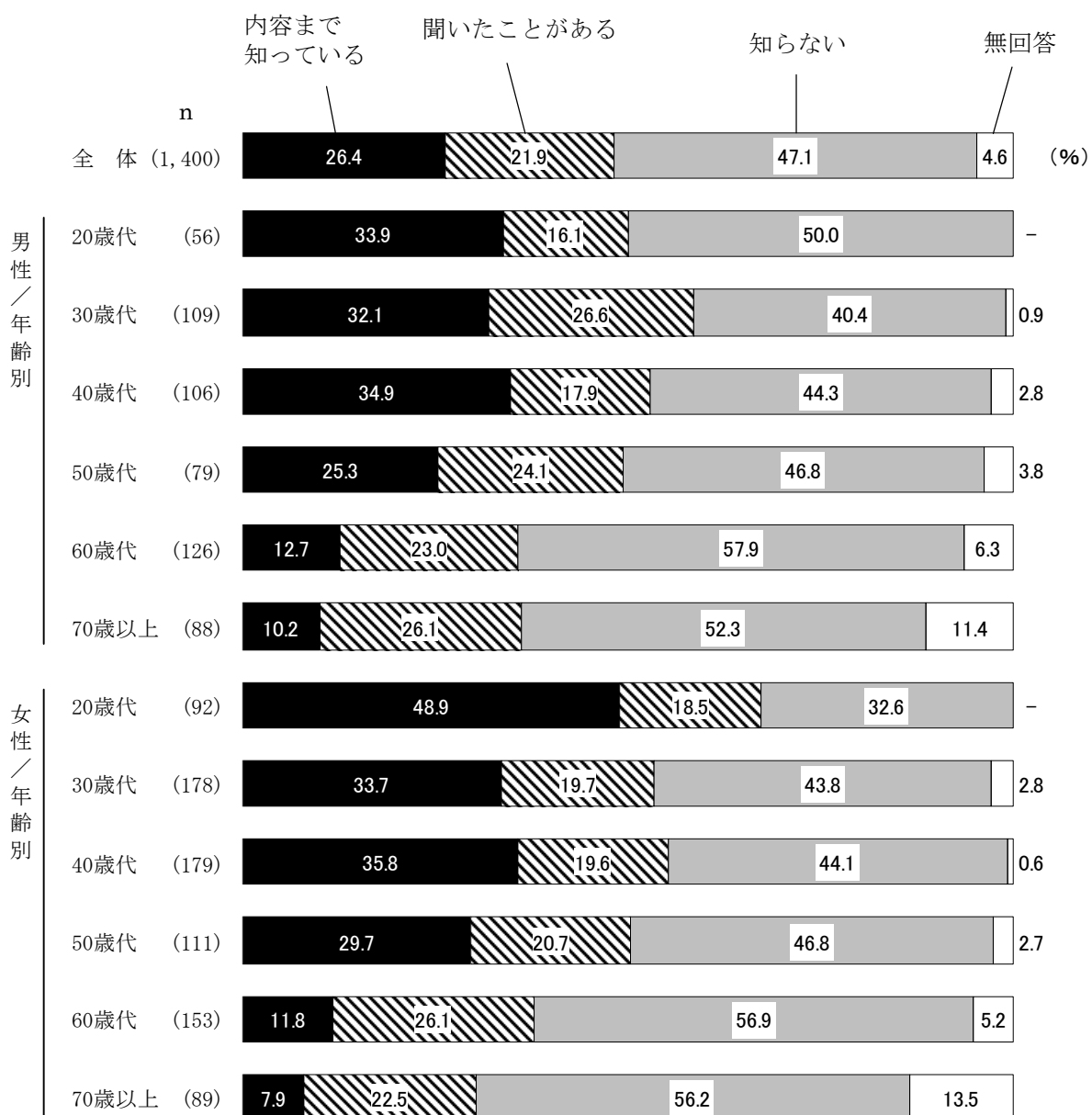
「パワー・ハラスメント(パワハラ)」の認知度について、性/年齢別では、『内容まで知っている』は男女ともに20歳代が9割を超え最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。女性70歳以上(28.1%)は2割台と最も少なくなっている。(図表6-4)

図表6-5 「男女雇用機会均等法」の認知度(性/年齢別)



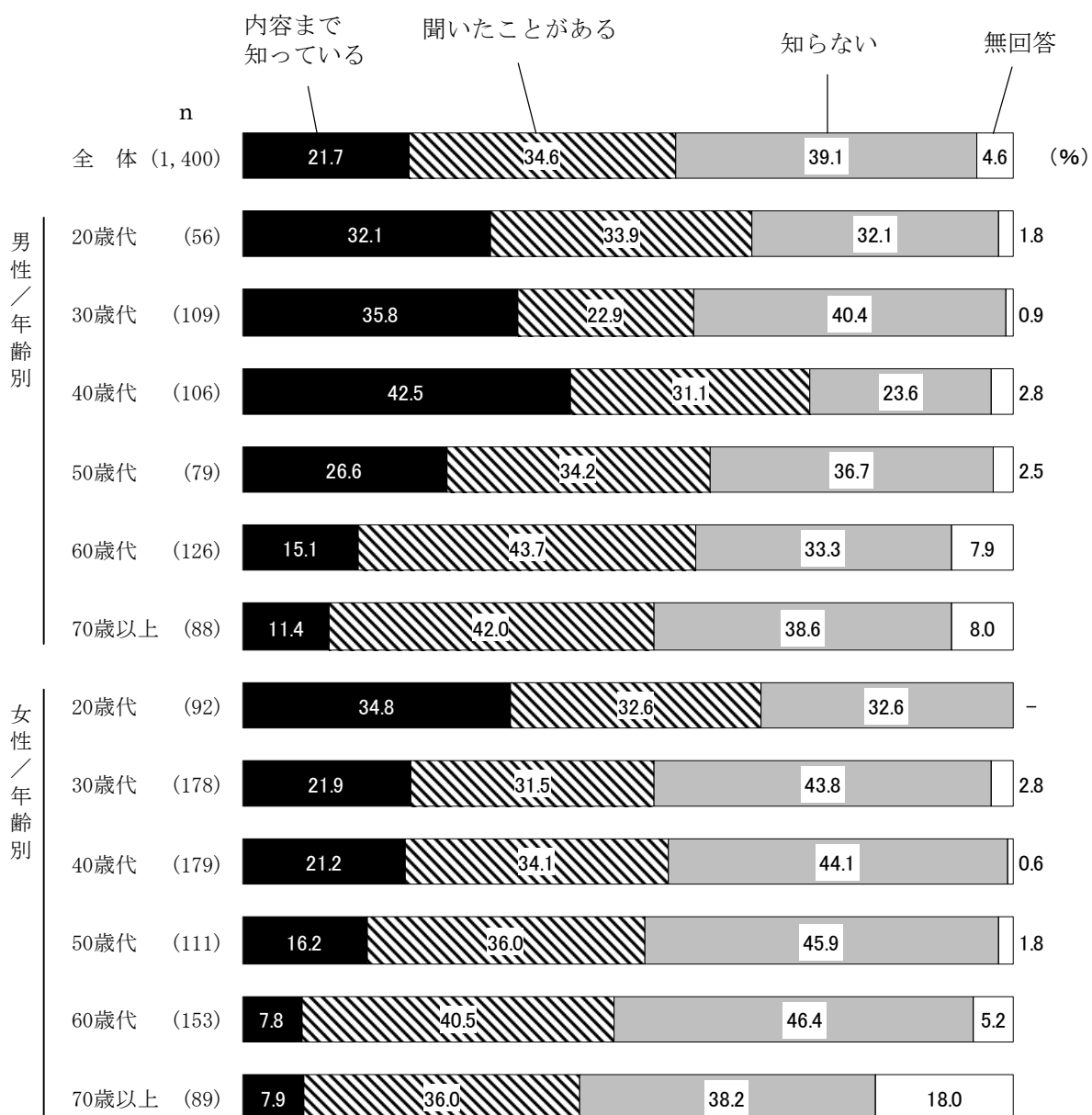
「男女雇用機会均等法」の認知度について、性/年齢別では、『内容まで知っている』は男性20～40歳代、女性30～40歳代が7割を超え多くなっている。男女ともに50歳代以上の年代は、年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表6-5)

図表6-6 「デートDV」の認知度(性/年齢別)



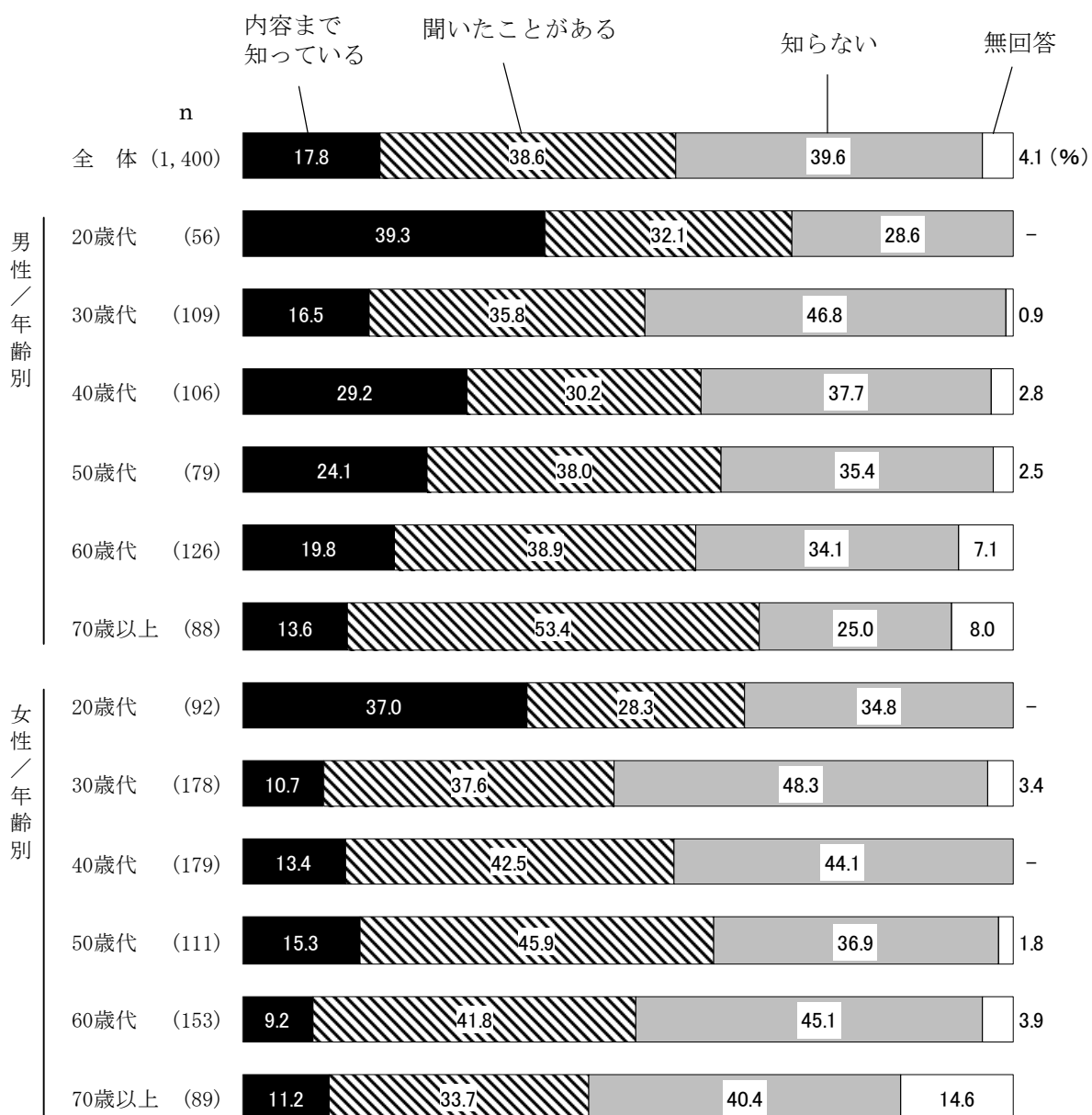
「デートDV」の認知度について、性/年齢別では、『内容まで知っている』は女性の20歳代(48.9%)が4割台後半と最も多く、30~40歳代も3割台と多くなっている。男性では20~40歳代が3割台と多くなっている。(図表6-6)

図表6-7 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度（性／年齢別）



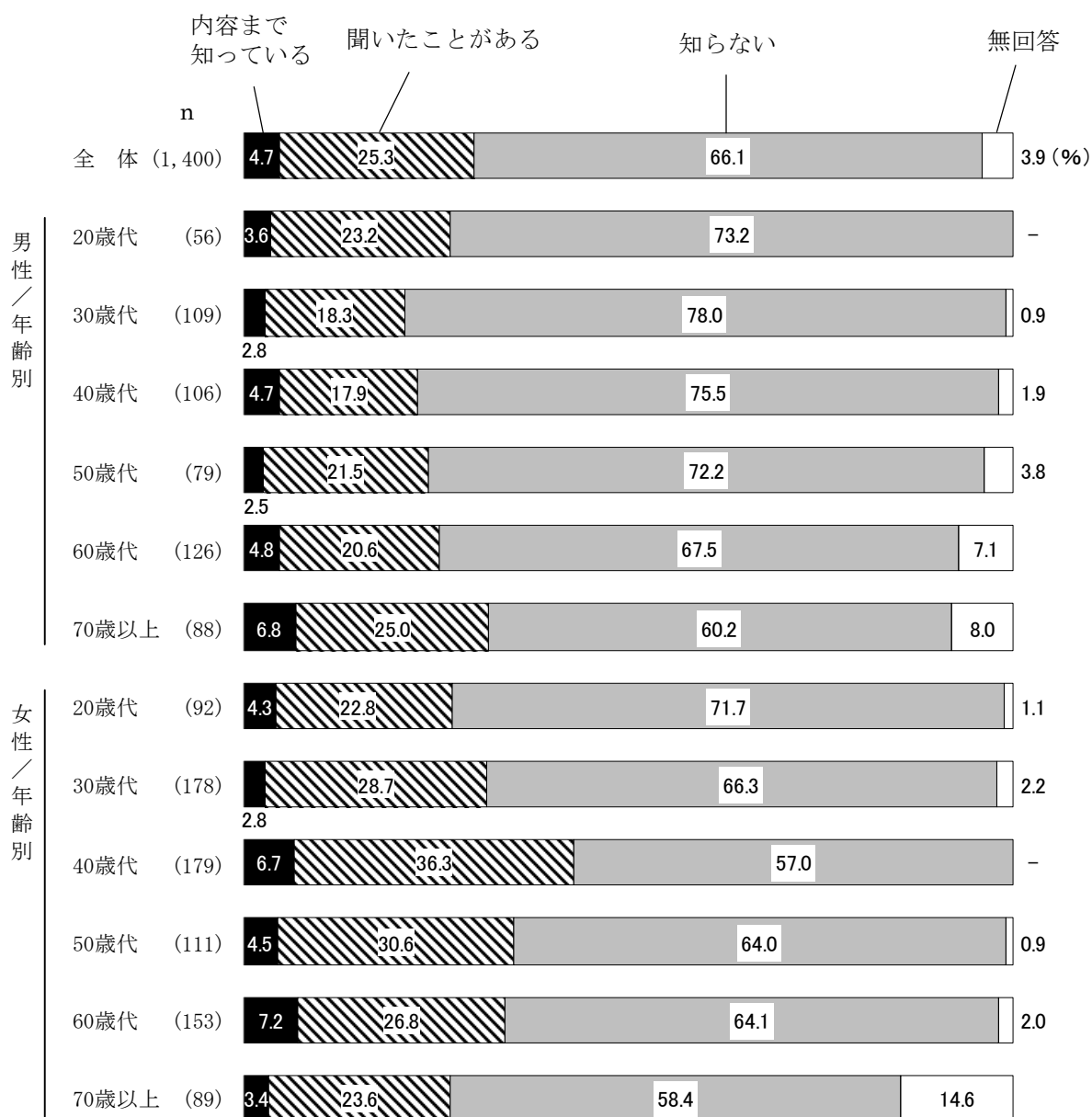
「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度について、性／年齢別では、『内容まで知っている』は男性では40歳代（42.5%）が4割台、女性では20歳代（34.8%）が3割台で最も多くなっている。（図表6-7）

図表6-8 「男女共同参画社会」の認知度(性/年齢別)



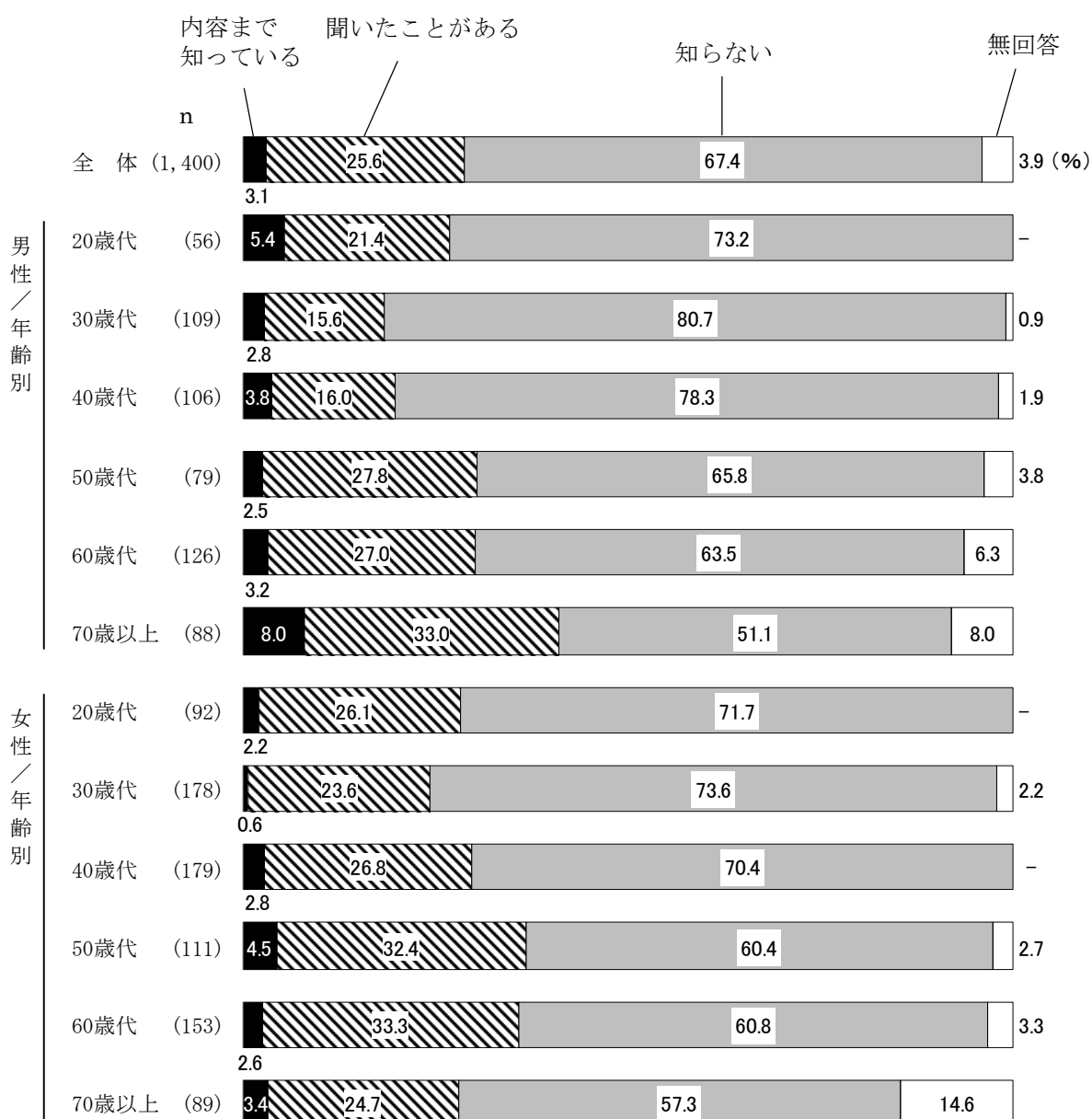
「男女共同参画社会」の認知度について、性/年齢別では、『内容まで知っている』は男女ともに20歳代が3割台後半で最も多くなっている。(図表6-8)

図表6-9 「川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）」の認知度（性／年齢別）



「川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）」の認知度について、性／年齢別では、『内容まで知っている』は各年代ともに1割未満と少なくなっているが、『聞いたことがある』は女性40～50歳代が3割を超え、他の年代に比べ多くなっている。（図表6-9）

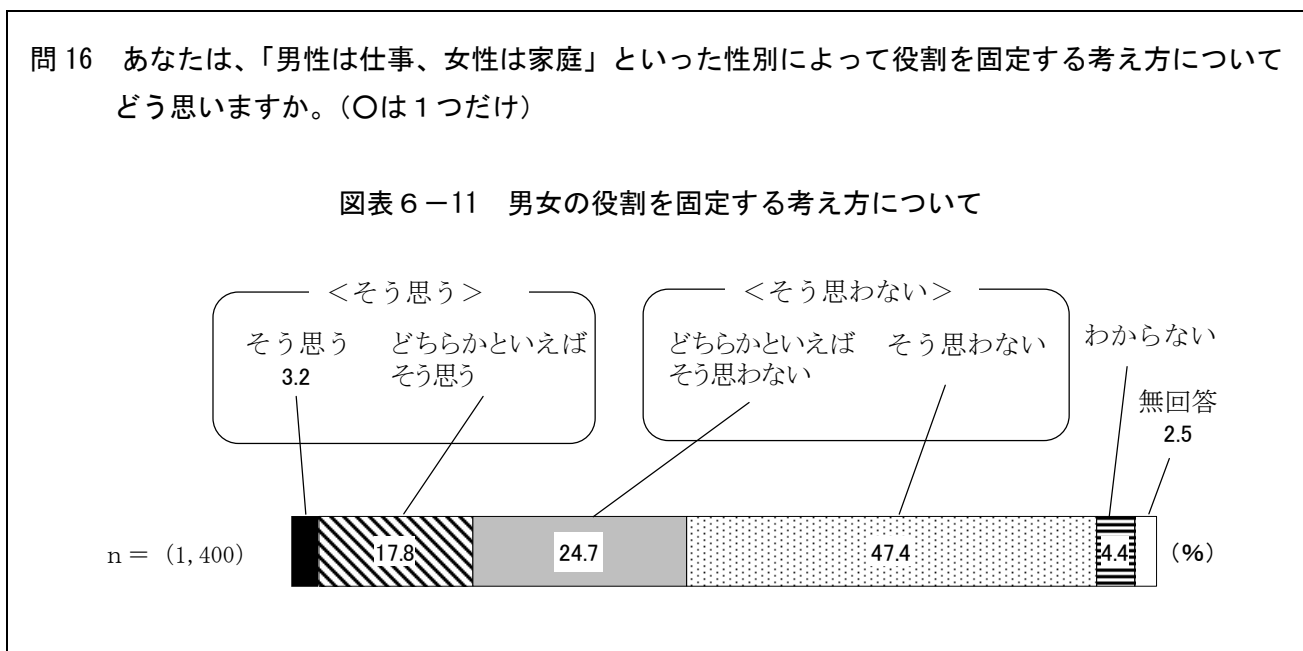
図表6-10 「男女平等かわさき条例」の認知度(性/年齢別)



「男女平等かわさき条例」の認知度について、性/年齢別では、『内容まで知っている』は各年代ともに1割未満と少なくなっているものの、男性70歳以上(8.0%)が最も多くなっている。『聞いたことがある』は、男性70歳以上(33.0%)、女性50歳代(32.4%)・60歳代(33.3%)が3割を超えている。(図表6-10)

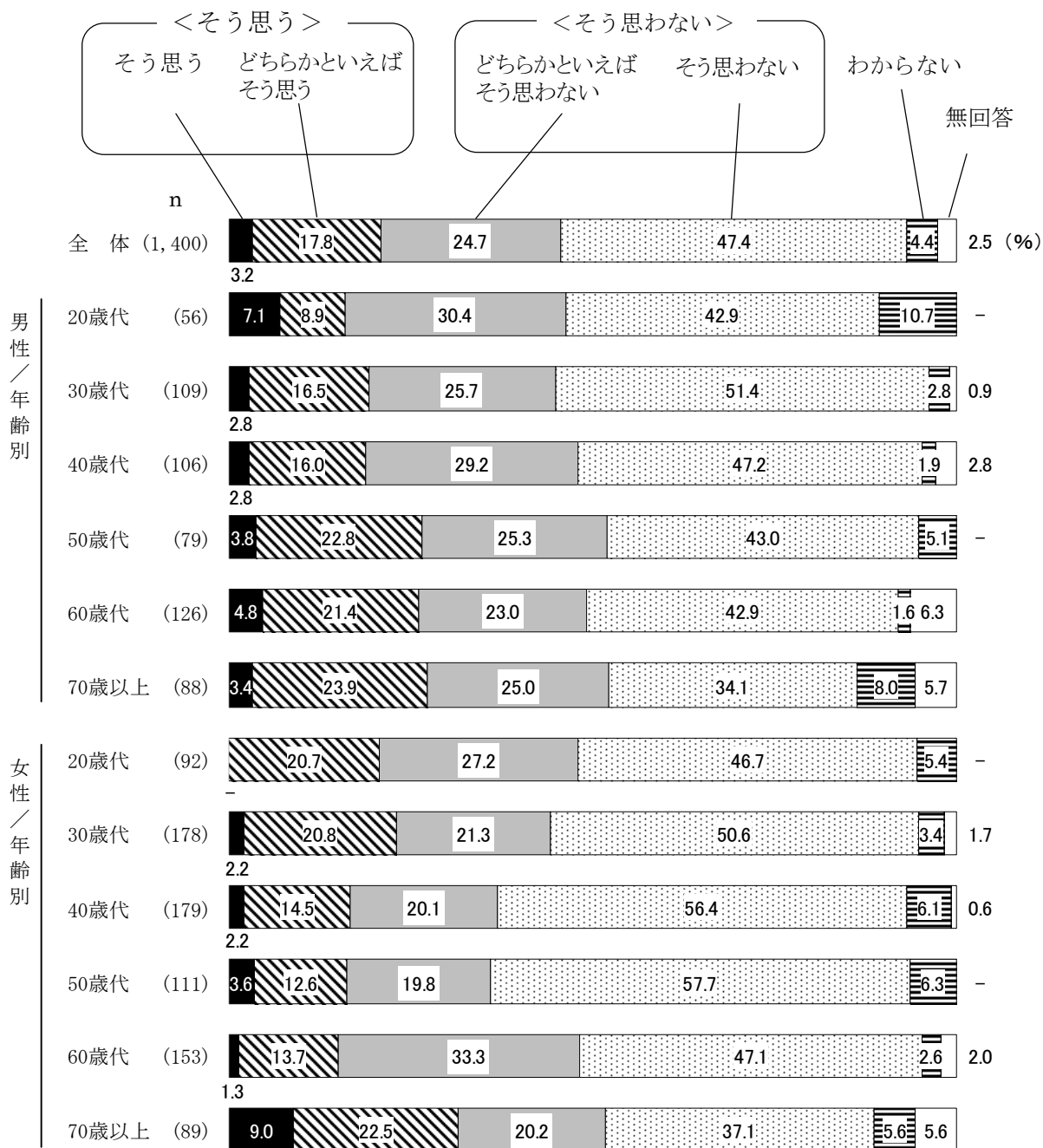
6-2 男女の役割を固定する考え方について

◎<そう思わない>が72.1%



「男性は仕事、女性は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方についてどう思うか聞いたところ、「そう思わない」(47.4%)が最も多く、「どちらかといえばそう思わない」(24.7%)をあわせた<そう思わない>(72.1%)は7割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思う」(17.8%)と「そう思う」(3.2%)をあわせた<そう思う>は21.0%となっている。(図表6-11)

図表6-12 男女の役割を固定する考え方について(性/年齢別)



性/年齢別では、<そう思わない>は、女性60歳代(80.4%)が8割を超え最も多く、女性20~50歳代と男性20~40歳代も7割を超えている。一方、男女ともに70歳以上は5割台とやや少なくなっている。(図表6-12)

6-3 家事に費やす時間について

◎<平日>は「2時間未満」、<休日>は「2～4時間未満」が最も多い

問17 家事等に費やす時間についてお聞きします。以下の(1)～(3)の設問にお答えください。

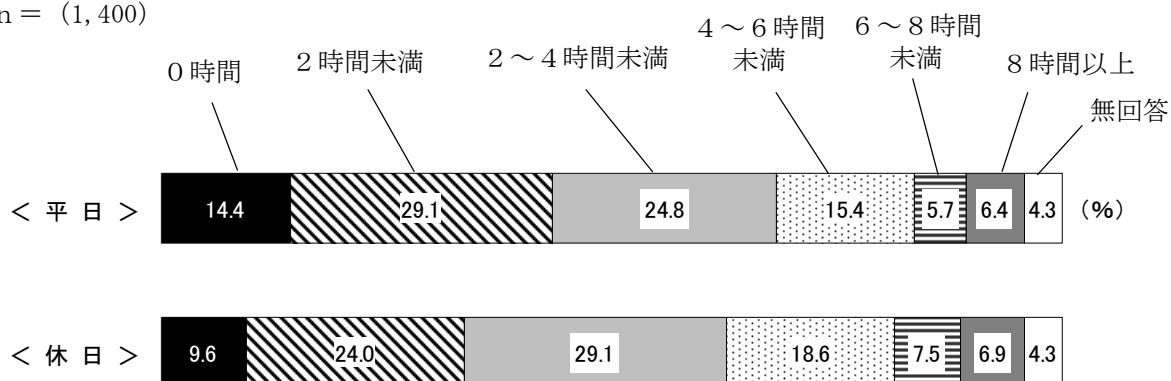
(1) あなたが、1日のうち家事に費やす時間を教えてください。

* 平日、休日それぞれ、おおよその平均時間でお考えください。

行わない場合は、それぞれ 0 とご記入ください。

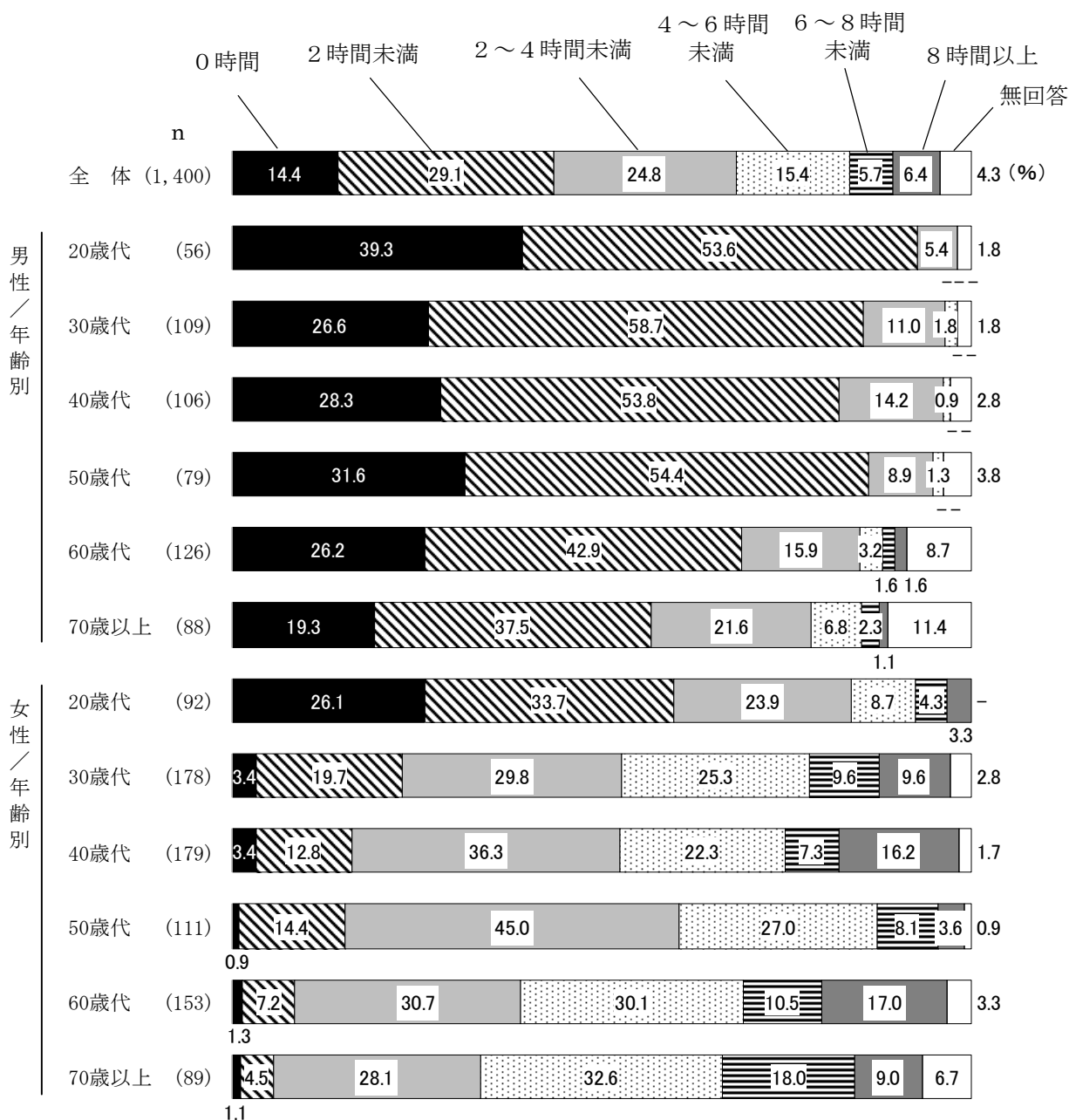
図表6-13 家事に費やす時間について

n = (1,400)



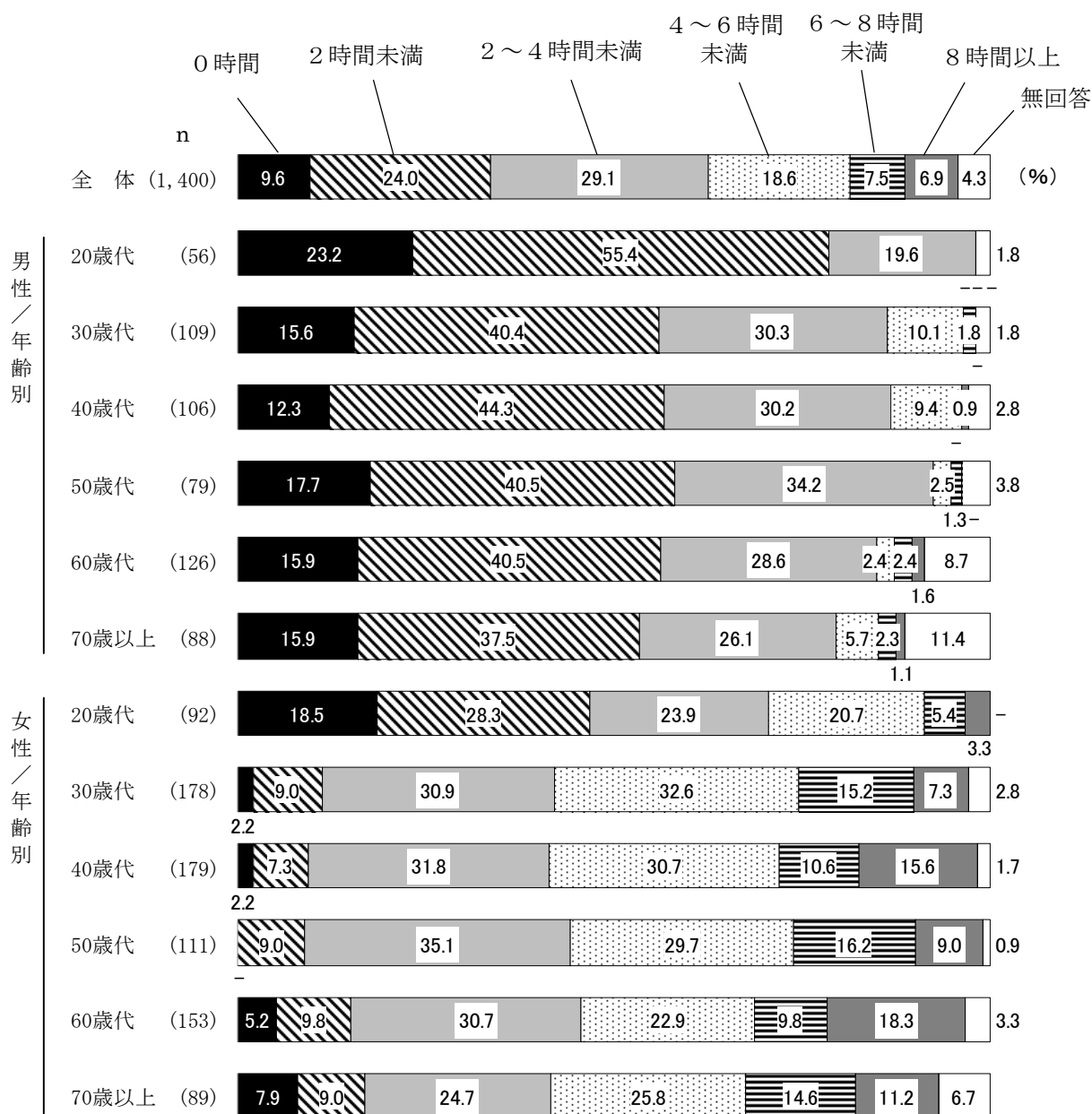
1日のうち家事に費やす時間については、<平日>は「2時間未満」(29.1%)が最も多く、次いで「2～4時間未満」(24.8%)、「4～6時間未満」(15.4%)の順となっている。<休日>は、「2～4時間未満」(29.1%)が最も多く、次いで「2時間未満」(24.0%)、「4～6時間未満」(18.6%)の順となっている。(図表6-13)

図表6-14 家事に費やす時間について<平日> (性/年齢別)



<平日>について、性/年齢別では、男性ではいずれの年代も「2時間未満」が最も多くなっている。また、「0時間」と「2時間未満」をあわせた『2時間未満(計)』は、20~50歳代で8~9割台と多くなっている。女性では、30~60歳代は「2~4時間未満」が最も多く、20歳代は「2時間未満」、70歳以上は「4~6時間未満」が最も多くなっている。「2~4時間未満」「4~6時間未満」「6~8時間未満」「8時間以上」をあわせた『2時間以上(計)』は、20歳代(40.2%)は4割台、30歳代(74.3%)は7割台、40歳代~70歳以上は8割台となっている。(図表6-14)

図表6-15 家事に費やす時間について<休日> (性/年齢別)



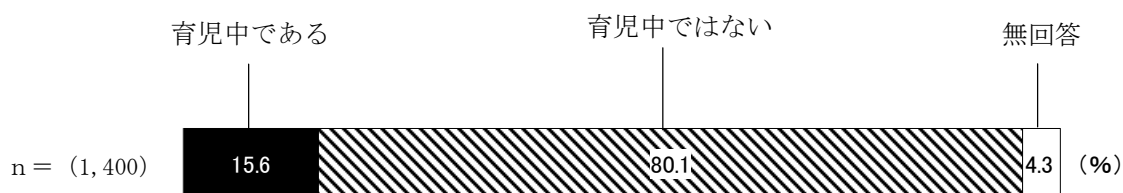
<休日>について、性/年齢別では、『2時間以上(計)』は男性では30~40歳代が4割を超えて多くなっている。女性では、30~60歳代が8~9割台と多く、70歳以上(76.3%)は7割台、20歳代は5割台(53.3%)となっている。(図表6-15)

6-4 育児に費やす時間について

◎<平日>は「4時間未満」、<休日>は「12時間以上」が最も多い

問17 家事等に費やす時間についてお聞きします。以下の(1)～(3)の設問にお答えください。
(2) あなたは、現在、育児中ですか。(○は1つだけ)

図表6-16 育児中であるか

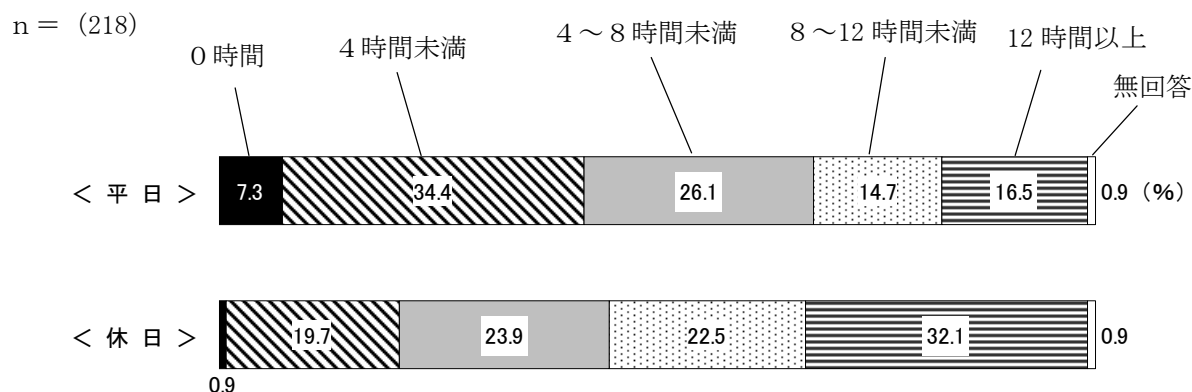


(2) で「1 育児中である」と回答した方にうかがいます。

あなたが、1日のうち育児に費やす時間を教えてください。

* 平日、休日それぞれ、おおよその平均時間でお考えください。
行わない場合は、それぞれ 0 とご記入ください。

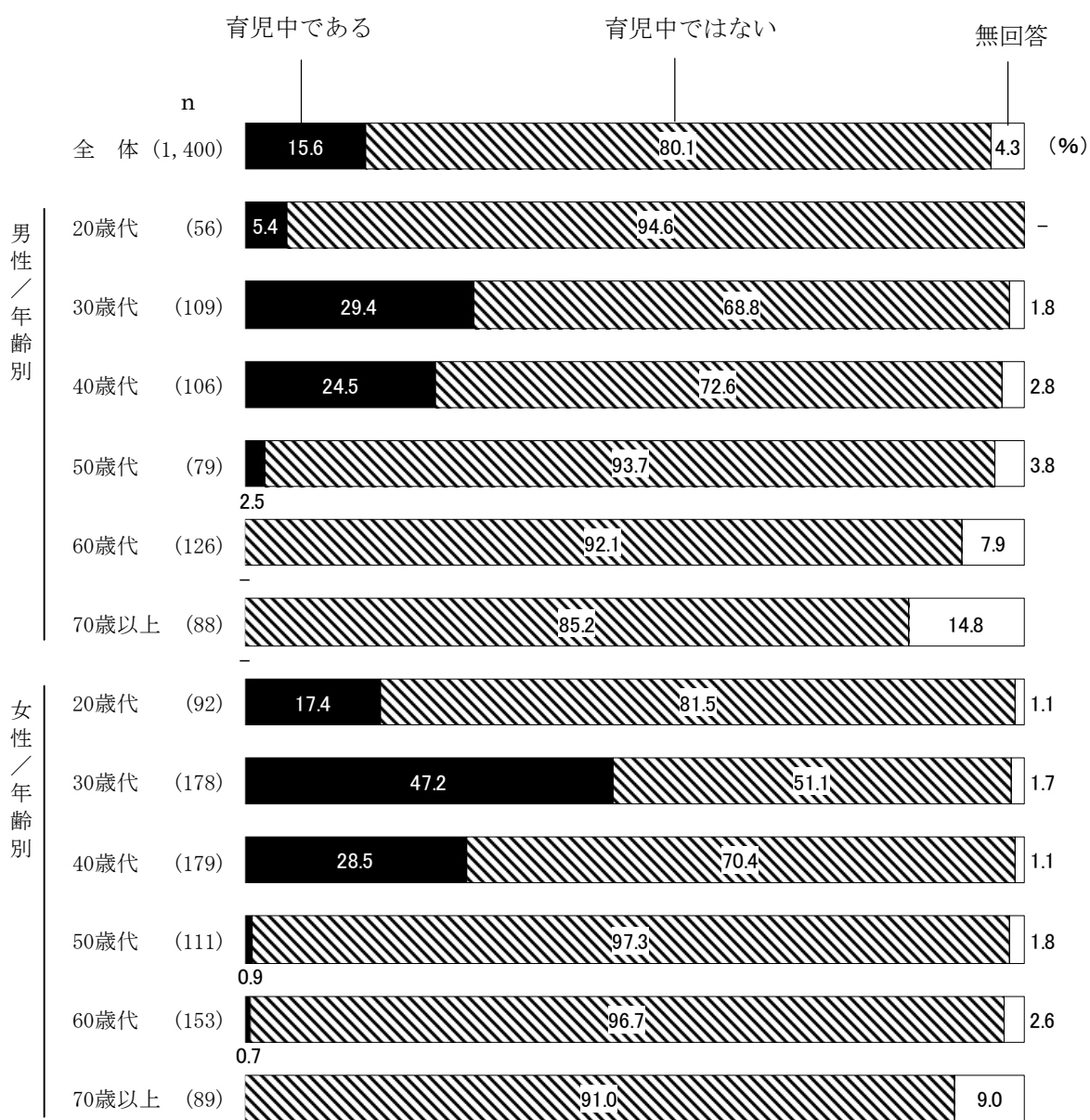
図表6-17 育児に費やす時間について



現在育児中であるか聞いたところ、「育児中である」は15.6%、「育児中ではない」は80.1%となっている。(図表6-16)

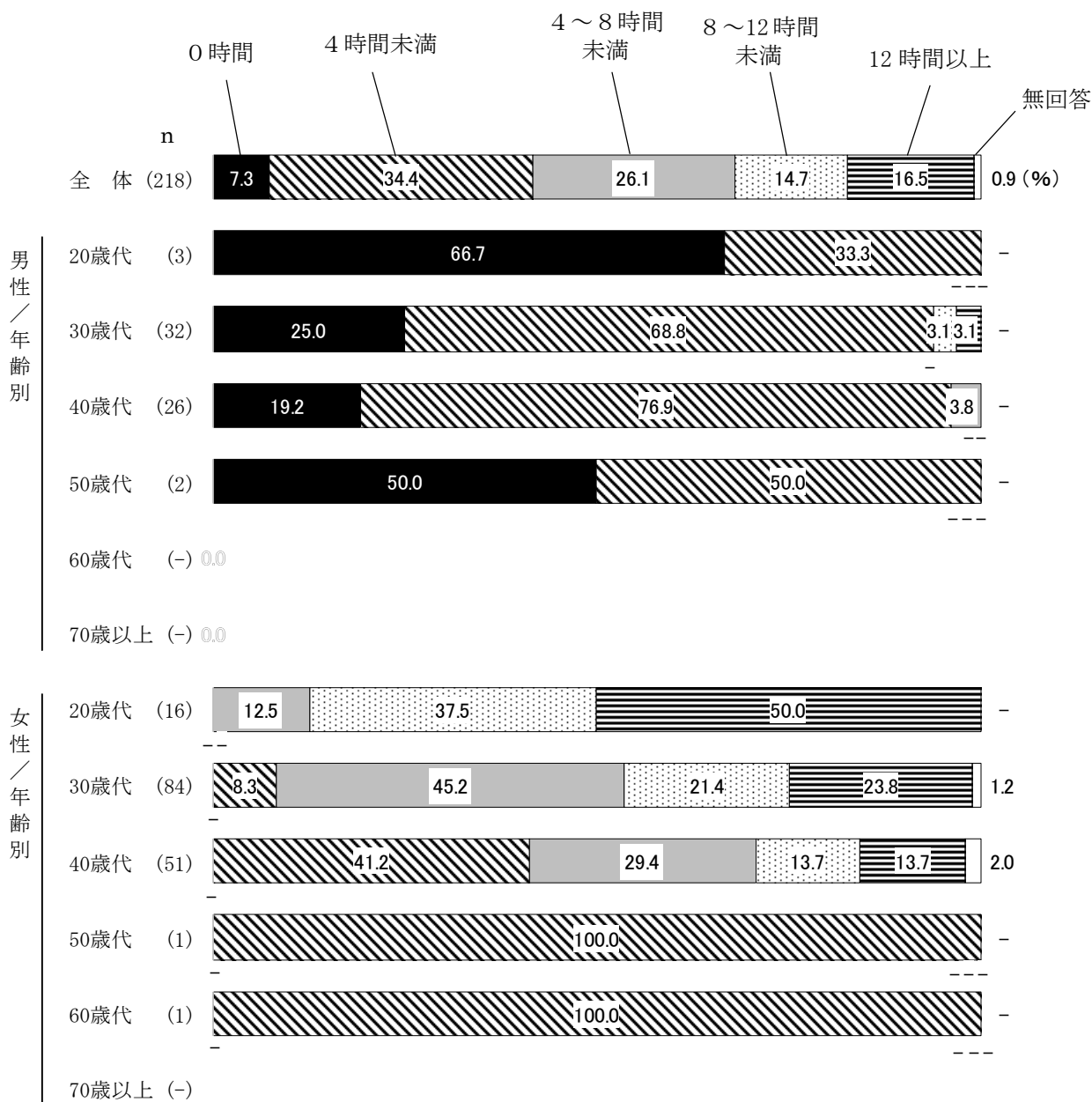
「育児中である」と回答した人に育児に費やす時間について聞いたところ、<平日>は「4時間未満」(34.4%)が最も多く、<休日>は「12時間以上」(32.1%)が最も多くなっている。(図表6-17)

図表6-18 育児中であるか(性/年齢別)



性/年齢別では、「育児中である」は男女ともに30歳代が最も多く、次いで40歳代、20歳代となっている。なお、最も多いのは女性30歳代で47.2%となっている。(図表6-18)

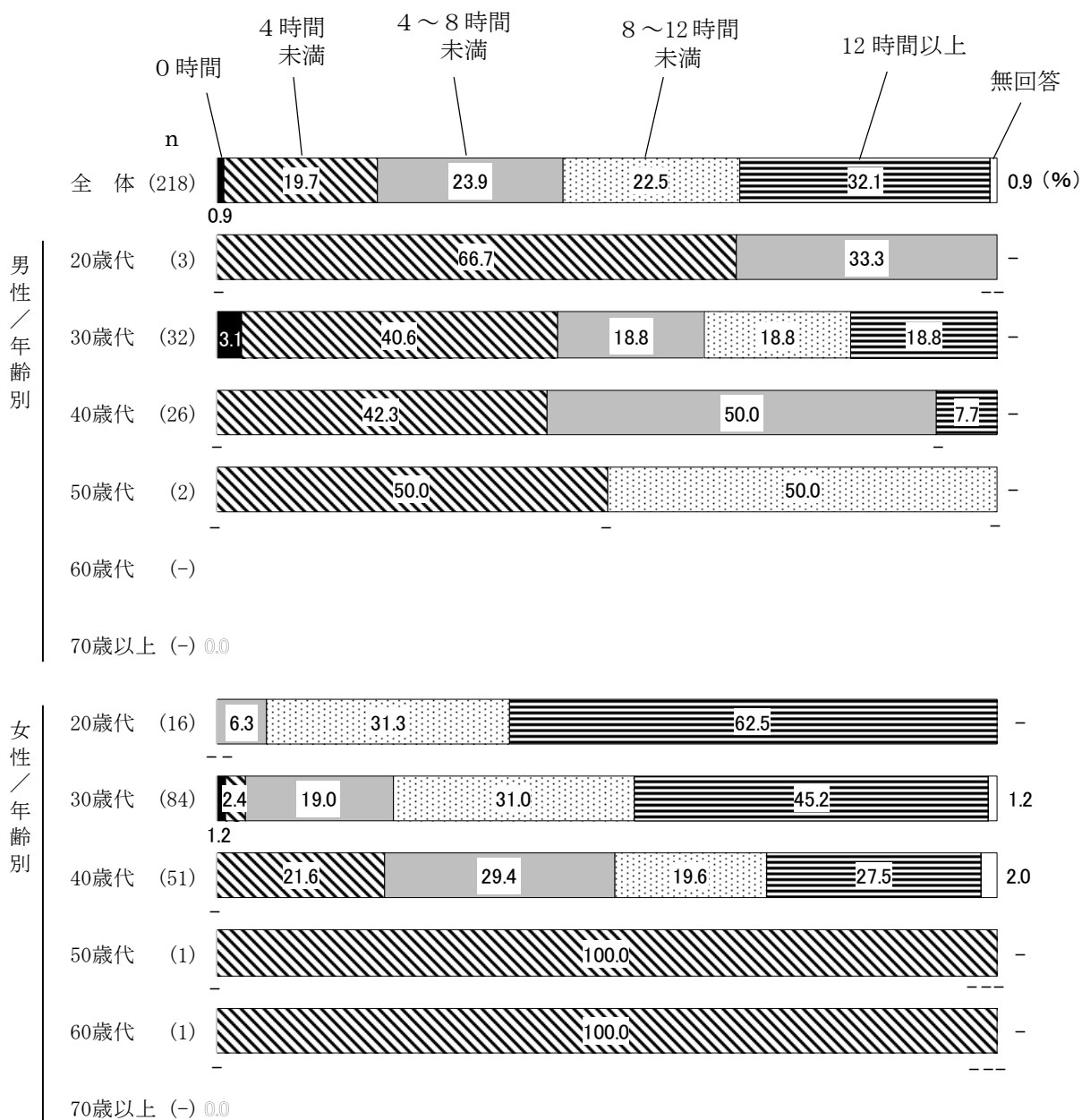
図表6-19 育児に費やす時間について<平日> (性/年齢別)



<平日>について、性/年齢別では、女性30歳代は「4~8時間未満」(45.2%)が最も多く、女性40歳代は「4時間未満」(41.2%)が最も多くなっている。男性では30歳代・40歳代ともに「4時間未満」が最も多くなっている。(図表6-19)

(※ 20歳代・50歳代~70歳以上については基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。)

図表6-20 育児に費やす時間について<休日> (性/年齢別)



<休日>について、性/年齢別では、女性30歳代は「12時間以上」(45.2%)が最も多く、「8~12時間未満」(31.0%)をあわせた『8時間以上(計)』は76.2%となっている。また、女性40歳代では『8時間以上(計)』は47.1%となっている。一方、男性では『8時間以上(計)』は30歳代で37.6%、40歳代で7.7%となっている。(図表6-20)

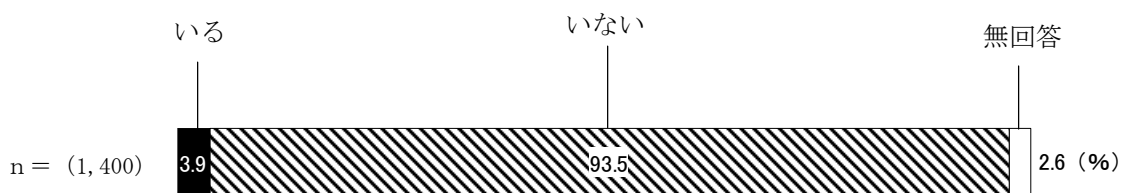
(※ 20歳代・50歳代~70歳以上については基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。)

6-5 介護に費やす時間について

◎<平日>は「2～4時間未満」、<休日>は「8時間以上」が最も多い

問17 家事等に費やす時間についてお聞きします。以下の(1)～(3)の設問にお答えください。
(3) あなたのご家族の中で、ご自宅で介護を受けている方はいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

図表6-21 自宅で介護を受けている方がいるか

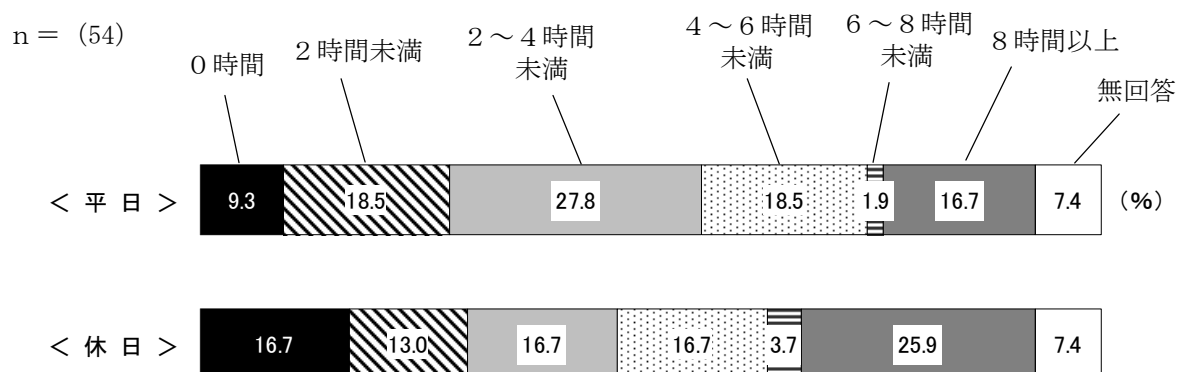


(3)で「1 いる」と回答した方にうかがいます。

あなたが、1日のうち介護に費やす時間を教えてください。

* 平日、休日それぞれ、おおよその平均時間でお考えください。
行わない場合は、それぞれ 0 とご記入ください。

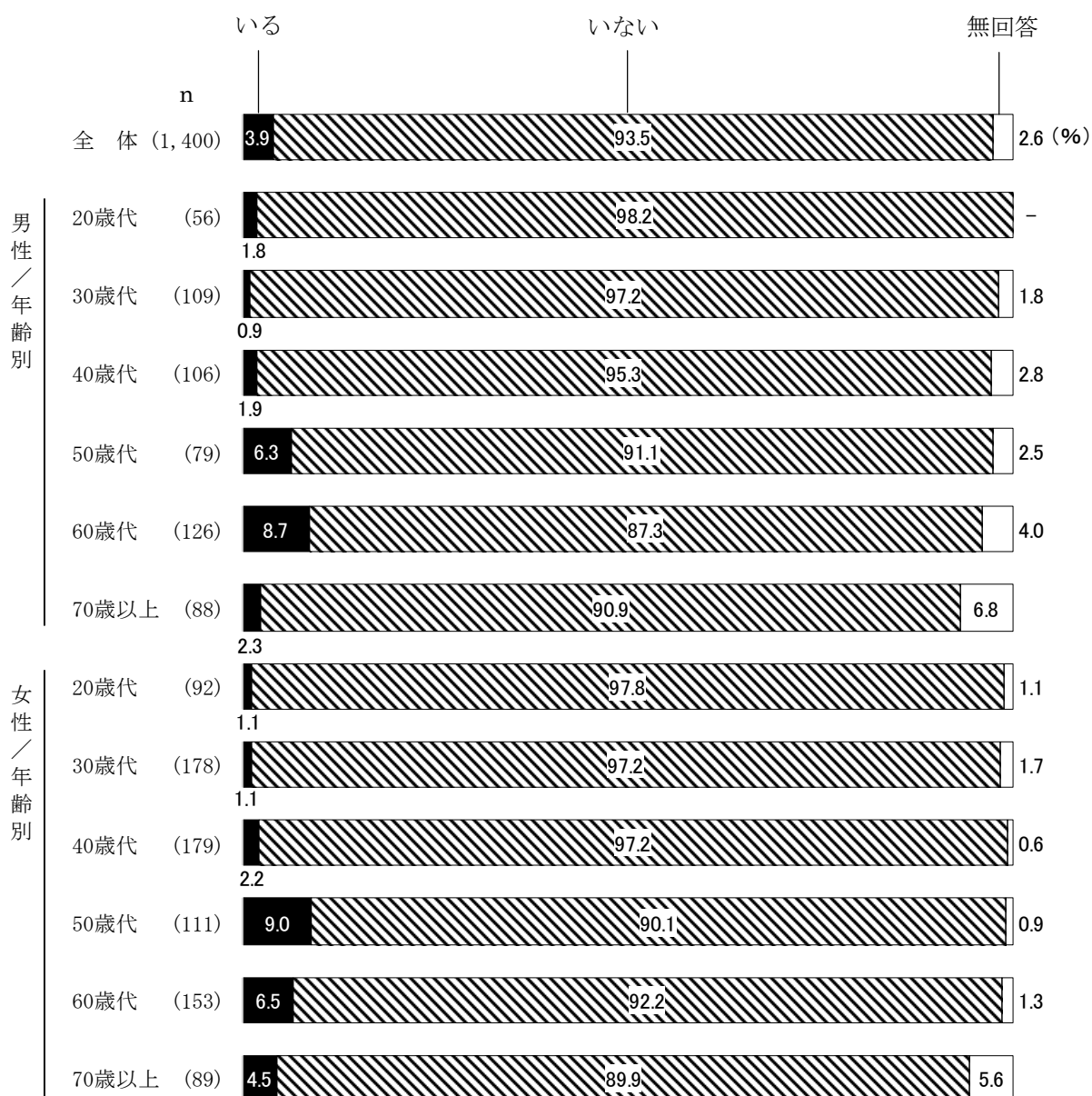
図表6-22 介護に費やす時間について



自宅で介護を受けている方がいるか聞いたところ、「いる」は3.9%、「いない」は93.5%となっている。(図表6-21)

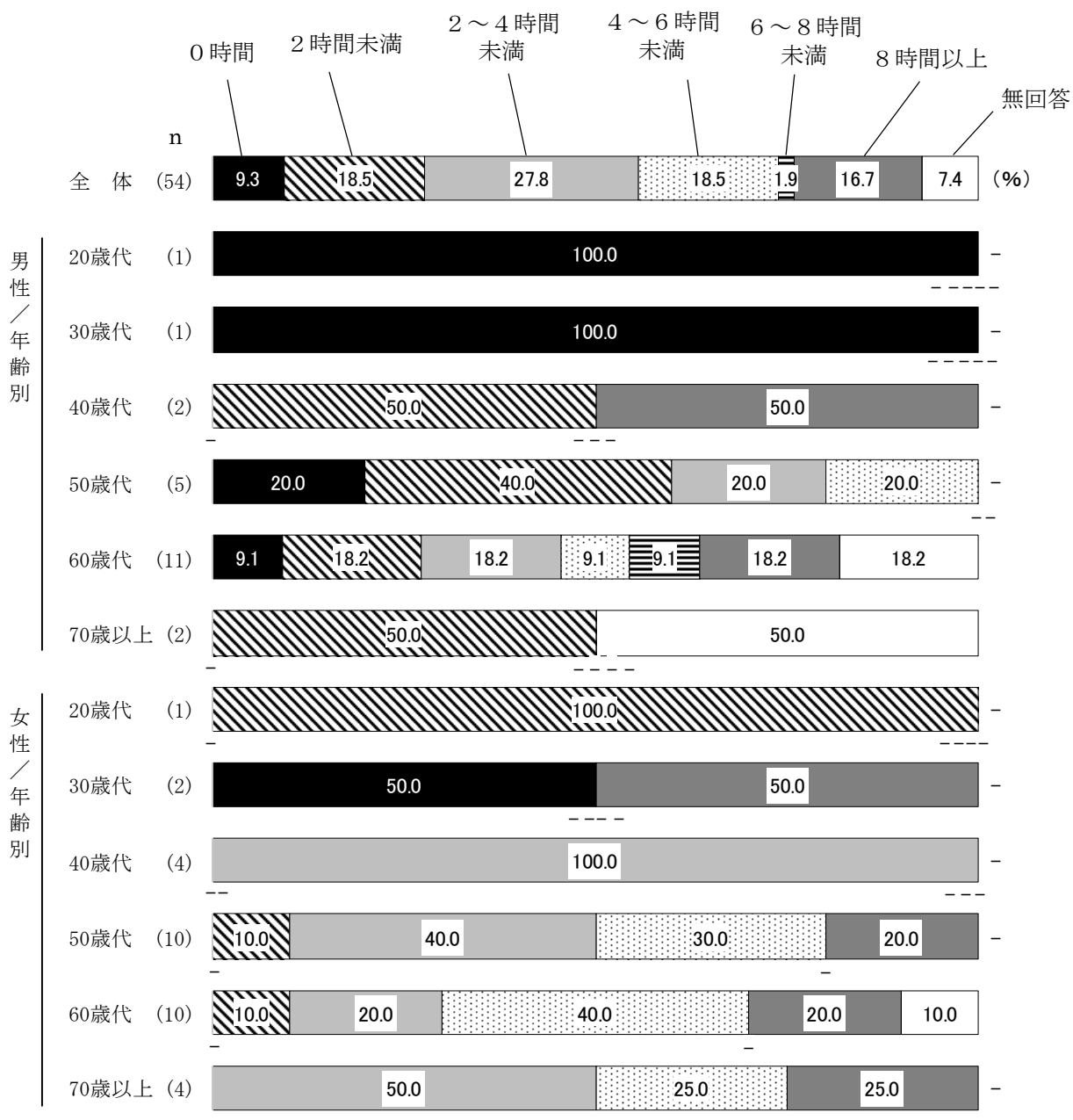
「いる」と回答した人に介護に費やす時間について聞いたところ、<平日>は「2～4時間未満」(27.8%)が最も多く、<休日>は「8時間以上」(25.9%)が最も多くなっている。(図表6-22)

図表6-23 自宅で介護を受けている方がいるか(性/年齢別)



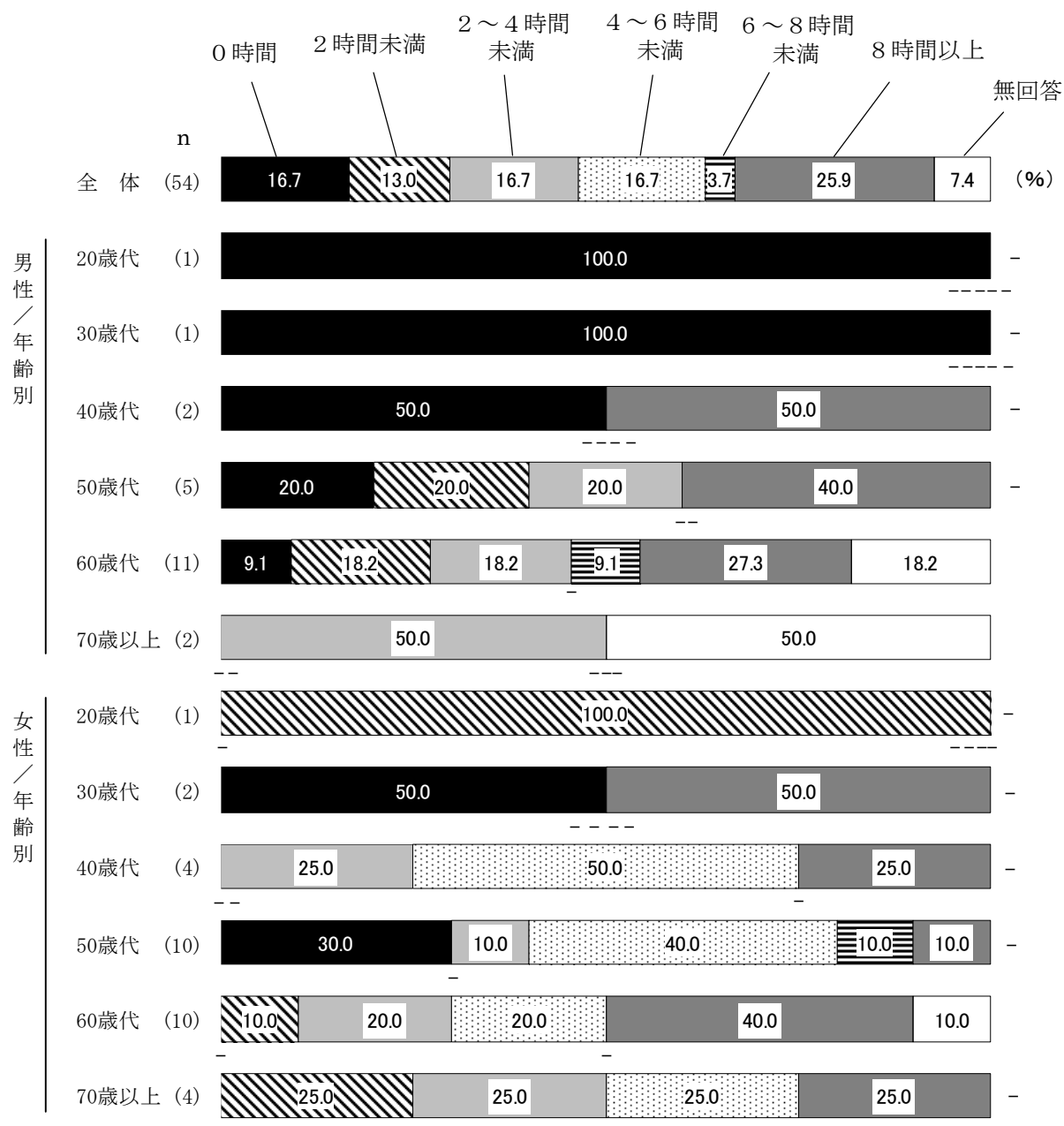
性/年齢別では、「いる」は、男性では60歳代(8.7%)が最も多く、女性では50歳代(9.0%)が最も多くなっている。(図表6-23)

図表6-24 介護に費やす時間について<平日> (性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表6-24)

図表6-25 介護に費やす時間について<休日> (性/年齢別)



性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表6-25)

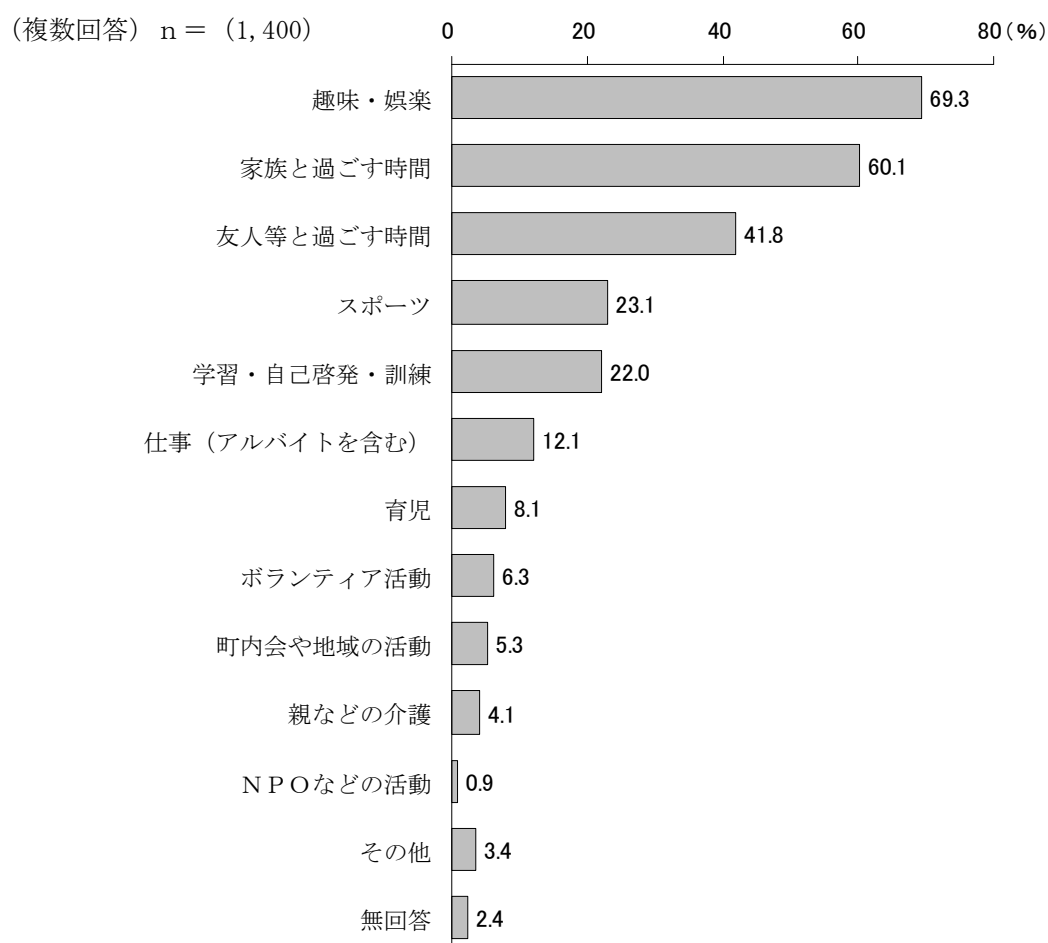
6-6 個人の自由時間の中で重視している活動

◎「趣味・娯楽」が69.3%、「家族と過ごす時間」が60.1%

問18 あなたの生活において、仕事、学業、家事などのように固定化されている活動ではなく、個人の自由時間の中で重視している活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

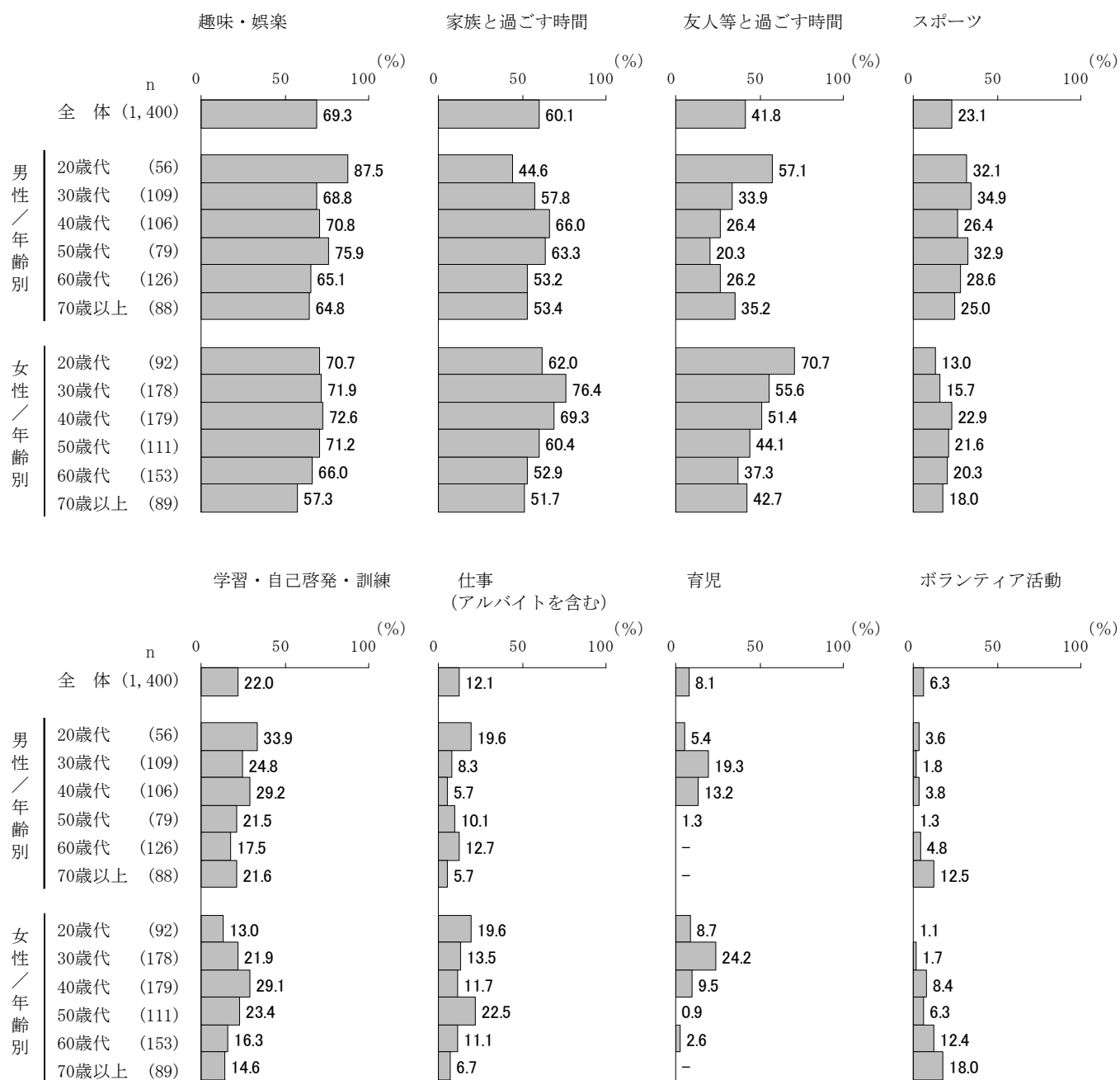
※ 例えば、仕事をされている方が、空いた時間に育児・学習・介護を行う
育児や介護をされている方が、短時間の就労や学習を行う
なども含め自由な時間において重視するものを選択してください。

図表6-26 個人の自由時間の中で重視している活動



個人の自由時間の中で重視している活動については、「趣味・娯楽」(69.3%)が7割近くで最も多く、次いで「家族と過ごす時間」(60.1%)がほぼ6割となっている。以下、「友人等と過ごす時間」(41.8%)、「スポーツ」(23.1%)、「学習・自己啓発・訓練」(22.0%)と続いている。(図表6-26)

図表6-27 個人の自由時間の中で重視している活動（性／年齢別）



性／年齢別では、「趣味・娯楽」は男性20歳代（87.5%）が最も多くなっている。「家族と過ごす時間」は、女性では30歳代（76.4%）、男性では40歳代（66.0%）が最も多くなっている。「友人等と過ごす時間」は、すべての年代で男性よりも女性の方が多くなっており、女性20歳代（70.7%）では7割を超えている。（図表6-27）

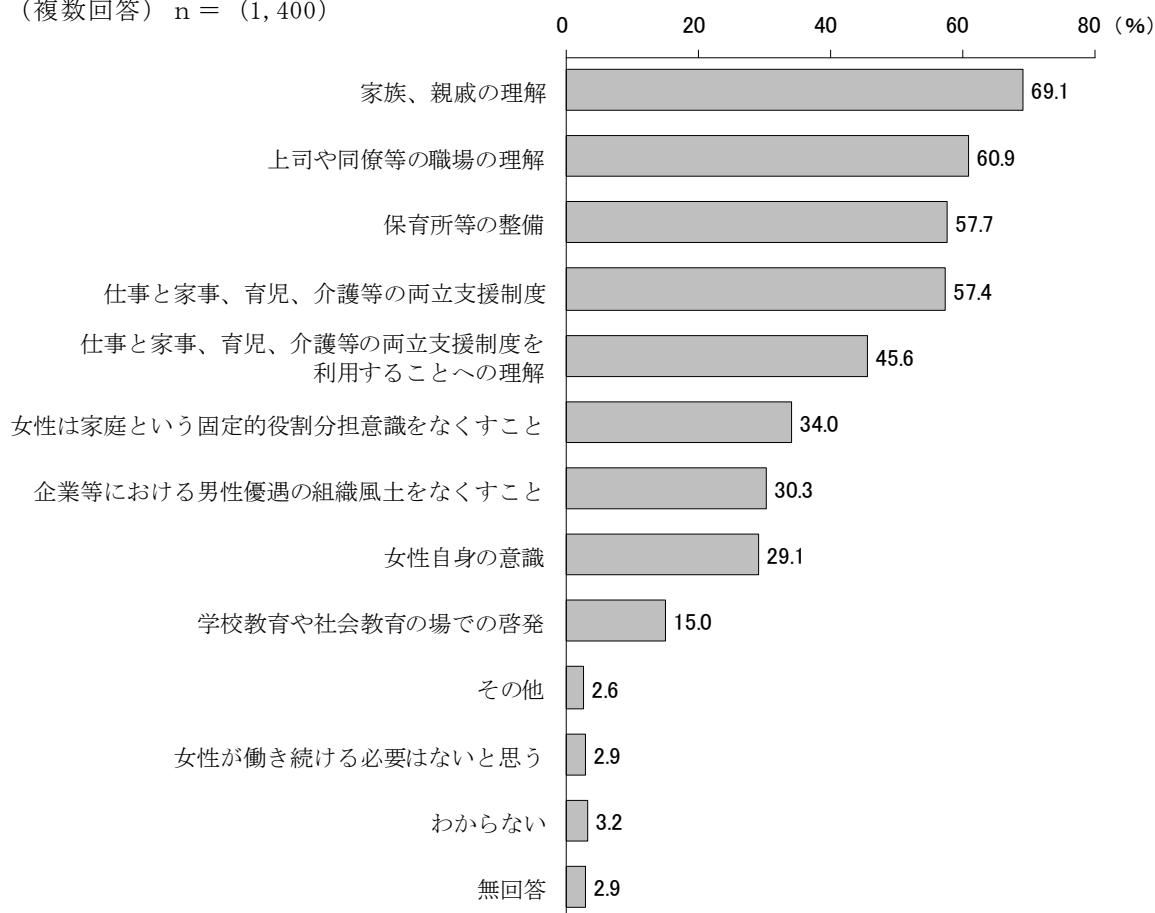
6-7 女性が働き続ける上で必要なこと

◎「家族、親戚の理解」が69.1%

問 19 就業を希望する女性が働き続ける上で、必要なことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

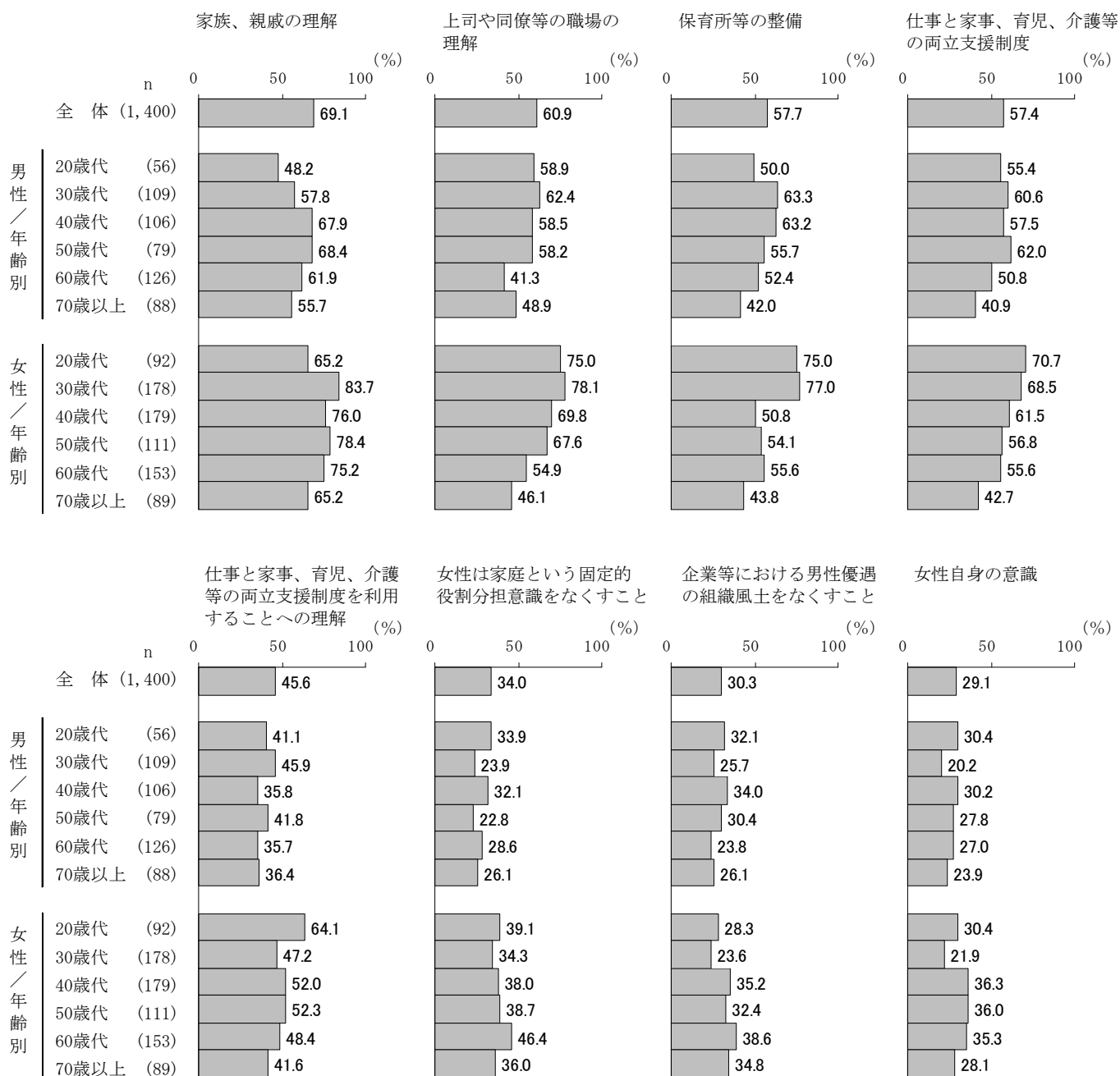
図表6-28 女性が働き続ける上で必要なこと

(複数回答) n = (1,400)



女性が働き続ける上で必要だと思うことについては、「家族、親戚の理解」(69.1%)が7割近くで最も多くなっている。次いで、「上司や同僚等の職場の理解」(60.9%)、「保育所等の整備」(57.7%)、「仕事と家事、育児、介護等の両立支援制度」(57.4%)の順となっている。(図表6-28)

図表6-29 女性が働き続ける上で必要なこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「家族、親戚の理解」はすべての年代で男性より女性の方が多く、女性30歳代(83.7%)では8割を超え最も多くなっている。「上司や同僚等の職場の理解」「保育所等の整備」「仕事と家事、育児、介護等の両立支援制度」は、いずれも女性20~30歳代が多くなっている。(図表6-29)

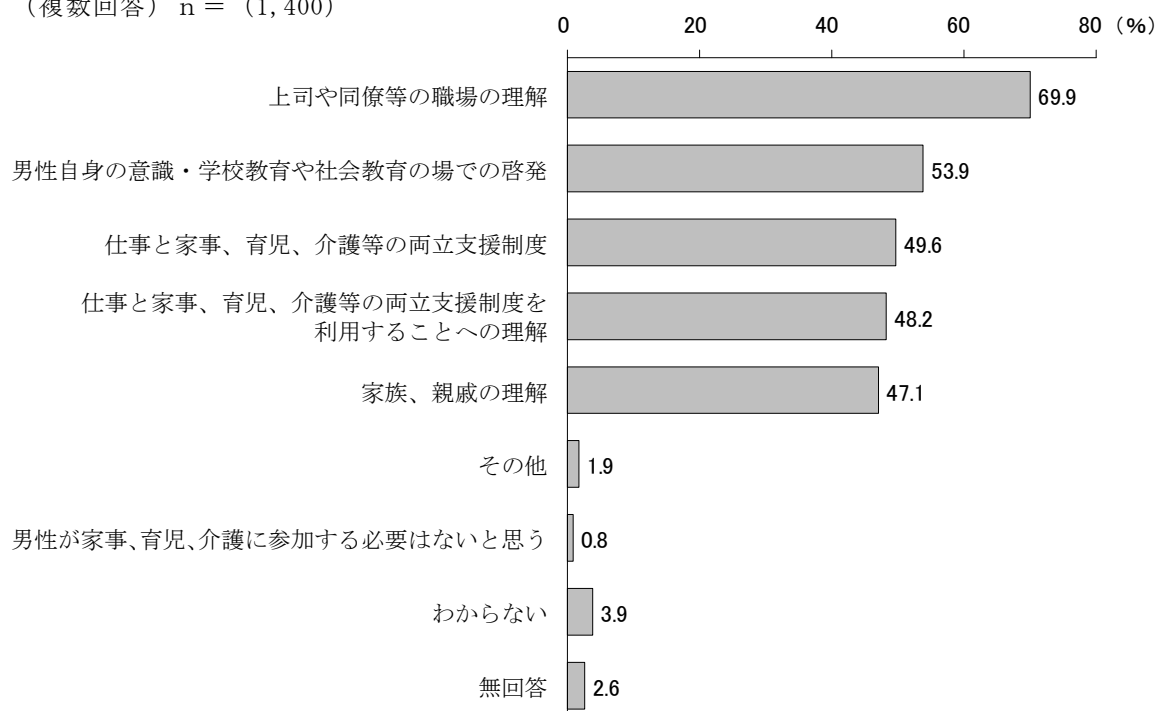
6-8 男性が家事・育児等に積極的に参加していくために必要なこと

◎「上司や同僚等の職場の理解」が69.9%

問 20 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

図表 6-30 男性が家事・育児等に積極的に参加していくために必要なこと

(複数回答) n = (1,400)

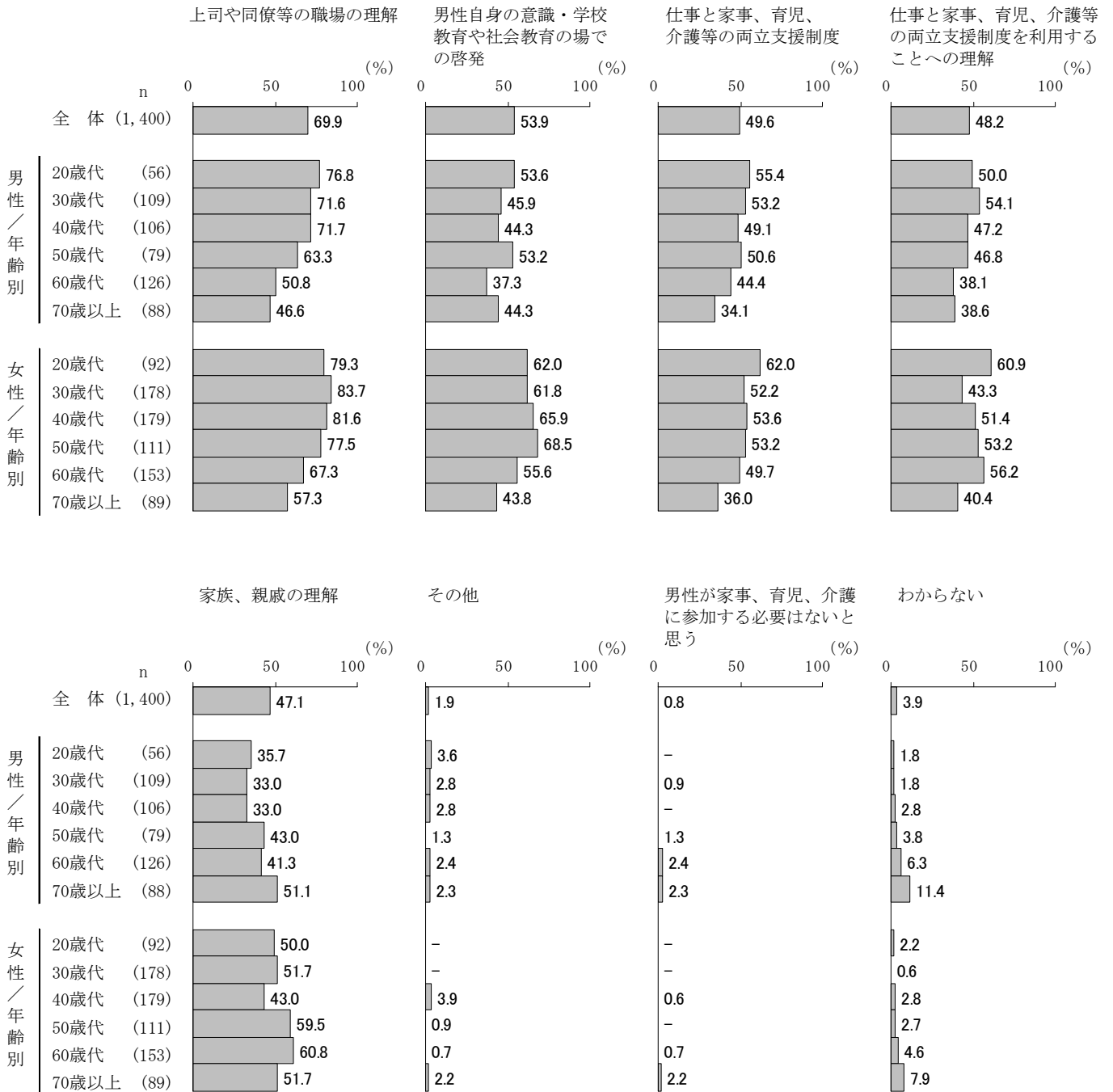


男性が家事・育児等に積極的に参加していくために必要だと思うことについては、「上司や同僚等の職場の理解」(69.9%)がほぼ7割で最も多くなっている。次いで、「男性自身の意識・学校教育や社会教育の場での啓発」(53.9%)、「仕事と家事、育児、介護等の両立支援制度」(49.6%)、「仕事と家事、育児、介護等の両立支援制度を利用することへの理解」(48.2%)、「家族、親戚の理解」(47.1%)の順となっている。

なお、「男性が家事、育児、介護に参加する必要はないと思う」(0.8%)はわずかとなっている。

(図表 6-30)

図表6-31 男性が家事・育児等に積極的に参加していくために必要なこと（性／年齢別）



性／年齢別では、「上司や同僚等の職場の理解」は男性では20歳代(76.8%)、女性では30歳代(83.7%)が最も多く、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「男性自身の意識・学校教育や社会教育の場での啓発」は、おおむね男性よりも女性の方が多くなっており、女性50歳代(68.5%)が最も多くなっている。「仕事と家事、育児、介護等の両立支援制度」「仕事と家事、育児、介護等の両立支援制度を利用することへの理解」は、ともに女性20歳代が6割を超え最も多くなっている。(図表6-31)

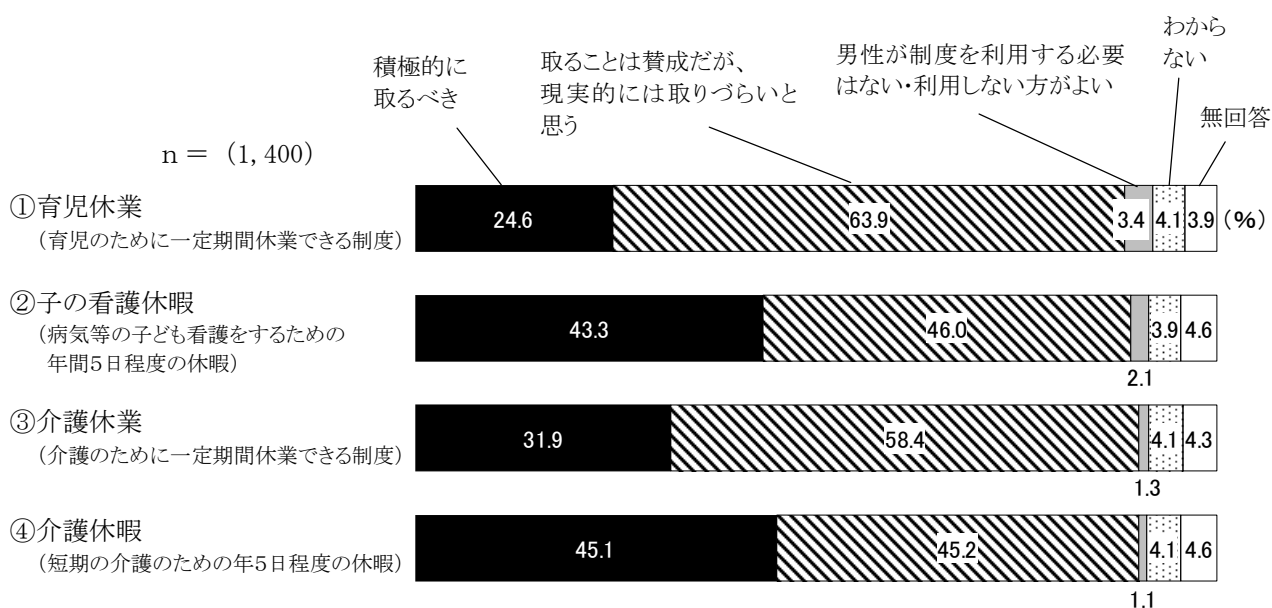
6-9 男性が育児休業等を取得することについて

◎『積極的に取るべき/取りたい』〈一般社会〉〈自分または自分の配偶者の場合〉ともに「介護休暇」が最も多い

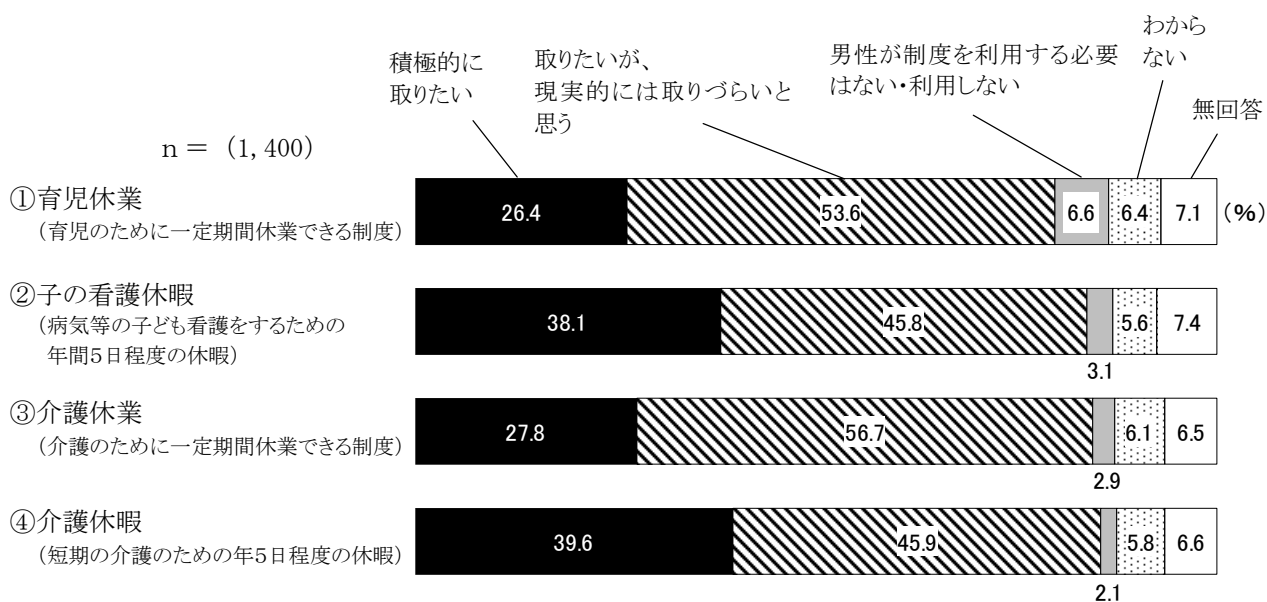
問 21 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・子の看護休暇・介護休業・介護休暇を取得できる制度があります。

あなたは、この制度を活用して、男性が休業や休暇を取得することについてどう思いますか。

図表 6-32 男性が育児休業等を取得することについて〈一般社会において〉



図表 6-33 男性が育児休業等を取得することについて〈自分または自分の配偶者の場合〉



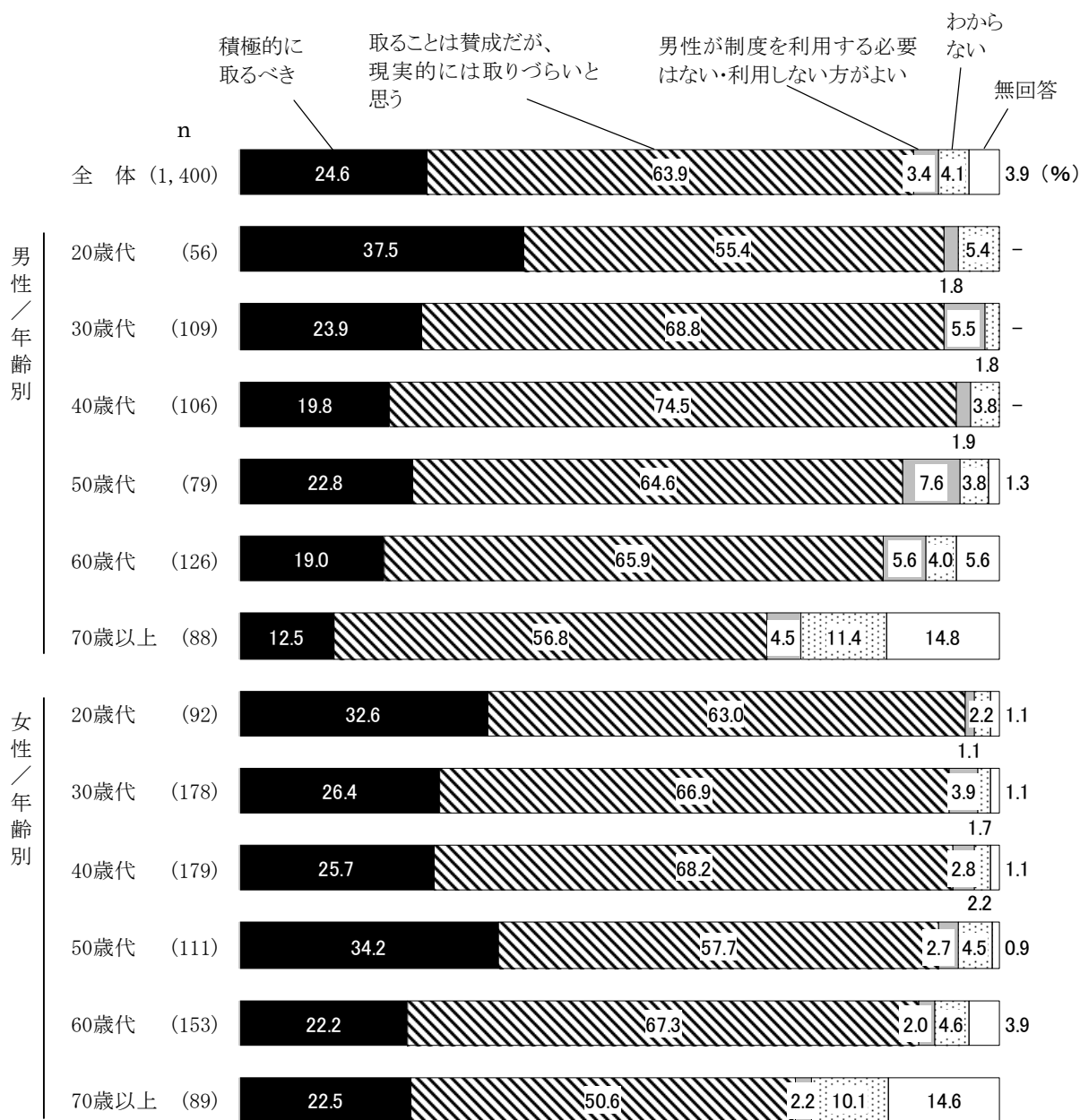
(第2回アンケート)

<一般社会>において、男性が育児休業等を取得することについてどう思うか聞いたところ、『積極的に取るべき』は「介護休暇」(45.1%)・「子の看護休暇」(43.3%)で4割台、「介護休業」(31.9%)で3割台、「育児休業」(24.6%)で2割台となっている。(図表6-32)

また、<自分または自分の配偶者の場合>においては、『積極的に取りたい』は「介護休暇」(39.6%)・「子の看護休暇」(38.1%)で3割台後半、「介護休業」(27.8%)・「育児休業」(26.4%)で2割台後半となっている。「介護休暇」「子の看護休暇」「介護休業」はいずれも<一般社会>の割合をやや下回っているのに対し、「育児休業」は<一般社会>の割合をやや上回っている。(図表6-33)

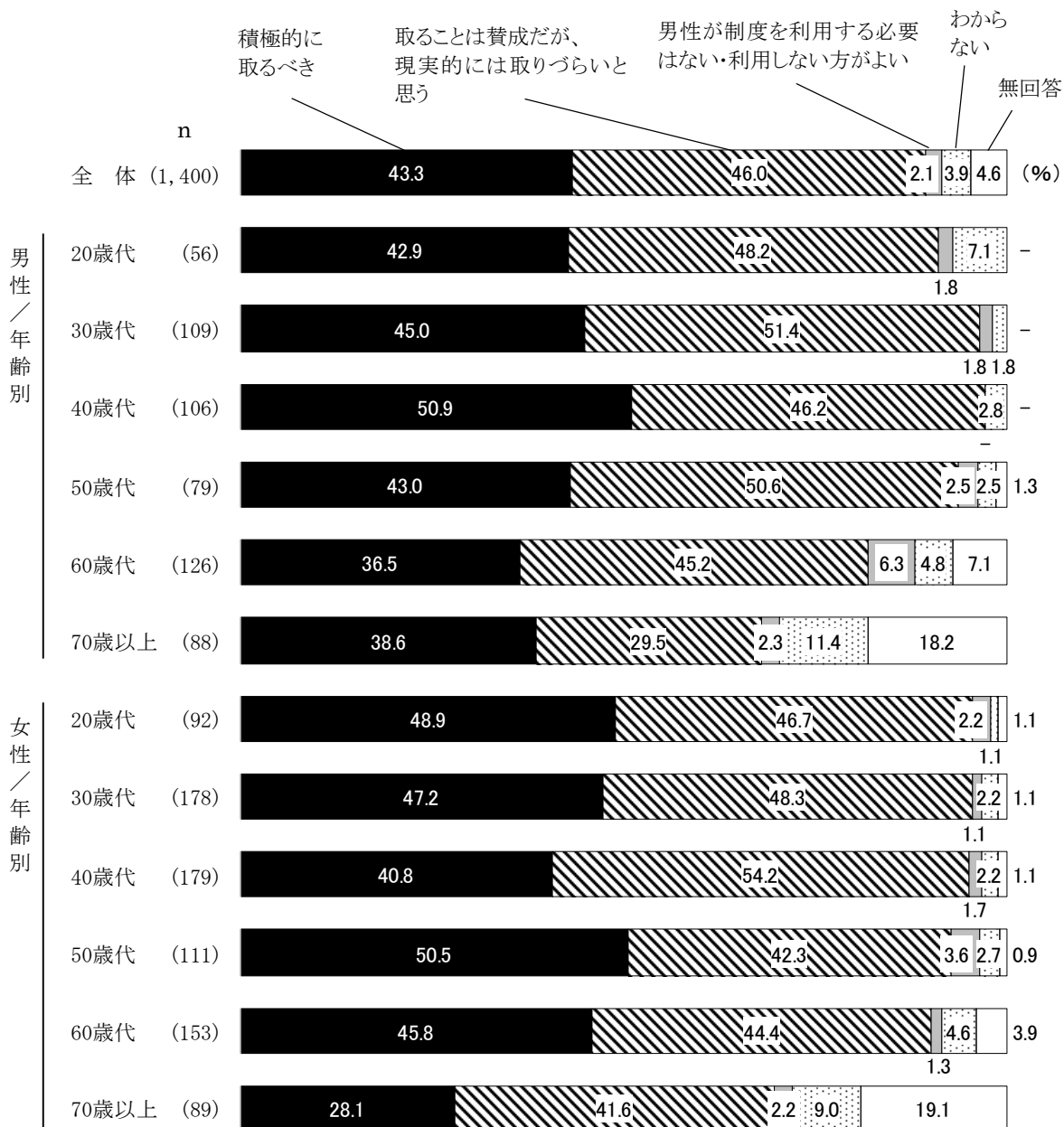
図表6-34 男性が育児休業等を取得することについて<一般社会において> (性/年齢別)

【①育児休業 (育児のために一定期間休業できる制度)】



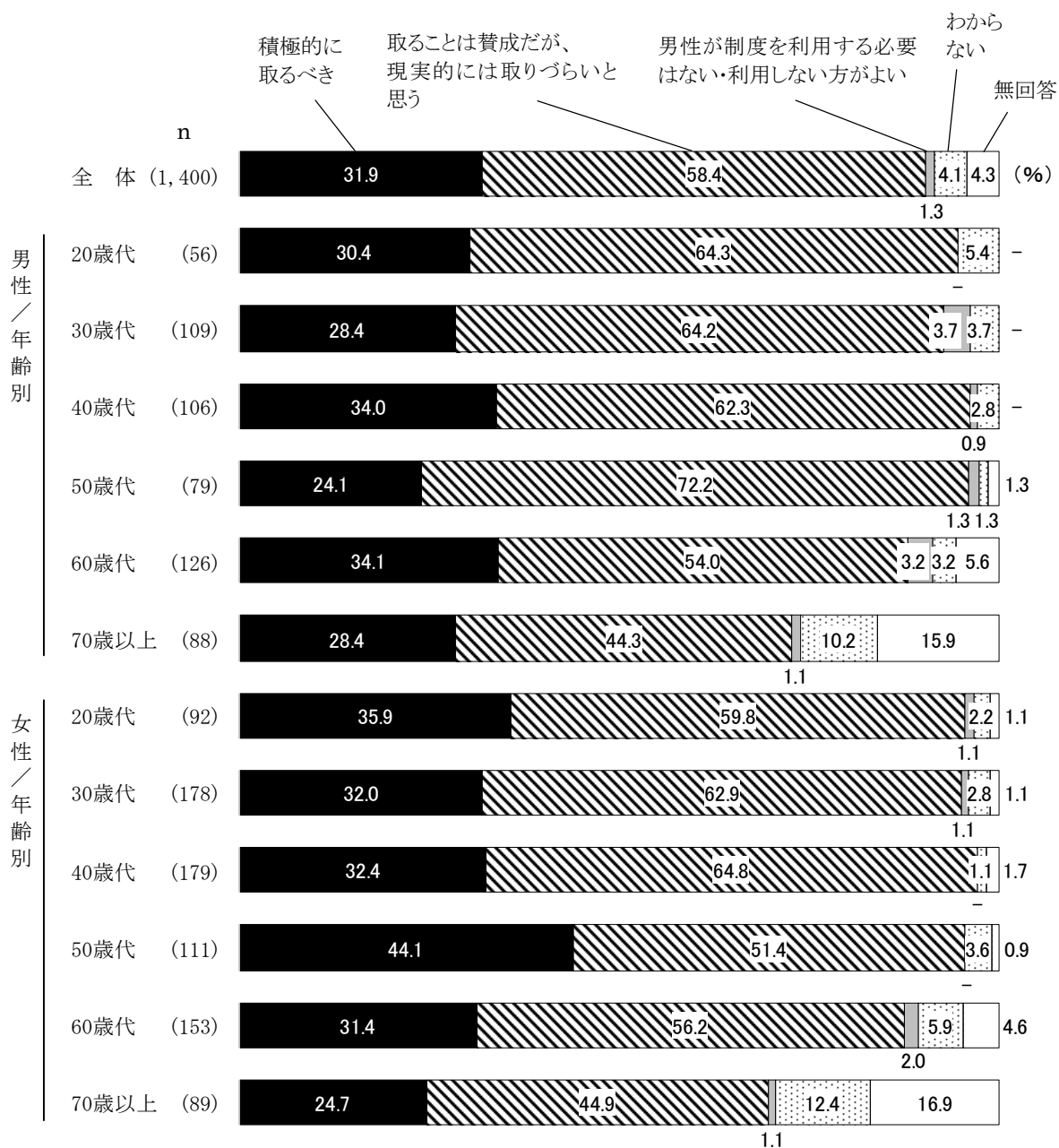
「育児休業」(一般社会)について、性/年齢別では、『積極的に取るべき』は男性では20歳代(37.5%)が3割台後半で最も多くなっている。女性では、20歳代(32.6%)・50歳代(34.2%)が3割台で多くなっている。(図表6-34)

図表6-35 男性が育児休業等を取得することについて<一般社会において> (性/年齢別)
 【②子の看護休暇 (病気等の子ども看護をするための年間5日程度の休暇)】



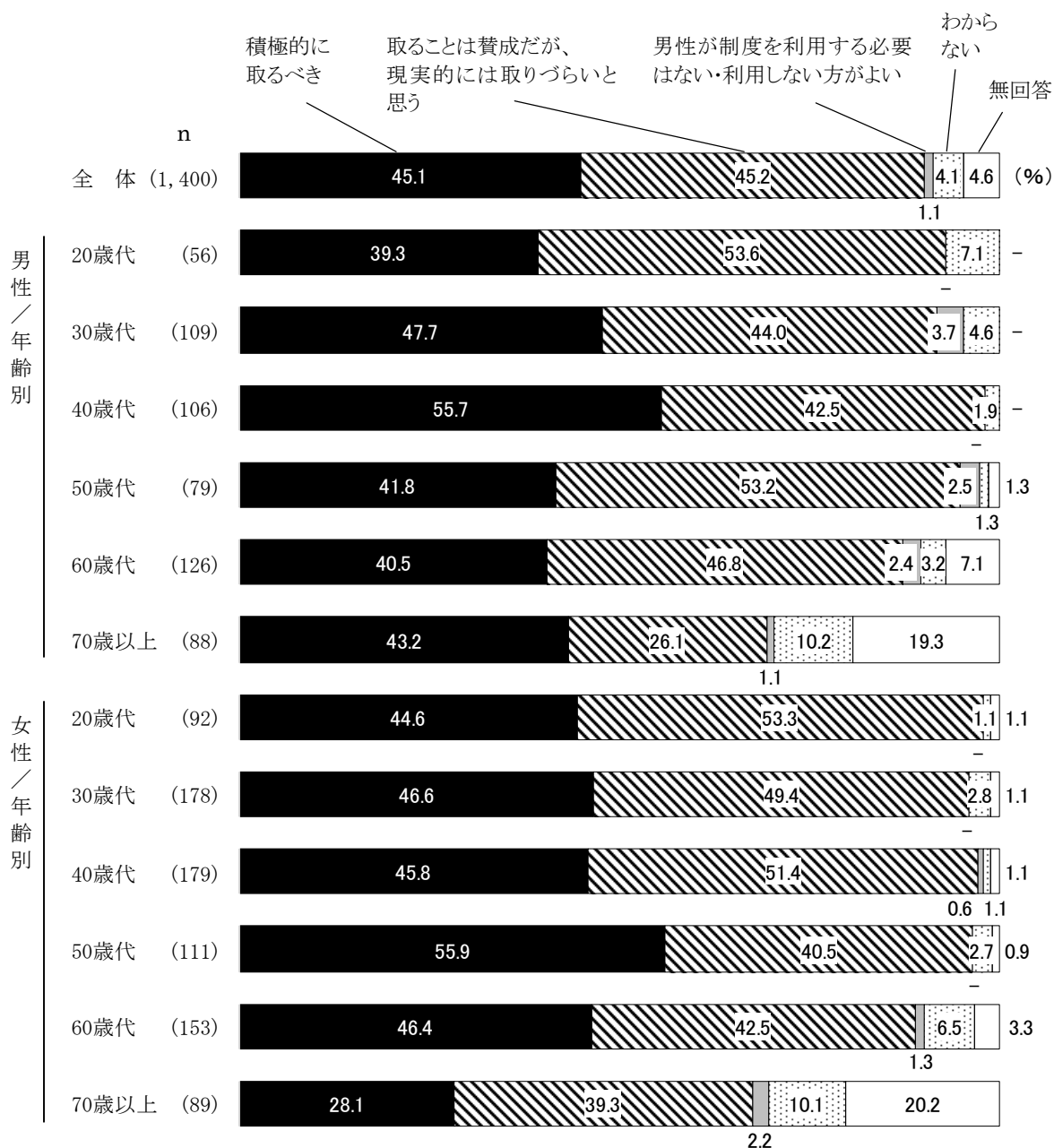
「子の看護休暇」(一般社会)について、性/年齢別では、『積極的に取るべき』は男性では40歳代(50.9%)、女性では50歳代(50.5%)が5割を超え最も多くなっている。(図表6-35)

図表6-36 男性が育児休業等を取得することについて<一般社会において> (性/年齢別)
【③介護休業 (介護のために一定期間休業できる制度)】



「介護休業」(一般社会)について、性/年齢別では、『積極的に取るべき』は男性では40歳代(34.0%)・60歳代(34.1%)が3割台半ばで多くなっている。女性では50歳代(44.1%)が4割台半ばで最も多くなっている。(図表6-36)

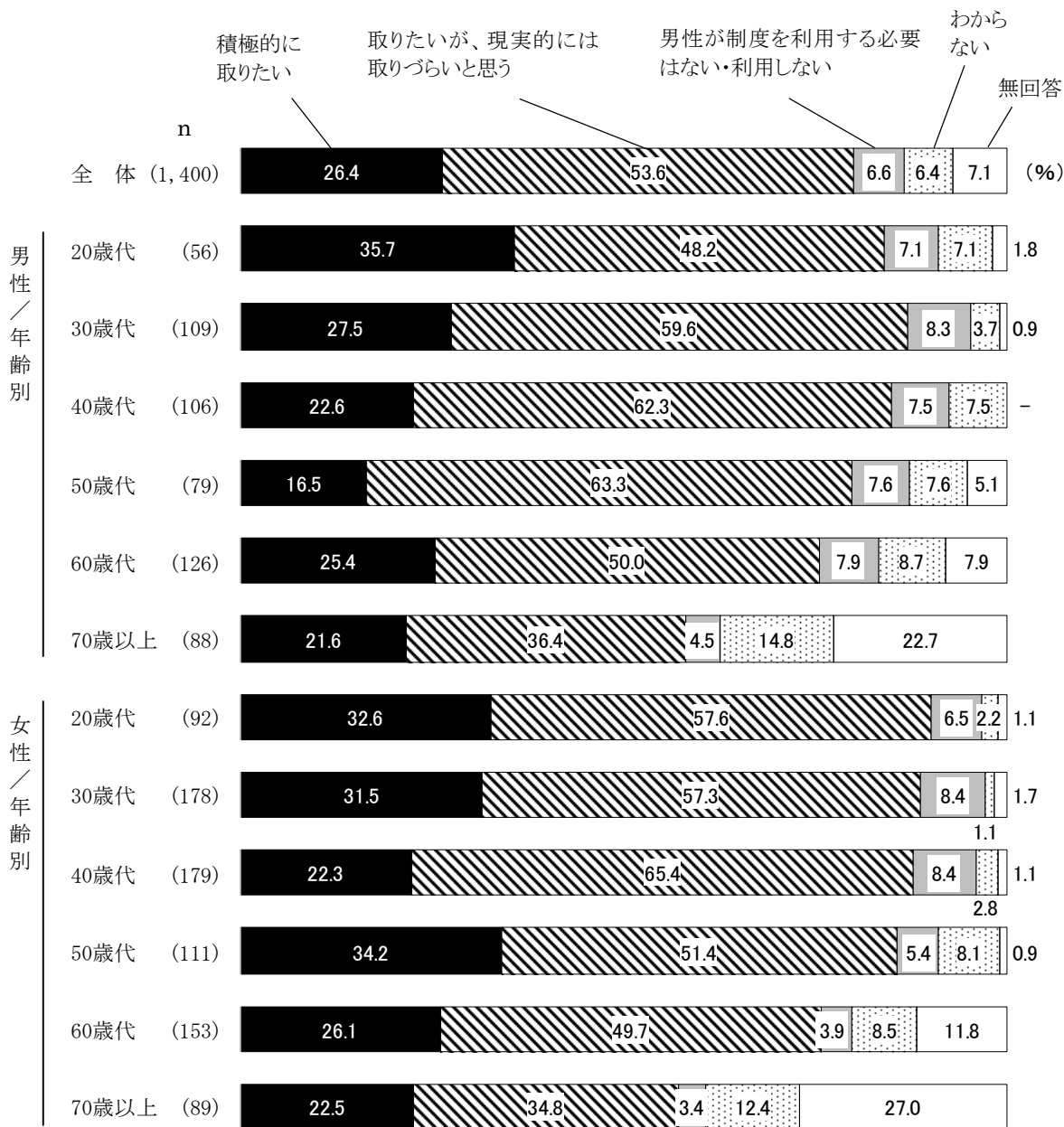
図表6-37 男性が育児休業等を取得することについて〈一般社会において〉(性/年齢別)
 【④介護休暇(短期の介護のための年5日程度の休暇)】



「介護休暇」(一般社会)について、性/年齢別では、『積極的に取るべき』は男性では40歳代(55.7%)、女性では50歳代(55.9%)が5割台半ばで最も多くなっている。(図表6-37)

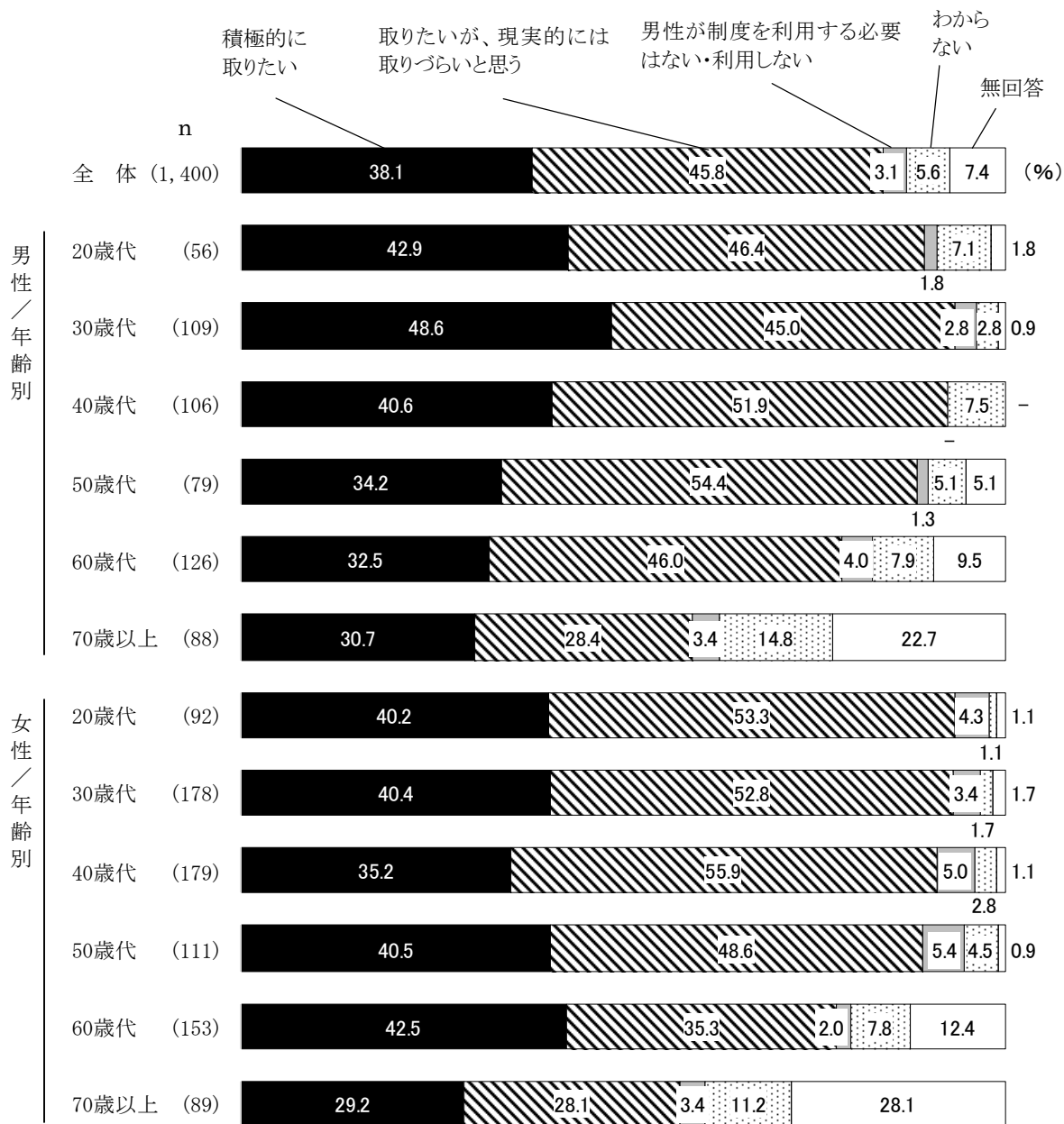
図表6-38 男性が育児休業等を取得することについて<自分または自分の配偶者の場合>(性/年齢別)

【①育児休業(育児のために一定期間休業できる制度)】



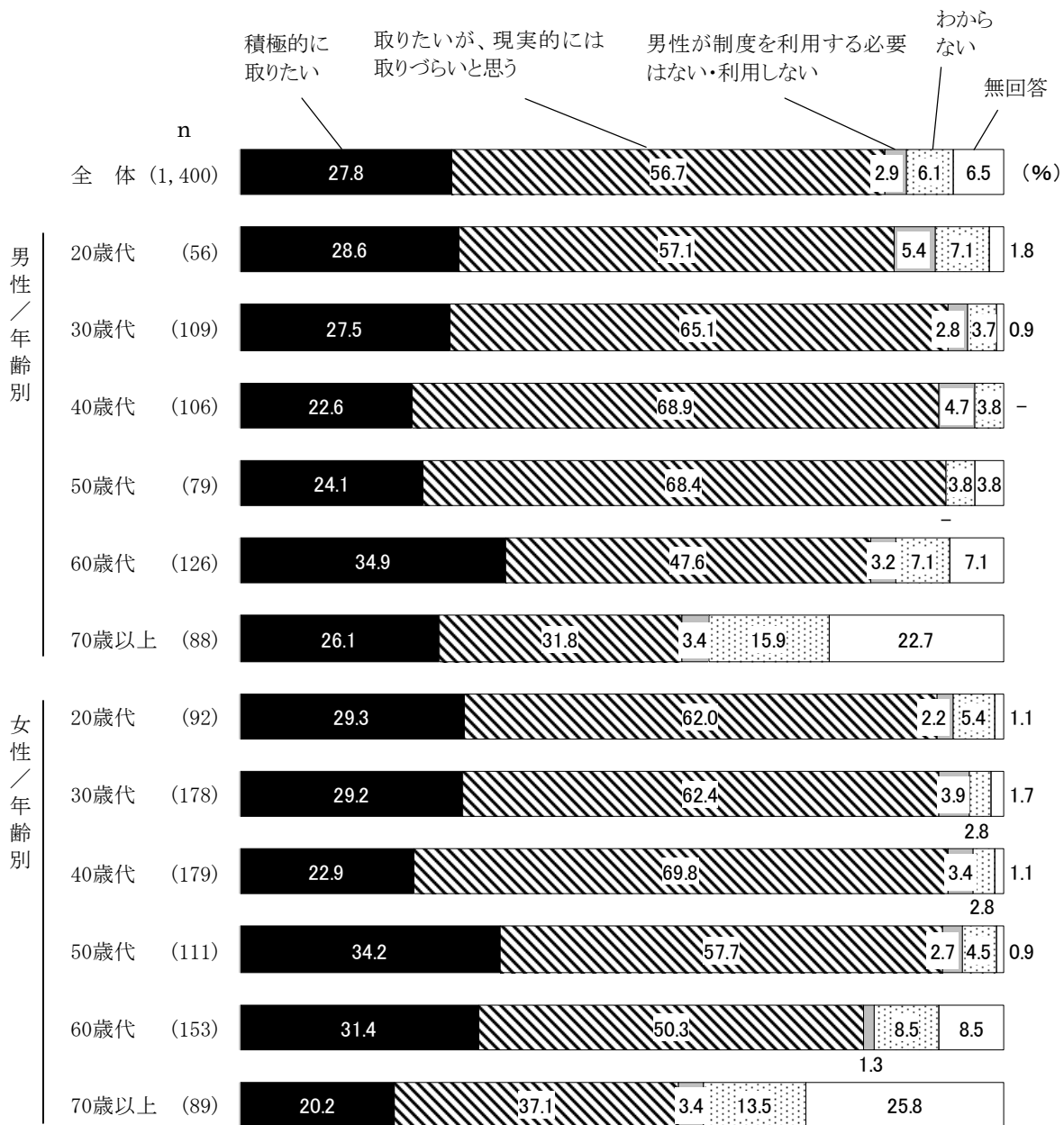
「育児休業」(自分または自分の配偶者の場合)について、性/年齢別では、『積極的に取りたい』は男性では20歳代(35.7%)が3割台半ばで最も多くなっている。女性では、20歳代(32.6%)・30歳代(31.5%)・50歳代(34.2%)が3割台で多くなっている。(図表6-38)

図表6-39 男性が育児休業等を取得することについて<自分または自分の配偶者の場合>(性/年齢別)
【②子の看護休暇(病気等の子ども看護をするための年間5日程度の休暇)】



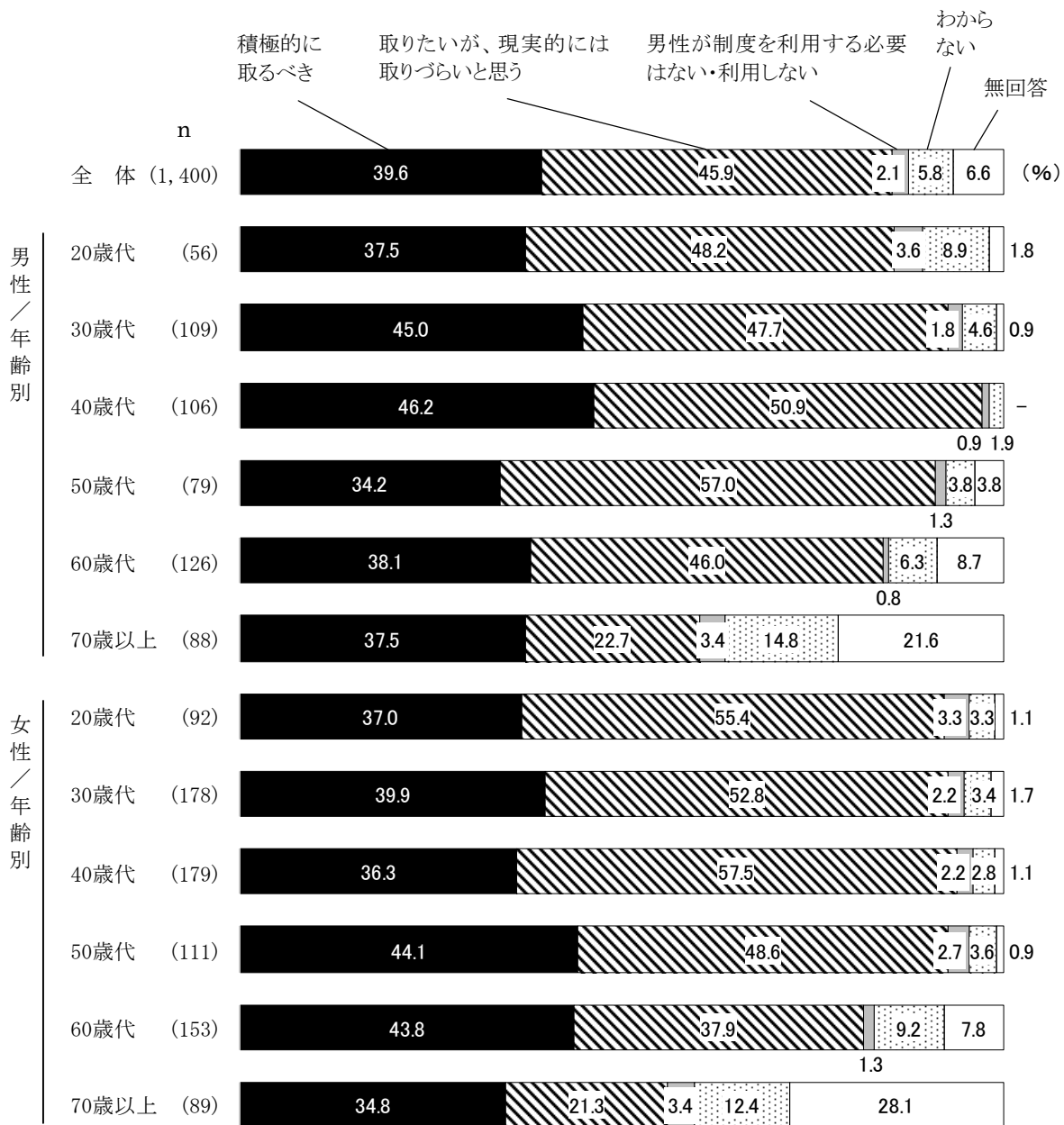
「子の看護休暇」(自分または自分の配偶者の場合)について、性/年齢別では、『積極的に取りたい』は男性では30歳代(48.6%)が4割台後半で最も多くなっている。女性では、60歳代(42.5%)が最も多くなっている。(図表6-39)

図表6-40 男性が育児休業等を取得することについて<自分または自分の配偶者の場合>(性/年齢別)
【③介護休業(介護のために一定期間休業できる制度)】



「介護休業」(自分または自分の配偶者の場合)について、性/年齢別では、『積極的に取りたい』は男性では60歳代(34.9%)、女性では50歳代(34.2%)が3割台半ばで最も多くなっている。(図表6-40)

図表6-41 男性が育児休業等を取得することについて<自分または自分の配偶者の場合>(性/年齢別)
【④介護休暇(短期の介護のための年5日程度の休暇)】



「介護休暇」(自分または自分の配偶者の場合)について、性/年齢別では、『積極的に取りたい』は男性では30歳代(45.0%)・40歳代(46.2%)、女性では50歳代(44.1%)・60歳代(43.8%)が多くなっている。(図表6-41)

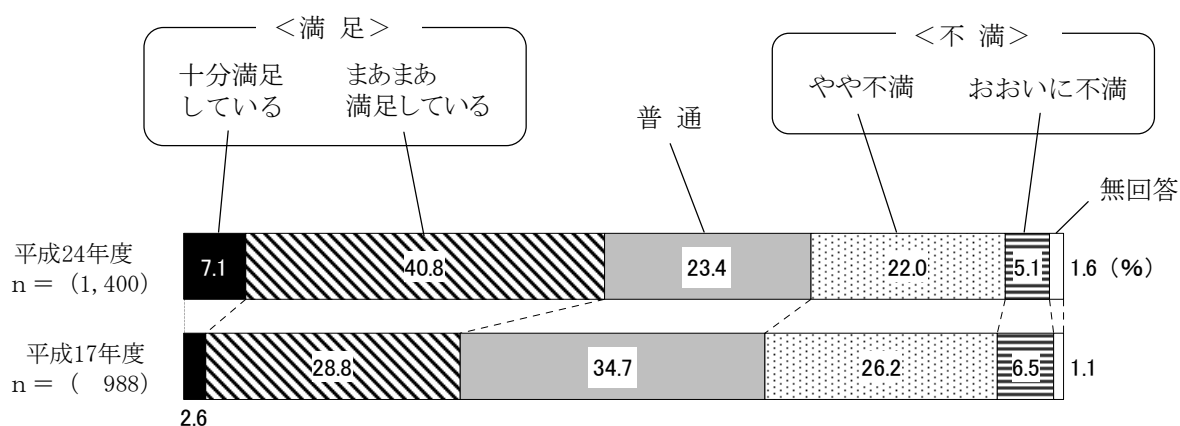
7 川崎市の緑の満足度について

7-1 市域全体の緑の満足度

◎<満足>が47.9%、7年前(平成17年度)に比べ16.5ポイント増加

問22 あなたは、市域全体の緑に満足していますか。(○は1つだけ)

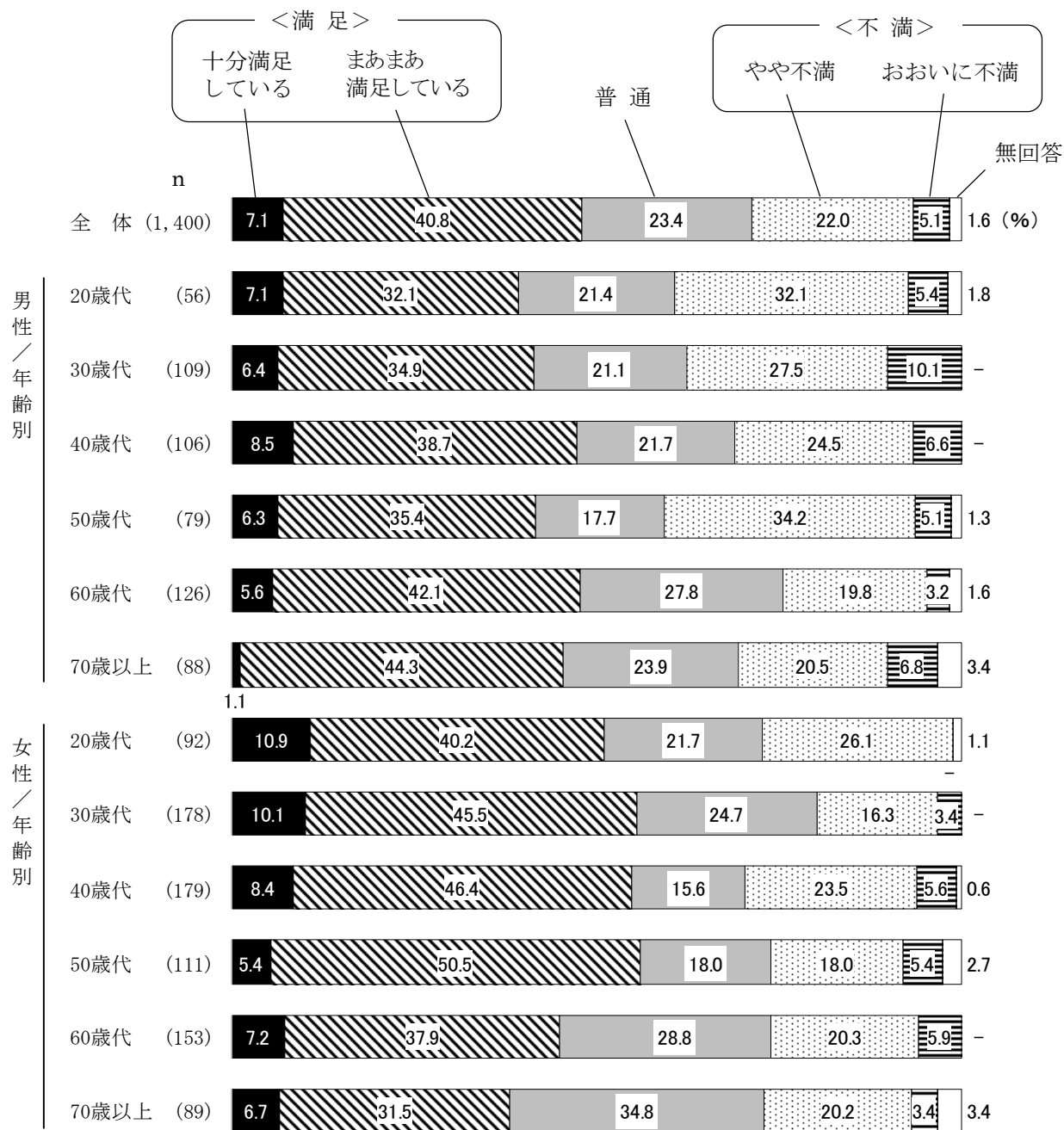
図表7-1 市域全体の緑の満足度



市域全体の緑の満足度については、「十分満足している」(7.1%)と「まあまあ満足している」(40.8%)をあわせた<満足>は47.9%となっており、「やや不満」(22.0%)と「おおいに不満」(5.1%)をあわせた<不満>(27.1%)を上回っている。

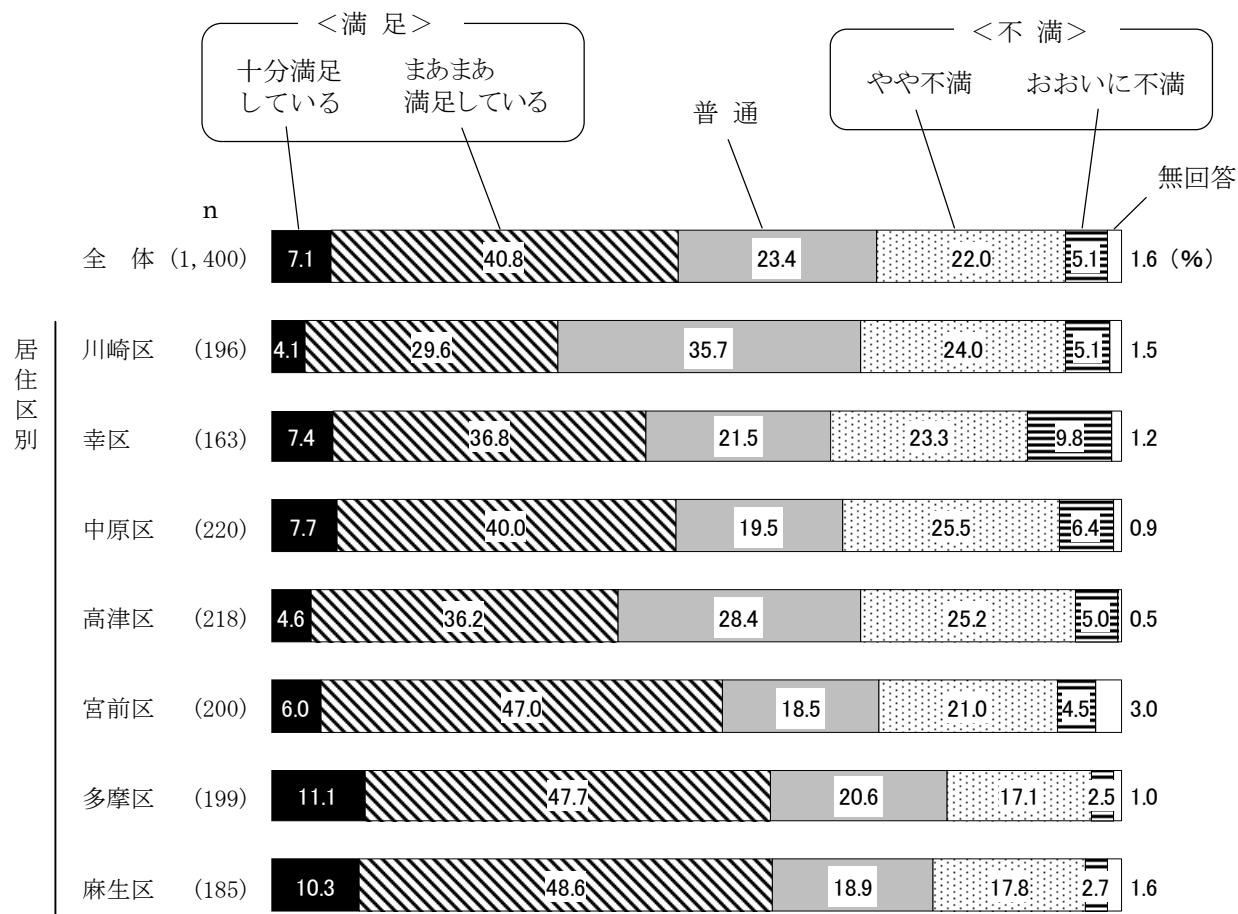
また、7年前(平成17年度)との比較でみると、<満足>が16.5ポイント増加している。(図表7-1)

図表7-2 市域全体の緑の満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、20～50歳代では女性の方が満足度が高くなっており、60歳代・70歳以上では男性の方が高くなっている。＜満足＞は、女性30～50歳代で5割台半ばと多くなっている。一方、男性の20歳代(39.2%)・30歳代(41.3%)・50歳代(41.7%)、女性70歳以上(38.2%)はやや少なくなっている。(図表7-2)

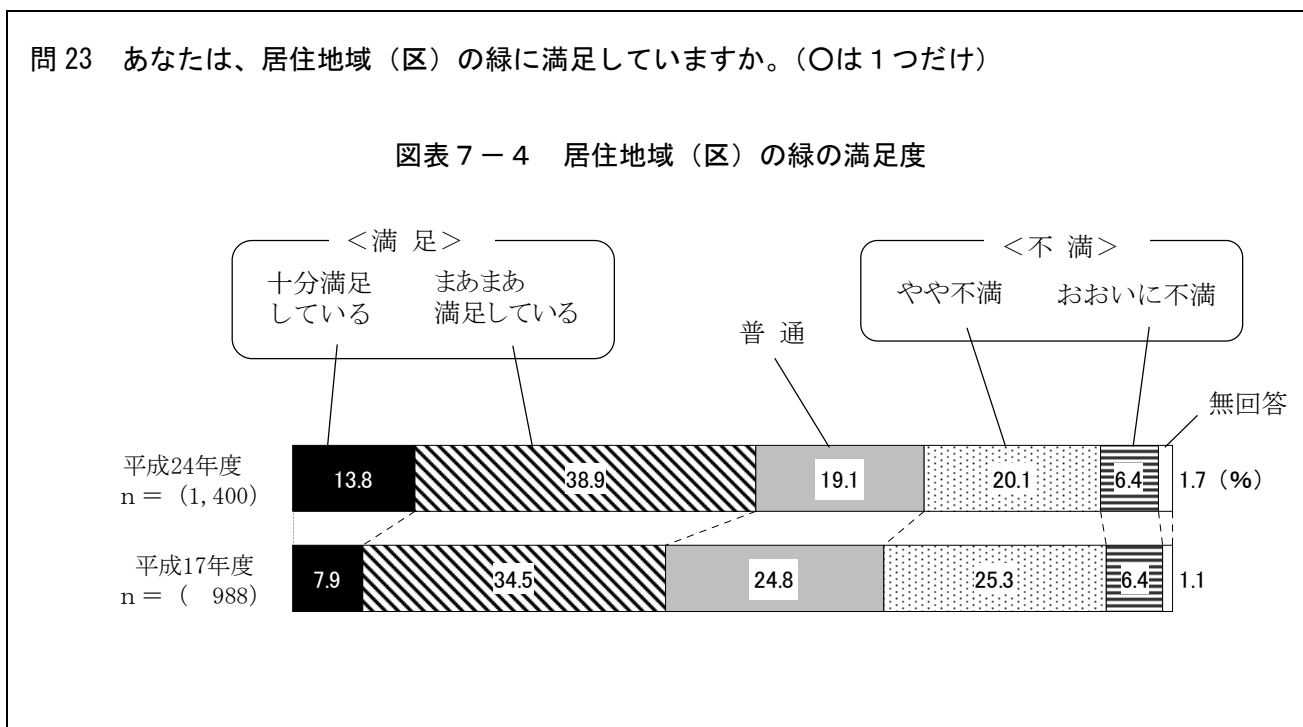
図表7-3 市域全体の緑の満足度(居住区別)



居住区別では、＜満足＞は、麻生区(58.9%)・多摩区(58.8%)が5割台後半と多くなっている。一方、川崎区(33.7%)は3割台で最も少なくなっている。(図表7-3)

7-2 居住地域(区)の緑の満足度

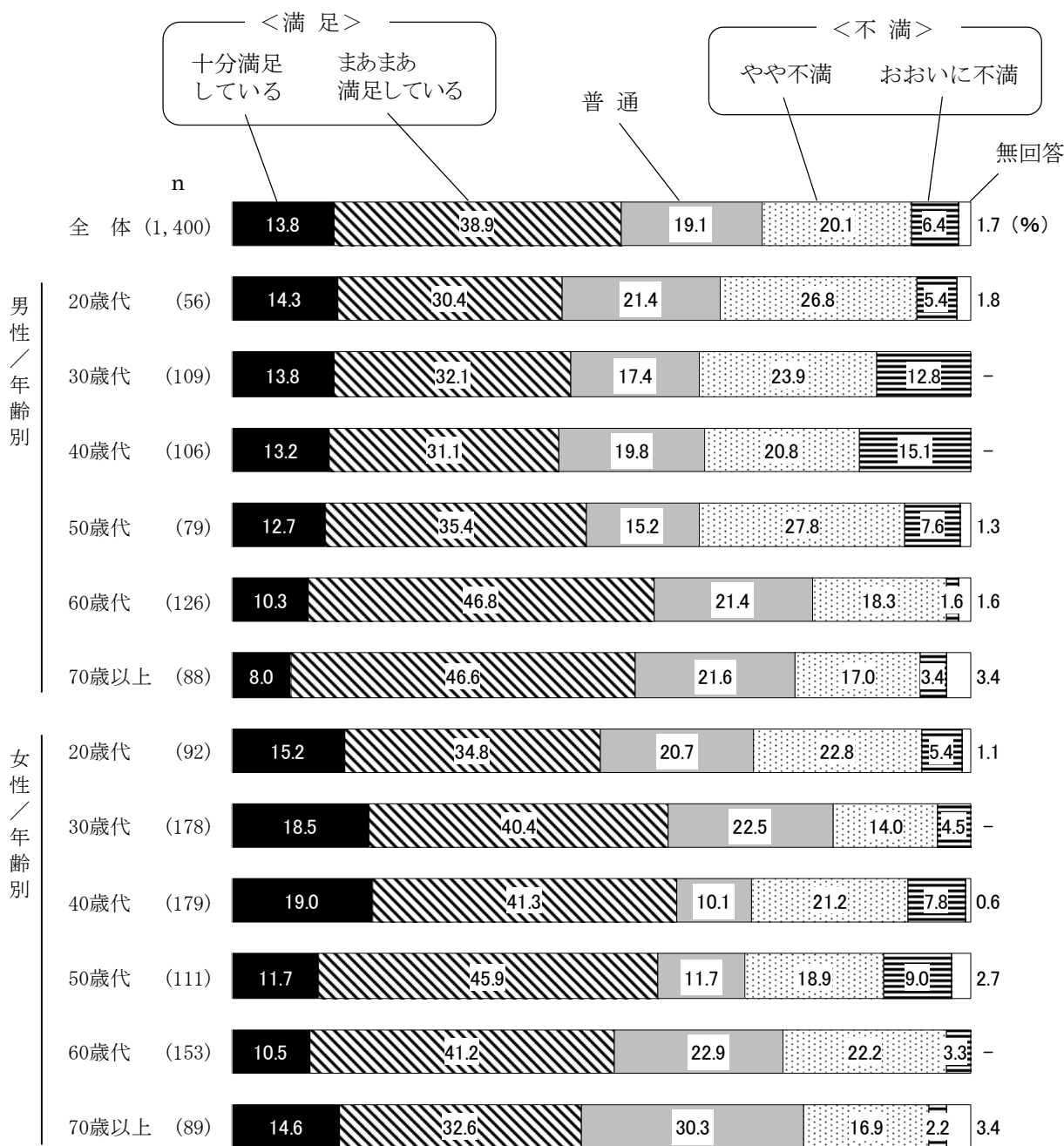
◎<満足>が52.7%、7年前(平成17年度)に比べ10.3ポイント増加



居住地域(区)の緑の満足度については、「十分満足している」(13.8%)と「まあまあ満足している」(38.9%)をあわせた<満足>は52.7%となっており、「やや不満」(20.1%)と「おおいに不満」(6.4%)をあわせた<不満>(26.5%)を上回っている。

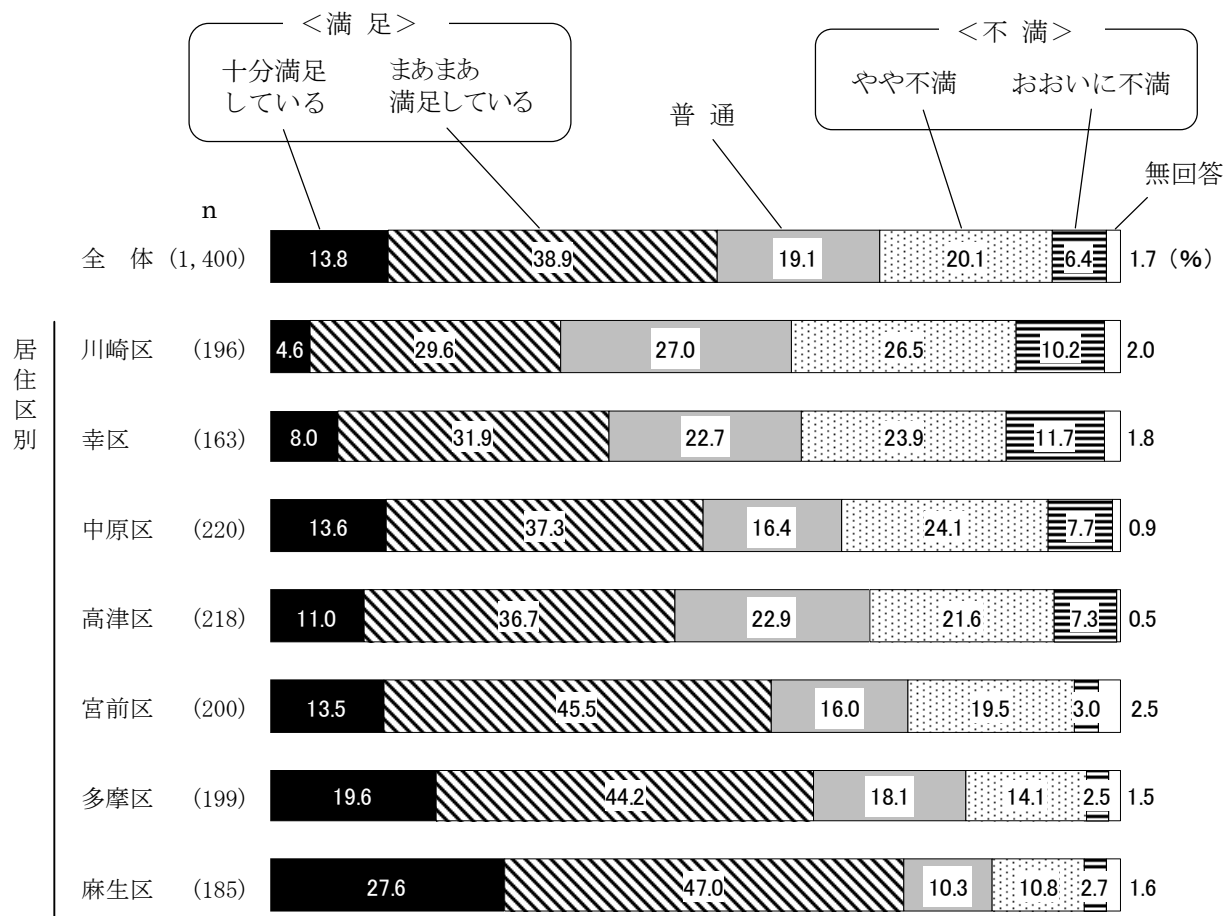
また、7年前(平成17年度)との比較でみると、<満足>が10.3ポイント増加している。(図表7-4)

図表7-5 居住地域(区)の緑の満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、20～50歳代では女性の方が満足度が高くなっており、60歳代・70歳以上では男性の方が高くなっている。＜満足＞は、男性60歳代・女性30～50歳代で5割台後半から6割台と多くなっている。一方、男性20～40歳代は4割台半ばとやや少なくなっている。(図表7-5)

図表7-6 居住地域(区)の緑の満足度(居住区別)



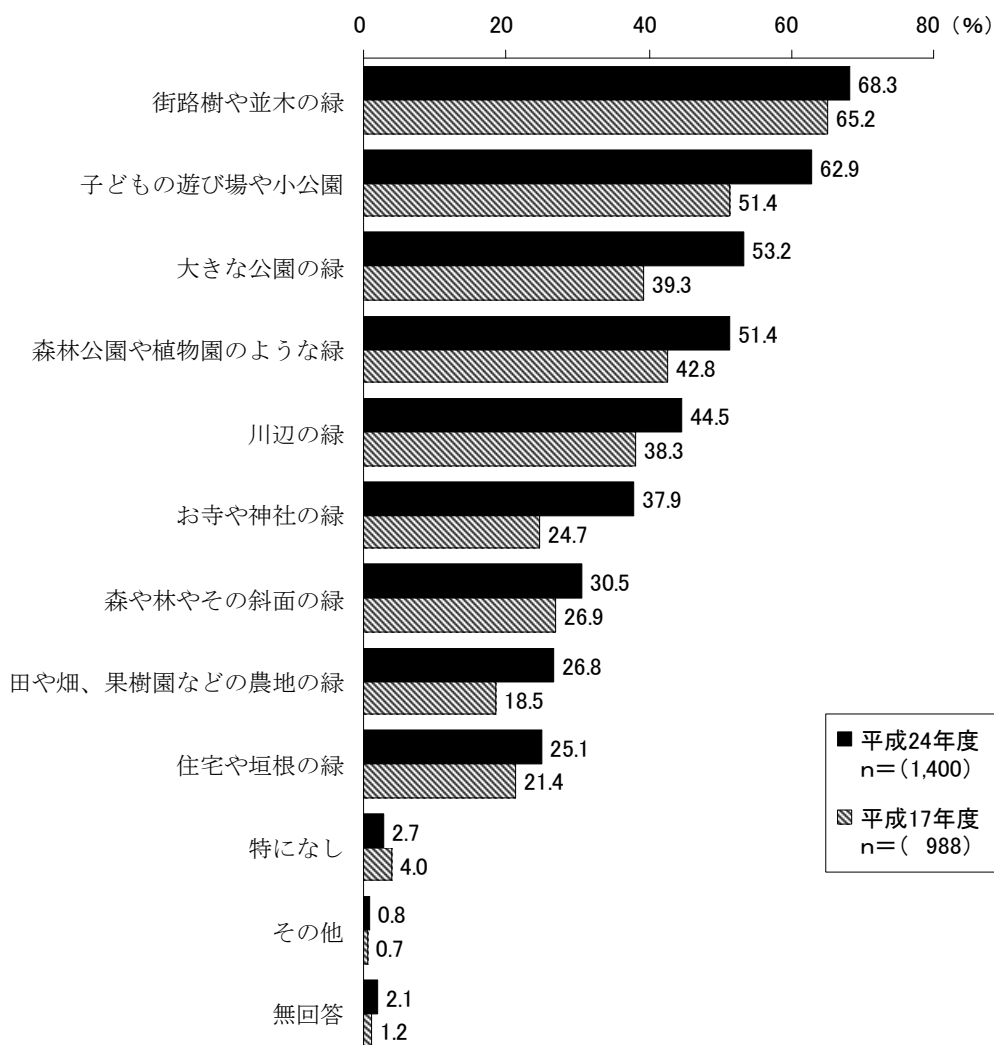
居住区別では、＜満足＞は、麻生区(74.6%)が最も多く、次いで、多摩区(63.8%)、宮前区(59.0%)の順となっている。一方、＜不満＞は川崎区(36.7%)が最も多く、唯一＜満足＞を上回っている。(図表7-6)

7-3 保全を希望する緑の場所

◎「街路樹や並木の緑」が68.3%、「子どもの遊び場や小公園」が62.9%

問24 あなたは、市内のどのような緑が保全されることを望みますか。次の中からいくつでも選んでください。(あてはまるものすべてに○)

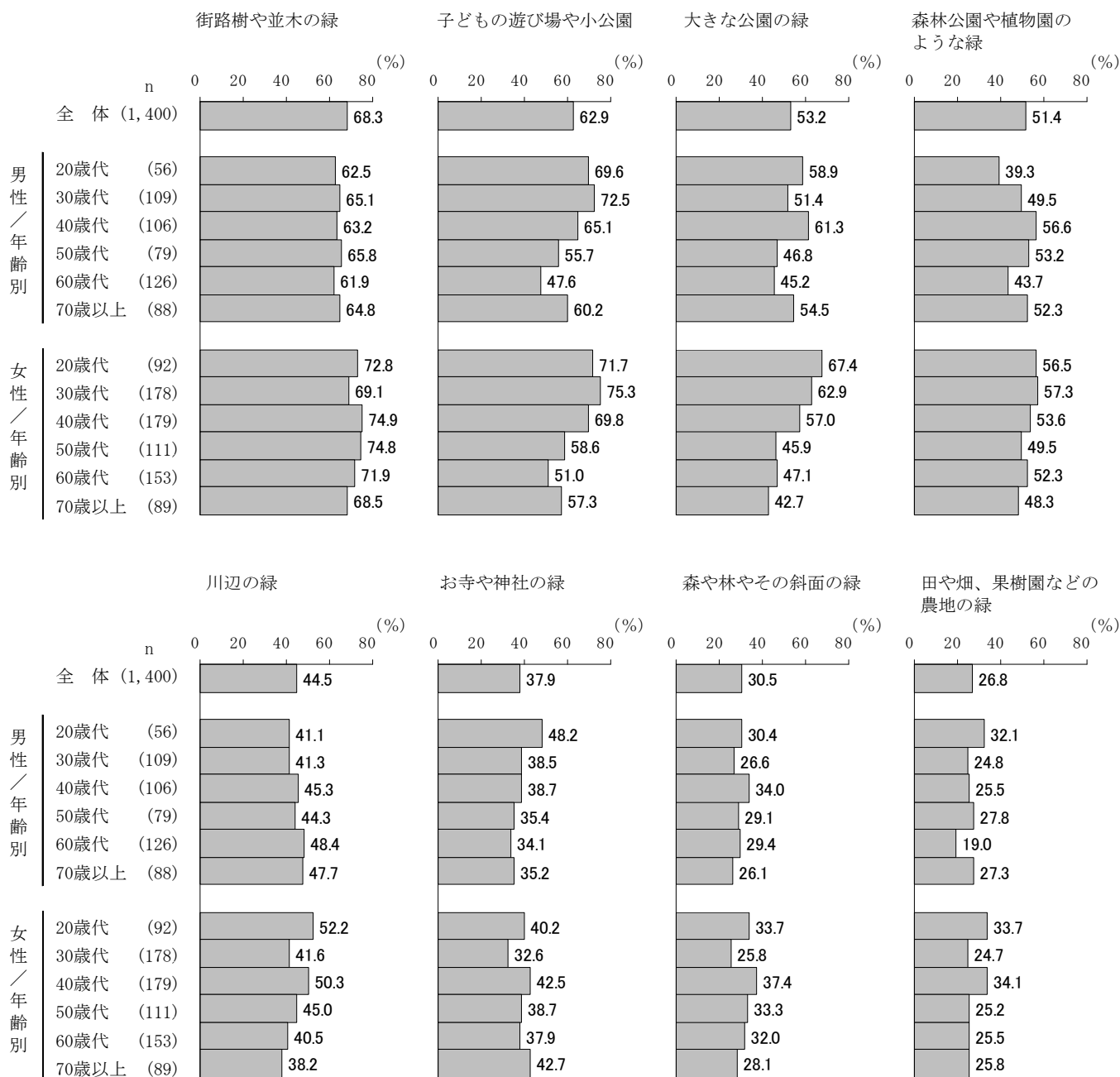
図表7-7 保全を希望する緑の場所



保全を希望する緑の場所については、「街路樹や並木の緑」(68.3%)が6割台後半で最も多くなっている。次いで、「子どもの遊び場や小公園」(62.9%)、「大きな公園の緑」(53.2%)、「森林公園や植物園のような緑」(51.4%)の順となっている。

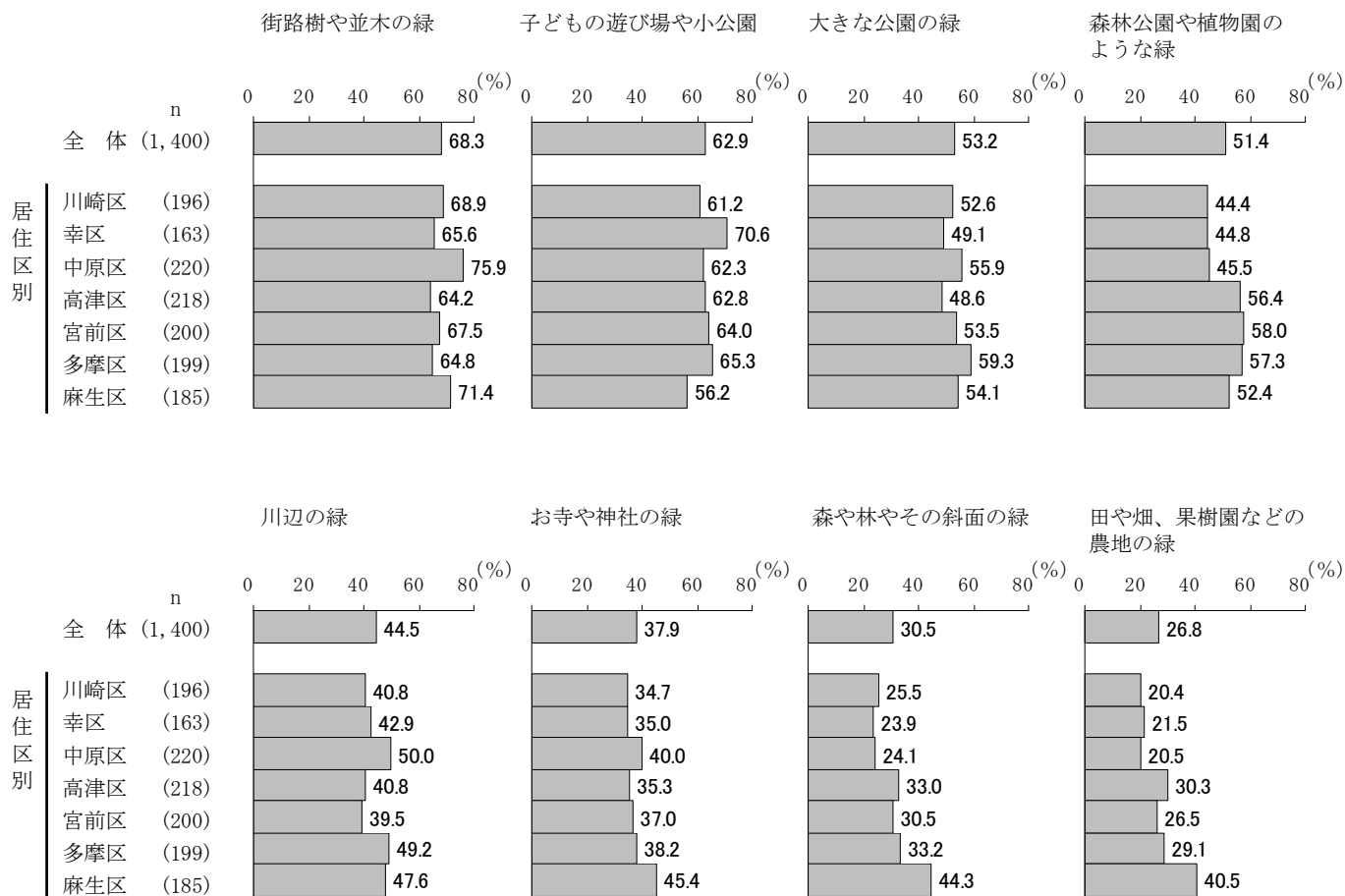
また、7年前(平成17年度)との比較で見ると、「大きな公園の緑」(13.9ポイント増加)、「お寺や神社の緑」(13.2ポイント増加)、「子どもの遊び場や小公園」(11.5ポイント増加)が10ポイント以上増加している。(図表7-7)

図表7-8 保全を希望する緑の場所(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「街路樹や並木の緑」は全体的に男性より女性の方が多く傾向となっており、女性40歳代(74.9%)・50歳代(74.8%)で7割台半ばとなっている。「子どもの遊び場や小公園」は男女ともに30歳代が最も多くなっている。「大きな公園の緑」は男性では40歳代(61.3%)、女性では20歳代(67.4%)が最も多くなっている。(図表7-8)

図表7-9 保全を希望する緑の場所（居住区別、上位8項目）



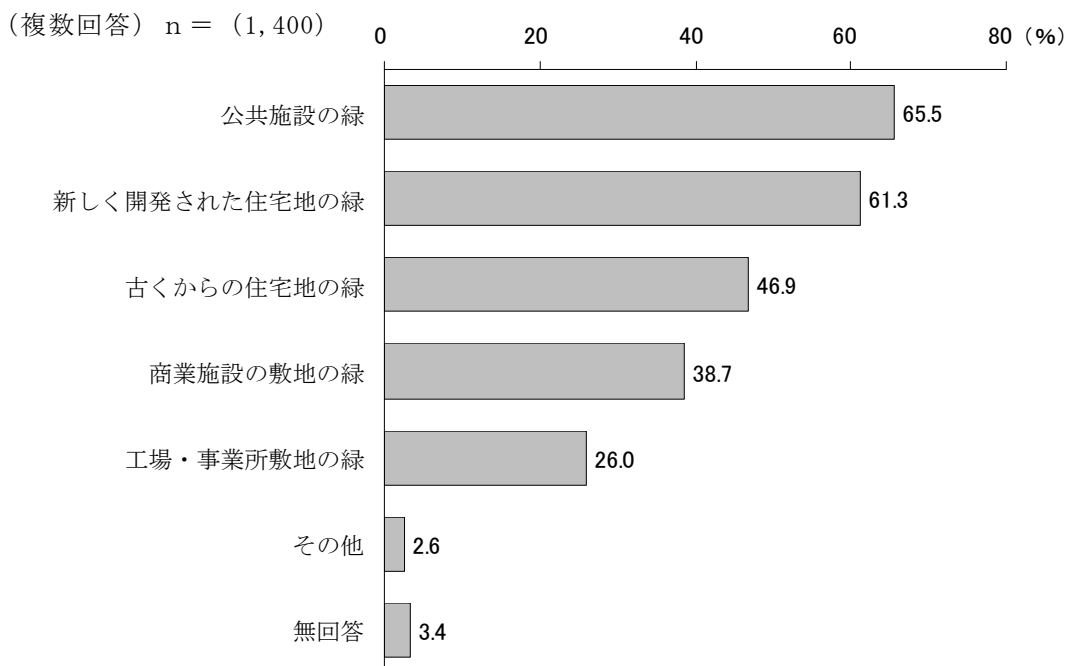
居住区別では、「街路樹や並木の緑」は中原区（75.9%）が7割台半ばで最も多くなっている。「子どもの遊び場や小公園」は、幸区（70.6%）が7割を超え最も多くなっている。「大きな公園の緑」は、多摩区（59.3%）が最も多くなっている。（図表7-9）

7-4 緑化を希望する地域

◎「公共施設の緑」が65.5%、「新しく開発された住宅地の緑」が61.3%

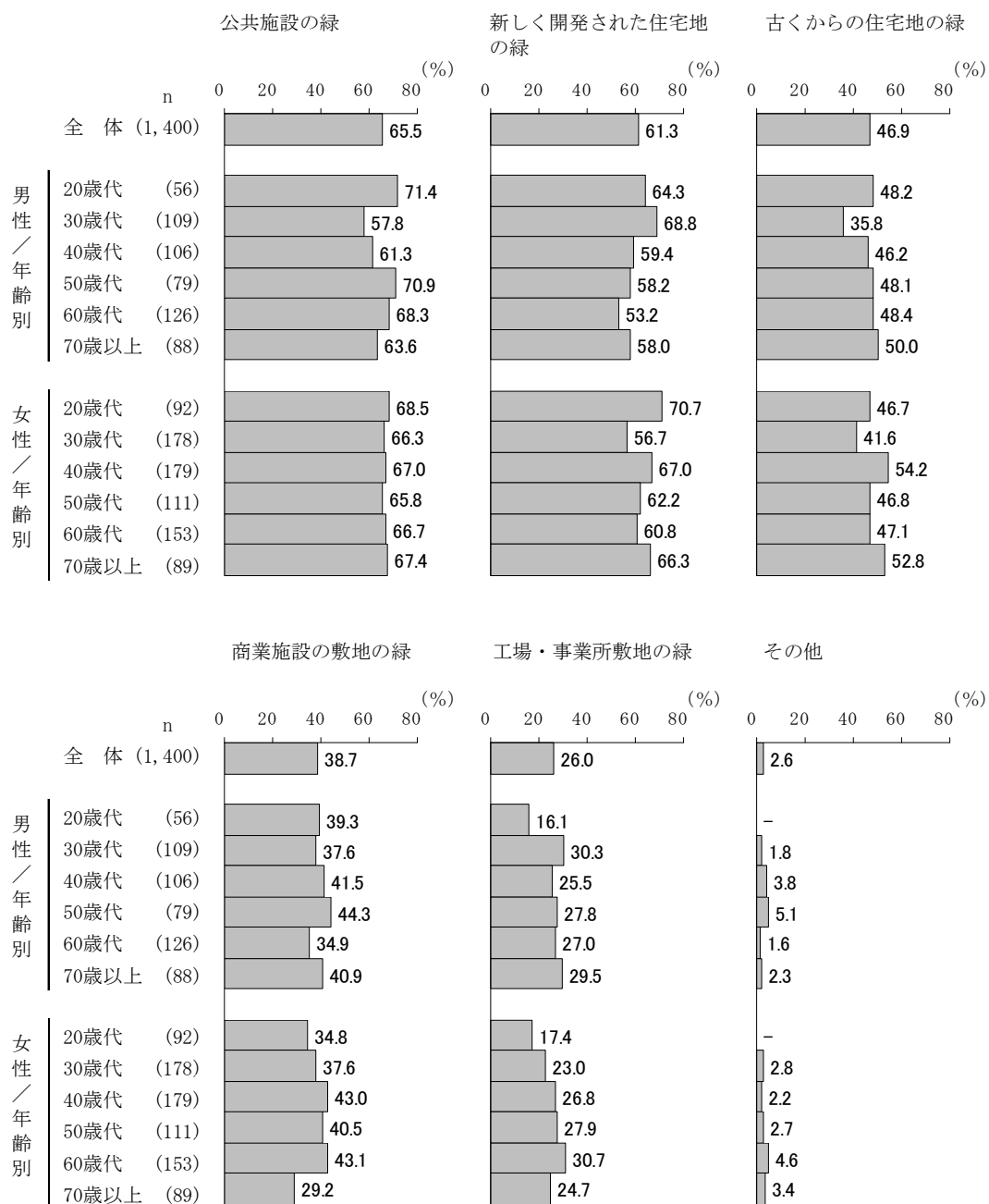
問25 あなたは、市内のどのような地域が緑化されることを望みますか。次の中からいくつでも選んでください。(あてはまるものすべてに○)

図表7-10 緑化を希望する地域



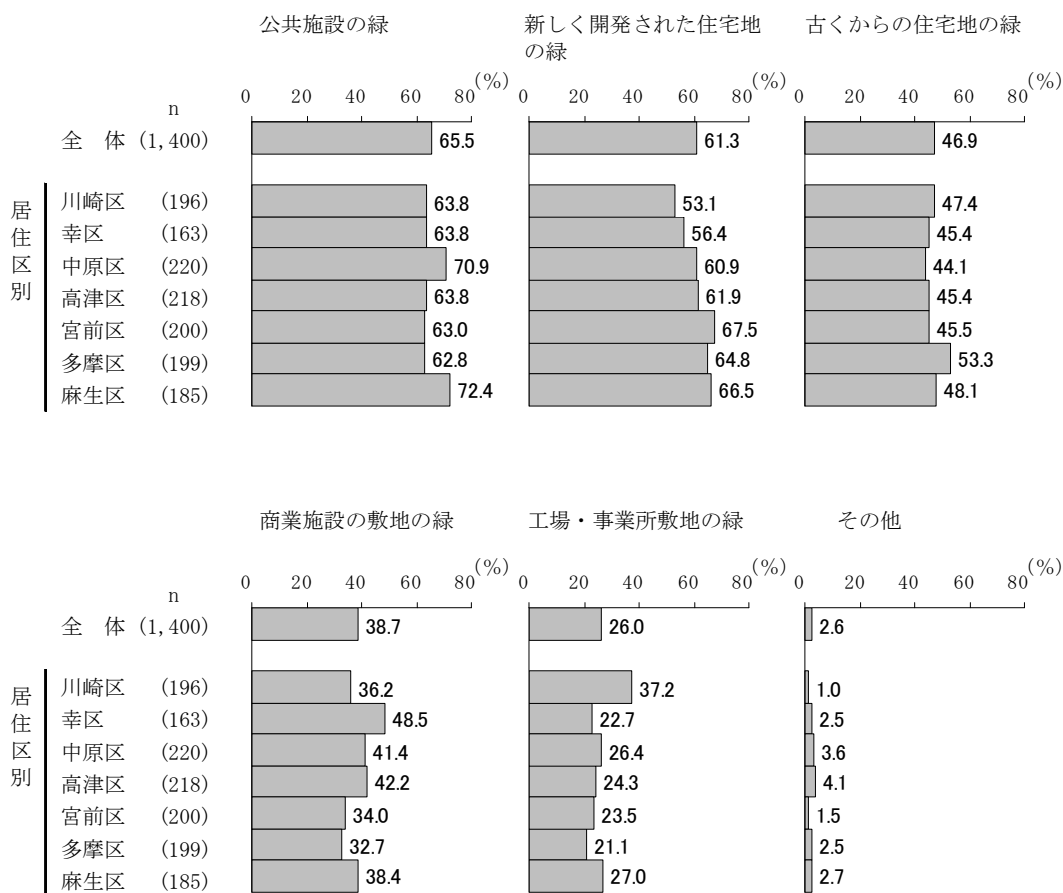
緑化を希望する地域については、「公共施設の緑」(65.5%)が最も多く、次いで「新しく開発された住宅地の緑」(61.3%)となっている。以下、「古くからの住宅地の緑」(46.9%)、「商業施設の敷地の緑」(38.7%)、「工場・事業所敷地の緑」(26.0%)と続いている。(図表7-10)

図表7-11 緑化を希望する地域（性／年齢別）



性／年齢別では、「公共施設の緑」は男性 20 歳代 (71.4%)・50 歳代 (70.9%) が 7 割を超えて多くなっている。「新しく開発された住宅地の緑」は、男性では 30 歳代 (68.8%)、女性では 20 歳代 (70.7%) が最も多くなっている。「古くからの住宅地の緑」は、男性 70 歳以上 (50.0%)・女性 40 歳代 (54.2%)・女性 70 歳以上 (52.8%) が 5 割台と多くなっている。(図表 7-11)

図表7-12 緑化を希望する地域(居住区別)



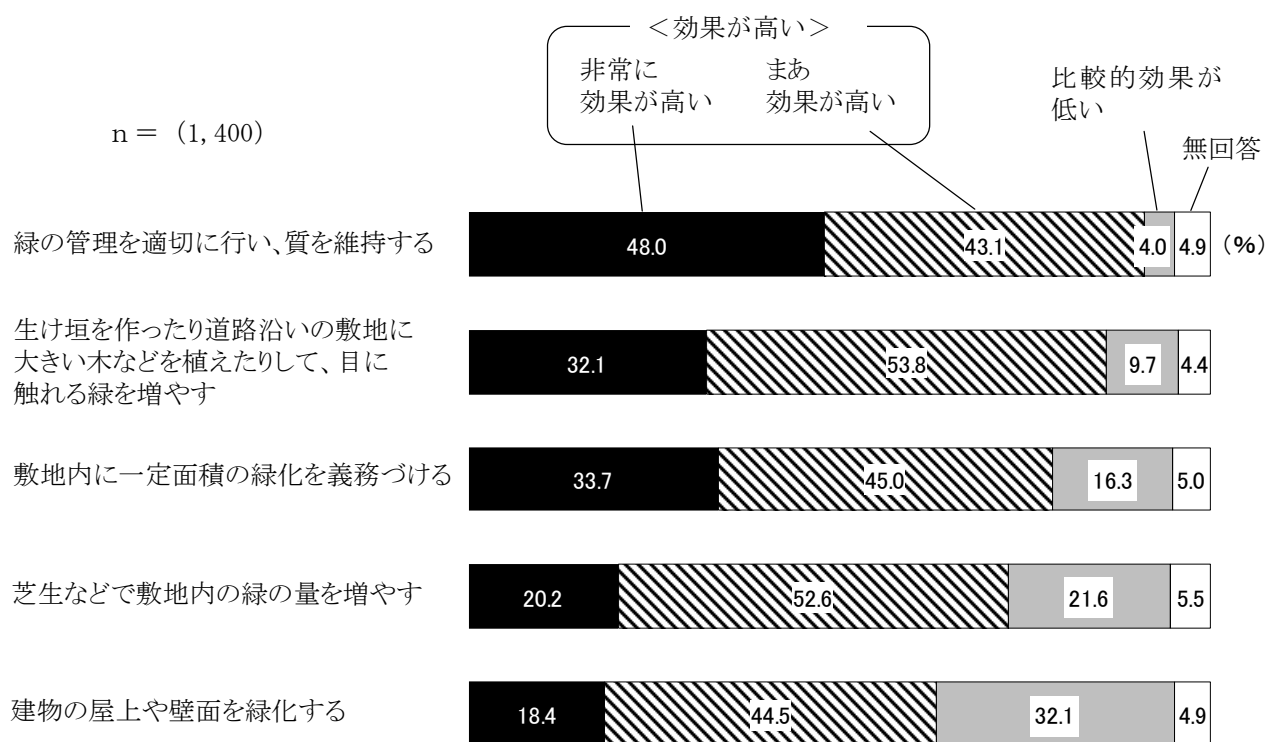
居住区別では、「公共施設の緑」は麻生区(72.4%)・中原区(70.9%)で7割を超え多くなっている。「新しく開発された住宅地の緑」は、宮前区(67.5%)が最も多く、川崎区(53.1%)が最も少なくなっている。「古くからの住宅地の緑」は、多摩区(53.3%)が最も多くなっている。(図表7-12)

7-5 市街地を緑豊かにする方法

◎＜効果が高い＞「緑の管理を適切に行い、質を維持する」が91.1%

問 26 市街地を緑豊かにする方法として建築物や開発敷地を緑化することがありますが、以下にあげる手法がどのくらい効果的だと思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

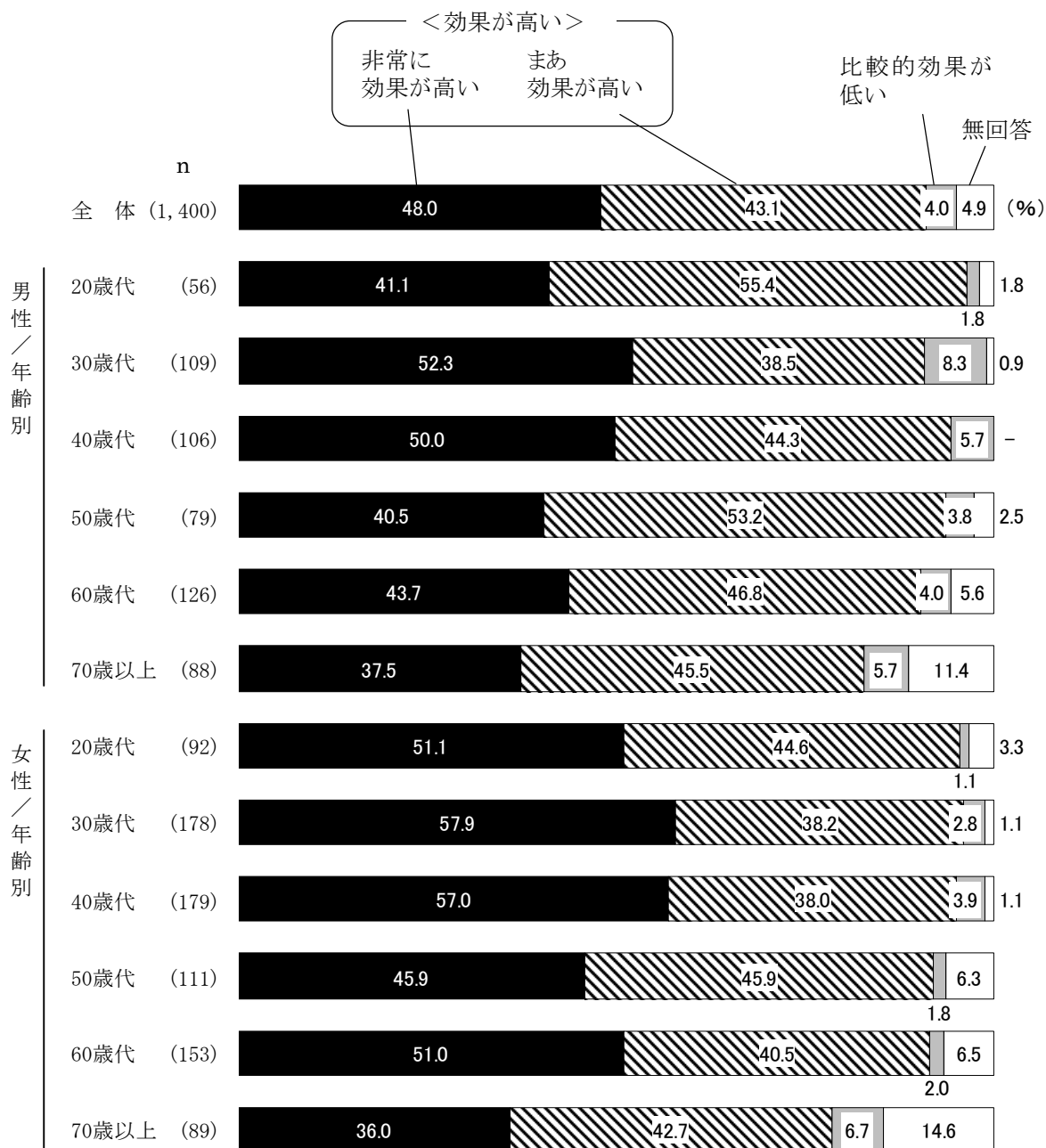
図表 7-13 市街地を緑豊かにする方法



市街地を緑豊かにする方法については、『非常に効果が高い』と『まあ効果が高い』をあわせた＜効果が高い＞は、「緑の管理を適切に行い、質を維持する」(91.1%)が9割を超え最も高く、次いで「生け垣を作ったり道路沿いの敷地に大きい木などを植えたりして、目に触れる緑を増やす」(85.9%)が8割台半ばとなっている。以下、「敷地内に一定面積の緑化を義務づける」(78.7%)、「芝生などで敷地内の緑の量を増やす」(72.8%)は7割台、「建物の屋上や壁面を緑化する」(62.9%)は6割台となっている。(図表7-13)

図表7-14 市街地を緑豊かにする方法(性/年齢別)

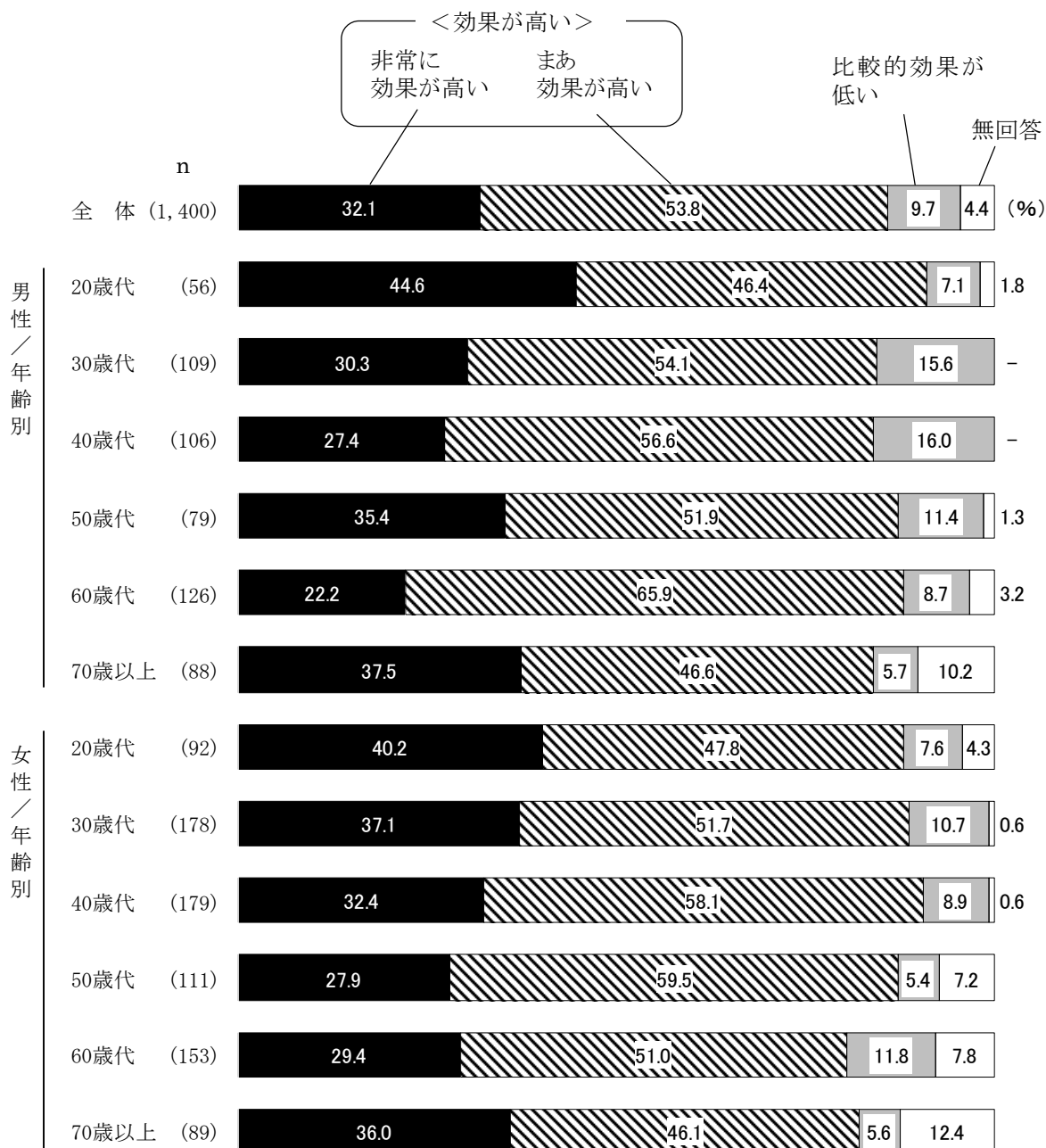
【緑の管理を適切に行い、質を維持する】



「緑の管理を適切に行い、質を維持する」について、性/年齢別では、『非常に効果が高い』はおおむね男性より女性の方が割合が多い傾向となっており、女性30～40歳代では5割台後半となっている。なお、『まあ効果が高い』をあわせた<効果が高い>は、男女ともに20～60歳代では9割を超えている。(図表7-14)

図表7-15 市街地を緑豊かにする方法(性/年齢別)

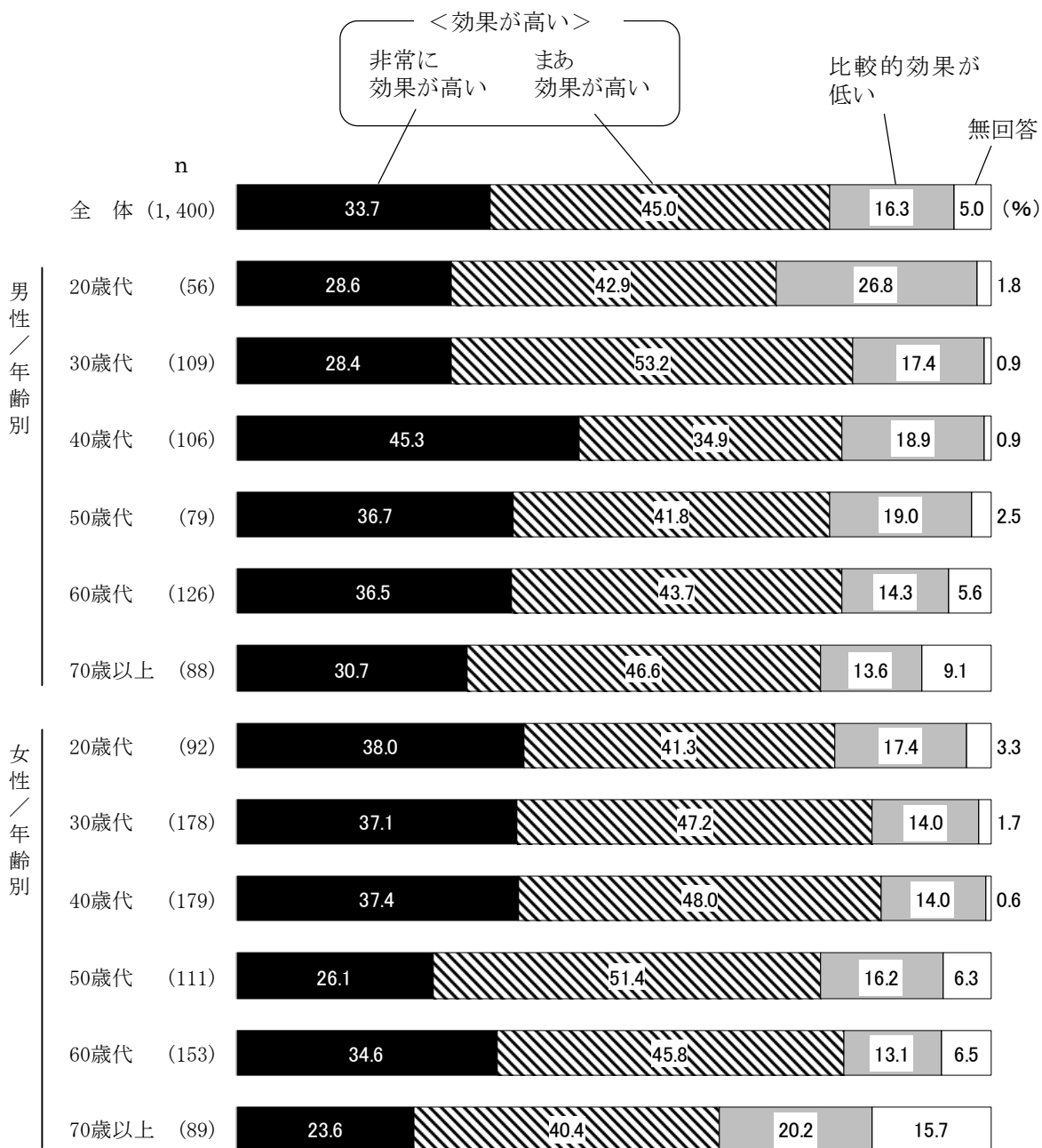
【生け垣を作ったり道路沿いの敷地に大きい木などを植えたりして、目に触れる緑を増やす】



「生け垣を作ったり道路沿いの敷地に大きい木などを植えたりして、目に触れる緑を増やす」について、性/年齢別では、『非常に効果が高い』は男女ともに20歳代が4割を超え最も多くなっている。一方、男性60歳代(22.2%)は2割台前半と少なくなっている。なお、『まあ効果が高い』をあわせた<効果が高い>は、男女ともにすべての年代で8割を超えている。(図表7-15)

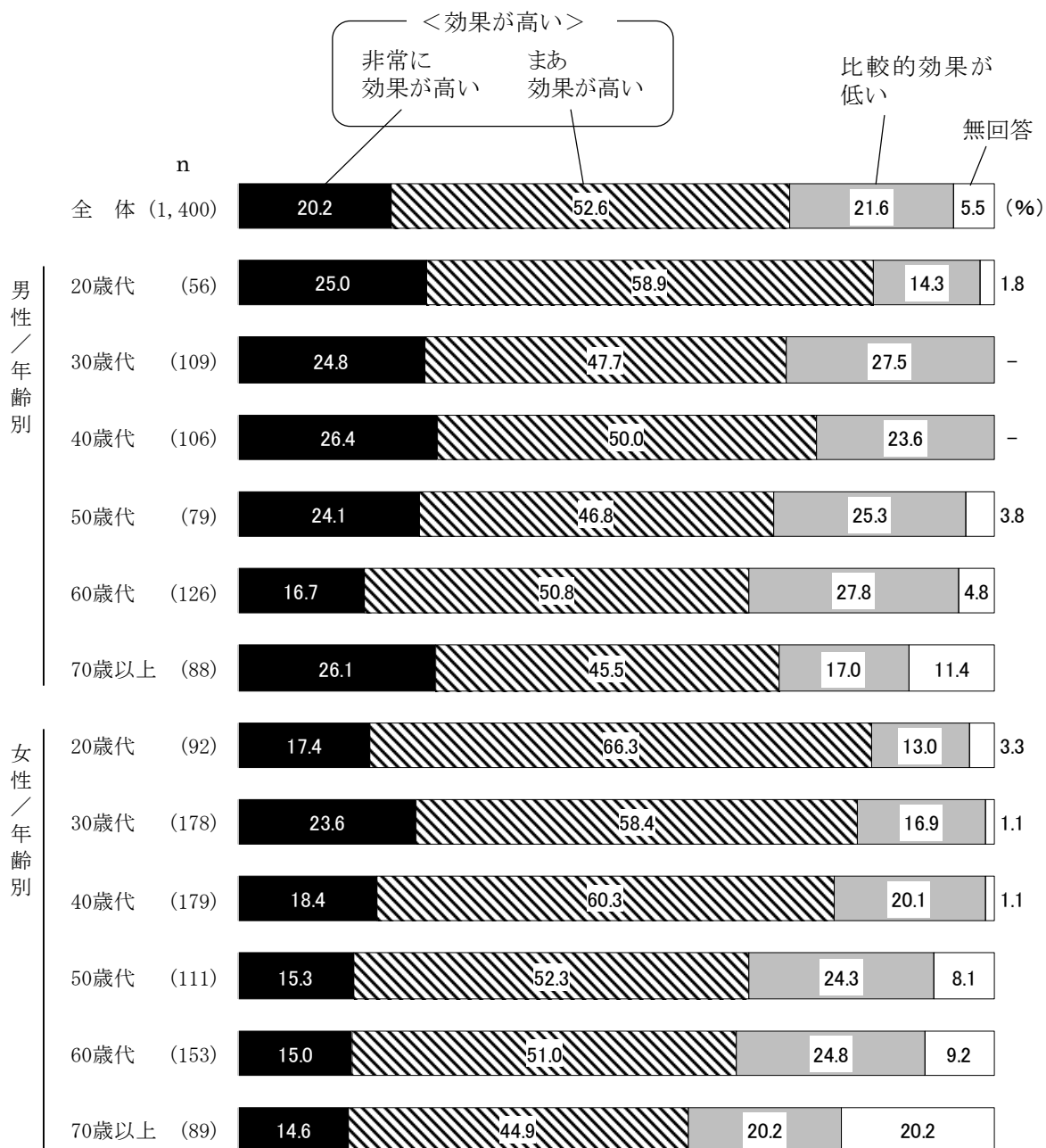
図表7-16 市街地を緑豊かにする方法(性/年齢別)

【敷地内に一定面積の緑化を義務づける】



「敷地内に一定面積の緑化を義務づける」について、性/年齢別では、『非常に効果が高い』は男性40歳代(45.3%)が4割台半ばと最も多くなっている。一方、『比較的效果が低い』は、男性20歳代(26.8%)が2割台後半と最も多くなっている。(図表7-16)

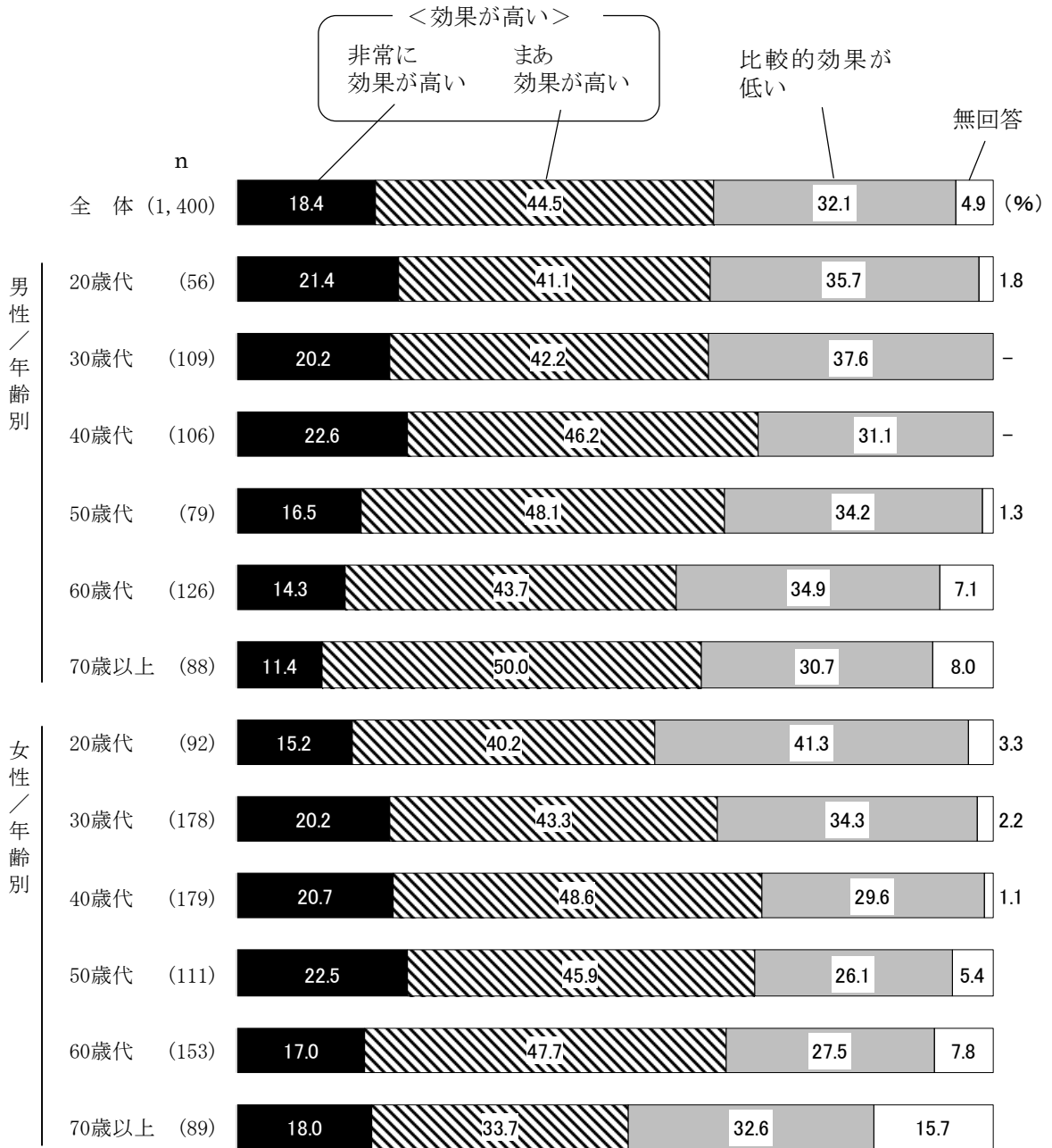
図表7-17 市街地を緑豊かにする方法(性/年齢別)
【芝生などで敷地内の緑の量を増やす】



「芝生などで敷地内の緑の量を増やす」について、性/年齢別では、『非常に効果が高い』は男性は60歳代(16.7%)を除き2割台半ば、女性は30歳代(23.6%)を除き1割台となっている。

『まあ効果が高い』をあわせた<効果が高い>は、男性20歳代(83.9%)・女性20歳代(83.7%)・女性30歳代(82.0%)で8割を超え多くなっている。(図表7-17)

図表7-18 市街地を緑豊かにする方法(性/年齢別)
【建物の屋上や壁面を緑化する】



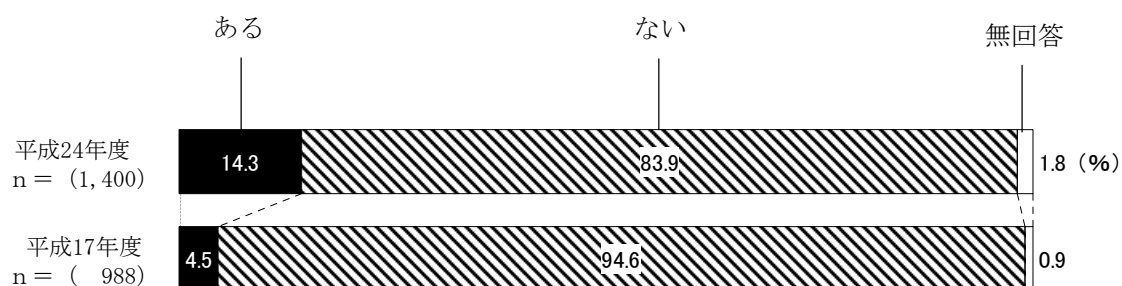
「建物の屋上や壁面を緑化する」について、性/年齢別では、『非常に効果が高い』と『まあ効果が高い』をあわせた<効果が高い>は、男性40歳代(68.8%)・女性40歳代(69.3%)・女性50歳代(68.4%)が6割台後半と多くなっている。一方、『比較的效果が低い』は、女性20歳代(41.3%)が4割を超え最も多くなっている。(図表7-18)

7-6 緑化活動の参加経験

◎「ある」は14.3%、7年前(平成17年度)に比べ9.8ポイント増加

問27 あなたは、木や花を植えたり世話をしたりする活動に参加したことがありますか。(○は1つだけ)

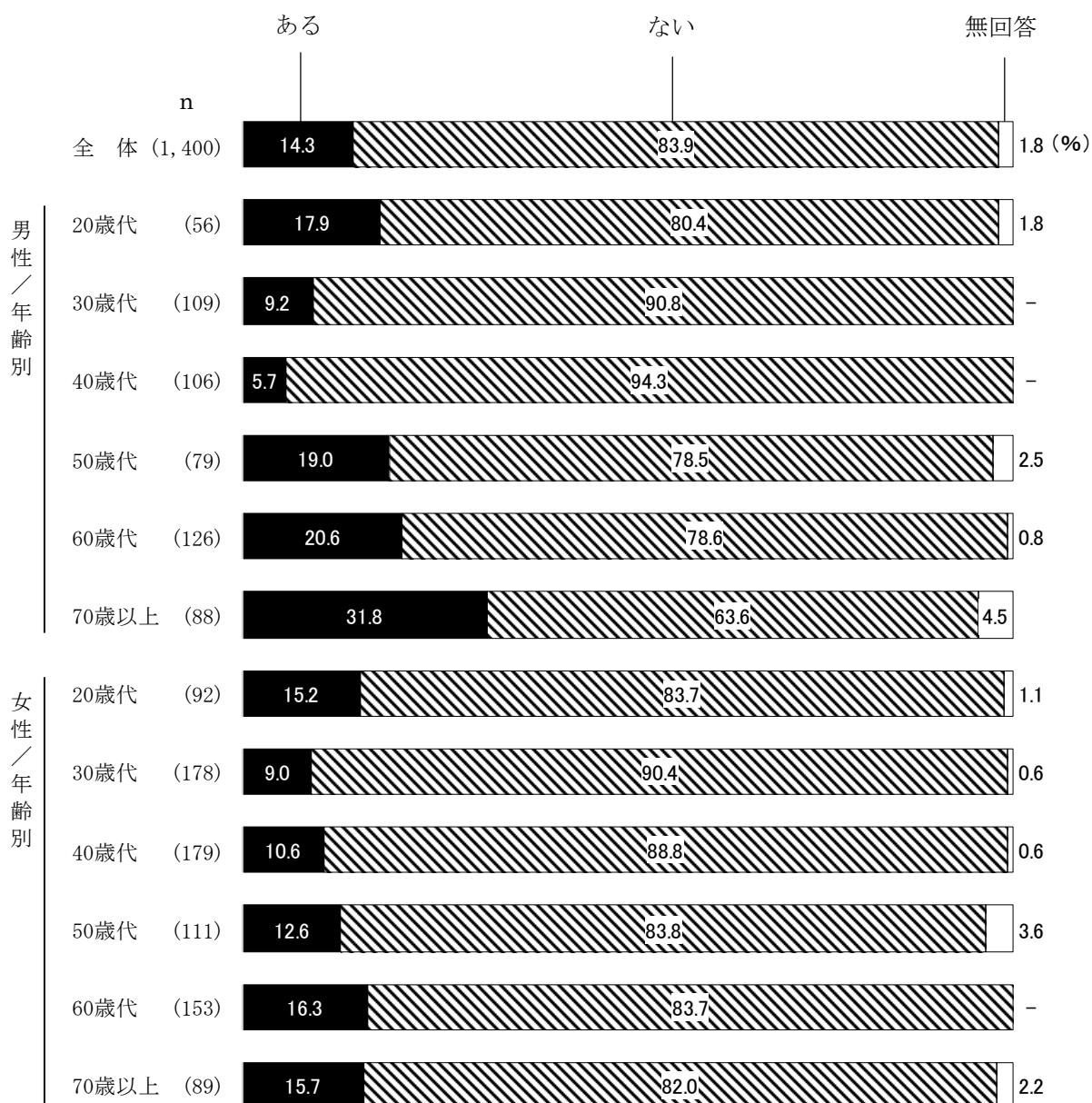
図表7-19 緑化活動の参加経験



緑化活動の参加経験については、「ある」は14.3%、「ない」は83.9%となっている。

7年前(平成17年度)との比較で見ると、「ある」が9.8ポイント増加している。(図表7-19)

図表7-20 緑化活動の参加経験(性/年齢別)



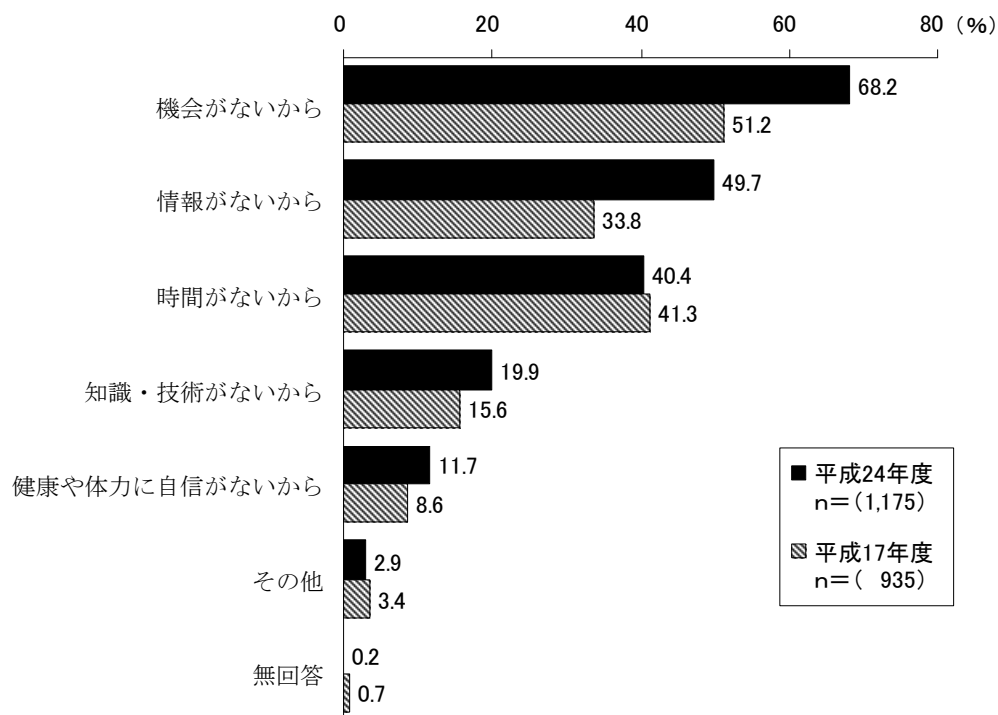
性/年齢別では、「ある」は、男性では70歳以上(31.8%)が3割を超え最も多く、50歳代(19.0%)・60歳代(20.6%)もほぼ2割とやや多くなっている。また、20歳代(17.9%)が30~40歳代を上回っている。女性では60歳代(16.3%)が最も多く、また20歳代(15.2%)が30~50歳代を上回っており、男性と同様の傾向がみられる。(図表7-20)

7-7 緑化活動へ参加していない理由

◎「機会がないから」が68.2%、「情報がないから」が49.7%

問 27-1 (問 27 で「2 ない」と回答した方にかがいます。)
参加しない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

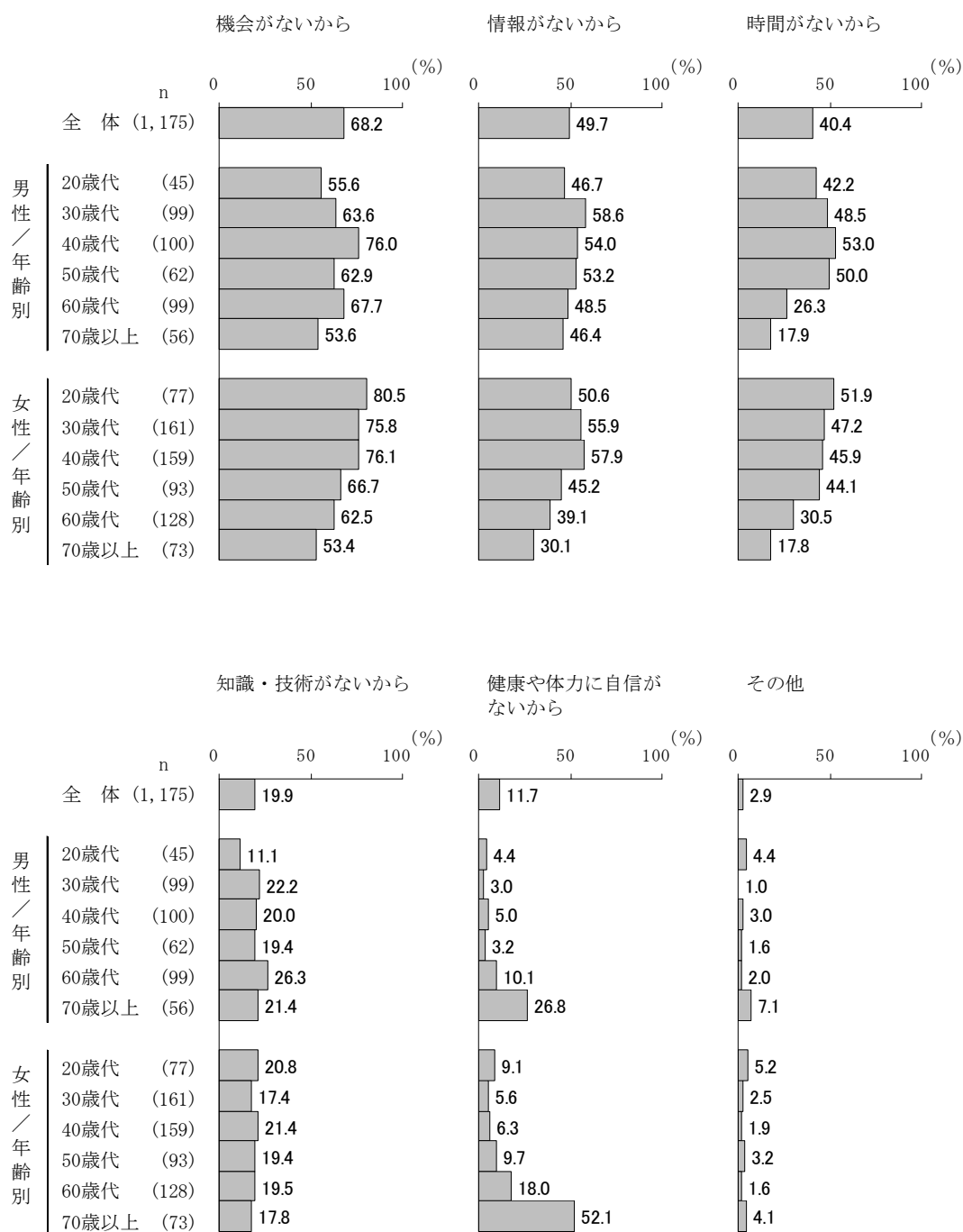
図表 7-21 緑化活動へ参加していない理由



緑化活動へ参加していない理由については、「機会がないから」(68.2%)が6割台後半で最も多くなっている。次いで、「情報がないから」(49.7%)、「時間がないから」(40.4%)の順となっている。

7年前(平成17年度)との比較でみると、「機会がないから」(17.0ポイント増加)、「情報がないから」(15.9ポイント増加)が10ポイント以上増加している。一方、「時間がないから」(0.9ポイント減少)は、わずかながら減少している。(図表7-21)

図表7-22 緑化活動へ参加していない理由(性/年齢別)



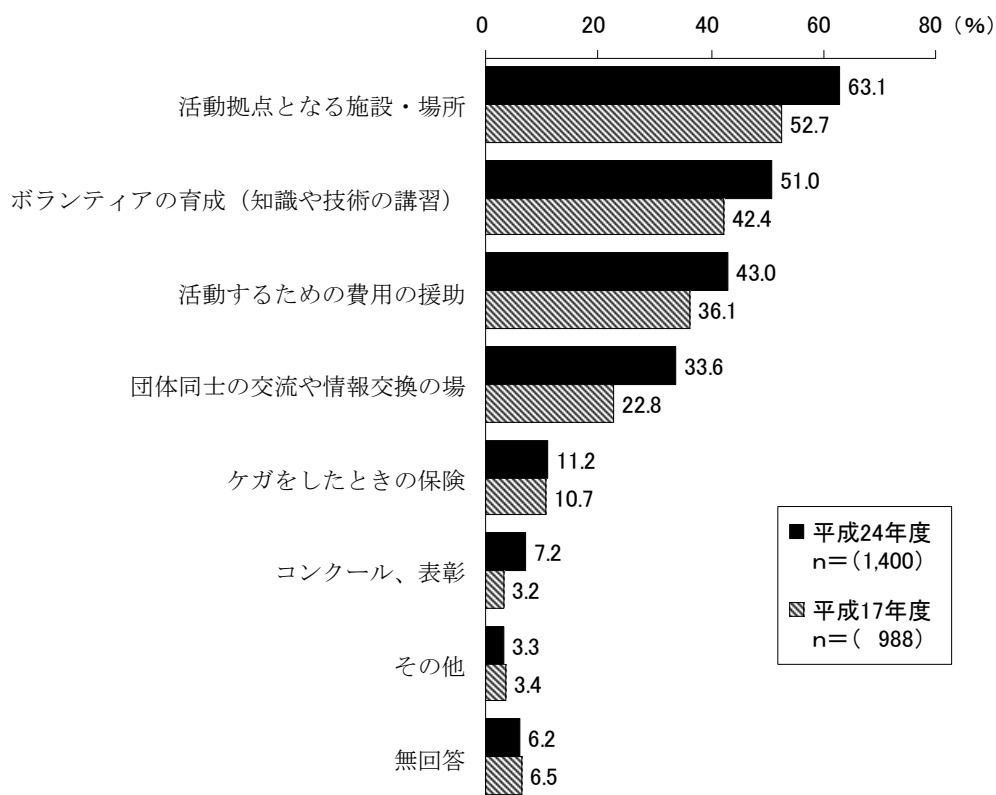
性/年齢別では、「機会がないから」は男性では40歳代(76.0%)、女性では20歳代(80.5%)が最も多くなっている。「情報がないから」は、男性では30歳代(58.6%)、女性では40歳代(57.9%)が最も多くなっている。「時間がないから」は、男性では40歳代(53.0%)、女性では20歳代(51.9%)が最も多くなっている。「健康や体力に自信がないから」は、女性70歳以上(52.1%)が特に多くなっている。(図表7-22)

7-8 緑化活動を活発にするために必要だと思うこと

◎「活動拠点となる施設・場所」が63.1%

問 28 緑化活動を活発にするために何が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

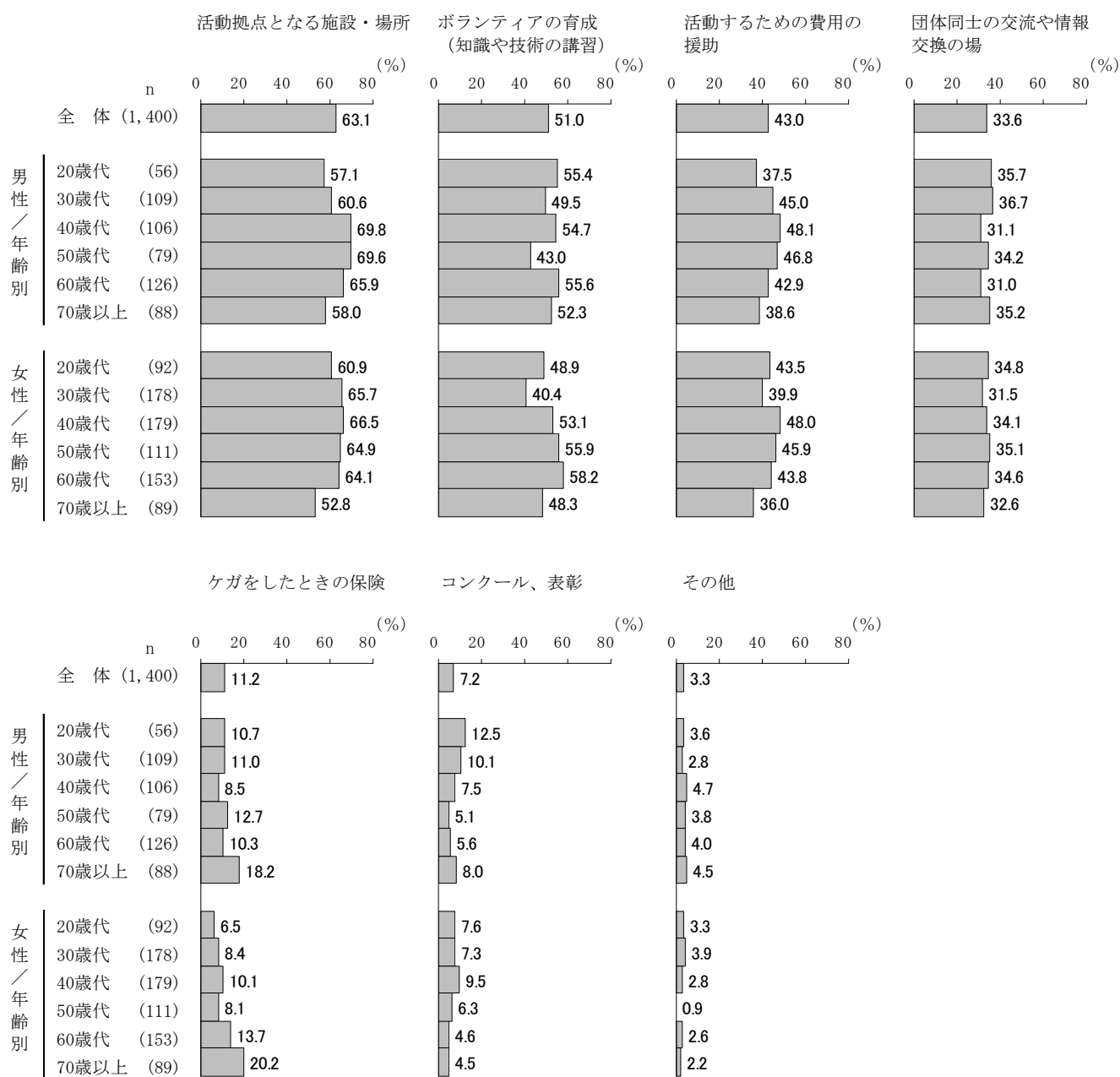
図表 7-23 緑化活動を活発にするために必要だと思うこと



緑化活動を活発にするために必要だと思うことについては、「活動拠点となる施設・場所」(63.1%)が最も多くなっている。次いで、「ボランティアの育成(知識や技術の講習)」(51.0%)、「活動するための費用の援助」(43.0%)、「団体同士の交流や情報交換の場」(33.6%)の順となっている。

7年前(平成17年度)との比較でみると、「団体同士の交流や情報交換の場」(10.8ポイント増加)、「活動拠点となる施設・場所」(10.4ポイント増加)が10ポイント以上増加している。(図表7-23)

図表7-24 緑化活動を活発にするために必要だと思うこと(性/年齢別)



性/年齢別では、「活動拠点となる施設・場所」は男性40～50歳代が7割近くと多くなっている。「ボランティアの育成(知識や技術の講習)」は、女性60歳代(58.2%)が最も多くなっている。「活動するための費用の援助」は、男女ともに40歳代が最も多くなっている。(図表7-24)

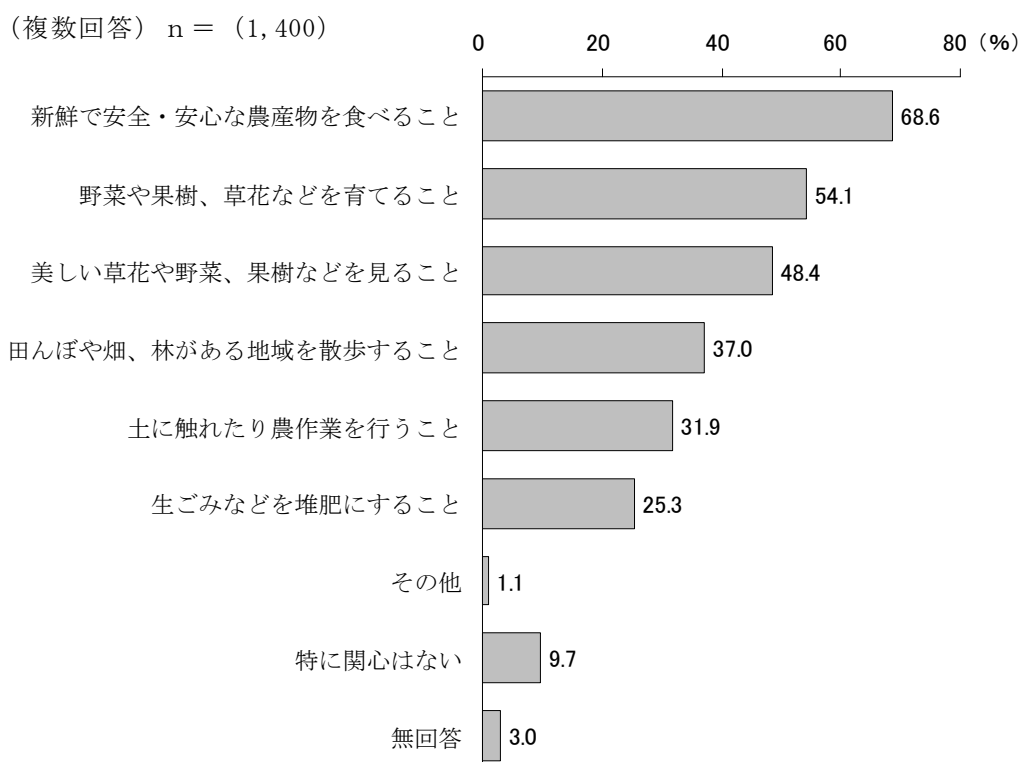
8 かわさきの農業について

8-1 「農」について関心のある事柄

◎「新鮮で安全・安心な農産物を食べること」が68.6%

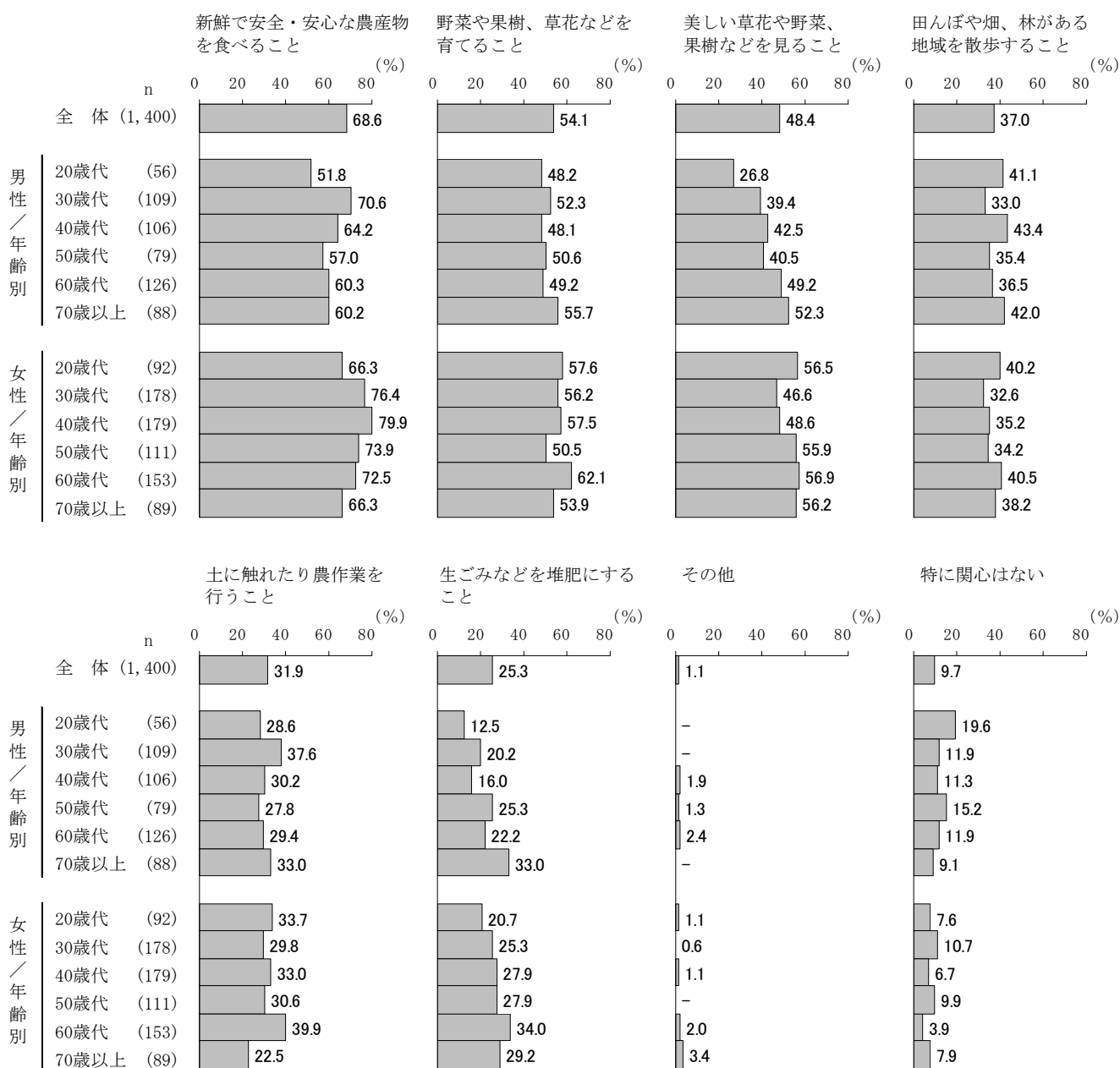
問 29 あなたは、「農」に関わる次の事柄に関心はありますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 8-1 「農」について関心のある事柄



「農」について関心のある事柄については、「新鮮で安全・安心な農産物を食べること」(68.6%)が最も多くなっている。次いで、「野菜や果樹、草花などを育てること」(54.1%)、「美しい草花や野菜、果樹などを見ること」(48.4%)、「田んぼや畑、林がある地域を散歩すること」(37.0%)の順となっている。(図表 8-1)

図表8-2 「農」について関心のある事柄(性/年齢別)



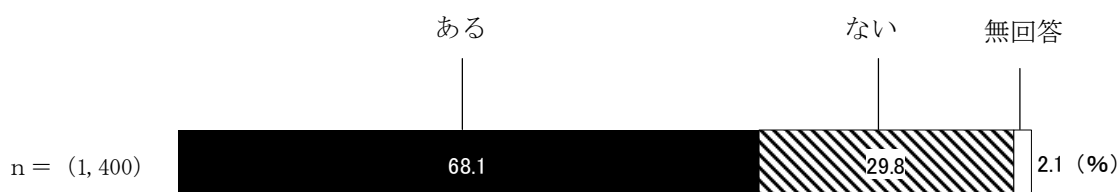
性/年齢別では、「新鮮で安全・安心な農産物を食べること」は男性では30歳代(70.6%)、女性では40歳代(79.9%)が最も多くなっている。「野菜や果樹、草花などを育てること」は、男性では70歳以上(55.7%)、女性では60歳代(62.1%)が最も多くなっている。「美しい草花や野菜、果樹などを見ること」は、男性では70歳以上(52.3%)が5割台前半で最も多く、女性では20歳代・50歳代~70歳以上が5割台半ばで多くなっている。(図表8-2)

8-2 直売で野菜・果物を購入したことがあるか

◎「ある」が68.1%

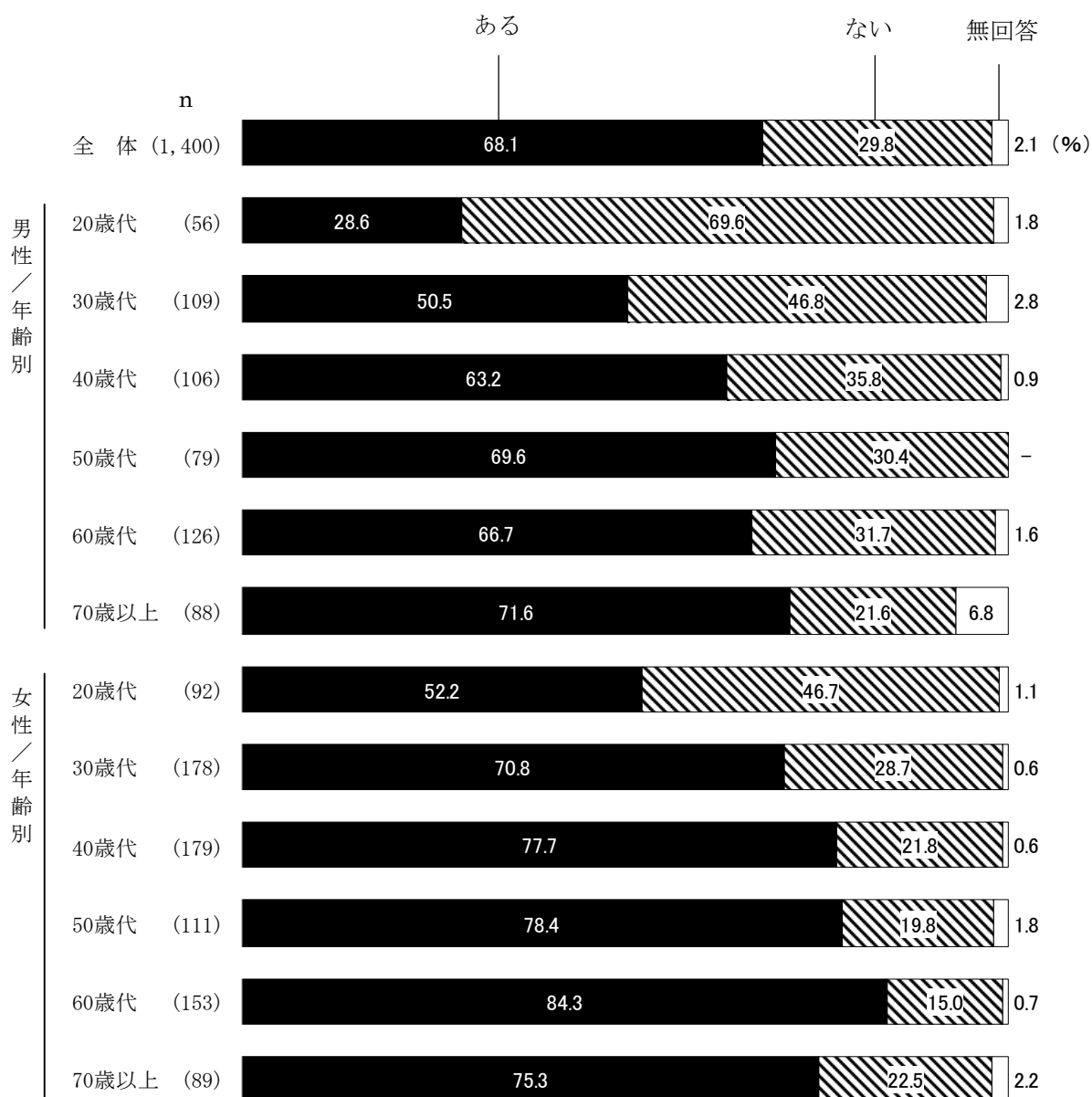
問30 あなたは、直売所、農家の庭先売り、移動販売車などの直売で、野菜・果物を購入したことはありますか。(○は1つだけ)

図表8-3 直売で野菜・果物を購入したことがあるか



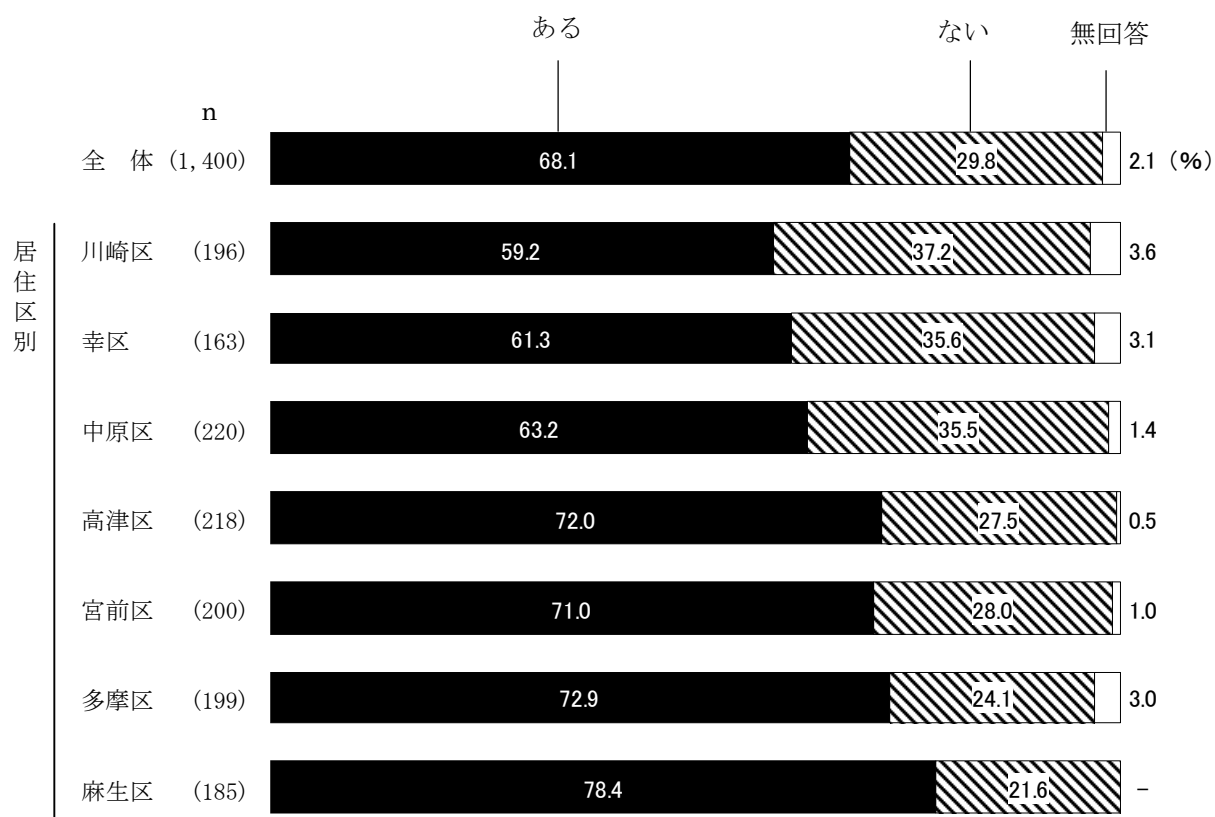
直売で野菜・果物を購入したことがあるか聞いたところ、「ある」が68.1%、「ない」が29.8%となっている。(図表8-3)

図表8-4 直売で野菜・果物を購入したことがあるか(性/年齢別)



性/年齢別では、「ある」は、男性では70歳以上(71.6%)が7割台前半、女性では60歳代(84.3%)が8割台半ばで最も多くなっている。一方、「ない」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。(図表8-4)

図表8-5 直売で野菜・果物を購入したことがあるか(居住区別)



居住区別では、「ある」は、麻生区(78.4%)が7割台後半で最も多く、川崎区(59.2%)が6割弱で最も少なくなっている。(図表8-5)

8-3 直売で野菜・果物を購入した理由

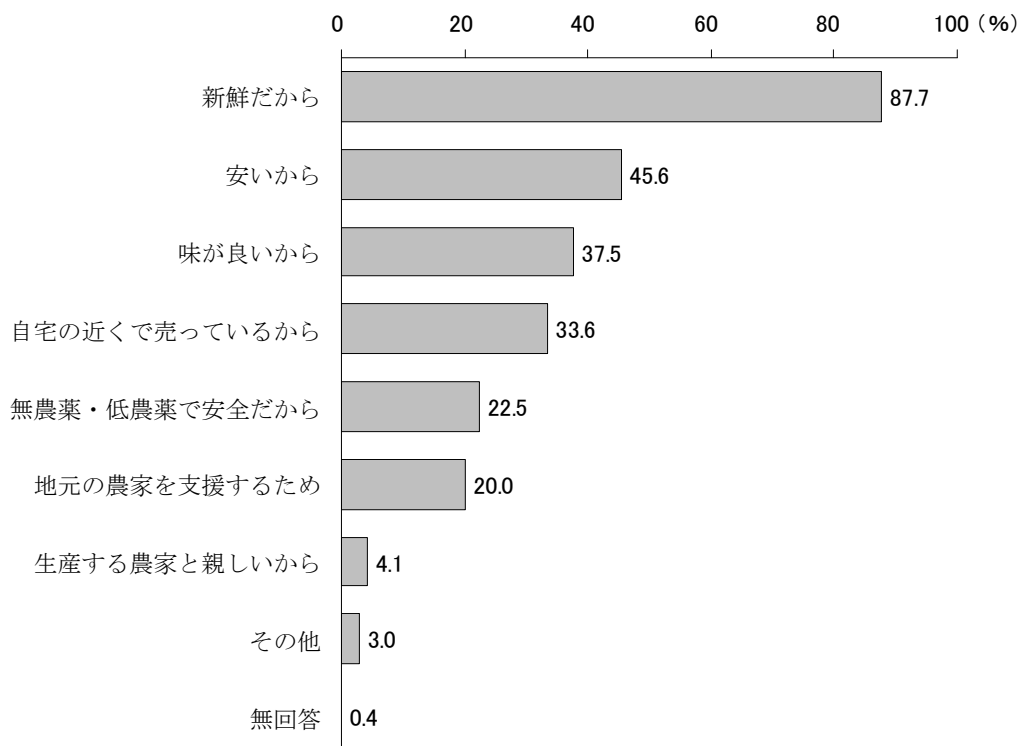
◎「新鮮だから」が87.7%

問30-1 (問30で「1 ある」と回答した方にかがいます。)

直売で野菜・果物を購入した理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

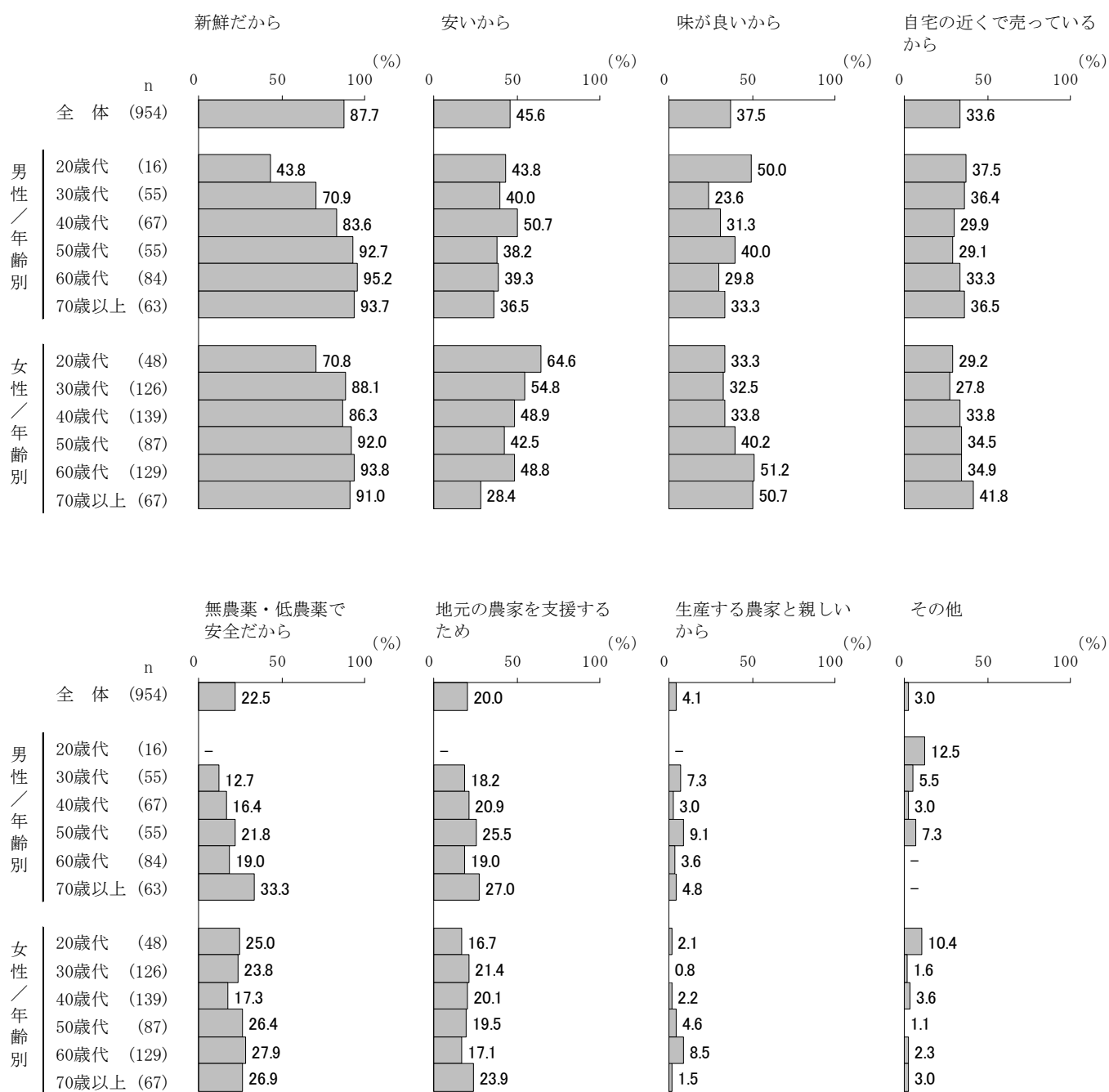
図表8-6 直売で野菜・果物を購入した理由

(複数回答) n = (954)



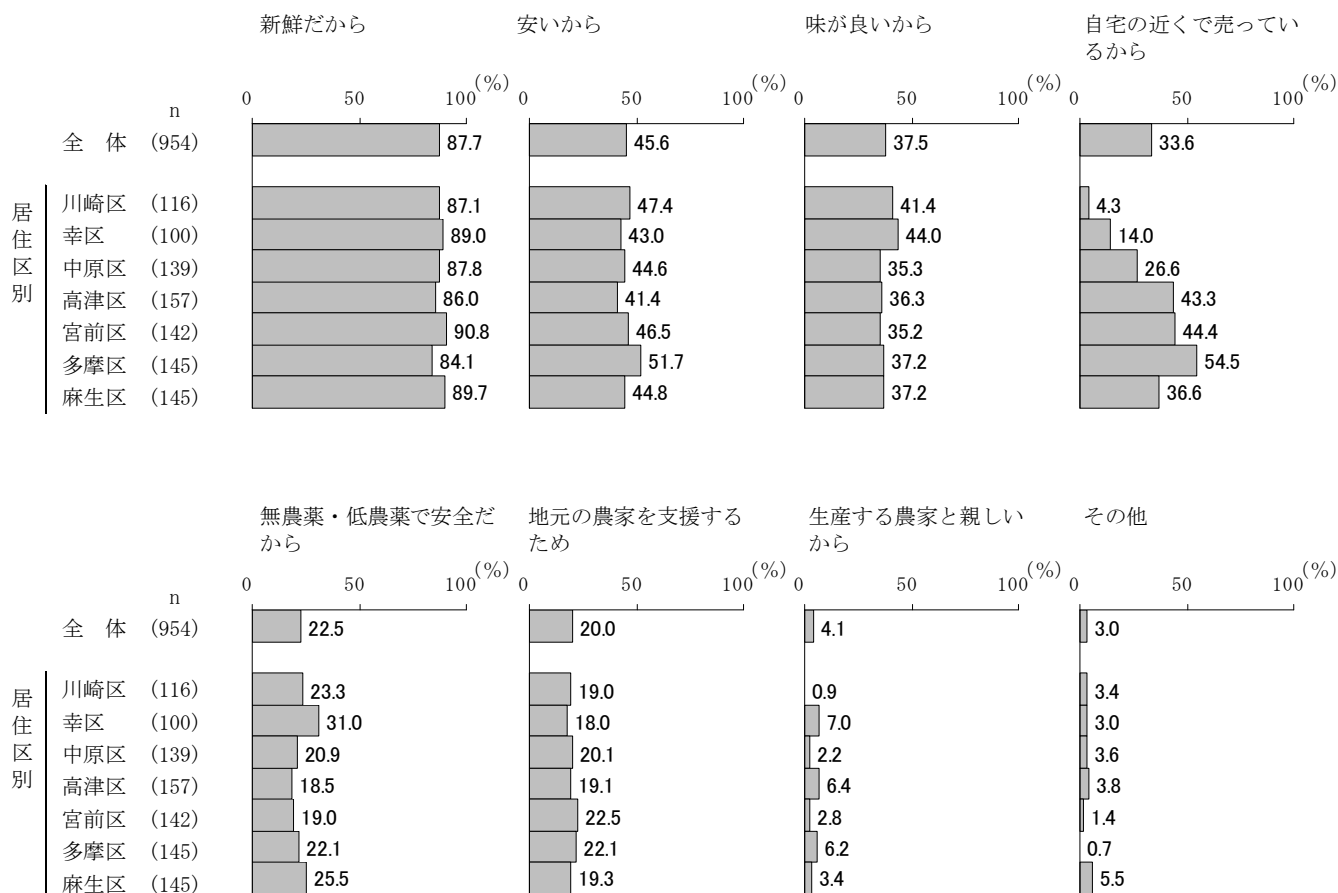
直売で野菜・果物を購入した理由については、「新鮮だから」(87.7%)が8割台後半と最も多くなっている。次いで、「安いから」(45.6%)、「味が良いから」(37.5%)、「自宅の近くで売っているから」(33.6%)の順となっている。(図表8-6)

図表8-7 直売で野菜・果物を購入した理由(性/年齢別)



性/年齢別では、「新鮮だから」は、男女ともに50歳代~70歳以上で9割を超え多くなっている。「安いから」は、女性20歳代(64.6%)が6割台半ばで最も多くなっている。(図表8-7)

図表8-8 直売で野菜・果物を購入した理由（居住区別）



居住区別では、「新鮮だから」は、すべての区で8割以上と多くなっている。「安いから」は、多摩区（51.7%）が5割を超え最も多くなっている。「味が良いから」は、幸区（44.0%）・川崎区（41.4%）が4割を超え多くなっている。「自宅の近くで売っているから」は、多摩区（54.5%）が5割台半ばで最も多くなっている。（図表8-8）

8-4 「大型農産物直売所セレサモス」の認知度

◎「知っていた」が23.3%、「知らない」が74.2%

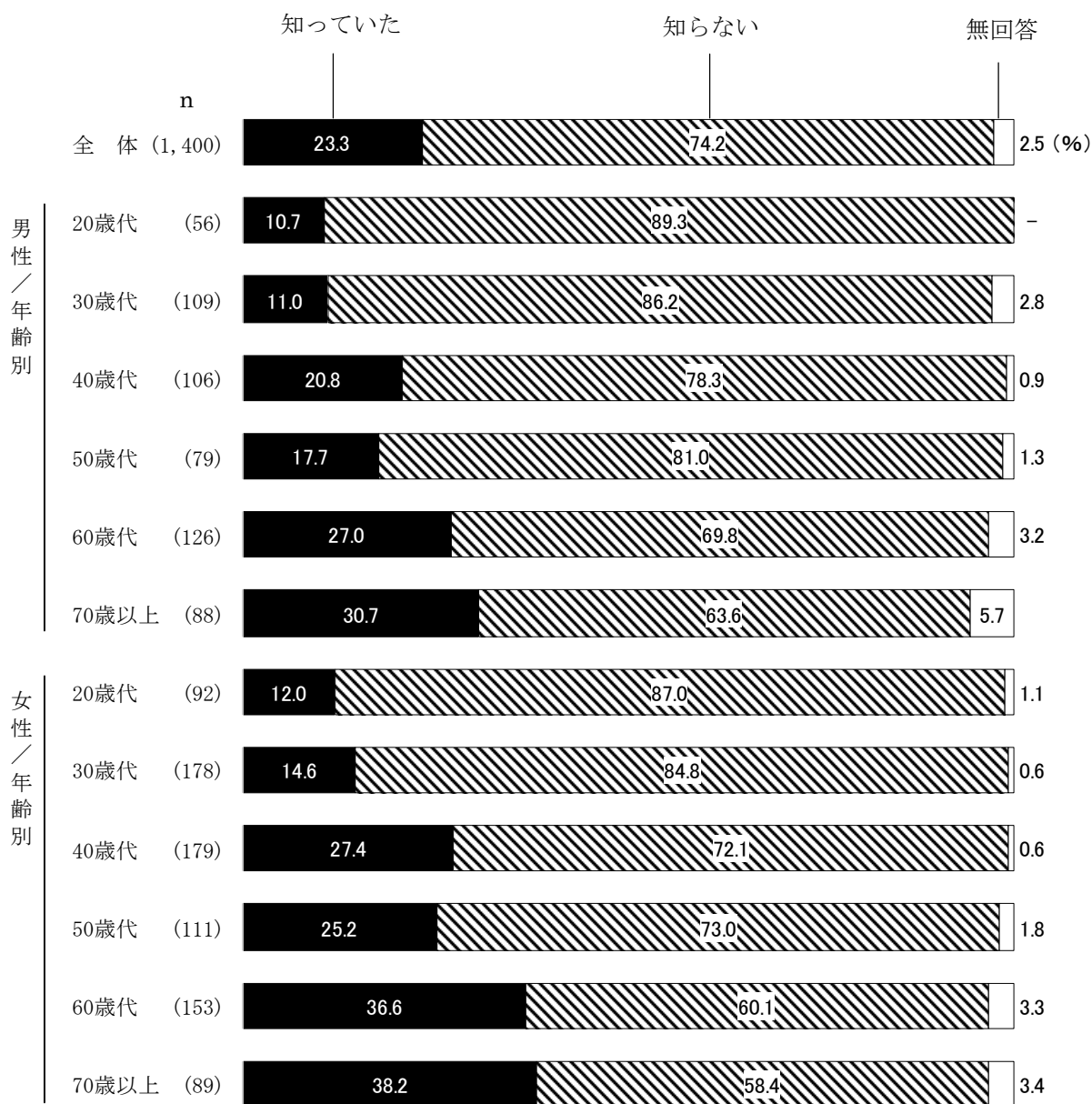
問31 川崎市では、地産地消を推進するため直売団体等を支援しています。平成20年にJAセレサ川崎が麻生区黒川地区に開設した「大型農産物直売所セレサモス」を、あなたのご存知でしたか。(〇は1つだけ)

図表8-9 「大型農産物直売所セレサモス」の認知度



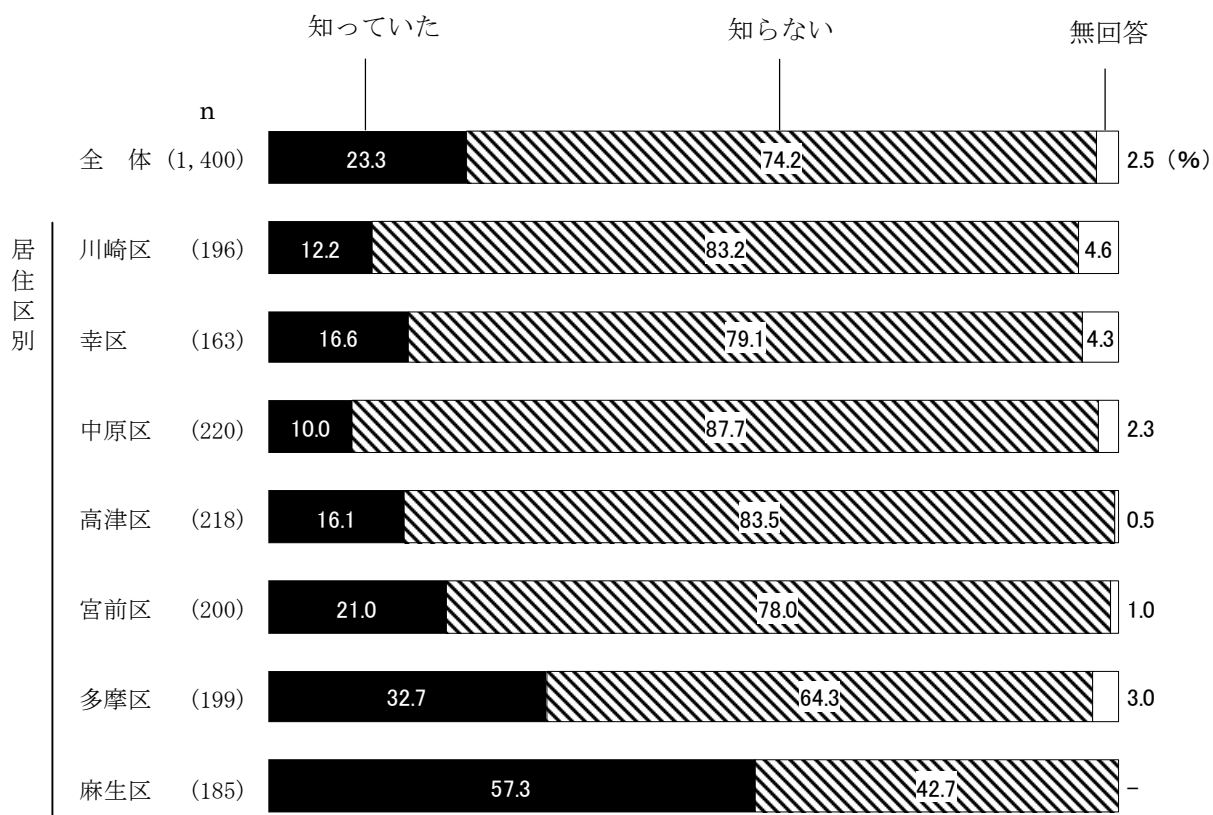
「大型農産物直売所セレサモス」の認知度については、「知っていた」が23.3%、「知らない」が74.2%となっている。(図表8-9)

図表8-10 「大型農産物直売所セレスモス」の認知度（性／年齢別）



性／年齢別では、「知っていた」は、男女ともにおおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。女性の60歳代(36.6%)・70歳以上(38.2%)で3割台後半と多くなっており、男性70歳以上(30.7%)も3割を超えている。(図表8-10)

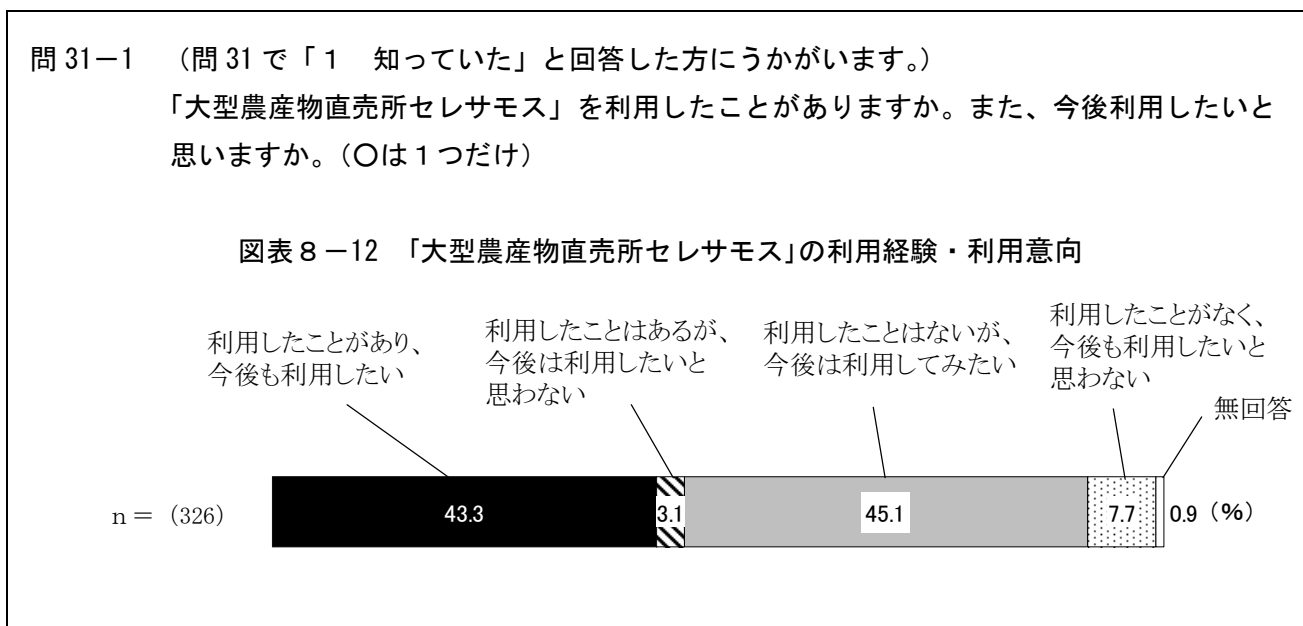
図表 8-11 「大型農産物直売所セレスモス」の認知度（居住区別）



居住区別では、「知っていた」は、麻生区（57.3%）が5割台後半と最も多くなっており、唯一「知っていた」が「知らない」を上回っている。多摩区（32.7%）は3割台、宮前区（21.0%）は2割台、その他の居住区は1割台となっている。（図表8-11）

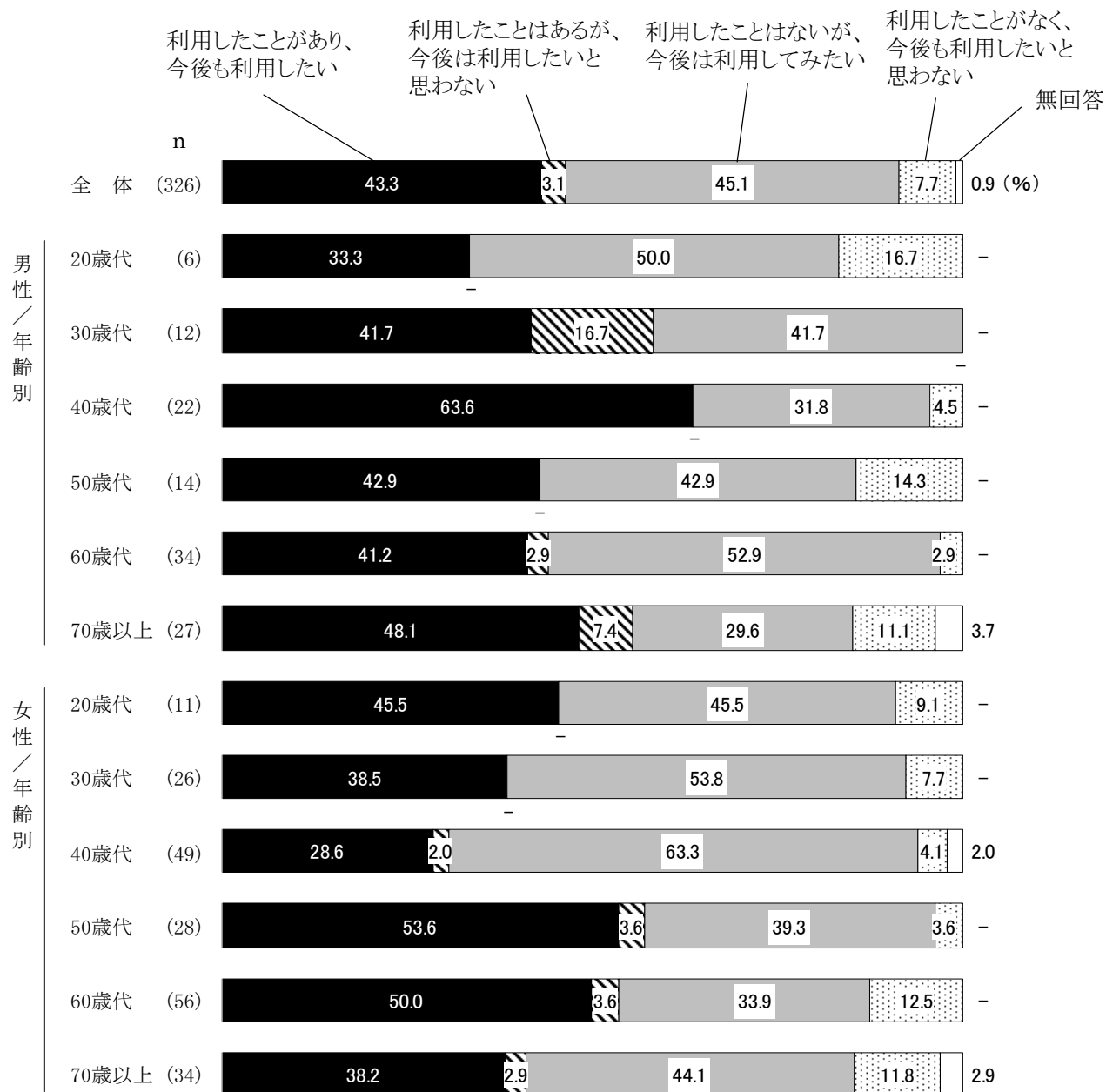
8-5 「大型農産物直売所セレスモス」の利用経験・利用意向

◎「利用したことはないが、今後は利用してみたい」が45.1%



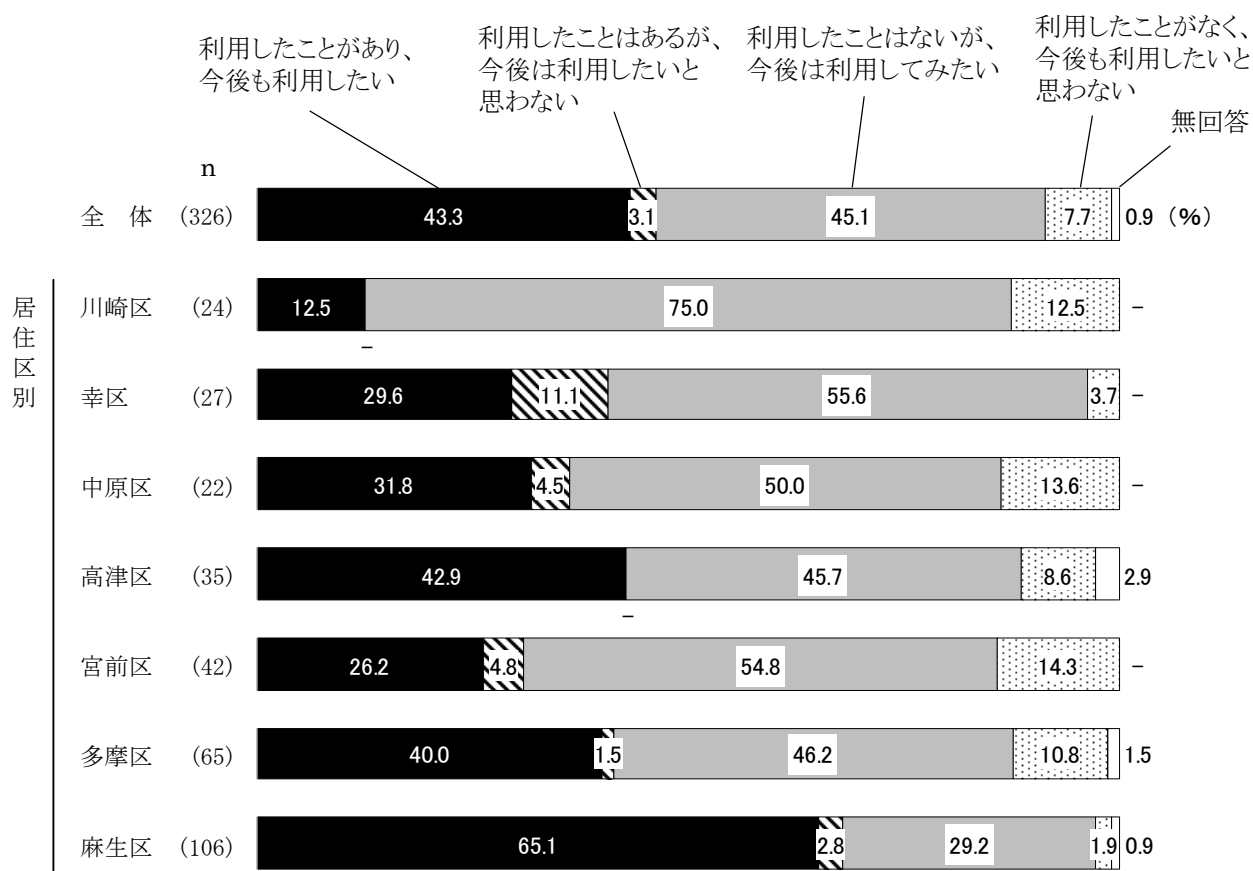
大型農産物直売所セレスモスを「知っていた」と回答した人に、その利用に関して聞いたところ、「利用したことはないが、今後は利用してみたい」が45.1%と最も多く、次いで「利用したことがあります、今後も利用したい」が43.3%となっている。「利用したことがなく、今後も利用したいと思わない」は7.7%、「利用したことはあるが、今後は利用したいと思わない」は3.1%となっている。(図表8-12)

図表8-13 「大型農産物直売所セレスモス」の利用経験・利用意向（性／年齢別）



性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表8-13)

図表8-14 「大型農産物直売所セレスモス」の利用経験・利用意向（居住区別）



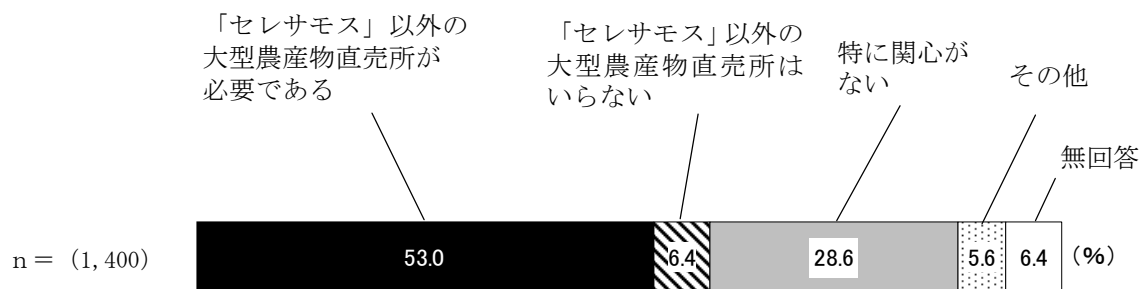
居住区別では、「利用したことがあり、今後も利用したい」は麻生区（65.1%）が6割台半ばで最も多く、次いで、高津区（42.9%）、多摩区（40.0%）となっている。「利用したことはあるが、今後は利用したいと思わない」は、幸区（11.1%）が最も多くなっている。「利用したことはないが、今後は利用してみたい」は、川崎区（75.0%）が最も多くなっている。（図表8-14）

8-6 大型農産物直売所の必要性について

◎ 「「セレスモス」以外の大型農産物直売所が必要である」が53.0%

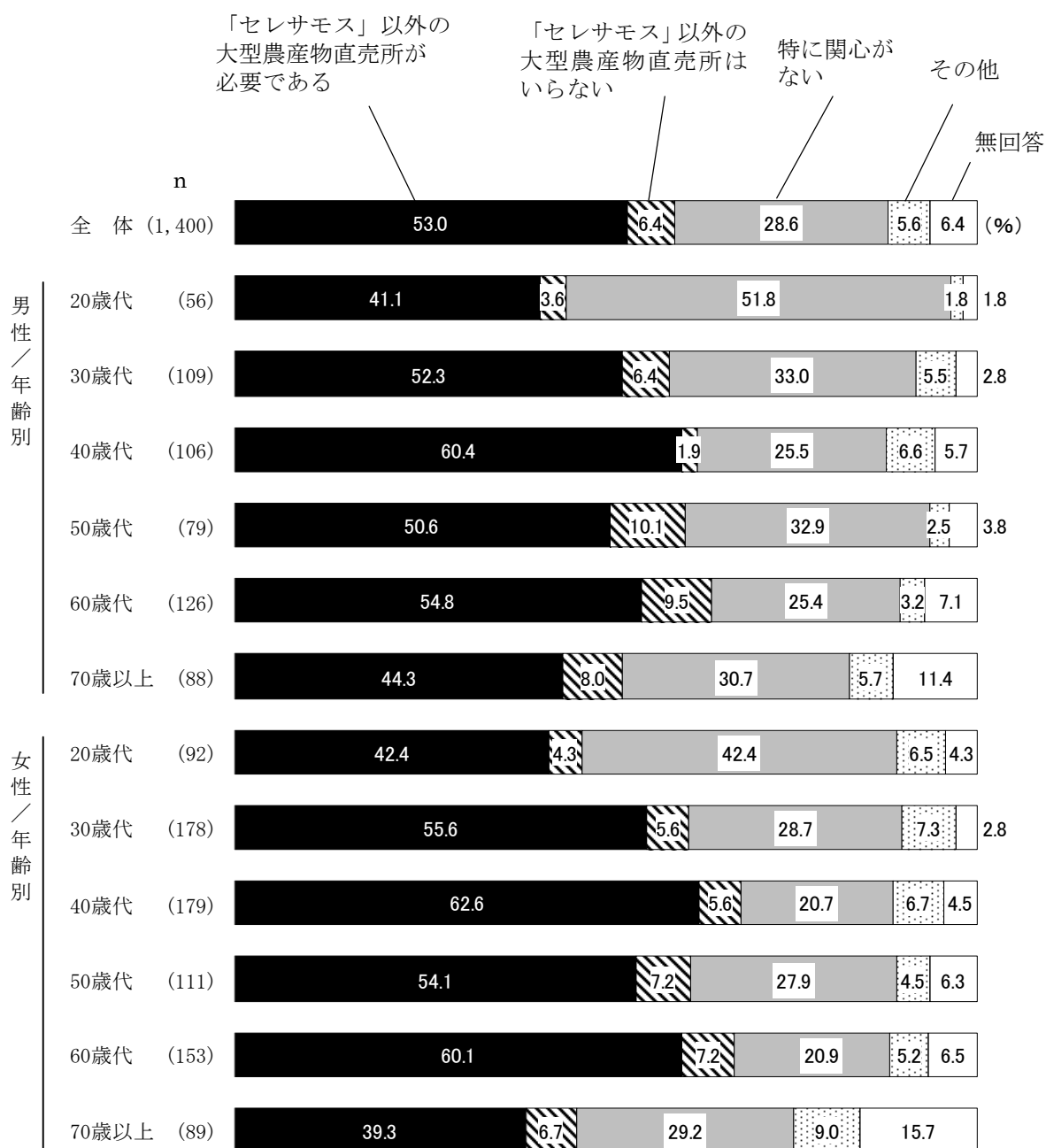
問 32 大型農産物直売所の必要性について、あなたのお考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

図表 8-15 大型農産物直売所の必要性について



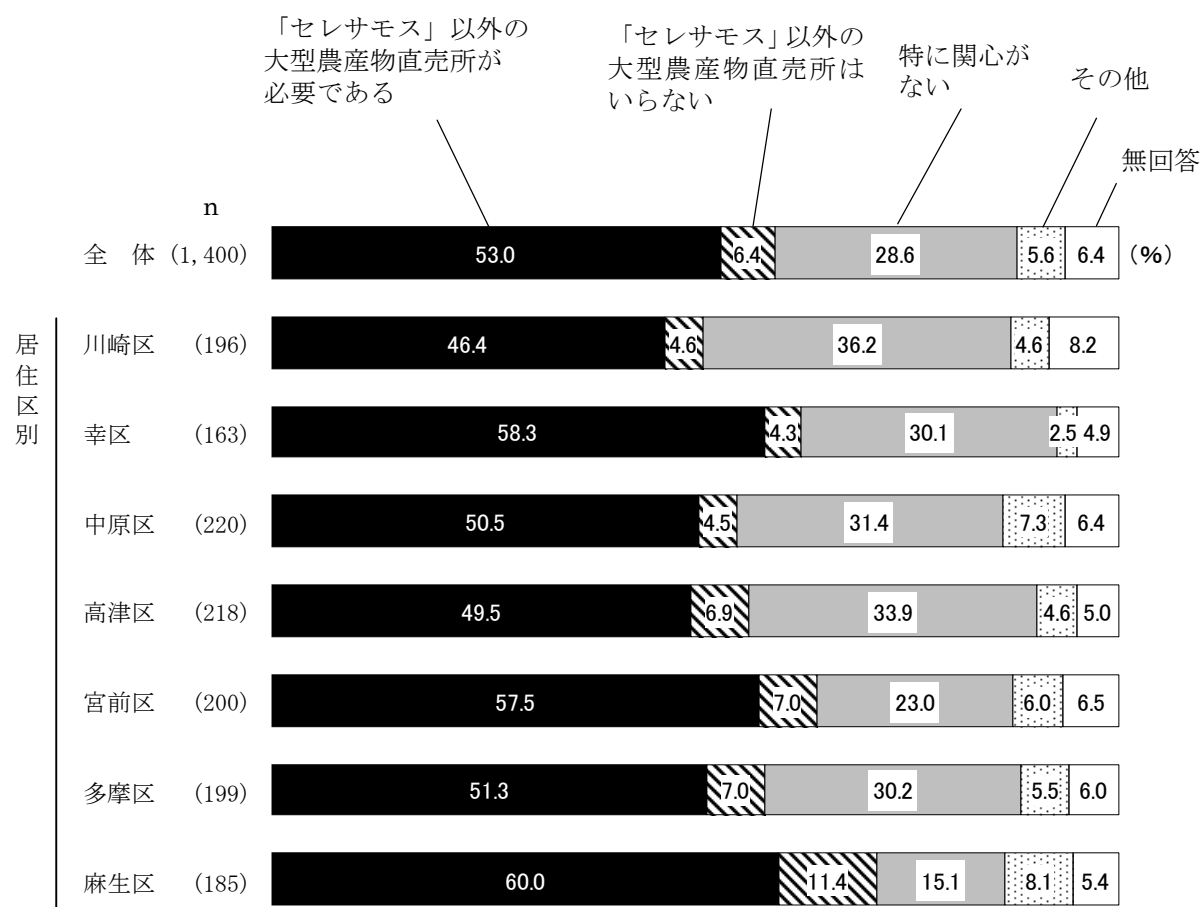
大型農産物直売所の必要性については、「「セレスモス」以外の大型農産物直売所が必要である」(53.0%)が5割を超えている。一方、「「セレスモス」以外の大型農産物直売所はない」は6.4%、「特に興味がない」は28.6%となっている。(図表8-15)

図表8-16 大型農産物直売所の必要性について(性/年齢別)



性/年齢別では、「「セレスモス」以外の大型農産物直売所が必要である」は、男女ともに40歳代が最も多くなっている。その他の年代もおおむね男女で同じ傾向がみられ、20歳代と70歳以上が4割前後と少なくなっている。(図表8-16)

図表8-17 大型農産物直売所の必要性について（居住区別）



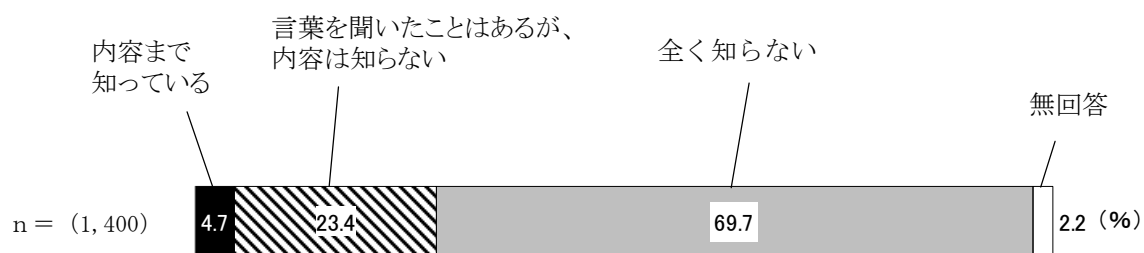
居住区別では、「セレスモス」以外の大型農産物直売所が必要である」は、麻生区（60.0%）が6割で最も多くなっているものの、「セレスモス」以外の大型農産物直売所はいらぬ」も11.4%と他の区に比べ多くなっている。また、「特に関心がない」（15.1%）は最も少なくなっている。なお、「セレスモス」以外の大型農産物直売所が必要である」は麻生区に次いで幸区（58.3%）、宮前区（57.5%）が5割台後半と多くなっている。一方、川崎区（46.4%）では4割台と最も少なくなっている。（図表8-17）

8-7 「かわさきそだち」の認知度

◎「全く知らない」が69.7%

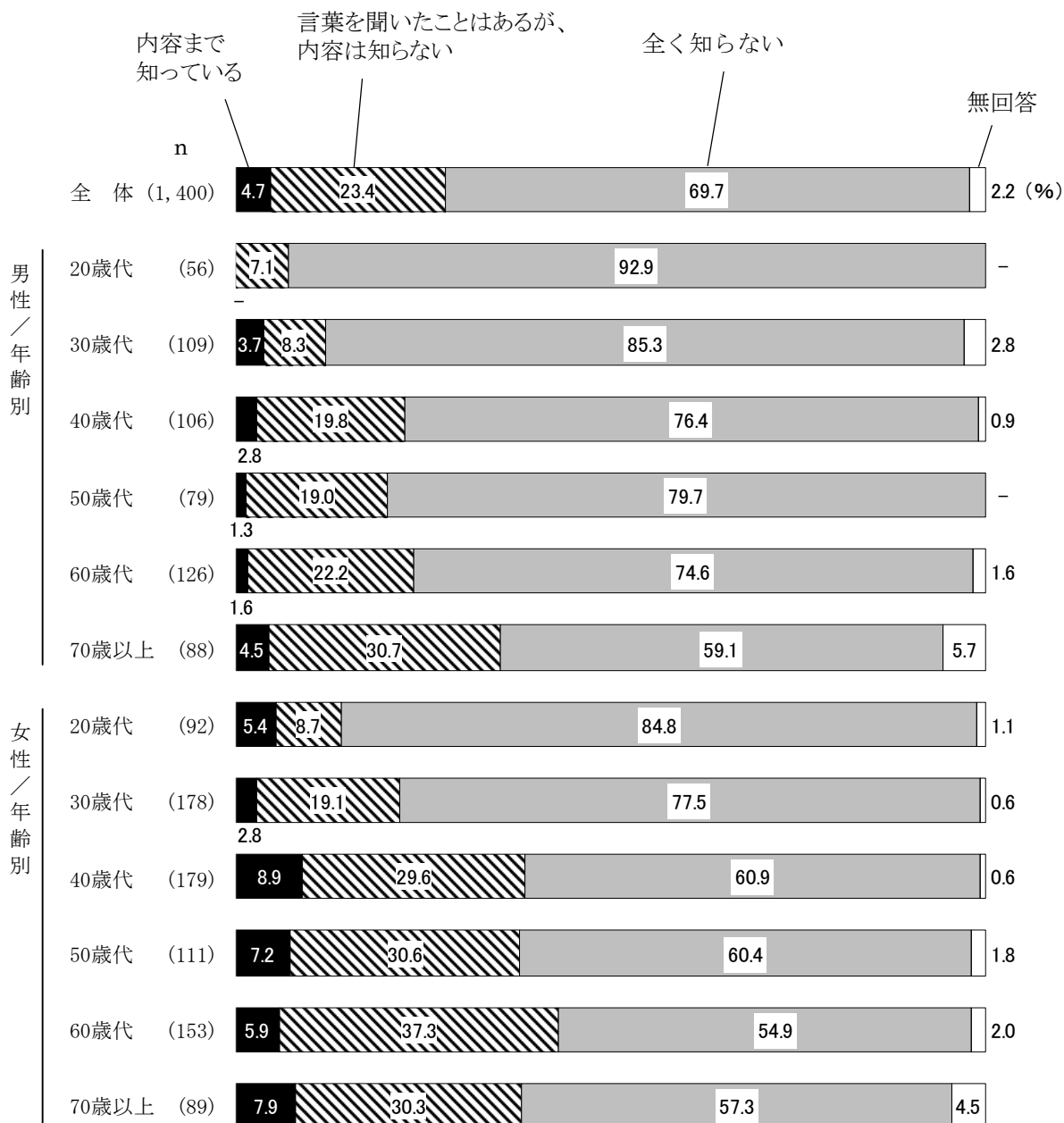
問33 あなたは、市内産農産物を多くの方に知ってもらうために作られた「かわさきそだち」というブランドを知っていますか。(〇は1つだけ)

図表8-18 「かわさきそだち」の認知度



「かわさきそだち」の認知度については、「内容まで知っている」は4.7%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」は23.4%、「全く知らない」は69.7%となっている。(図表8-18)

図表8-19 「かわさきそだち」の認知度(性/年齢別)



性/年齢別では、おおむね男性よりも女性の方が認知度が高い傾向となっており、「内容まで知っている」は女性40歳代が8.9%で最も多くなっている。「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」は、女性60代(37.3%)が3割台後半で最も多く、女性40~50歳代・70歳以上と男性70歳以上もほぼ3割と比較的多くなっている。「全く知らない」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。(図表8-19)

8-8 市民農園、農家への援農、家庭菜園などを行ってみたいか

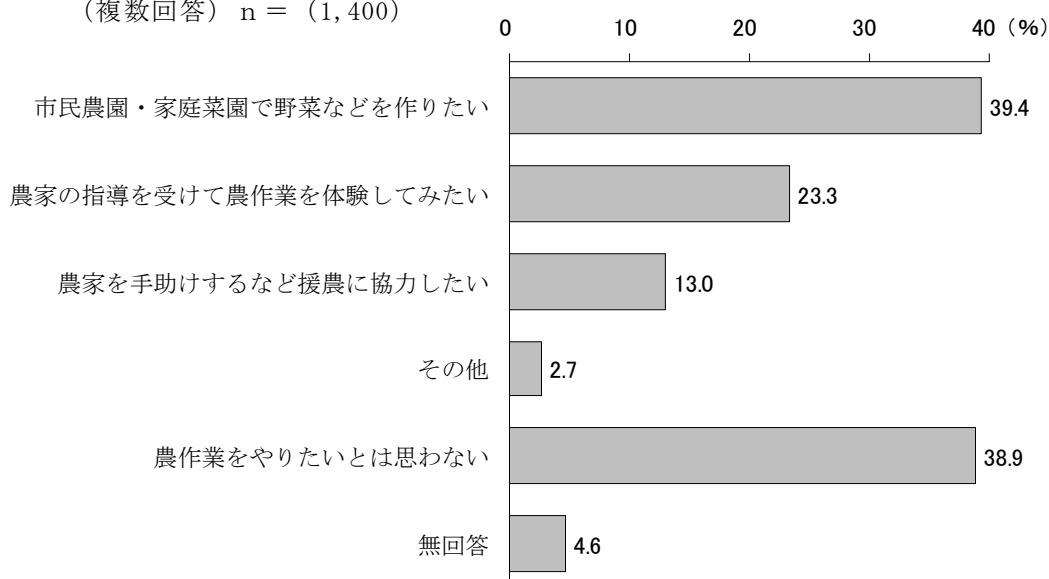
◎「市民農園・家庭菜園で野菜などを作りたい」が39.4%

問34 レクリエーションや健康増進などのため、市民農園、農家への援農※、家庭菜園などを行ってみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

※「援農」とは、農家の農作業を手伝うことで農家を支援することです。

図表8-20 市民農園、農家への援農、家庭菜園などを行ってみたいか

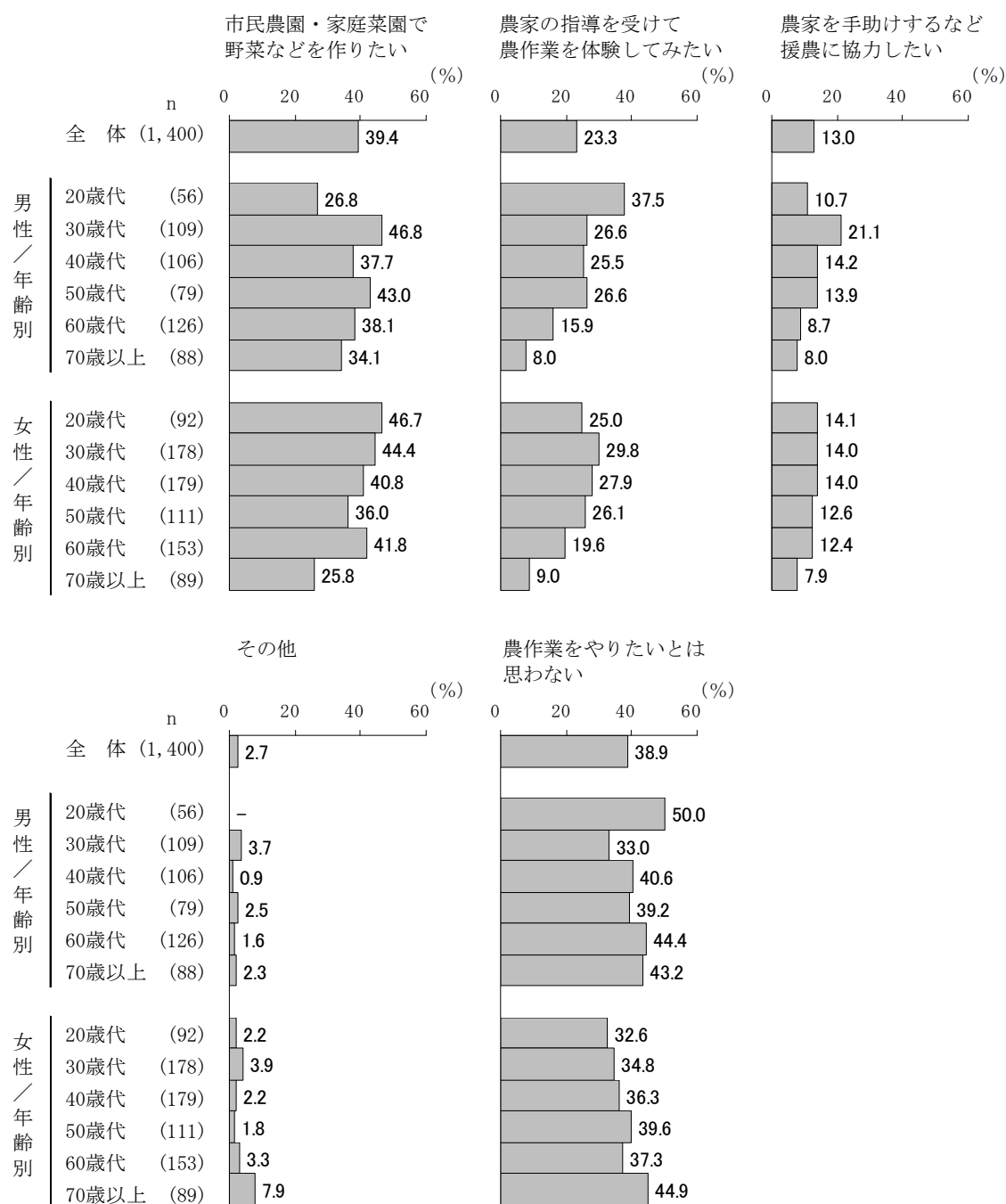
(複数回答) n = (1,400)



市民農園、農家への援農、家庭菜園などを行ってみたいか聞いたところ、「市民農園・家庭菜園で野菜などを作りたい」が39.4%、「農家の指導を受けて農作業を体験してみたい」が23.3%、「農家を手助けするなど援農に協力したい」が13.0%となっている。

一方、「農作業をやりたいとは思わない」は38.9%となっている。(図表8-20)

図表 8-21 市民農園、農家への援農、家庭菜園などを行ってみたいか（性／年齢別）



性／年齢別では、「市民農園・家庭菜園で野菜などを作りたい」は男性30歳代(46.8%)・女性20歳代(46.7%)が多くなっている一方、男性20歳代(26.8%)・女性70歳以上(25.8%)は少なくなっている。「農家の指導を受けて農作業を体験してみたい」は、男性では20歳代(37.5%)、女性では30歳代(29.8%)が最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。「農家を手助けするなど援農に協力したい」は、男性30歳代(21.1%)が最も多くなっている。一方、「農作業をやりたいとは思わない」は、男性20歳代(50.0%)が最も多く、男性60歳代(44.4%)・70歳以上(43.2%)、女性70歳以上(44.9%)も比較的多くなっている。(図表8-21)

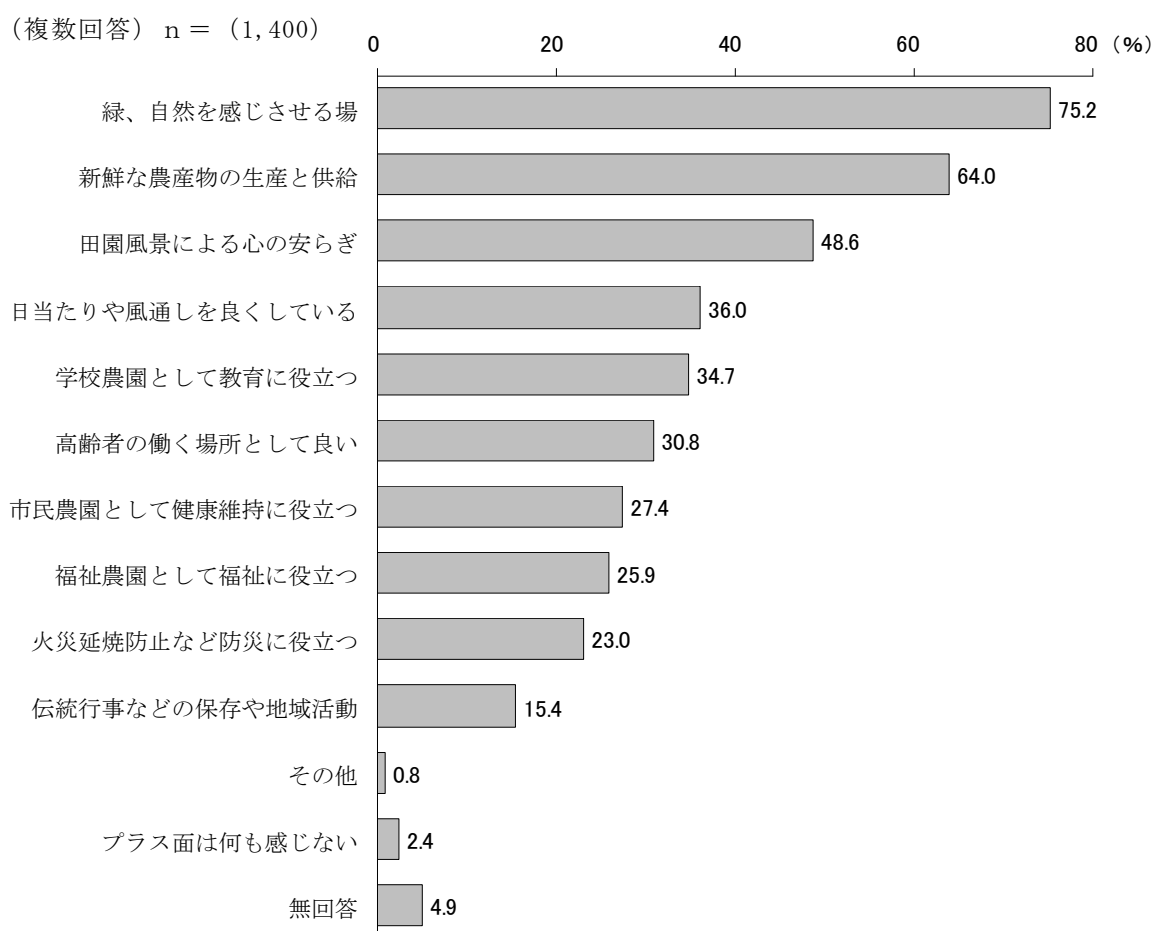
8-9 市内の農地についてのプラス面・マイナス面

◎プラス面「緑、自然を感じさせる場」が75.2%、マイナス面「夜になると暗い場所となる」が38.5%

問35 市内の農地について、どのようなプラス面やマイナス面を感じていますか。

プラス面・マイナス面、それぞれについて、いくつでもお選びください。(あてはまるものすべてに○)

図表8-22 市内の農地についてのプラス面

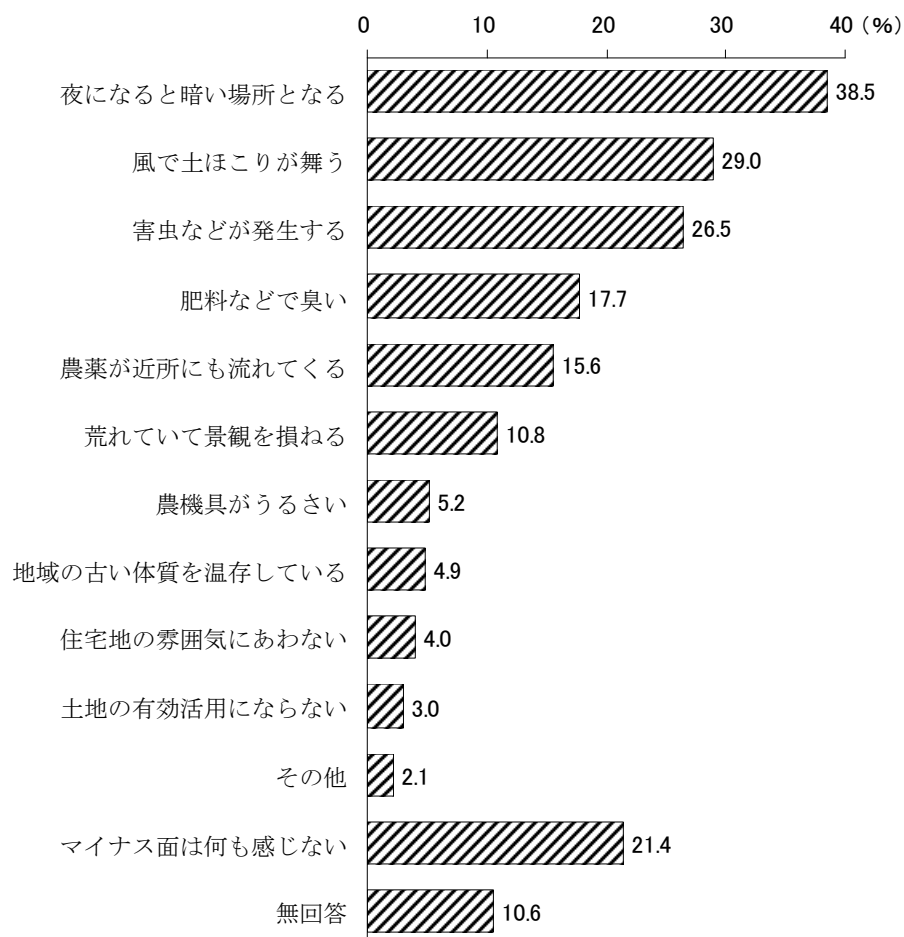


市内の農地について感じているプラス面については、「緑、自然を感じさせる場」(75.2%)が7割台半ばで最も多く、次いで「新鮮な農産物の生産と供給」(64.0%)となっている。以下、「田園風景による心の安らぎ」(48.6%)、「日当たりや風通しを良くしている」(36.0%)、「学校農園として教育に役立つ」(34.7%)と続いている。

なお、「プラス面は何も感じない」(2.4%)は、わずかとなっている。(図表8-22)

図表8-23 市内の農地についてのマイナス面

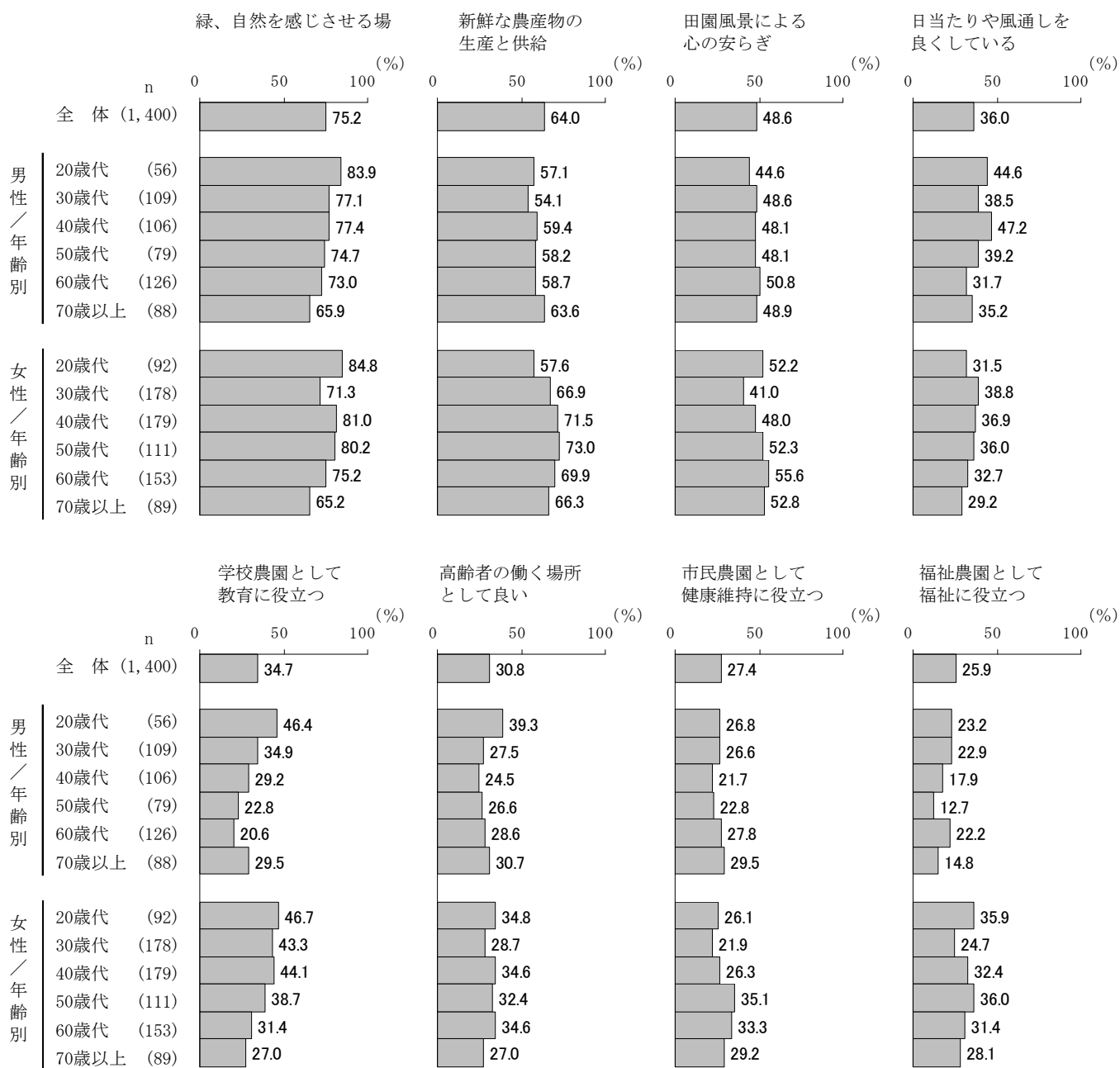
(複数回答) n = (1,400)



市内の農地について感じているマイナス面については、「夜になると暗い場所となる」(38.5%)が3割台後半で最も多くなっている。次いで、「風で土ほこりが舞う」(29.0%)、「害虫などが発生する」(26.5%)、「肥料などで臭い」(17.7%)の順となっている。

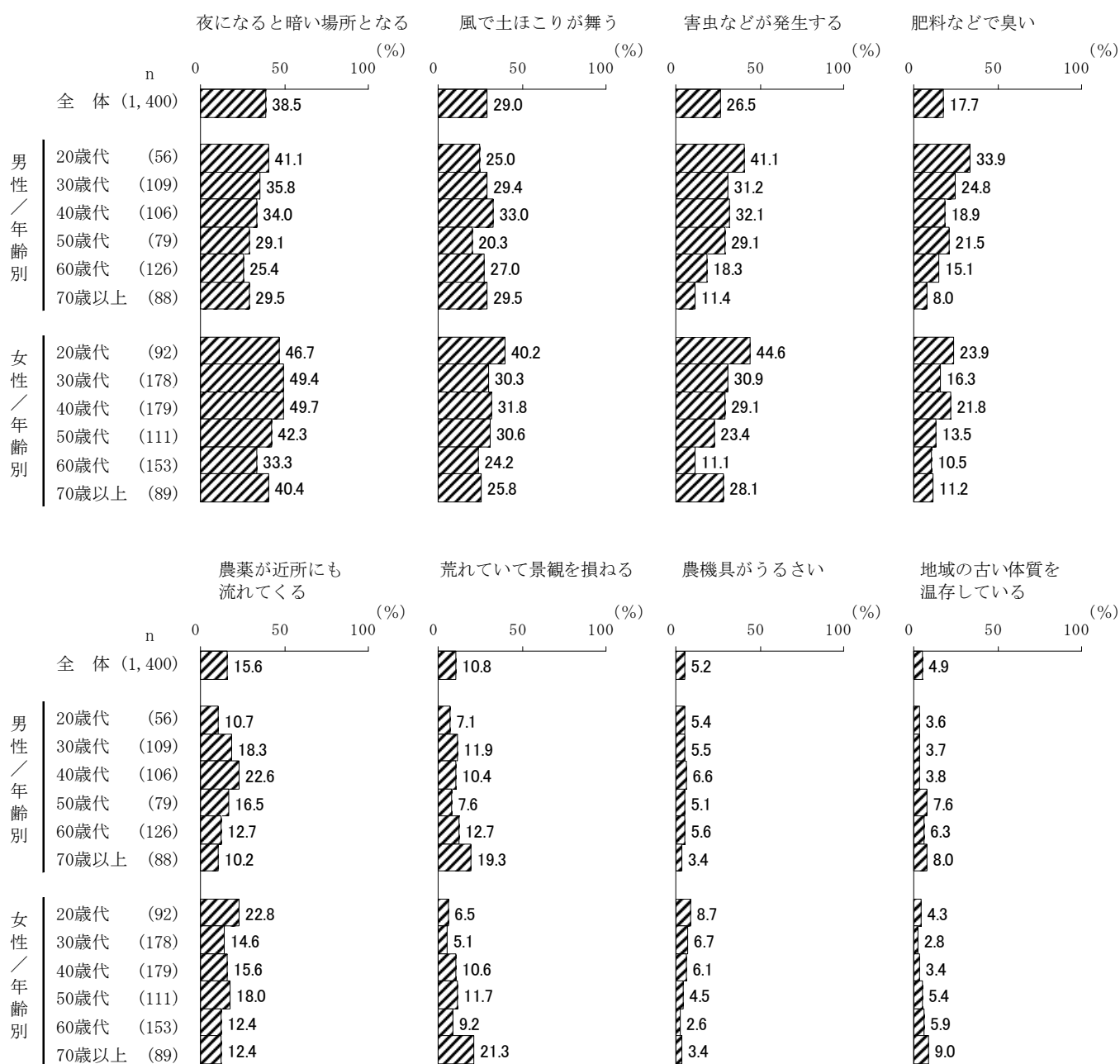
なお、マイナス面の項目は、全体的にプラス面の項目よりも割合が少なくなっている。「マイナス面は何も感じない」(21.4%)は2割台前半となっており、「プラス面は何も感じない」(2.4%)を大きく上回っている。(図表8-23)

図表8-24 市内の農地についてのプラス面 (性/年齢別)



市内の農地について感じているプラス面について、性/年齢別では、「緑、自然を感じさせる場」は男女ともに20歳代が最も多くなっている。「新鮮な農産物の生産と供給」は、女性40～50歳代が7割を超え多くなっている。「田園風景による心の安らぎ」は、女性60歳代(55.6%)が最も多くなっている。「日当たりや風通しを良くしている」は、男性40歳代(47.2%)が最も多くなっている。(図表8-24)

図表8-25 市内の農地についてのマイナス面（性／年齢別）



市内の農地について感じているマイナス面について、性／年齢別では、「夜になると暗い場所となる」は女性 20～40 歳代が 4 割台後半と多くなっている。「風で土ほこりが舞う」は、女性 20 歳代 (40.2%) が 4 割を超え最も多くなっている。「害虫などが発生する」「肥料などで臭い」は、男女ともに 20 歳代が最も多く、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表 8-25)

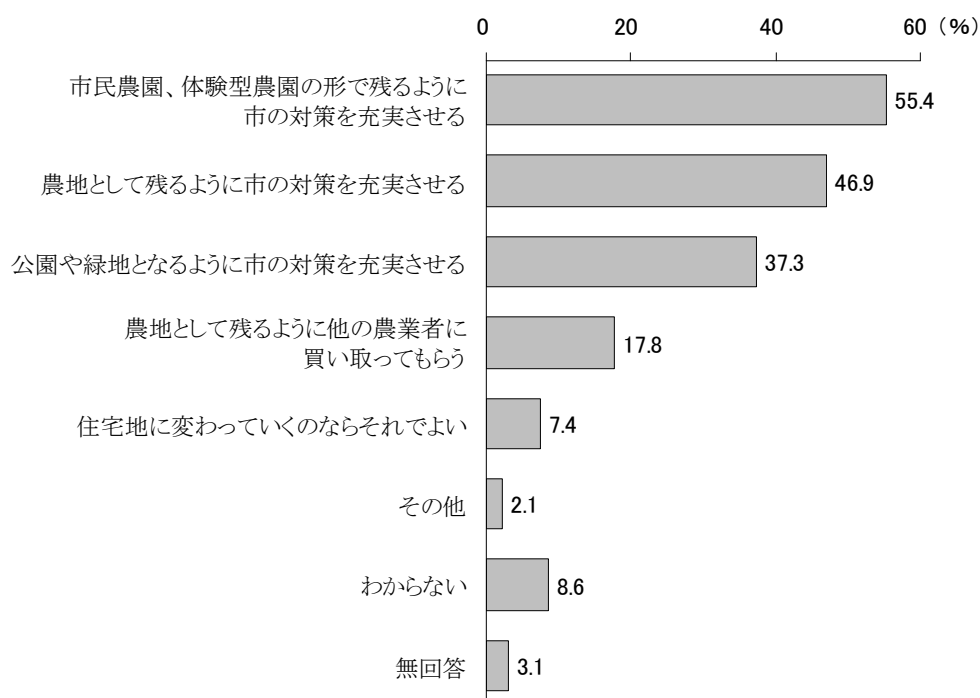
8-10 市街化区域の農地減少について、今後どのようにしたら良いか

◎「市民農園、体験型農園の形で残るように市の対策を充実させる」が55.4%

問36 市内の農地は現在も減少し続けています。特に市街化区域の中にある農地の減少が進んでいます。今後、市街化区域内の農地をどのようにしたら良いと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

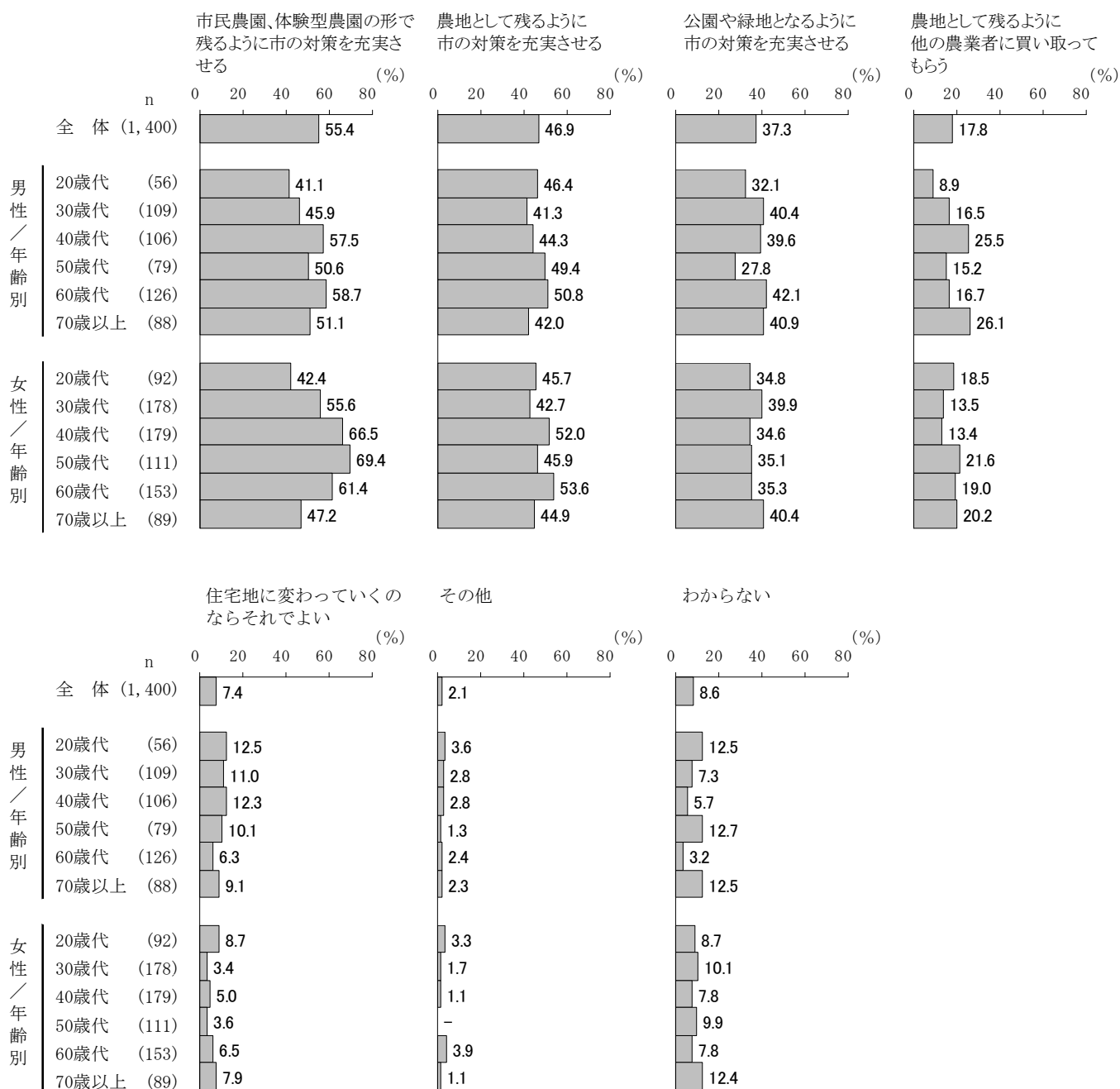
図表8-26 市街化区域の農地減少について、今後どのようにしたら良いか

(複数回答) n = (1,400)



市街化区域の農地減少について、今後どのようにしたら良いと思うか聞いたところ、「市民農園、体験型農園の形で残るように市の対策を充実させる」(55.4%)が5割台半ばで最も多くなっている。次いで、「農地として残るように市の対策を充実させる」(46.9%)、「公園や緑地となるように市の対策を充実させる」(37.3%)、「農地として残るように他の農業者に買い取ってもらう」(17.8%)の順となっている。(図表8-26)

図表8-27 市街化区域の農地減少について、今後どのようにしたら良いか（性／年齢別）



性／年齢別では、「市民農園、体験型農園の形で残るように市の対策を充実させる」は、女性40～50歳代が6割後半で多くなっている。「農地として残るように市の対策を充実させる」は、女性60歳代(53.6%)が最も多くなっている。「公園や緑地となるように市の対策を充実させる」は、男性60歳代(42.1%)が最も多くなっている。「農地として残るように他の農業者に買い取ってもらう」は、男性40歳代(25.5%)・70歳以上(26.1%)が2割台半ばと多くなっている。(図表8-27)

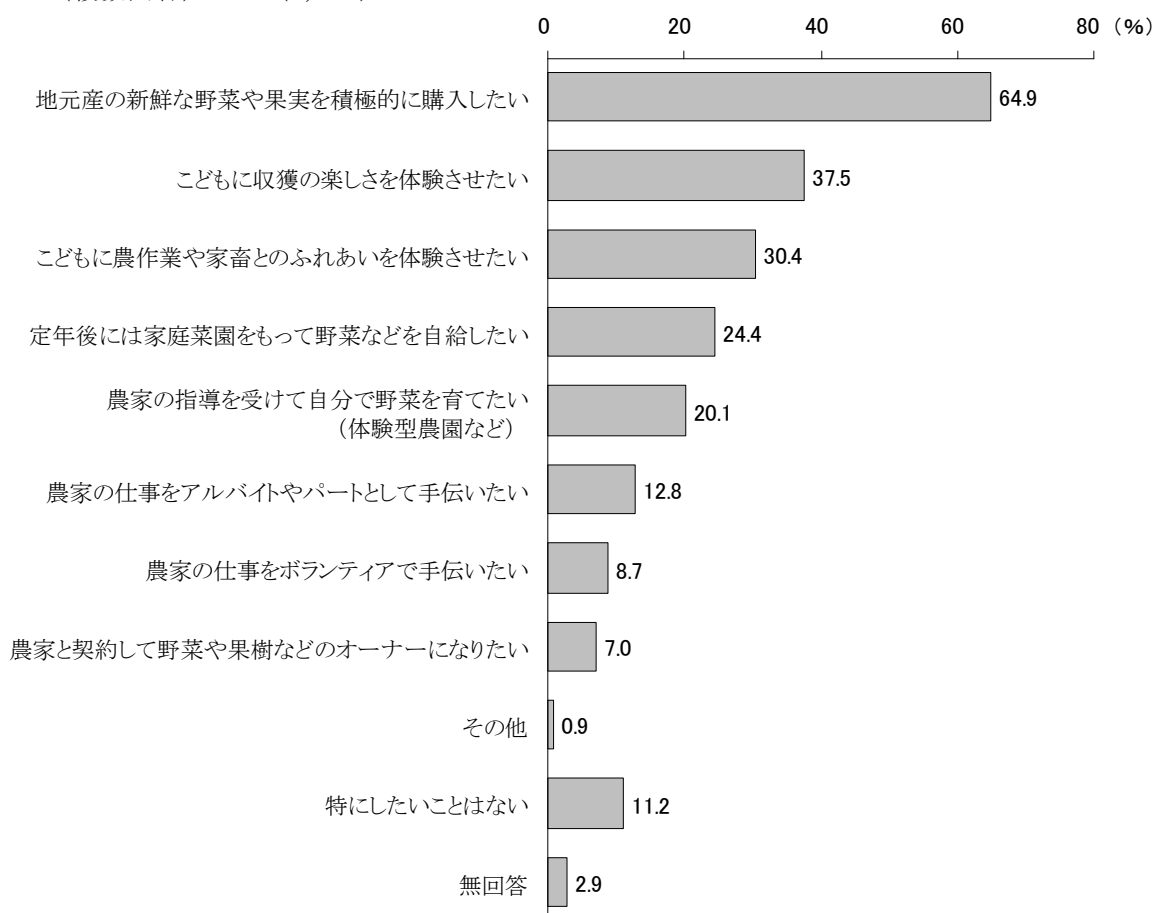
8-11 自分の暮らしの中に「農」を取り入れるなら

◎「地元産の新鮮な野菜や果実を積極的に購入したい」が64.9%

問37 自分の暮らしの中に「農」を取り入れる場合、あなたはどのようなことをしたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

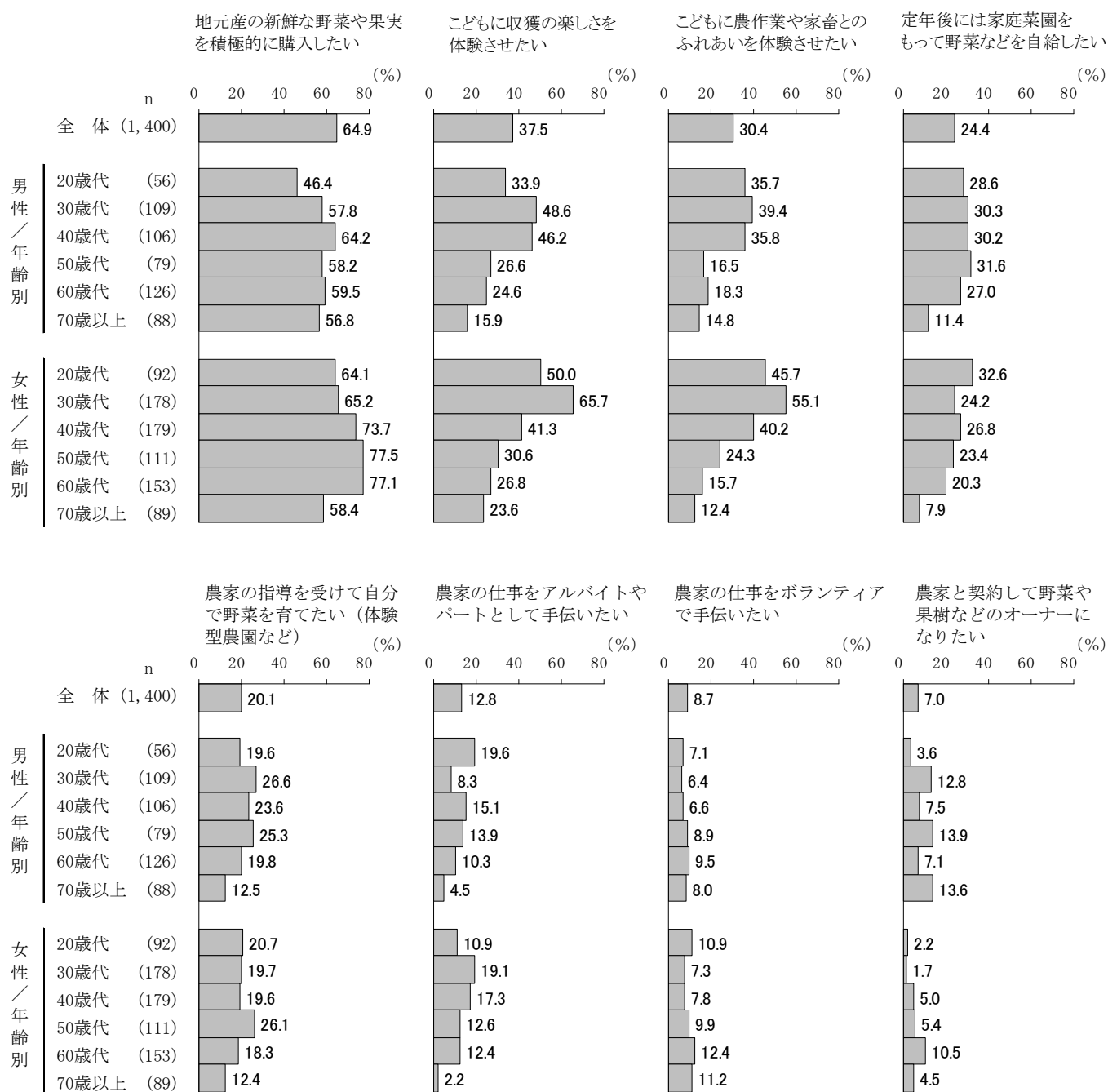
図表8-28 自分の暮らしの中に「農」を取り入れるなら

(複数回答) n = (1,400)



自分の暮らしの中に「農」を取り入れる場合、どのようなことをしたいか聞いたところ、「地元産の新鮮な野菜や果実を積極的に購入したい」(64.9%)が6割台半ばと最も多くなっている。次いで、「こどもに収穫の楽しさを体験させたい」(37.5%)、「こどもに農作業や家畜とのふれあいを体験させたい」(30.4%)、「定年後には家庭菜園をもって野菜などを自給したい」(24.4%)の順となっている。(図表8-28)

図表8-29 自分の暮らしの中に「農」を取り入れるなら（性／年齢別）



性／年齢別では、「地元産の新鮮な野菜や果実を積極的に購入したい」は、女性40～60歳代が7割を超え多くなっている。「こどもに収穫の楽しさを体験させたい」「こどもに農作業や家畜とのふれあいを体験させたい」は、それぞれ女性30歳代が最も多くなっている。「定年後には家庭菜園をもって野菜などを自給したい」は、女性20歳代（32.6%）が最も多く、男性30～50歳代も3割を超え多くなっている。（図表8-29）

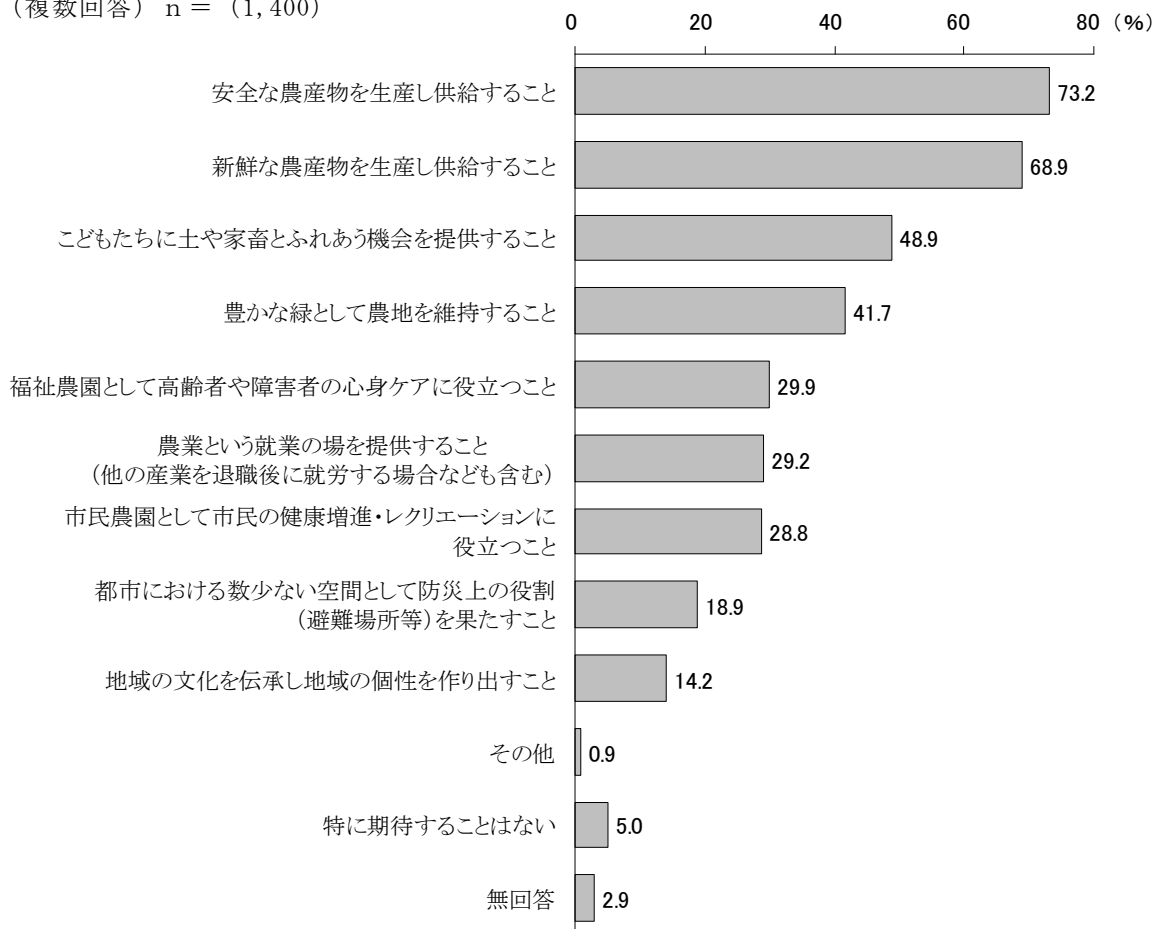
8-12 かわさきの農業に期待すること

◎「安全な農産物を生産し供給すること」が73.2%

問38 かわさきの農業に何を期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

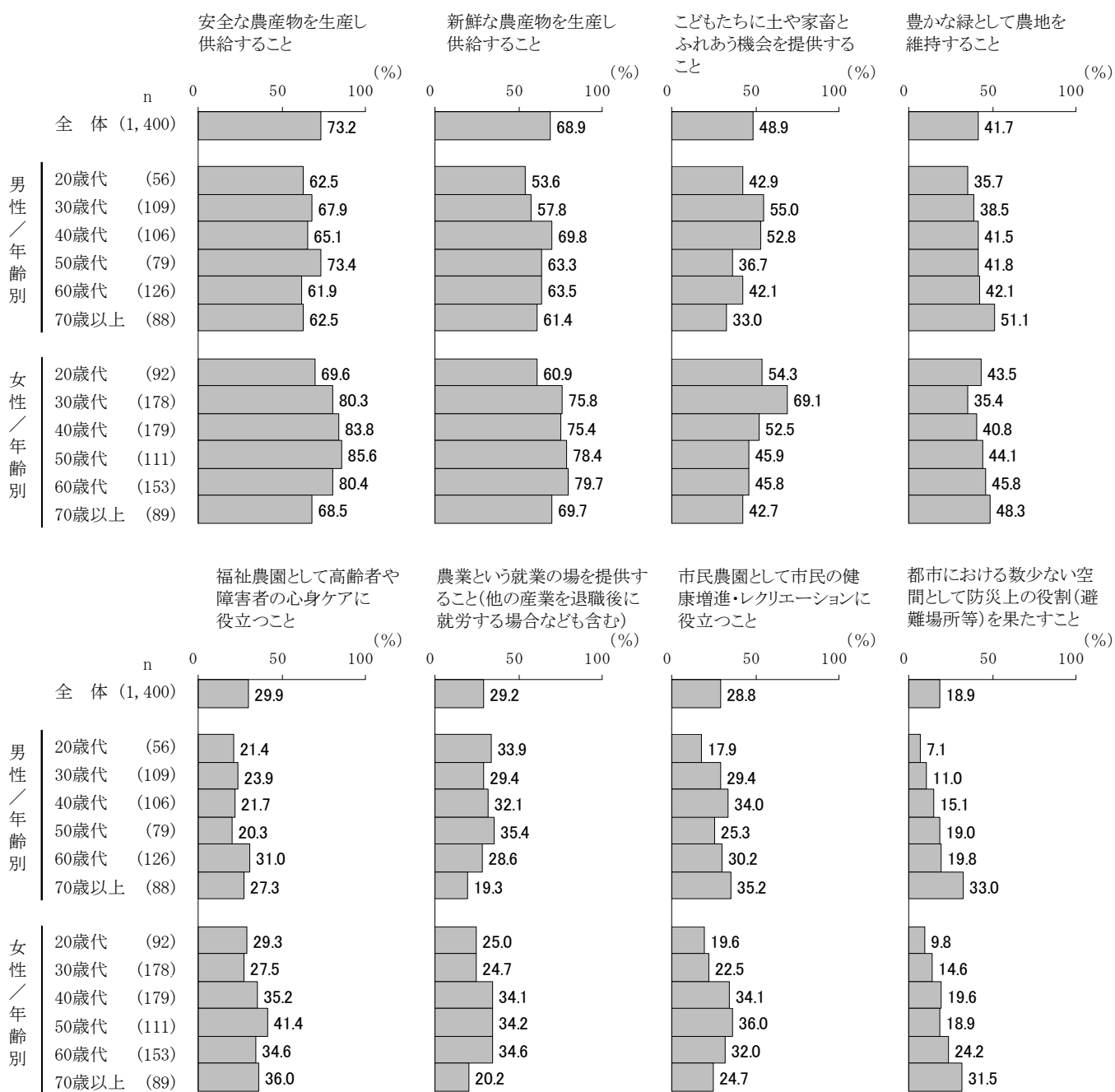
図表8-30 かわさきの農業に期待すること

(複数回答) n = (1,400)



かわさきの農業に期待することについては、「安全な農産物を生産し供給すること」(73.2%)が7割を超え最も多く、次いで「新鮮な農産物を生産し供給すること」(68.9%)となっている。以下、「子どもたちに土や家畜とふれあう機会を提供すること」(48.9%)、「豊かな緑として農地を維持すること」(41.7%)が4割台、「福祉農園として高齢者や障害者の心身ケアに役立つこと」(29.9%)、「農業という就業の場を提供すること(他の産業を退職後に就労する場合なども含む)」(29.2%)、「市民農園として市民の健康増進・レクリエーションに役立つこと」(28.8%)が3割弱で続いている。(図表8-30)

図表8-31 かわさきの農業に期待すること (性/年齢別)



性/年齢別では、「安全な農産物を生産し供給すること」「新鮮な農産物を生産し供給すること」は、それぞれ女性30～60歳代が多くなっている。「子どもたちに土や家畜とふれあう機会を提供すること」は、女性30歳代(69.1%)が最も多くなっている。「豊かな緑として農地を維持すること」は、男性70歳以上(51.1%)が最も多くなっている。(図表8-31)

9 住まいの良質化に向けた取組について

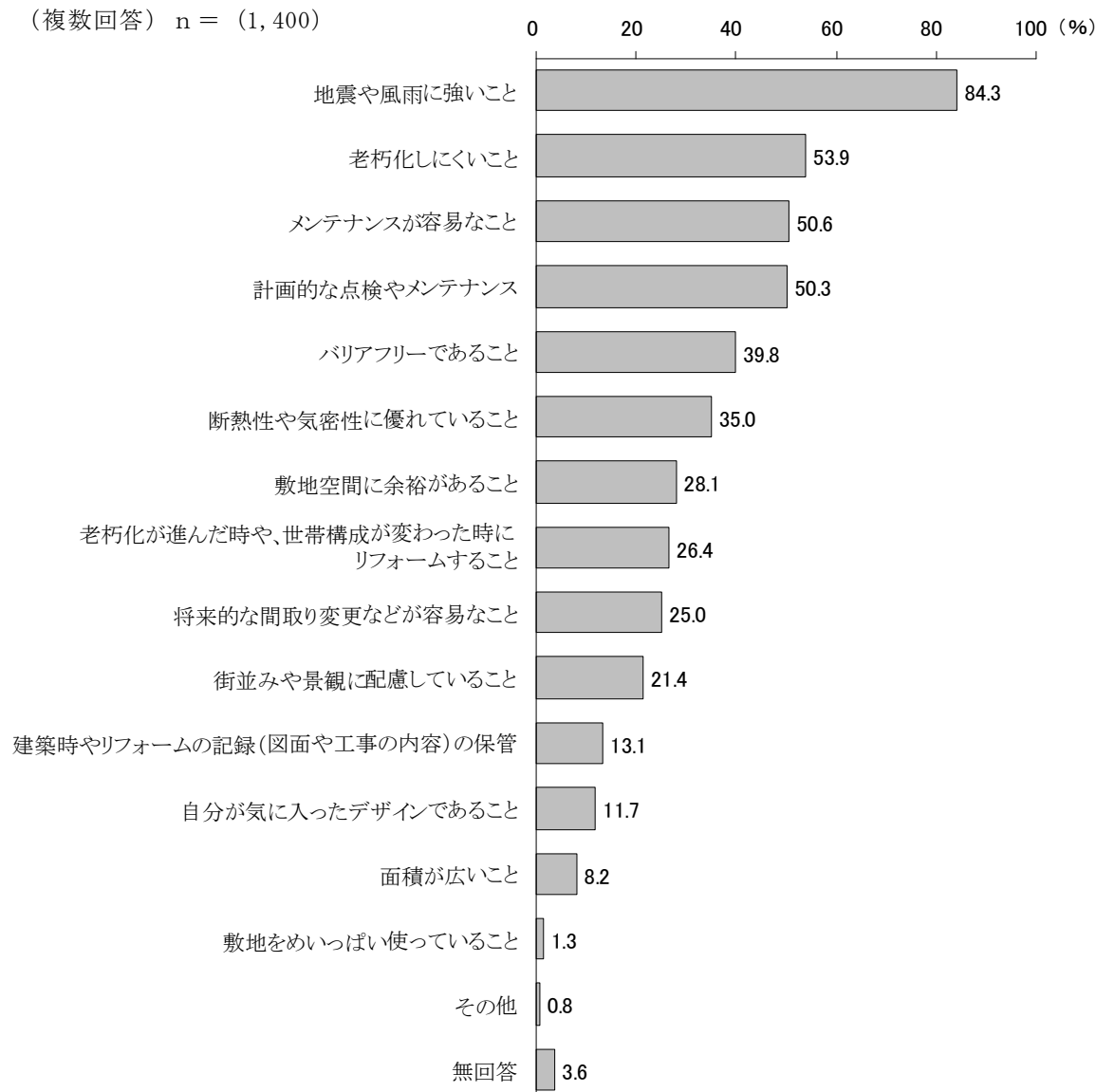
9-1 住宅を長く使い続けるために重要だと思うこと

◎「地震や風雨に強いこと」が84.3%

問 39 住宅を長く使い続けるためにはどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思われるものを5つまでお選びください。(あてはまるもの5つまでに○)

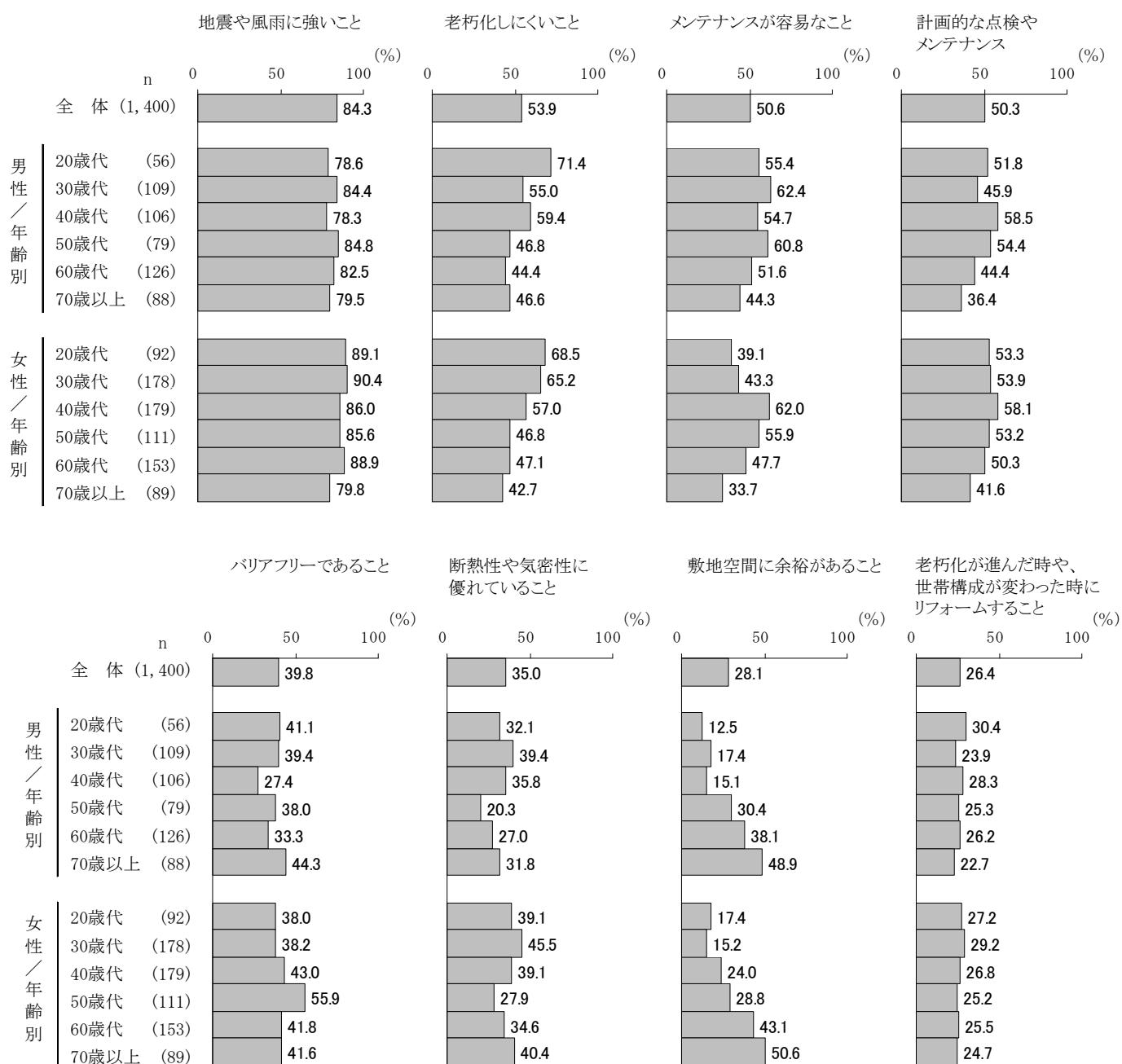
図表9-1 住宅を長く使い続けるために重要だと思うこと

(複数回答) n = (1,400)



住宅を長く使い続けるために重要だと思うことについては、「地震や風雨に強いこと」(84.3%)が8割を超え最も多くなっている。次いで、「老朽化しにくいこと」(53.9%)、「メンテナンスが容易なこと」(50.6%)、「計画的な点検やメンテナンス」(50.3%)が5割台で続いている。(図表9-1)

図表9-2 住宅を長く使い続けるために重要だと思うこと（性／年齢別、上位8項目）

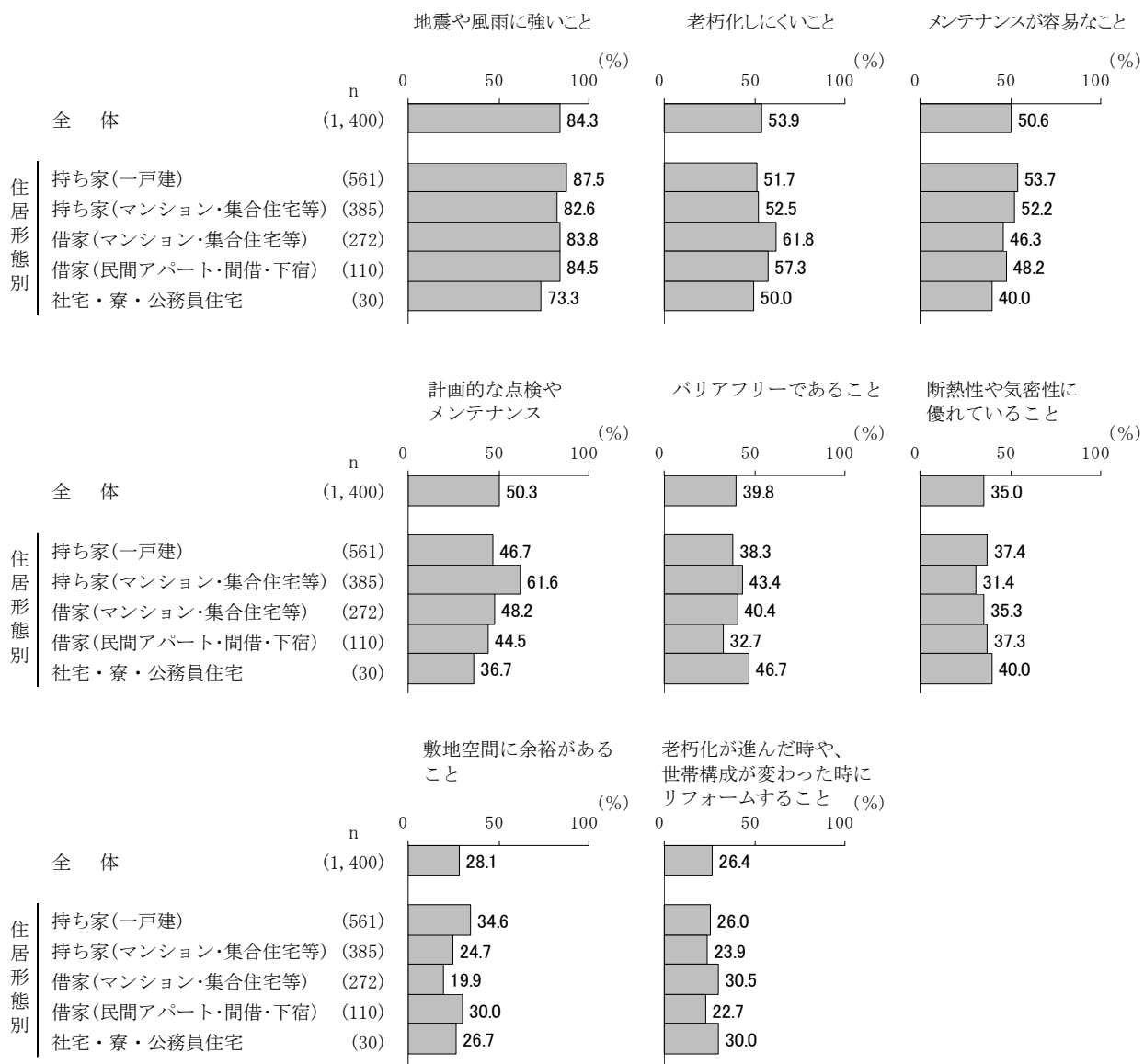


性／年齢別では、「地震や風雨に強いこと」は、女性30歳代（90.4%）が9割を超え最も多く、すべての年代で男性よりも女性の方が多くなっている。「老朽化しにくいこと」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。「メンテナンスが容易なこと」は、男性では30歳代（62.4%）、女性では40歳代（62.0%）が最も多くなっている。（図表9-2）

(第2回アンケート)

図表9-3 住宅を長く使い続けるために重要だと思うこと(住居形態別※、上位8項目)

※「借家(一戸建て)」「その他」は基数が少ないため、図表から除いている。



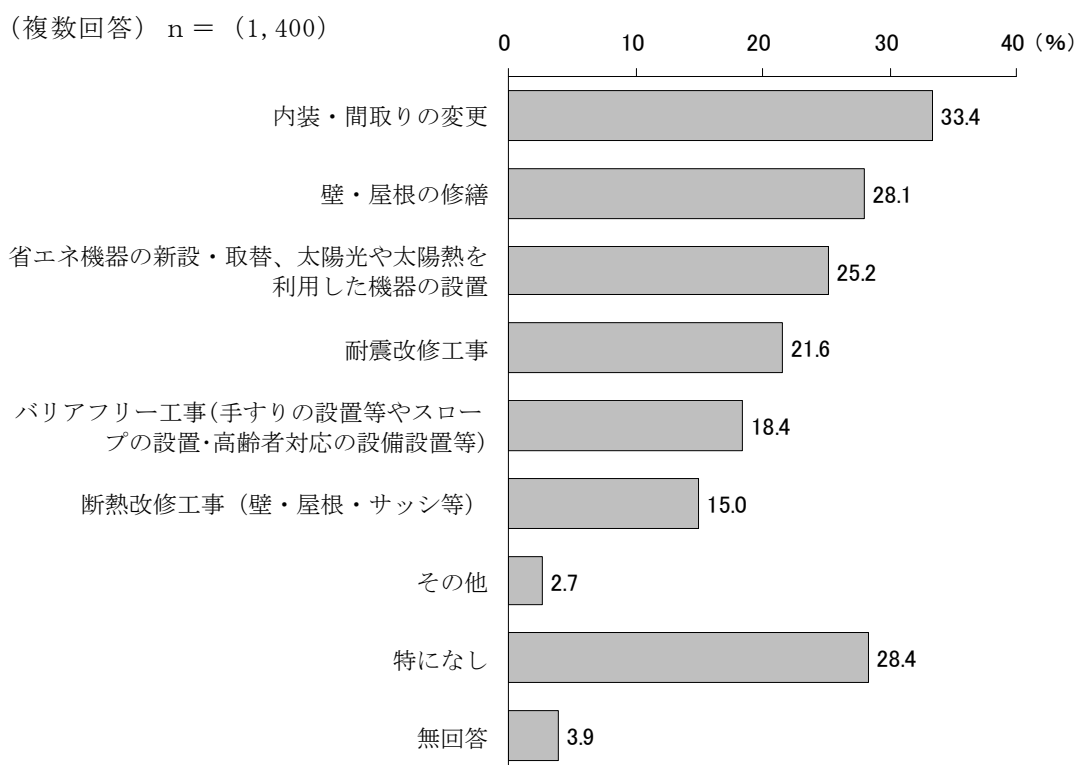
住居形態別では、「地震や風雨に強いこと」は、持ち家(一戸建)(87.5%)が最も多くなっている。「老朽化しにくいこと」は、借家(マンション・集合住宅等)(61.8%)が最も多くなっている。「メンテナンスが容易なこと」は、持ち家(一戸建)(53.7%)が最も多くなっている。「計画的な点検やメンテナンス」は、持ち家(マンション・集合住宅等)(61.6%)が最も多くなっている。(図表9-3)

9-2 関心のあるリフォーム工事

◎「内装・間取りの変更」が33.4%

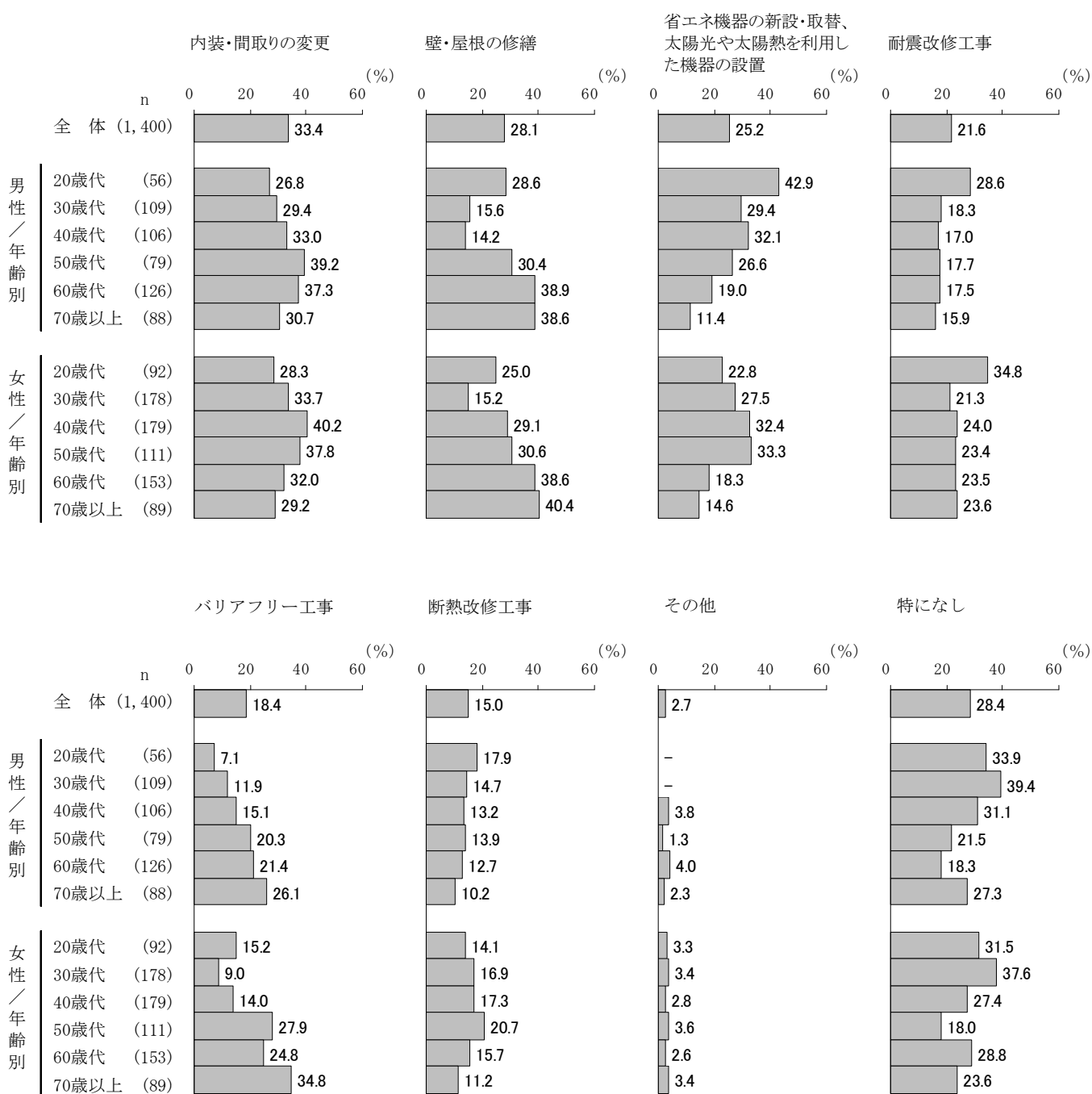
問 40 現在の住まい（借家も含む）について、関心のあるリフォーム工事（過去に行った工事も含む）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

図表9-4 関心のあるリフォーム工事



関心のあるリフォーム工事については、「内装・間取りの変更」(33.4%)が最も多くなっている。次いで、「壁・屋根の修繕」(28.1%)、「省エネ機器の新設・取替、太陽光や太陽熱を利用した機器の設置」(25.2%)、「耐震改修工事」(21.6%)の順となっている。(図表9-4)

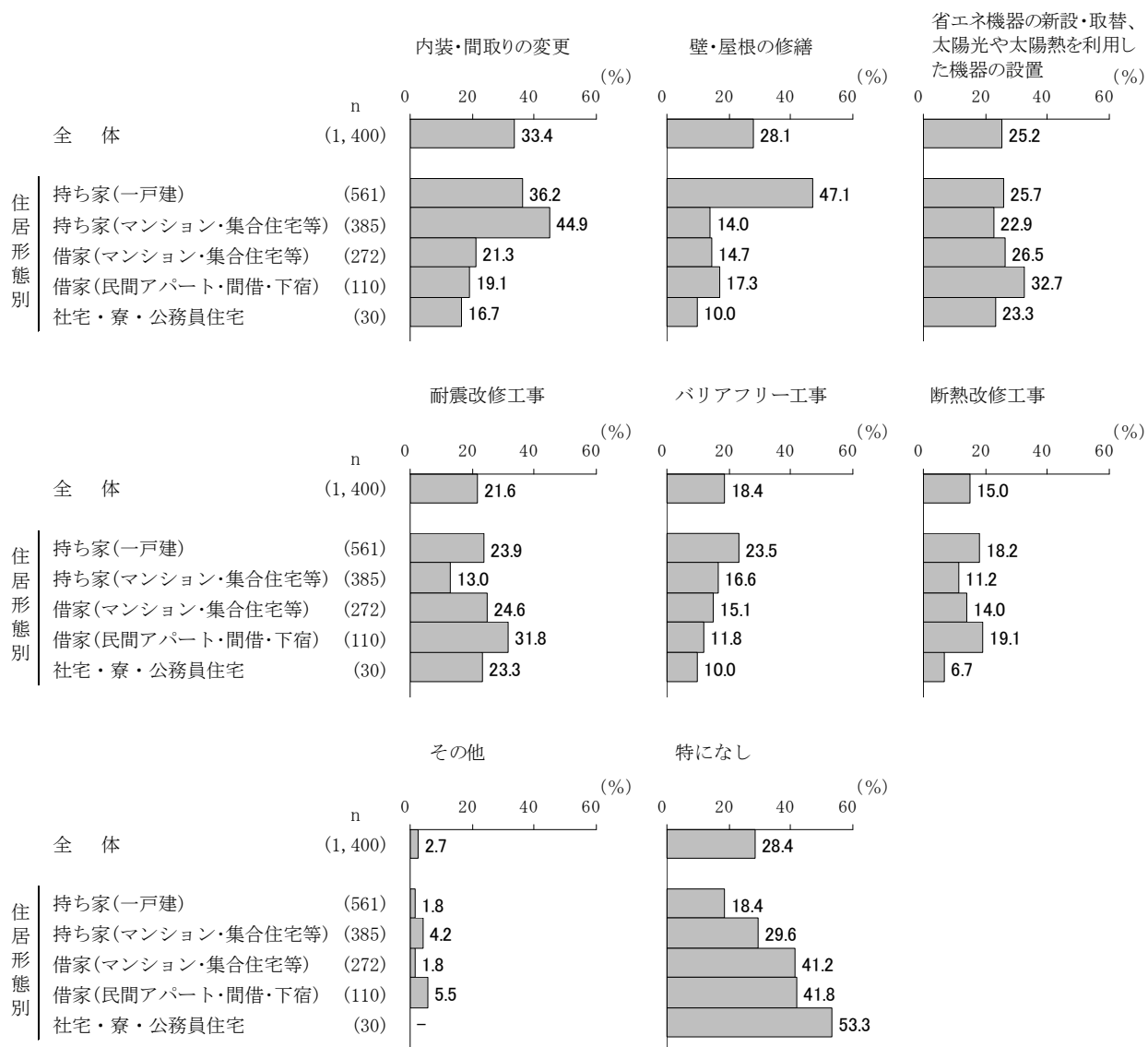
図表9-5 関心のあるリフォーム工事（性／年齢別）



性／年齢別では、「内装・間取りの変更」は、男性では50歳代(39.2%)、女性では40歳代(40.2%)が最も多くなっている。「壁・屋根の修繕」は、男女ともに60歳代・70歳以上が最も多くなっている。「省エネ機器の新設・取替、太陽光や太陽熱を利用した機器の設置」は、男性20歳代(42.9%)が最も多くなっている。「耐震改修工事」は、男女ともに20歳代が最も多くなっている。(図表9-5)

図表9-6 関心のあるリフォーム工事（住居形態別※）

※「借家（一戸建て）」「その他」は基数が少ないため、図表から除いている。



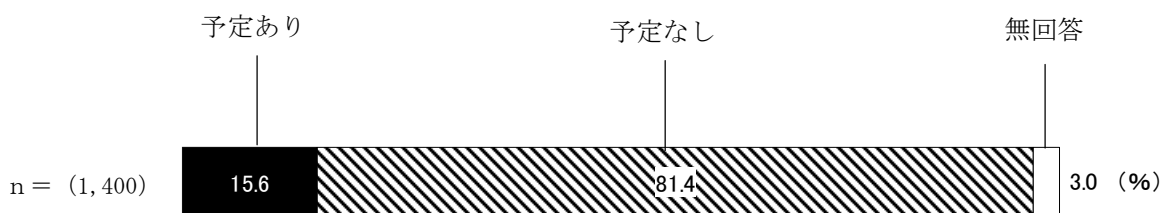
住居形態別では、「内装・間取りの変更」は、持ち家（マンション・集合住宅等）（44.9%）が最も多くなっている。「壁・屋根の修繕」は、持ち家（一戸建て）（47.1%）が最も多くなっている。「省エネ機器の新設・取替、太陽光や太陽熱を利用した機器の設置」および「耐震改修工事」は、ともに借家（民間アパート・間借・下宿）が最も多くなっている。（図表9-6）

9-3 今後リフォーム工事をを行う予定があるか

◎「予定あり」が15.6%、「予定なし」が81.4%

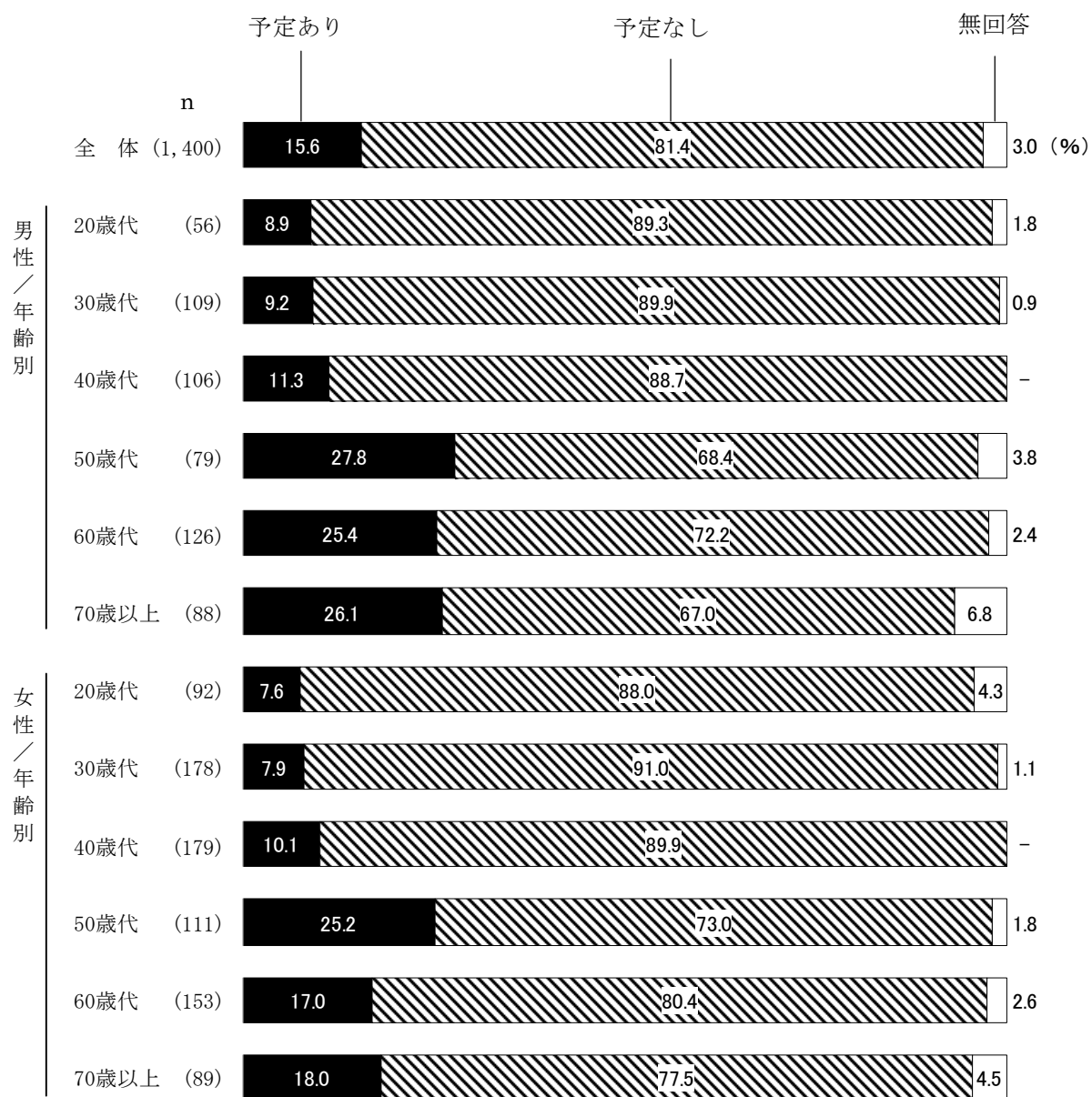
問41 現在の住まい（借家も含む）について、今後リフォーム工事をを行う予定はありますか。（○は1つだけ） *共同住宅にお住まいの方は、専有部分についてお答えください。

図表9-7 今後リフォーム工事をを行う予定があるか



今後リフォーム工事をを行う予定があるか聞いたところ、「予定あり」が15.6%、「予定なし」が81.4%となっている。（図表9-7）

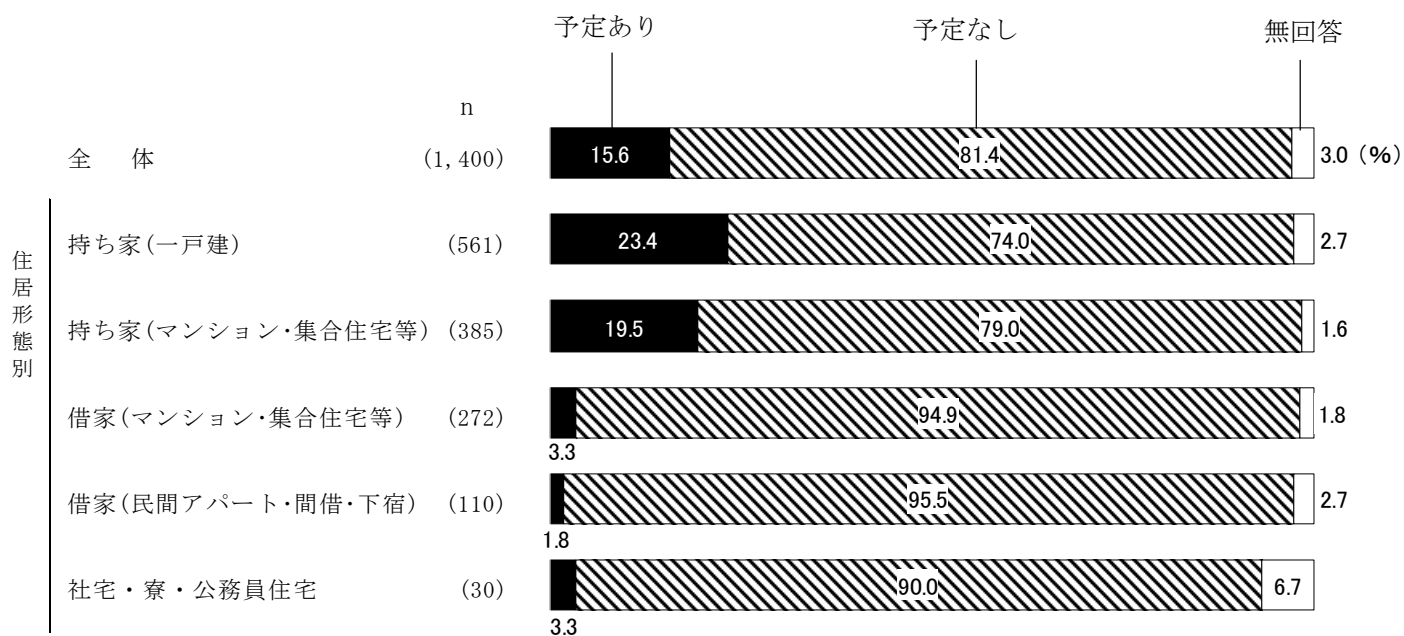
図表9-8 今後リフォーム工事をを行う予定があるか(性/年齢別)



性/年齢別では、「予定あり」は、男性50歳代~70歳以上、女性50歳代が2割台後半で多く
なっている。(図表9-8)

図表9-9 今後リフォーム工事をを行う予定があるか(住居形態別※)

※「借家(一戸建て)」「その他」は基数が少ないため、図表から除いている。



住居形態別では、「予定あり」は、持ち家(一戸建)では23.4%、持ち家(マンション・集合住宅等)では19.5%となっている。(図表9-9)

9-4 リフォーム工事を行わない(できない)理由

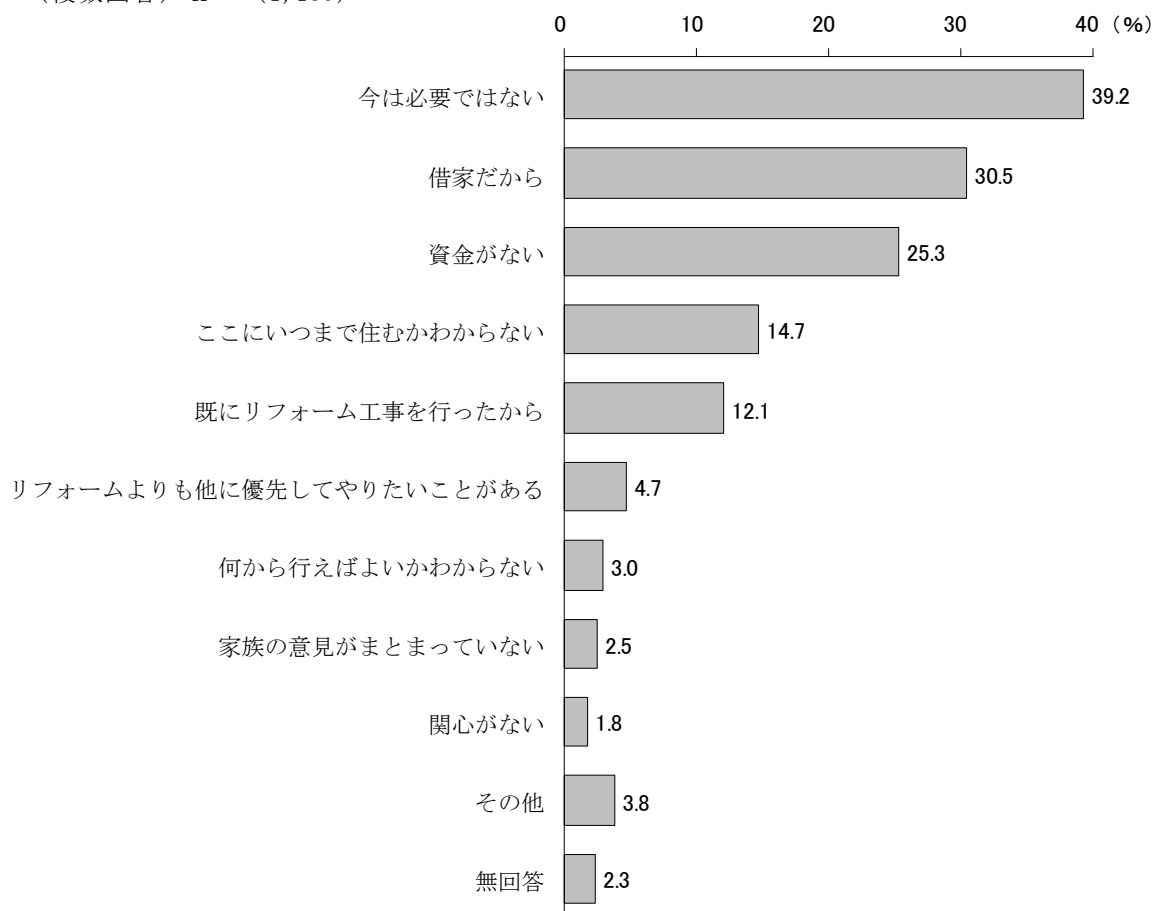
◎「今は必要ではない」が39.2%

問41-1 (問41で「2 予定なし」と回答した方にうかがいます。)

リフォーム工事を行わない(できない)理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

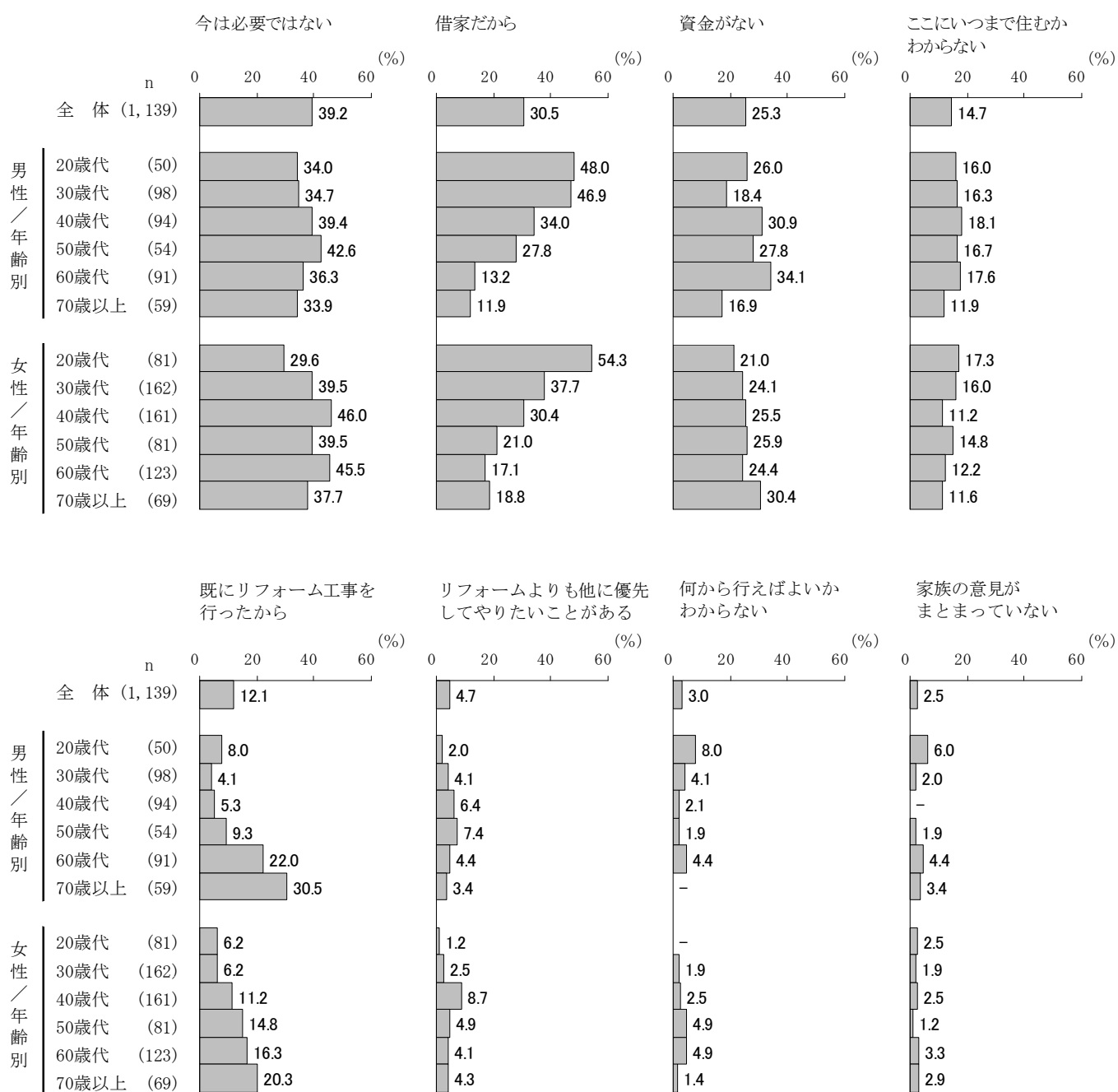
図表9-10 リフォーム工事を行わない(できない)理由

(複数回答) n = (1,139)



リフォーム工事を行わない(できない)理由については、「今は必要ではない」(39.2%)がほぼ4割で最も多くなっている。次いで、「借家だから」(30.5%)、「資金がない」(25.3%)、「ここにいつまで住むかわからない」(14.7%)の順となっている。(図表9-10)

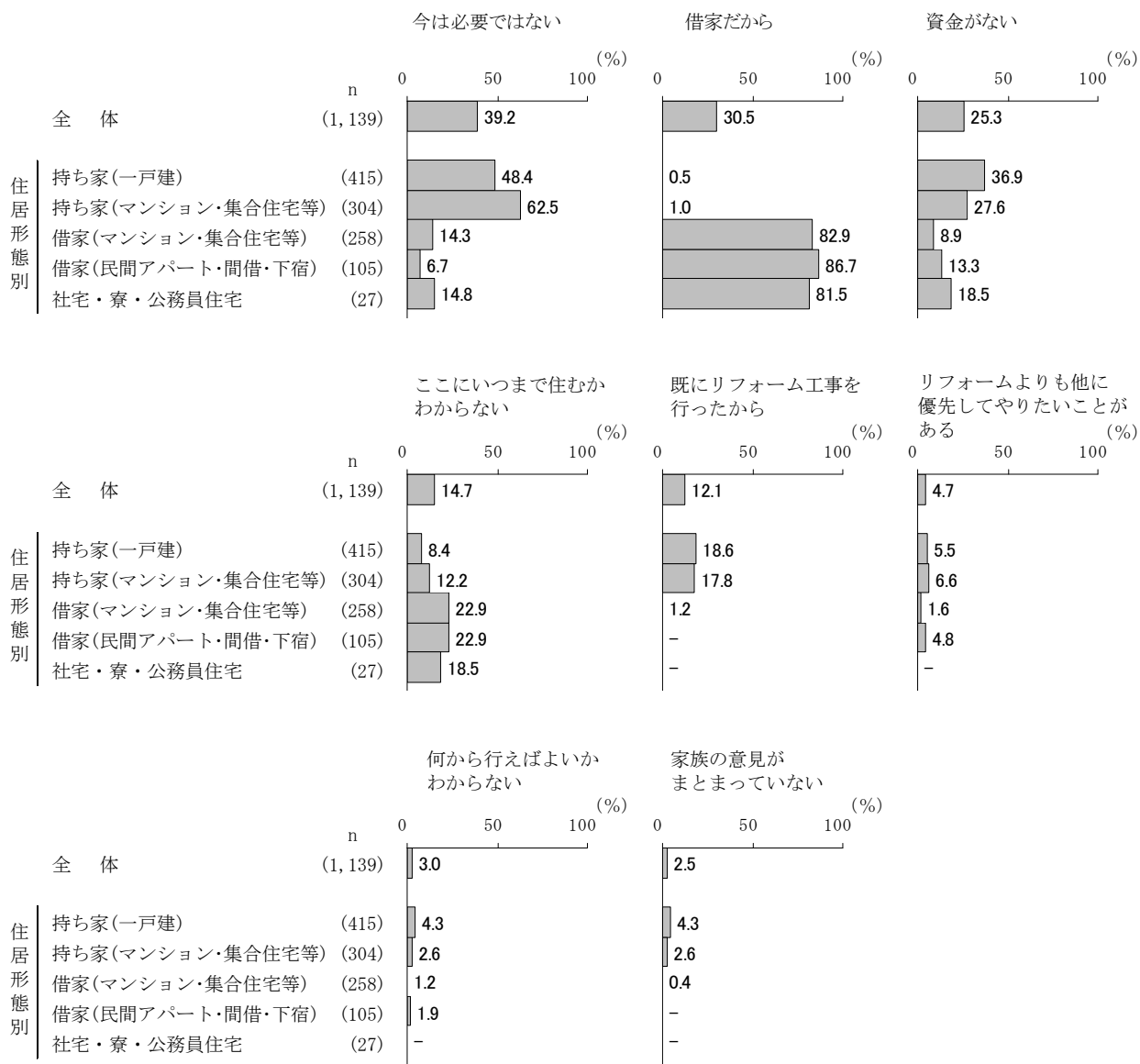
図表9-11 リフォーム工事を行わない(できない)理由(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「今は必要ではない」は、女性40歳代(46.0%)・60歳代(45.5%)が4割台半ばと多くなっている。「借家だから」は、男性では20~30歳代が4割台後半、女性では20歳代(54.3%)が5割台半ばで最も多くなっている。「資金がない」は、男性では60歳代(34.1%)、女性では70歳以上(30.4%)が最も多くなっている。(図表9-11)

図表9-12 リフォーム工を行わない(できない)理由(住居形態別※、上位8項目)

※「借家(一戸建て)」「その他」は基数が少ないため、図表から除いている。



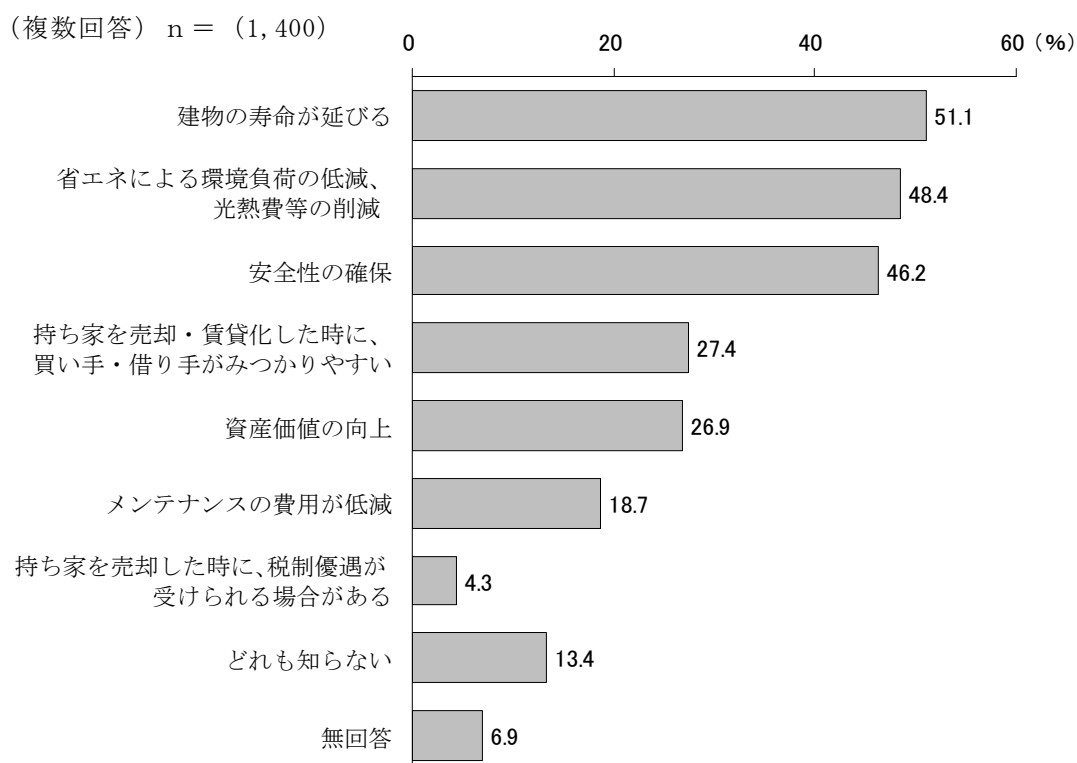
住居形態別では、「今必要ではない」は、持ち家(一戸建)(48.4%)で4割台後半、持ち家(マンション・集合住宅等)(62.5%)で6割台前半となっている。「資金がない」は、持ち家(一戸建)(36.9%)で3割台後半、持ち家(マンション・集合住宅等)(27.6%)で2割台後半となっている。(図表9-12)

9-5 リフォーム工事による効果の認知状況

◎「建物の寿命が延びる」が51.1%

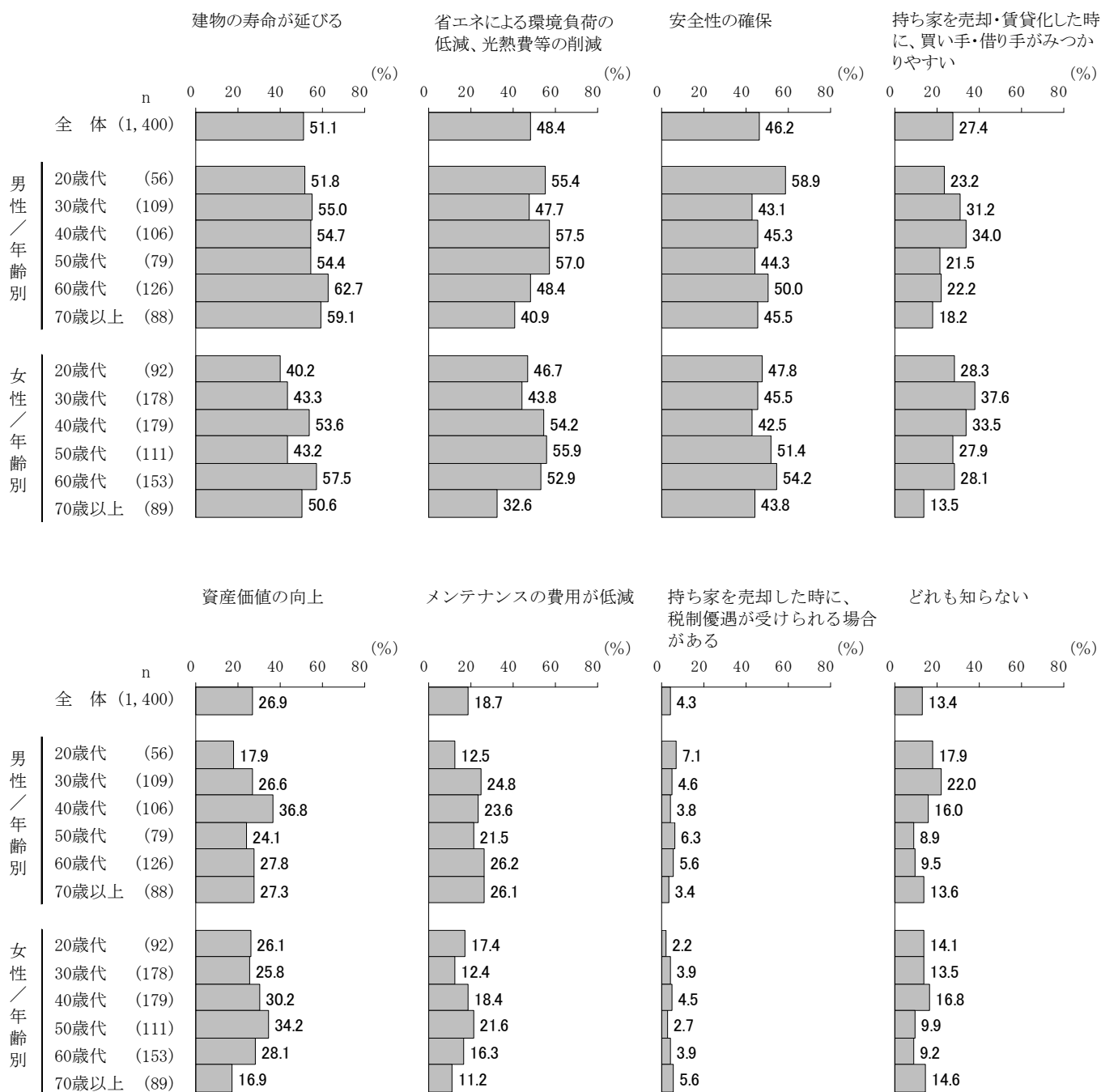
問42 問40で示したようなリフォーム工事をすると次のような効果がありますが、知っていますか。知っているものをお選びください。(あてはまるものすべてに○)

図表9-13 リフォーム工事による効果の認知状況



リフォーム工事による効果の認知状況については、「建物の寿命が延びる」(51.1%)が5割を超え最も多くなっている。次いで、「省エネによる環境負荷の低減、光熱費等の削減」(48.4%)、「安全性の確保」(46.2%)が4割台後半で続いている。(図表9-13)

図表9-14 リフォーム工事による効果の認知状況(性/年齢別)



性/年齢別では、「建物の寿命が延びる」は、男女ともに60歳代が最も多くなっている。「省エネによる環境負荷の低減、光熱費等の削減」は、男性では20歳代・40～50歳代、女性では40～60歳代が多くなっている。「安全性の確保」は、男性では20歳代(58.9%)、女性では60歳代(54.2%)が最も多くなっている。(図表9-14)

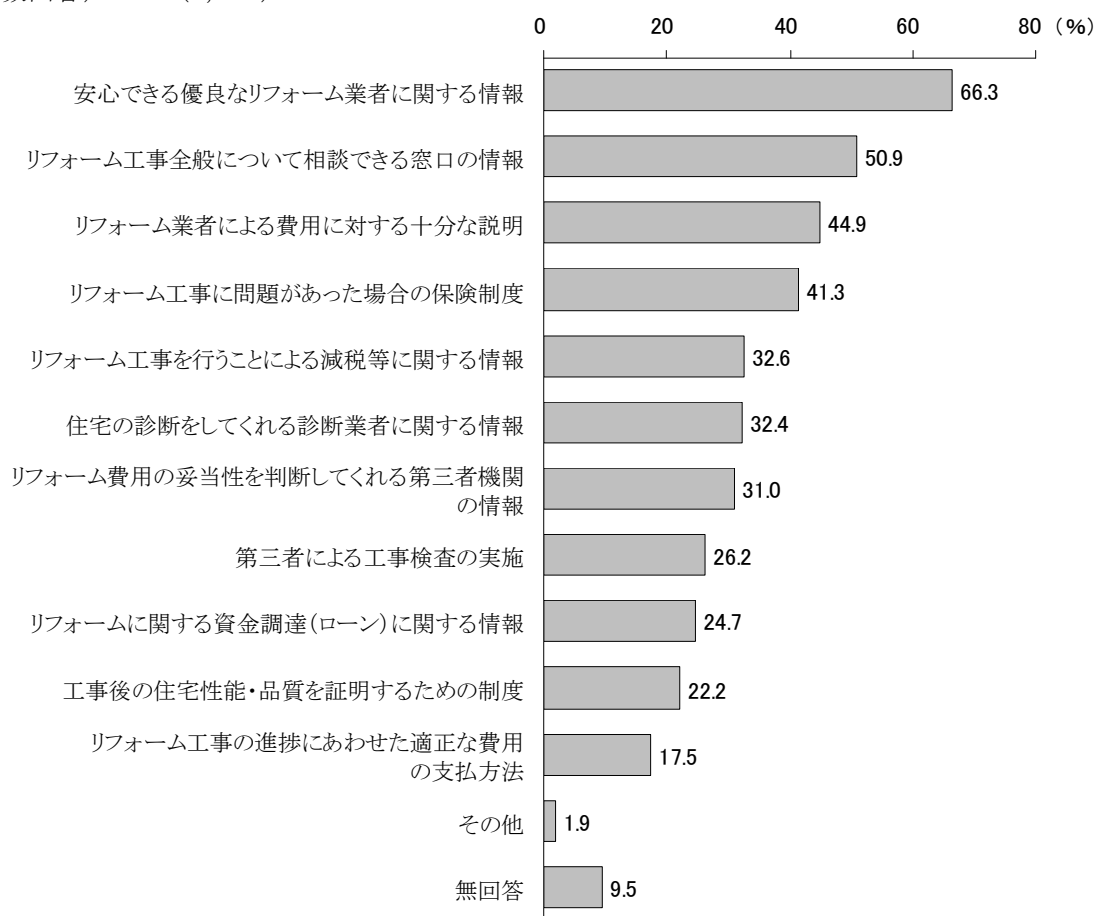
9-6 リフォームを行う場合にほしいと思う情報

◎「安心できる優良なリフォーム業者に関する情報」が66.3%

問43 仮にリフォームを行おうとする場合、どのような情報がほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

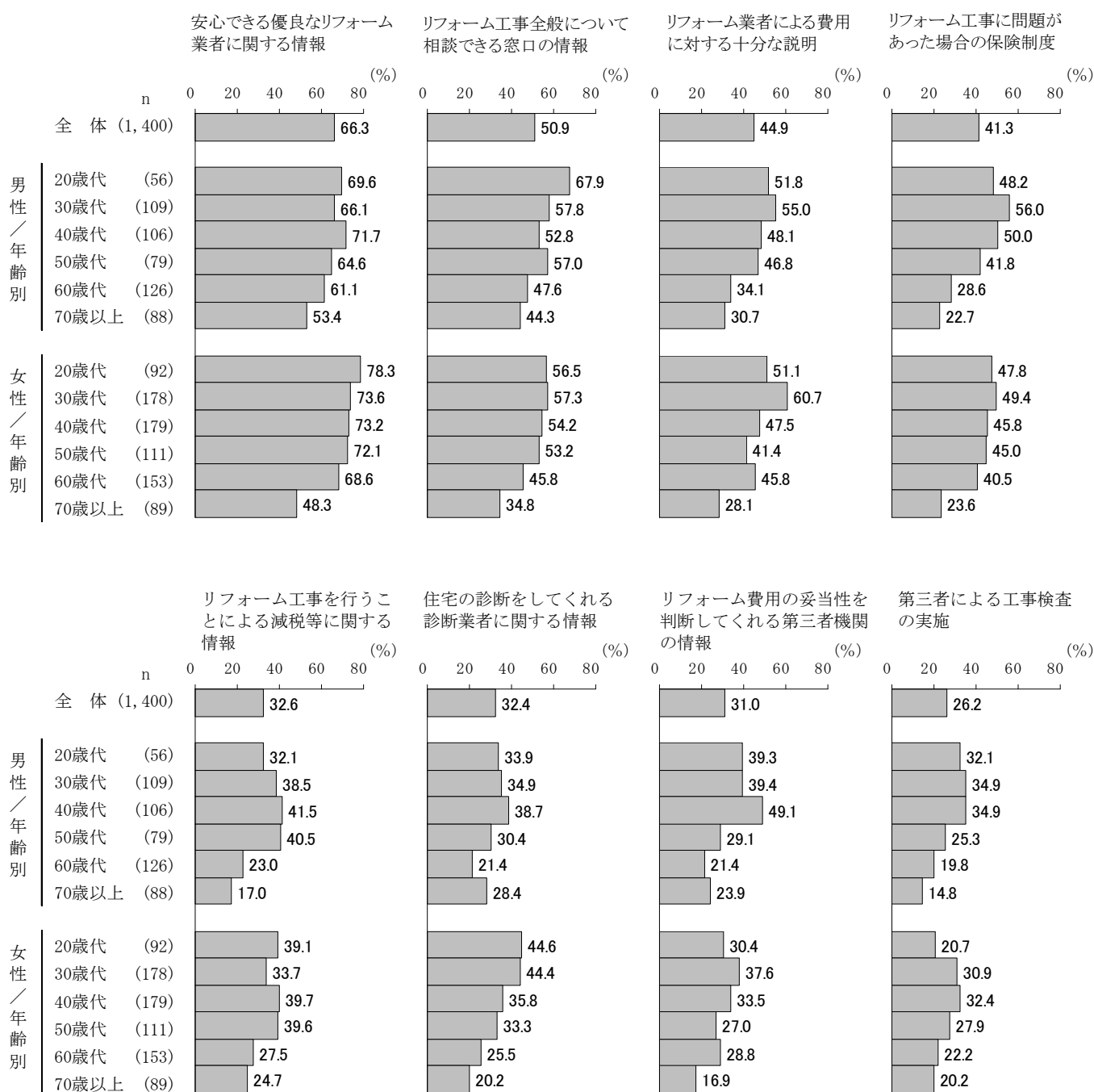
図表9-15 リフォームを行う場合にほしいと思う情報

(複数回答) n = (1,400)



リフォームを行う場合にほしいと思う情報については、「安心できる優良なリフォーム業者に関する情報」(66.3%)が6割台後半で最も多くなっている。次いで、「リフォーム工事全般について相談できる窓口の情報」(50.9%)、「リフォーム業者による費用に対する十分な説明」(44.9%)、「リフォーム工事に問題があった場合の保険制度」(41.3%)の順となっている。(図表9-15)

図表9-16 リフォームを行う場合にほしいと思う情報(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「安心できる優良なリフォーム業者に関する情報」は、女性20歳代(78.3%)が最も多く、女性30~50歳代と男性40歳代も7割を超え多くなっている。「リフォーム工事全般について相談できる窓口の情報」は、男性20歳代(67.9%)が6割台後半で最も多くなっている。「リフォーム業者による費用に対する十分な説明」は、男女ともに30歳代が最も多くなっている。「リフォーム工事に問題があった場合の保険制度」は、男性30歳代(56.0%)が最も多くなっている。(図表9-16)

9-7 住まいに関する制度についての認知度・関心度

◎「住宅用太陽光発電設備補助事業」が認知度・関心度ともに最も高い

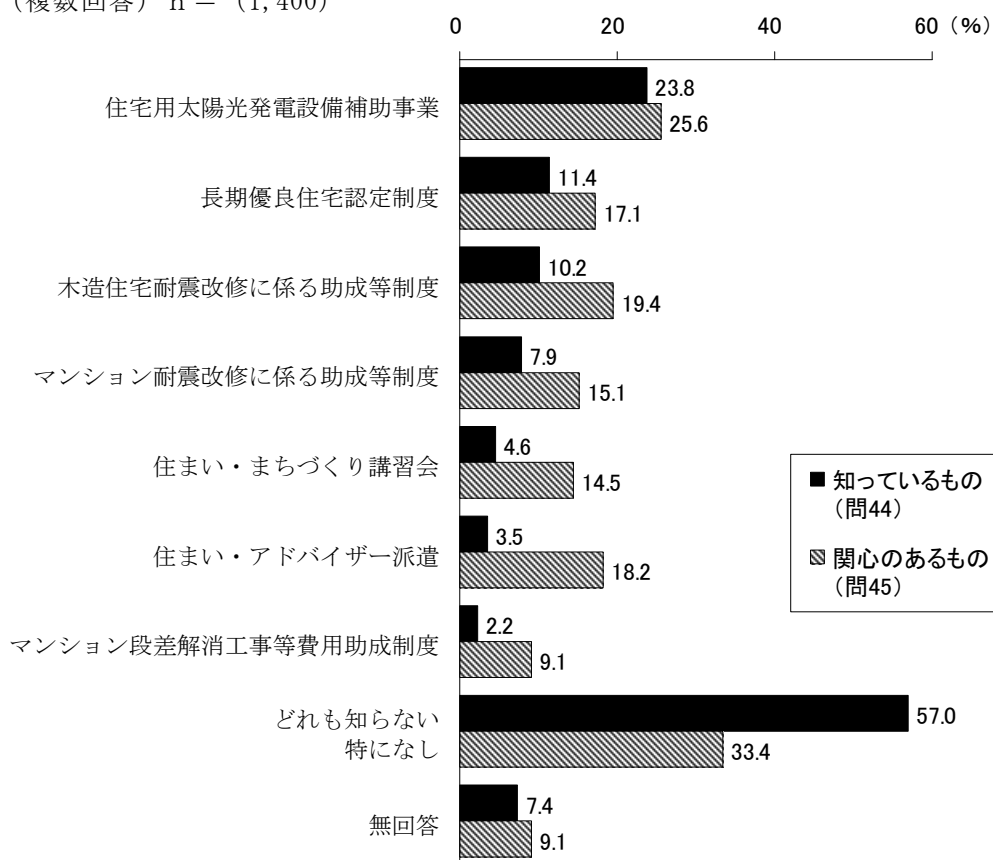
問44 住まいに関する次の制度を知っていますか。知っているものをお選びください。(あてはまるものすべてに○)

問45 住まいに関する制度の中で、あなたが関心のある制度はありますか。(あてはまるものすべてに○)

(※調査票では、問45で各制度についての説明を付記している。)

図表9-17 住まいに関する制度についての認知度・関心度

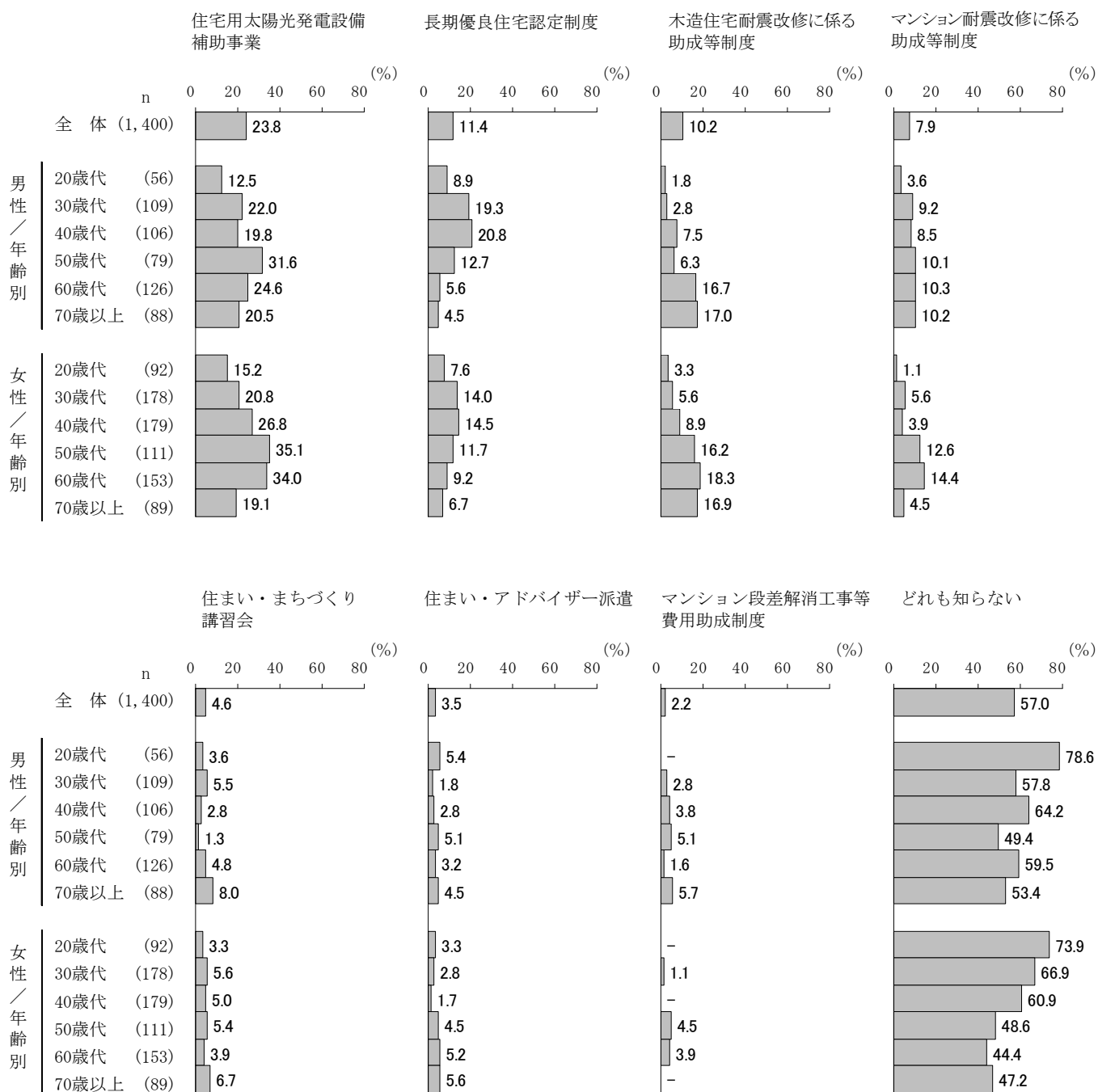
(複数回答) n = (1,400)



住まいに関する制度についての認知度は、「住宅用太陽光発電設備補助事業」(23.8%)が2割台前半で最も多くなっている。次いで、「長期優良住宅認定制度」(11.4%)、「木造住宅耐震改修に係る助成等制度」(10.2%)、「マンション耐震改修に係る助成等制度」(7.9%)の順となっている。なお、「どれも知らない」(57.0%)は5割台後半と多くなっている。

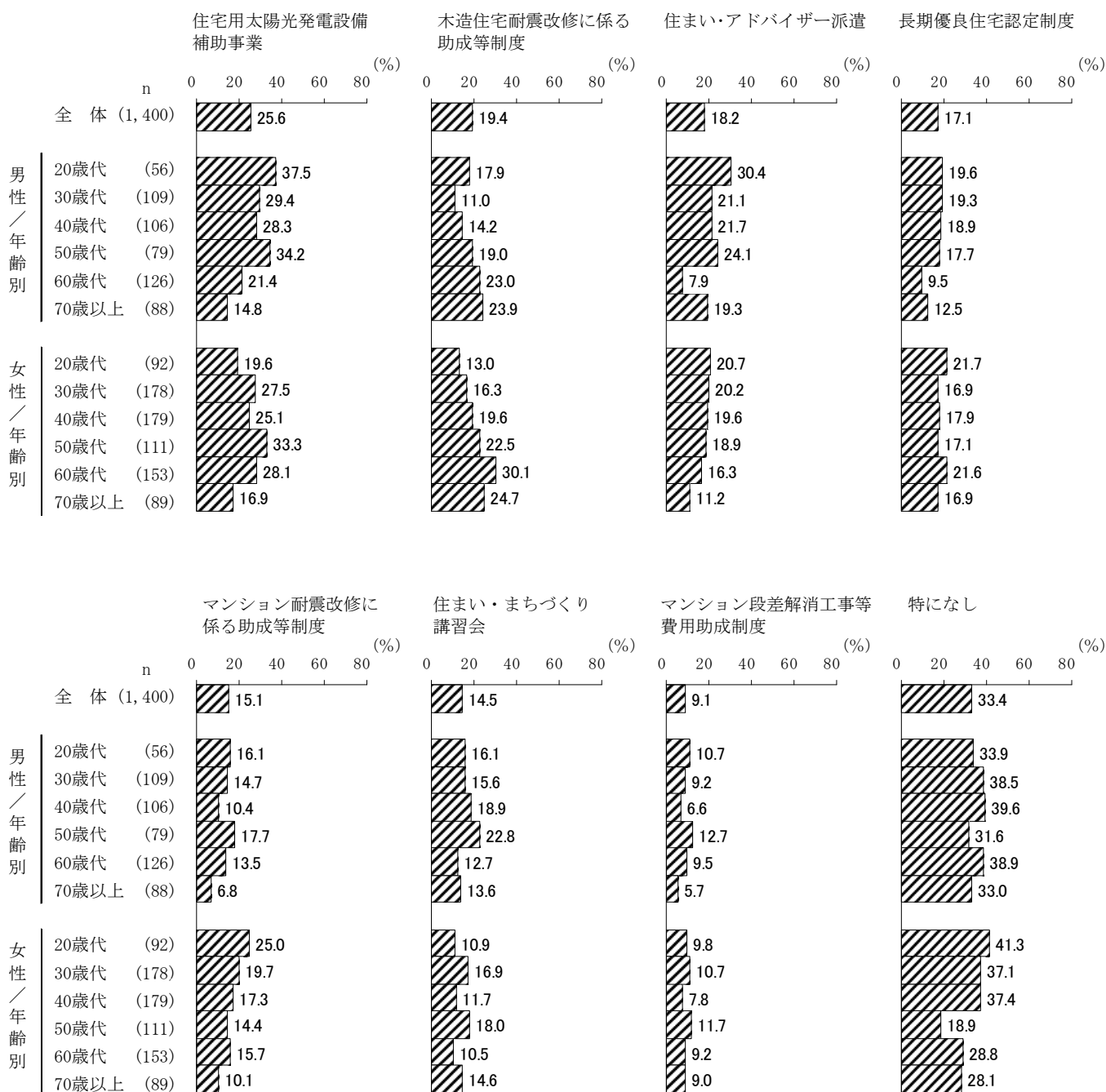
住まいに関する制度についての関心度は、「住宅用太陽光発電設備補助事業」(25.6%)が2割台半ばで最も多くなっている。次いで、「木造住宅耐震改修に係る助成等制度」(19.4%)、「住まい・アドバイザー派遣」(18.2%)、「長期優良住宅認定制度」(17.1%)の順となっている。「住まい・アドバイザー派遣」など、認知度は低いものの関心度は高い項目も多くなっている。(図表9-17)

図表9-18 住まいに関する制度についての認知度(性/年齢別)



住まいに関する制度の認知度について、性/年齢別では、「住宅用太陽光発電設備補助事業」は男性50歳代(31.6%)・女性50歳代(35.1%)・女性60歳代(34.0%)で3割を超え多くなっている。「長期優良住宅認定制度」は、男性30~40歳代で多くなっている。「木造住宅耐震改修に係る助成等制度」は、男性60歳代~70歳以上、女性50歳代~70歳以上で多くなっている。(図表9-18)

図表9-19 住まいに関する制度についての関心度(性/年齢別)



住まいに関する制度の関心度について、性/年齢別では、「住宅用太陽光発電設備補助事業」は男性20歳代(37.5%)が最も多く、男性50歳代(34.2%)・女性50歳代(33.3%)も3割を超え多くになっている。「木造住宅耐震改修に係る助成等制度」は、おおむね年齢が高くなるにつれ割合が多くなる傾向となっている。「住まい・アドバイザー派遣」は、男性20歳代(30.4%)が3割を超え最も多くになっている。(図表9-19)